

## 「動詞の語法」

ト ◆ ☆

ズ

0 : はじめに

本稿は制アルカの語法に関して述べたものである。本稿では主に動詞を扱った。動詞は語法以前に格組をまず制定し、それから語法を定めた

一つ一つの語を個別に分析するのではなく、意味が近いもの同士をまとめて分析した。類義語や反義語と対照したほうがより精密な分析結果が得られるからである

まず始めに番号付見出で掲げた個々の語について結論を述べる。但しn対の場合は「/」で囲み、「/」の左側の語を代表と見なす。右側が単に左側の反対の意味を持つだけで情報として不必要な場合、右側の語の説明は省略した。尚、要約は※～※までの部分である。続けて、それらの語の詳説に入る

1 : 行為一般 : Joꝛe, Jo-ꝛe, Jocꝛe, Joolꝛe, -Jꝛe, cJꝛe

※

Joꝛe

照応する動詞一語を受ける。照応するものがない場合、漠然と「する」の意味

Jo-ꝛe/Jocꝛe

照応する句～段落を受ける。Jo-ꝛeはlaと同じく近指示で、Jocꝛeはl-と同じく遠指示

-Jꝛe/cJꝛe

oꝞが動詞性を持つか否かで別れる。持つなら-lはoꝞの目的語。持たないなら-lはその行為による損益を受ける相手を表わす。oꝞを行ったりoꝞの能力を発揮するという意味を持つ。但し、oꝞを取り組むという意味はなく、これはJoolꝛeが受け持つ

Joolꝛe

oꝞにくる行為を目標と捉え、それについて励んだり練習したり取り組んだりすることを表わす。oꝞの能力を発揮するという意味はなく、これは-Jꝛeが受け持つ

※

これらはいずれも「する」という意味を持つが、 $\text{Jo}\text{z}\text{e}$ ,  $\text{Jo}\text{-z}\text{e}$ ,  $\text{Joc}\text{z}\text{e}$ は代動詞で、 $-\text{J}\text{z}\text{e}$ ,  $\text{c}\text{J}\text{z}\text{e}$ は死生動詞で、 $\text{Jool}\text{z}\text{e}$ は一般動詞である。その名称からも明らかなように、照応ができるのは代動詞だけである

(1)  $\text{I} - \text{J}\text{-}\text{A}\text{z}\text{e} - \text{A}$ ,  $-\text{A} \text{C}\text{-}\text{A} \text{Jo}\text{z}\text{e} \text{I}$  (彼は私が好きだ。私もそうだ)

この $\text{Jo}\text{z}\text{e}$ は $\text{J}\text{-}\text{A}\text{z}\text{e}$ を照応する代動詞で、死生動詞や $\text{Jool}\text{z}\text{e}$ に変えることはできない。では、代動詞だから $\text{Jo}\text{-z}\text{e}$ でも良いかというところも違う。 $\text{Jo}\text{-z}\text{e}$ と $\text{Joc}\text{z}\text{e}$ は単独の動詞一つを照応するのではなく、句や節や文、或いは段落を照応する

(1)  $\text{J}\text{-}\text{C}$ ,  $\text{C} \text{J}\text{a}\text{z}\text{e} \text{Ic} - \text{I} - \text{A}$ ,  $\text{C}\text{-}\text{I} - \text{A} \text{Ic}\text{z}\text{e} \text{C} \text{Jo}\text{-z}\text{e}$  (いつも君は私に対して口数が少ないが、私は君にそうしてほしくない)

この $\text{Jo}\text{-z}\text{e}$ は $\text{J}\text{a}\text{z}\text{e}$ でなく $\text{J}\text{e}$ -,  $\text{C} \text{J}\text{a}\text{z}\text{e} \text{Ic} - \text{I} - \text{A}$ 全体を照応している。これを $\text{Jo}\text{z}\text{e}$ に変えることはできない

尚、 $\text{Jo}\text{-z}\text{e}$ と $\text{Joc}\text{z}\text{e}$ の違いは指示の $\text{Ia}$ と $\text{I}$ の違いである。ゆえに次の $\text{Joc}\text{z}\text{e}$ を $\text{Jo}\text{-z}\text{e}$ に変えることはできない。現在から見て五年前は遠指示と見なされるからである

(2)  $\text{J}\text{-} \text{Ic} \text{J}\text{-}\text{I}$ ,  $\text{C} \text{J}\text{a}\text{-} \text{Ic} - \text{I} - \text{A}$ ,  $\text{C}\text{-}\text{I} - \text{A} \text{Ic}\text{z}\text{-} \text{C} \text{Joc}\text{z}\text{c}$  (五年前、君は私に対して口数が少なかったが、私は君にああしてほしくなかった)

次に死生動詞であるが、これは照応が行えない。 $\text{o}\text{A}$ には動詞的な意味を持つ名詞か動詞的な意味を持たない名詞がくる。前者の場合 $\text{o}\text{A}$ が動詞的であるので、この $\text{o}\text{A}$ は意味上の目的語を持ち、それは $\text{-I}$ にくる

(3)  $\text{I} - \text{J}\text{z}\text{c} \text{C}\text{-}\text{C}\text{-}\text{C}\text{-}\text{C}\text{-}\text{I} - \text{I} \text{J}\text{a}\text{C}\text{o}$  (彼は鳥に対して鷹狩りをする)

このように、 $\text{-I}$ の $\text{J}\text{a}\text{C}\text{o}$ は $\text{o}\text{A}$ の $\text{C}\text{-}\text{C}\text{-}\text{C}\text{-}\text{C}\text{-}\text{I}$ という動名詞の意味上の目的語である

尚、後者の例は(4)である。(4)に $\text{-I}$ を付けると、傘をかけてもらう人を表わす

さて、生動詞はoΛを行ったりoΛの能力を発揮したりといった意味がある。死動詞はその反対で、oΛを止めたりoΛの能力の発揮を止めたりする意味がある。ゆえに(๓)は(๑)と比べると、より鷹狩りを**行う**という面に焦点が当たっているといえる

(๑) 1- ๑-๑-๑-๑ ๑a๑ (彼は鳥を鷹狩りする)

つまり、死生動詞はoΛを行うのか止めるのかといった事柄に関心を置くものであるといえる

一方、J๑๑eは「する」とともに「行う」という意味で、oΛに行為の内容がくる。生動詞はoΛの能力を発揮するものであったが、J๑๑eはoΛにくる行為を目標と捉え、それについて励んだり練習したり取り組んだりすることを表わす。ゆえに(๑)では(๑)の意味は表わせない。「傘を開く」とは傘の能力を発揮することだから、生動詞が使われる

(๑) 1- -J๑c eJΛ (彼は傘を開いた)

(๑)X1- J๑๑e eJΛ

逆に生動詞はふつう取り組みを表わすことはできない。ゆえに(L)は基本的に非文である

(Δ) 1- J๑๑- ๑ol> (彼は合宿を行った)

(L)1- -J๑- ๑ol>

ところで、J๑eには代動詞以外に、極めて抽象的な意味での「する」という用法がある。これは「照応するものがないJ๑e」ということができる。照応するものがない場合、J๑eは漠然と抽象的に、或いは漠然と状況から判断できることを「する」という意味になる

(10) Λ->๑-๑ ๑ce ec ๑๑ ๑a๑e ๑aΛ ๑J ๑-1 ๑ce ec ๑๑ J๑e ๑aΛ (人が言うことよりも、人がすることに注意しなければならない)

(11) (Sc๑c ๑e) J๑-1(๑c๑-1) ((何かを指差して) して (ちょうだい))

✓ : 開始終了 : ㄱ-ㄹᄇᆞᆺ, ㄱᄇᆞᆺ, >-ㄹᄇᆞᆺ, >ᄇᆞᆺ, ㅁㄹᄇᆞᆺ, eㄹᄇᆞᆺ, ㄱᄇᆞᆺ, ㄴᄇᆞᆺ, ㄴᄇᆞᆺ

⊙

ㄱ-ㄹᄇᆞᆺ/ㄱᄇᆞᆺ

物事の開始や終了

>-ㄹᄇᆞᆺ/>ᄇᆞᆺ

始まった物事を一旦止めたり、一度中断した物事をもう一度始める

ㅁㄹᄇᆞᆺ/eㄹᄇᆞᆺ

副詞の場合、「止めない」という意味で>ᄇᆞᆺと同義。動詞の場合、「複数回行う」という意味で、eㄹᄇᆞᆺと同義。即ちeㄹᄇᆞᆺに対応する反義語

ㄱᄇᆞᆺ

中断ではなく完全にやめること

ㄴᄇᆞᆺ/ㄴᄇᆞᆺ

所属すること

⊙

これらは物事の開始や終了などを表わす動詞である。まず、ㄱ-ㄹᄇᆞᆺは物事の開始を表わす。これに対して>-ㄹᄇᆞᆺは一度始めてから途中で一時停止したものをもう一度再開する場合に使う。尚、ㅁㄹは動詞性の高い名詞である。用例は(1)のとおり

(1) -ㄹ ㄱ-ㄹᄇᆞᆺ- <el., ㄹ-ㄴ -ㄹ >ᄇᆞᆺ- ㄹa., ㄴc <ㅁㄹ, -ㄹ >-ㄹᄇᆞᆺ- ㄹa., ㄱ-ㄹ -ㄹ ㄱᄇᆞᆺ- ㄹa (私は勉強を始めたが、中断した。暫くして再開し、そして終わらせた)

尚、ㄱ-ㄹᄇᆞᆺにも>-ㄹᄇᆞᆺにもㅁㄹ-があるが、その場合、動作主が焦点化されない場合に限られる。大抵その原因は自然的要因である。会議や戦争など、人間が意図的に始めるものはふつつㅁㄹ-にはならない。ㅁㄹを焦点化したければ受動態を使うのがふつつである

(✓) × ㄱ-ㄹᄇᆞᆺ- -ㄹcᄇᆞᆺ → -ㄹcᄇᆞᆺ -ㄹ ㄱ-ㄹ (山崩れが起こった)

(?) \ V-ㄴ -ㄹ ㄱ-ㄹ → V-ㄴ ㄱ-ㄹᄇᆞᆺ- ㄱa (戦争が始まった)

oΛ is 解釈が二つある。一つは今の行動や状態を止めずに保つことである。「止めない」という意味では >cŋa と同義である。もう一つは「oΛ を複数回行う」という意味であり、これは >cŋa と同義でない。では両者をどう区別するのかというと、前者は副詞で後者は動詞である

そして後者の oΛŋe に対応するのが eΛŋe である。eΛŋe は oΛ を一度しか行わず、一度で完結させるという意味を持つ。尚、これらも oΛ は動詞性の高い名詞である

(n) I-Jo V-Jŋ- oΛ = I-Jo >cŋa V-J (彼らは戦争し続けた (戦争を止めなかった))

(ŋ) I-Jo oΛŋ- V-J = I-Jo eΛŋa V-J (彼らは戦争し続けた (戦争を何度もした))

尚、oΛŋe, eΛŋe も oΛ- がある。やはり oΛ- は動作主が自然的要因である場合がふつうである

(ŋ) X oΛŋŋ- eJŋ → eJŋ -ŋ oΛŋ (雨が続いた)

ŋclŋe は再開の余地のない「やめる」である

(ŋ) -ŋ ŋclŋ- <elŋ- (退学した)

loŋe は所属することで、al は oΛ に所属するということを指す。対格には学校や会社などや病院、団体などがくる。leŋe という退学、退社、脱退、退院などの意味になる

人を取ると場所化的な用法になるが、その人の軍門に下ったり、影響下から去るという意味になる

(Δ) eJŋ- leŋ- Jeŋeŋ ŋal >clŋ (螢は離婚することでセレンの影響下から逃れた)

ŋ : 遂行 : ŋ-ŋŋe, ŋcŋŋe, V oJŋŋe, VeJŋŋe, <-ŋŋe, <-cŋŋe, ŋ-Vŋe, ŋcVŋe

⊙

ŋ-ŋŋe/ŋcŋŋe

oΛ の進捗度を高める。完了相は oΛ の完成・成就・攻略などを含意する。oΛ は抽象具象ど

ちらも

oAの完成・成就などを目的とする。完了相はその目的を含意しない。進捗度とは無縁。

oAは抽象具象どちらも

V<sub>o</sub>J<sub>e</sub>/V<sub>e</sub>J<sub>e</sub>

aIの一生懸命さに焦点。V<sub>o</sub>J<sub>e</sub>は労力を多く使う。<--A<sub>e</sub>と比べると時間が短く、労力は爆発的にかける。V<sub>e</sub>J<sub>e</sub>は労力を温存しつつoAに取り組む

<--A<sub>e</sub>/<sub><</sub>-cA<sub>e</sub>

aIの勤勉さに焦点。労力をV<sub>o</sub>J<sub>e</sub>と同じくらい使うが、かける時間が長く休みがなく、労力のかけかたが爆発的でない点の特徴。<-cA<sub>e</sub>は労力を使わない。ゆえにV<sub>e</sub>J<sub>e</sub>より労力を使わない

A-V<sub>e</sub>/AcV<sub>e</sub>

oAに対するaIの執着に焦点。労力に焦点は当たらない。oAの完成や成就を表わしたり、oAへの渴望やoAの保持への執念を表わしたりする)

⊗

θ-γ<sub>e</sub>は物事の進捗度を高めることを意味する。進捗度が100%に達すればそれ以上進捗度を高めることができない。進捗度100%はoAの完成や攻略や成就などを表わす。アスペクトは進捗度0%を開始相とすると、100%が完了相で、両者の間が経過相である

(1) -A θ-γ<sub>e</sub>cJ <ol (私は研究を進めている)

(/) -A θ-γ<sub>e</sub>c) <-A I- (私はあの女を攻略した (=口説き落としたり))

(/)は多義的で、それが争いなら倒したという意味になるし、恋愛なら口説き落としたりという意味になる。状況次第である

また、oAを進歩させたものが人のような動作主でなく火のような原因であれば、oA-になる。更に、動物の進化も動作主がe>であるからoA-になる

(?) \<-c θ-γ<sub>e</sub>- -Aθ-c → -Aθ-c -c θ-γ<sub>e</sub> >-A <-c (人類は火によって進化した)

尚、 $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ は進捗度を低めるもので、単純に $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ の反義語である

一方、 $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ の場合、進捗度が高まることは含意されない。 $\text{ㇰㇰ}$ を完成・成就させようという点では $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ と同じであるが、進捗度については言及しない

$\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ はむしろ $\text{ㇰㇰ}$ を完成しようとする一生懸命な態度について述べるものである。努力したにもかかわらず、 $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ と言った時点で以前と進捗度が変化していないということもありえる

逆に、 $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ は態度については何も言及しないので、一生懸命でも怠けても結果さえ出せば等しく $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ といえる

尚、 $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ は動作主が一生懸命 $\text{ㇰㇰ}$ を行うことを表わすので、動作主が前面に出る。そのため、動作主が $\text{ㇰ}$ 化することはない。したがって $\text{ㇰㇰ}$ がない。このことは $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ にもいえる

$\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ は怠けるという意味ではなく、力を温存しながら $\text{ㇰㇰ}$ を行うことを意味する。 $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ が多くを労力をかけて $\text{ㇰㇰ}$ の成就を狙うのに対し、 $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ は少ない労力で $\text{ㇰㇰ}$ を狙ってみるといった消極的な意味しか持たない

一方、 $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ はその勤勉さに焦点が置かれている。 $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ が取る $\text{ㇰㇰ}$ は $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ と文法的に同じである。 $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ との違いは労力のかけかたの違いである

$\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ は勤勉で、 $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ は一生懸命である。どちらも総合的には大きな労力をかけることを意味するが、前者は後者より長い時間をかけて少しずつ労力をかけていくことを意味する。逆に、後者は一度に使う労力が大きいことを意味する

また、別の解釈もある。前者が休むことなく労力をかけ続けることを意味するのに対して、後者は途中で休みを入れてもどこかで爆発的に労力をかけるということの意味する場合がそうである

つまり前者は労力のかけかたが長く途切れがないのに対し、後者は短く爆発的であるという違いがある

ところで、 $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ は $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ より総合的な労力が大きいという点で異なる。 $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ は労力を惜しみながら $\text{ㇰㇰ}$ を狙うことであるが、 $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ は労力を惜しまない

一方、 $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ と $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ はだいぶ意味が異なる。 $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ は怠けるという意味であるから労力を使わない。ゆえに労力を使う順でいうと、始めに $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ と $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ があり、その次に $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ があり、最後に $\text{ㇰㇰㇰㇰ}$ が続く

尚、 $\forall \text{a} \text{c} \text{e} \sim \text{c} \text{a} \text{e}$ の完了相は $\text{c} \text{a}$ の完成・成就を含意しない。これは以下で述べる $\text{a} \text{v} \text{e}$ でも同じである

$\text{a} \text{v} \text{e}$ は $\text{c} \text{a}$ にこだわることを意味する。 $\text{c} \text{a}$ は抽象具象どちらでも良い。 $\text{a} \text{v} \text{e}$ は $\text{c} \text{a}$ の完成や成就を表わしたり、 $\text{c} \text{a}$ への渴望や $\text{c} \text{a}$ の保持への執念を表わしたりする

(0)  $\neg \text{a} \text{a} \text{v} \text{c} \text{c} \text{e} \text{c} \text{c} \text{e}$  (私は橋を壊すことに固執する：成就)

(1)  $\neg \text{a} \text{a} \text{v} \text{c} \text{c} \text{c} \text{c}$  (私はあの女に固執する：渴望)

(2)  $\neg \text{a} \text{a} \text{v} \text{c} \text{c} \text{c} \text{c} \text{c}$  (私はこの家に固執する (=手放さない)：執念)

ところで、 $\text{a} \text{v} \text{e}$ が完成や $\text{c} \text{a}$ の取得を含意するわけではない。よって(2)が成立する

(2)  $\neg \text{a} \text{a} \text{v} \text{c} \text{c} \text{c} \text{c} \text{c} \text{c} \text{c}$  (私はそれに固執したが、手に入れられなかった)

$\text{a} \text{v} \text{e}$ も $\forall \text{a} \text{c} \text{e}$ と同じく動作主の固執する意志が前面に現われているため、動作主は $\text{e}$ 化せず、 $\text{c} \text{a}$ はない

0 : 忍耐 :  $\text{c} \text{c} \text{e} \text{e} \text{c} \text{e}$ ,  $\text{e} \text{c} \text{e} \text{c} \text{e}$ ,  $\text{c} \text{c} \text{e} \text{e}$

⊗

$\text{c} \text{a}$ は抽象具象

$\text{c} \text{c} \text{e} \text{e} / \text{e} \text{c} \text{e} \text{c}$

$\text{c} \text{a}$ は我慢する内容。 $\text{a}$ が人なら「 $\text{c} \text{a}$ を我慢する」。 $\text{a}$ が物なら「 $\text{c} \text{a}$ を凌ぐ(耐久する)」

$\text{c} \text{c} \text{e} \text{e}$

$\text{c} \text{a}$ が抽象の場合、 $\text{c} \text{a}$ との関与を避ける。具象の場合、 $\text{c} \text{a}$ との物理的接触を避けるという解釈と、 $\text{c} \text{a}$ との関与を避けるという解釈の二つがある

⊗

$\text{c} \text{c} \text{e} \text{e}$ の $\text{c} \text{a}$ は我慢する内容で、具象抽象どちらでも良い

(1)のように $\text{c} \text{a}$ に節でなく語が入れば、その語が我慢を感じさせるような原因である。つ



まり(1)では、私は彼に迷惑を感じているが、何らかの事情で彼の横暴を我慢しているということを表わす。我慢する内容をより具体的にいえば(✓)のようになる

(1) -Λ ɔʃʌɪc ɪ (私は彼を我慢している)

(✓) -Λ ɔʃʌɪc ɪ ʔaɪe ɪc (私は彼が無口なのを我慢している)

尚、完了相は我慢の限界を表わす。或いは我慢する内容がなくなってもう我慢する必要がなくなった場合にも使える。(✓)でいうなら、彼が無口でなくなればもう我慢しなくて良いので完了相を使う

また、alが人でなく物の場合、「ɔʃʌに対して耐久する」とか「ɔʃʌを凌ぐ」という意味になる(ʔ)。この場合、可能時相詞を取ることが多い

(ʔ) ɪ-eʊ ɔʃʌɪe[ɔʃʌɪel] ʔeeZ (屋根は風を凌ぐ [凌げる])

eʃʌɪeのɔʃʌは逆に甘える内容や甘える相手を取る。我慢せずに怒りをぶつけるという意味ではないので注意。また、eʃʌɪeは主に悪い意味で使われる。懐くという意味ではɪ-ʌɪeなどを使う。用例は以下のとおり

(ʈ) -Λ eʃʌɪc ɪ (私は彼に甘えている)

(ʔ) -Λ eʃʌɪe ɪ- <cʃɪc ʔcl ɪ- -Λ (私は彼がお金をくれることに甘えている)

一方、<ɔʃʌɪeのɔʃʌも抽象具象どちらも取る。具象の場合、ɔʃʌとの接触や関与を避けるという意味である。抽象の場合、ɔʃʌとの関与を避けるという意味である

(ʔ) -Λ <ɔʃʌɪc ʔeʔ (私は球をよける)

(ʔ) -Λ <ɔʃʌɪc ɪ (私は彼をさける)

(ʔ)は解釈が二つあり、道で彼にぶつからないように避けるという場合と、彼に会わないようにするという場合がある

f : 生活 :  $\mu\text{-}\lambda\text{e}$ ,  $e\text{Z}\lambda\text{e}$ ,  $\lambda\text{c}\lambda\text{e}$ ,  $-\lambda\lambda\text{e}$ ,  $c\lambda\lambda\text{e}$ ,  $Vc\mu\lambda\text{e}$

⊙

非 $\circ\Lambda$ 。a $\lambda$ は有生である。 $\circ\Lambda$ は場所である

$\mu\text{-}\lambda\text{e}$

$\circ\Lambda$ は $\mu\text{-}\lambda\text{e}$ までのどの大きさでも良い。自分の家にものみ使う。職場は不可

$e\text{Z}\lambda\text{e}$

$\circ\Lambda$ は部屋を表わす場所。自分の部屋にものみ使う。但し、部屋がいくつかある宿泊所の場合、そのうちのある部屋を使うという意味でなら使うことができる

$\lambda\text{c}\lambda\text{e}$

$\circ\Lambda$ は宿泊所。一時的に泊まることを意味する。友人宅や学校やベンチなど、宿泊所でないものには使えず、“ $\lambda\text{c}\lambda\text{e}$   $\lambda\text{-}$ ”と言う

$-\lambda\lambda\text{e}/c\lambda\lambda\text{e}$

a $\lambda$ は有生である。 $\circ\Lambda$ は思想内容である。 $\circ\Lambda$ が人ならその人の思想に準拠することを表わす。 $\circ\Lambda$ が思想名ならその思想に準拠することを表わす。 $\circ\Lambda$ には節もこれるが、一つの節に収まらなければ $\circ\Lambda$ を $\lambda\text{-}$ にして後に照応する

$c\lambda\lambda\text{e}$ は $-\lambda\lambda\text{e}$ の思想を思うだけでなく実践して日々を生きることを意味する。これらは場所を $\circ\Lambda$ に取れない

$Vc\mu\lambda\text{e}$

a $\lambda$ は有生。 $\circ\Lambda$ は生活内容を取る。したがって「生きる」だけでなく「生活する」という意味も出てくる

⊙

a $\lambda$ は有生である。 $\circ\Lambda$ は $\mu\text{-}\lambda\text{e}$ ～ $\lambda\text{c}\lambda\text{e}$ までは場所で、 $-\lambda\lambda\text{e}$ と $c\lambda\lambda\text{e}$ は思想内容である

$\mu\text{-}\lambda\text{e}$ の $\circ\Lambda$ は自分が普段住んでいる場所を取る。自分の所有する家でも普段住んでいない別荘は不自然。場所の広さは問わないので、理論的には(1)～(f)は全て可能であるが、ふつう(1)と(f)は使わない。(1)をあえて使うなら、それはたとえば小説で宇宙人と話している場面である

(1) - $\Lambda$   $\mu$ - $\lambda$ c  $\gamma$ o-[ $\Lambda$ o $\cup$  $\mu$ - (a)] (私はここに [この集合住宅に] 住んでいる)

(v) - $\Lambda$   $\mu$ - $\lambda$ c - $\mu$  $\Lambda$ - (私はアルナに住んでいる)

(y) - $\Lambda$   $\mu$ - $\lambda$ c - $\mu$ e-Z- $\mu$  $\lambda$  (私はアルバザードに住んでいる)

(o) - $\Lambda$   $\mu$ - $\lambda$ c -( $\gamma$ o|J (私はアトラスに住んでいる)

(f) - $\Lambda$   $\mu$ - $\lambda$ c le $\gamma$ -c (私は霊界に住んでいる)

逆に狭さについては最小単位が $\mu$ -である。 $\mu$ -の内部に入り込んでeZまでいくと $\mu$ - $\lambda$ eは使えない(5)。尚、集合住宅の一室は日本語では家でなく一室或いは部屋というが、制アルカでは $\mu$ -である(9)。というのも集合住宅は $\Lambda$ o $\cup$  $\mu$ -だからである

(5) X- $\Lambda$   $\mu$ - $\lambda$ e eZ (a  $\rightarrow$  - $\Lambda$  eZ $\lambda$ e  $\gamma$ o- [(a e $\cap$  eZ e - $\Lambda$ ] [- $\Lambda$   $\cup$ - $\lambda$ e  $\gamma$ - $\leftarrow$  eZ (a)] (私はここを部屋としている [これは私の部屋だ] [私はいつもこの部屋にいる])

(9) (c $\gamma$   $\mu$ -- $\Lambda$  e  $\mu$ -  $\cup$ e e  $\Lambda$ o $\cup$  $\mu$ - Sc $\lambda$ c  $\mu$ - e  $\Lambda$ oJ) X- $\Lambda$  eZ $\lambda$ c  $\gamma$ o-  $\rightarrow$  - $\Lambda$   $\mu$ - $\lambda$ c  $\gamma$ o-[ $\mu$ - (a)]

((集合住宅の一室の住人が自分の部屋を指して) 私はこの部屋に住んでいる)

(5)からも分かるとおり、eZ $\lambda$ eは部屋をo $\Lambda$ とする。用法は $\mu$ - $\lambda$ eと同じである。逆に(9)で見たように、集合住宅の一室を指して私はこの部屋に住んでいるとはいえない

eZ $\lambda$ eは自分の家に使う。だが、宿泊所に部屋がいくつかあり、そのうちのある部屋を使うのだということを述べる場合、自宅でなくともeZ $\lambda$ eを使うことができる

また、 $\gamma$ o $\gamma$  $\lambda$ eはホテルなので集合住宅と同じようにある一室(部屋)をo $\Lambda$ とする。意味は「泊まる」である。用法は $\mu$ - $\lambda$ eと同じである。ただ、 $\mu$ - $\lambda$ e, eZ $\lambda$ eが普段住んでいる場所しか使えないのに対し、 $\gamma$ o $\gamma$  $\lambda$ eはふつう一時的なもので、短くて数時間、長くても数日である。もともと、貸しきって何ヶ月も使うような例外もあるが、ふつうはそんなに泊まらないので一時的といって良い

o $\Lambda$ には旅館やホテルなど、宿泊所しかこれない。ゆえに「泊まる」だからといっても( $\Delta$ )は非文である。自宅や宿泊地以外に泊まる場合、“ $\gamma$ o $\gamma$  $\lambda$ e  $\gamma$ - (””と言う。(A)で見る友人の家はもちろん、野外、道端、公園のベンチ、学校などもそうである

(Δ)  $\times \langle c \cup, -\Lambda \rangle \circ \lambda \circ \mu - e \ h-d\Lambda \rightarrow \langle c \cup, -\Lambda \rangle \circ \lambda \circ \mu - e \ h-d\Lambda$  (今日は友達の家泊まる)

一方、 $-\lambda \circ \lambda \circ e, c \circ \lambda \circ e$ は毛色が異なる。 $-\lambda \circ \lambda \circ e$ は $\circ \lambda$ の思想を持つという抽象的な意味で、 $c \circ \lambda \circ e$ は $\circ \lambda$ の思想に基づいた生活をするという具体的な意味である

$\circ \lambda$ に人がくれば、その人の思想に準拠することを意味する(L)。或いは $\circ \lambda$ が具体的な思想名ならば、その思想名に準拠することを意味する(10)。 $\circ \lambda$ に詳細な内容がくれば、 $\circ \lambda$ には節がくる(11)。一つの節に内容が収まりきらない場合、一旦 $\circ \lambda$ を $\cup \circ -$ にしておいてから後で照応するやりかたを取る(1V)

(L)  $-\Lambda \ -\lambda \circ \lambda \circ e \ \vdash$  (私は彼と同じ思想を抱いている)

(10)  $-\Lambda \ -\lambda \circ \lambda \circ e \ \cup -\epsilon -\lambda$  (私は現実主義だ)

(11)  $-\Lambda \ -\lambda \circ \lambda \circ e \ \forall c \cup \cup -\Lambda \ \circ \lambda \circ \lambda \circ e \ \forall -\cup \cup -\Lambda$  (私は敗者は勝者に従うべきだという思想を持っている)

(1V)  $-\Lambda \ -\lambda \circ \lambda \circ e \ \cup \circ -, \ \cup -\lambda \ \circ \circ \lambda \circ \lambda \circ e \ \lambda \circ \lambda \circ \vdash \vdash \cup \circ \lambda, \ \forall \circ \lambda \ \cup \circ \lambda \ \circ \lambda \circ \lambda \circ e \ \cup -\lambda$  (私はこういう思想を抱いている。金持ちは貧乏人に金を寄付する。そして貧乏人は金持ちに従うべきである)

もし(1V)を $-\lambda \circ \lambda \circ e$ でなく $c \circ \lambda \circ e$ に変えると、その $\circ \lambda$ は実際にその思想を実現するべく行動しながら生きているということの意味する。つまり、実際に寄付を行ったりしていることを意味する。つまり、 $c \circ \lambda \circ e$ は $-\lambda \circ \lambda \circ e$ の実践である

$\forall c \circ \lambda \circ e$ は具体的な生き方を $\circ \lambda$ に取る動詞である。この場合、「生きる」だけでなく「生活する」という意味も現われる。 $\circ \lambda$ が $e \rangle$ になって省略されれば単に「生きる」である

$\circ \lambda$ が節で収まらないときは $-\lambda \circ \lambda \circ e$ と同じく $\cup \circ -$ を使った照応をする(1?)。尚、生き方が副詞一語で表現できるなら $\circ \lambda$ の代わりに副詞が表わす(10)

(1?)  $-\Lambda \ \forall c \circ \lambda \circ \lambda \circ \lambda \circ \vdash \cup \circ -, \ c \rangle \ \forall e \lambda \rangle, \ -\Lambda \ \langle e \lambda \circ e \ -\langle, \ \forall -\Lambda \ c \rangle \ e \mu \nu -, \ -\Lambda \ \langle e \lambda \circ e \ \lambda e \rangle$  (私はこのように生活したい。ヴェルムには数学を学び、エルヴァには音楽を学ぶ。そのように生きたい)

(10)  $\vdash \ \forall c \circ \lambda \circ \lambda \circ - \ \lambda \circ \lambda$  (彼は幸せに生きた)

尚、アスペクトについてだが、 $\mu\text{-}\lambda\text{e}\sim\text{c}\lambda\text{e}$ の場合、完了相はその場所からの引越しやチェックアウトを表わす。 $-\lambda\text{e}$ ,  $\text{c}\lambda\text{e}$ の場合、完了相は思想の変化を表わす。 $\text{Vc}\mu\text{e}$ の場合、完了相は生活内容の変化か、 $\text{al}$ の死を表わす

④: 記憶:  $\lambda\text{e}$ ,  $\lambda\text{e}$ ,  $\text{hel}\text{e}$

⊙

$\text{al}$ は有生で $\text{c}\lambda$ は抽象

$\lambda\text{e}/\lambda\text{e}$

見知ってはいるもののまだ記憶していない情報や、未知の情報を $\text{c}\lambda$ に取る。完了相は $\text{c}\lambda$ が脳に定着した時点を指す。影響相は $\text{c}\lambda$ を覚えていてまだ忘れていないことを指す。 $\lambda\text{e}$ は一旦脳に定着していたものを忘れることを表わす。完了相は忘れた時点で、影響相は忘れたまままだ再記憶していないことを表わす

$\lambda\text{e}$ は副詞の場合、「覚えていて～する＝忘れずに～する」。 $\lambda\text{e}$ は副詞だと「忘れていて～する」。 $\lambda\text{e}$ の前に $\text{c}$ を置くと「～し忘れる」

$\text{hel}\text{e}$

既に記憶しているものを引き出すという意味。完了相は思い出したその瞬間を指す

⊙

いずれも記憶に関する語である。 $\text{al}$ は有生で $\text{c}\lambda$ は抽象

$\lambda\text{e}$ の $\text{c}\lambda$ は抽象具象どちらでも良い。見知ってはいるもののまだ記憶していない情報や、未知の情報を $\text{c}\lambda$ に取る。完了相は $\text{c}\lambda$ が脳に定着した時点を指す。影響相は $\text{c}\lambda$ を覚えていてまだ忘れていないことを指す(1)

逆に $\lambda\text{e}$ は一旦脳に定着していたものを忘れることを表わす。完了相は忘れた時点で、影響相は忘れたまままだ再記憶していないことを表わす(2)

$\lambda\text{e}$ は副詞の場合、「覚えていて～する＝忘れずに～する」という意味を持つ(3)。一方、 $\lambda\text{e}$ は副詞だと「忘れていて～する」という意味を持つ(4)。たとえば注意を受けていたのにそれを忘れて～してしまうといった場合に使う。「うっかり～してしまう」といっても良い(4)を応用して動詞を否定すれば「忘れていて～する」から「～し忘れる」を作ることが

できる(㊦)。「忘れていて～する」の否定は「忘れていて～しない」だから、即ち「～し忘れる」と同じである

(1)  $\neg \wedge \text{ol}\neg \neg \wedge \neg \text{ol}\neg \neg \text{I}$  (私は彼に会ったことを覚えていた)

(1)  $\neg \wedge \text{el}\neg \neg \wedge \neg \text{ol}\neg \neg \text{I}$  (私は彼に会ったことを忘れていた)

(2)  $\neg \wedge \text{ol}\neg \neg \text{ol } \text{a} \neg \text{I}$  (私は忘れずに彼にそれを伝えた)

(0)  $\neg \wedge \text{ol}\neg \neg \text{el } \text{a} \neg \text{I} \neg \text{ol } \text{le}\text{ol}$  (私は秘密なのにもかかわらず忘れてそれを彼に伝えてしまった)

(㊦)  $\neg \wedge \text{ol}\neg \neg \text{ol } \text{el } \text{a} \neg \text{I}$  (私は彼にそれを伝え忘れた)

一方、 $\text{hel}\neg\text{e}$ は既に記憶しているものを引き出すという意味を持つ。つまり「思い出す」である。 $\text{ol}\wedge$ には思い出す内容がくる。抽象具象を問わない。記憶していないこと、まだ知らないことは引き出せないので $\text{ol}\wedge$ にならない。 $\text{hel}\neg\text{e}$ の完了相は思い出したその瞬間を指す $\text{hel}\neg\text{e}\text{ol}$ は「思い出した」で、 $\text{ol}\neg\text{e}\text{ol}$ は「覚えた」で、 $\text{ol}\neg\text{e}\wedge$ が「覚えている」である。いずれも意味が異なる

### 9 : 感覚 : $\wedge\neg\text{e}$ , $\wedge\neg\text{ol}\neg\text{e}$ , $\text{ol}\neg\text{e}$ , $\text{e}\text{ol}\neg\text{e}$

☼

$\text{ol}$ は有生。 $\text{ol}\wedge$ は抽具。完了相は感じ終わった或いは考え終わった時点

#### $\wedge\neg\text{e}$

抽具を自発的に思い起こすこと。また、感覚や感情を感じる事。但し、ある感情がその感情を向ける相手との関係で発生する場合、 $\wedge\neg\text{e}$ は使えない

#### $\wedge\neg\text{ol}\neg\text{e}$

$\text{ol}\wedge$ を知覚すること。知覚できないものは $\text{ol}\wedge$ に取れないので、 $\wedge\neg\text{ol}\neg\text{e}$ だけは抽象は $\text{ol}\wedge$ に取れない

#### $\text{ol}\neg\text{e}/\text{e}\text{ol}\neg\text{e}$

$\text{e}\text{ol}\neg\text{e}$ は抽具を意図的に思うことという点で $\wedge\neg\text{e}$ と異なる。 $\text{ol}\neg\text{e}$ は漠然とした感覚でなく頭を使った思考という点で $\text{e}\text{ol}\neg\text{e}$ と異なる)

☼

いずれも感覚や思考に関する語で、alは有生である。oAは抽具。完了相は感じ終わった或いは考え終わった時点を表わす。影響相はもう感じておらず、その影響が残っている状態だけを指す

A-2eのoAは具象の場合、oAのことが思い出されるという自発的な意味になる(1)。抽象の場合、oAのことが思い出されるとか、oAについて思わせられるとか、oAを感じるといった意味になる(1)

(1) -A A-2c 1- (彼のことが思い出される)

(1) -A A-2c 7-2C-1 (愛国主義のことが思い出される)

また、A-2eはoAに感覚(2)や感情(3)を取ることもできる。A-2eの用法としてはこれがもっとも多い

(2) -A A-2c 4-c (痛い)

(3) -A A-2c 5>C (嬉しい)

尚、気配を感じるとか、～がいる気がするの場合もA-2eを使うが、u-2eを使った従属節を伴う(f)

(f) -A A-2c 1- u-2c 7o- (彼がここにいる気がする)

ところで、A-2eのoAには全ての感情と感覚がこれるわけではない。好きだという感情はA-2e u-Aではなくu-A2e oAである。ある感情がその感情を向ける相手との関係で発生する場合、A-2eは使えない

一方、A-72eは知覚の意味で、五感で感じるもの以外はoAになれない。感情や感覚など、抽象は知覚できないのでoAに取れない

A-2eと同じoAを取ることができるが、それだとA-72eの場合、五感のいずれかでoAを知覚していることになる。(1)では私は彼と一緒にいなくても良いし、いても触ったり見たりし

なくて良い。だが(9)の場合、私は彼を五感のいずれかで知覚しなければならない。たとえば見るなら視覚だし、暗闇で探して触るなら触覚である

(9)  $\neg \Lambda \Lambda \neg \exists c \vdash$  (彼を知覚する)

一方、 $e \cup e$ と $\Lambda \rightarrow e$ は何が違うか。 $\Lambda \rightarrow e$ は $\circ \Lambda$ を想起することが自発的であったのに対し、 $e \cup e$ は $\circ \Lambda$ を想起することが意図的である。 $\Lambda \rightarrow e$ が「感じられる」だとするなら $e \cup e$ は「感じる」「思う」に当たる。取る $\circ \Lambda$ はおおよそ変わらないが、自発的か意図的かというニュアンスが異なる

日本語では「彼女は彼を思う」というと恋愛の意味で使われることが多い。だが、 $e \cup e$ は中立的である。もちろん恋愛対象を思い浮かべる場合もあるが、基本的にただ $\circ \Lambda$ を想起するだけである

(9)  $\neg \Lambda e \cup c e \cap c$  (妹のことを考える (ただ想起するだけ))

(Δ)  $\neg \Lambda e \cup c \cap c \neg \Lambda$  (恋人のことを思う (恋愛対象として))

また、感覚や感情を $\circ \Lambda$ に取ることもできるが、その場合 $\Lambda \rightarrow e$ とは意味が違う(L)

(L)  $\neg \Lambda e \cup c \forall c e \vdash$  (彼の痛みとはどのようなものか想像する)

一方、 $\circ \cup e$ は $e \cup e$ とおおよそ同じ $\circ \Lambda$ を取るが、 $e \cup e$ が思考をあまり使わない感覚的なものであるのに対し、 $\circ \cup e$ は思考的である。理路整然としてものごとを順序立てて考えるのが $\circ \cup e$ である。ゆえに数学の問題など、頭を使うものは $\circ \cup e$ であり、 $e \cup e$ とはいわない

また、 $e \cup e$ 同様、感覚や感情を $\circ \Lambda$ に取れるが、その場合は $\circ \Lambda$ という感覚・感情についてどのようなものか思考するという意味になる(10)

(10)  $\neg \Lambda \circ \cup c e \rangle \cap$  (悲しみとは何かについて考える)

Δ : 喜楽 :  $\circ \rangle \cap e, e \rangle \cap e, \Lambda \cap e, \Lambda e \cap e, \acute{e} \neg \Lambda e, \acute{e} \cap \Lambda e$



⊙

oΛ-。動詞はoΛにその感情を持たせるという使役的な意味。al, oΛ有生（

o>ʃe/e>ʃe

好ましい状況を歓迎する気持ち

Λolʃe/Λelʃe

好ましい状況に対し、運が良いとか恵まれていると思う気持ち

ε-Λʃe/εcΛʃe

愉快的な状況に積極的に参加しようという感情)

⊙

いずれもoΛ-で、動詞として使うとoΛを喜ばせるといった使役的な意味になる(1)(✓)。oΛ-の場合、原因は>Λを取る。alは有生。oΛも有生。oΛ-を取る。感情なのでΛ-ʃeのほうが優勢

(1) -Λ Λ-ʃc o>ʃ >Λ ʃ (彼のおかげで嬉しい)

(✓) -Λ o>ʃʃc ʃ (彼を喜ばせる)

o>ʃは好ましい状況を歓迎することで、「嬉しい」の意味である。一方、Λolは好ましい状況が起きたときに、運が良いとか恵まれていると思う気持ちを表わす。つまり「幸せ」に当たる

これらはどちらも似ている。だが、o>ʃは状況の好ましさに焦点を当ててるのに対し、Λolは恵まれている程度に焦点を当てるとい違いがある。ただ、これらは共起することが多いので、同時に感じることが多い。しかし共起しない稀な例も考えうる。状況としては好ましいが恵まれてはいないという場合、或いはその逆である。だが、ふつうはどちらも同時に感じるので、より感じたほうを代表として述べるか、或いはどちらも述べるかといった選択をする

一方、ε-Λは状況を愉快だと思ふことで、「楽しい」に当たる。o>ʃに近い。ε-Λはその愉快的な状況に積極的に参加しようという感情である。サッカーは楽しいという場合、サッカーに積極的に参加したり観戦したりしようという感情を持っているといえる。oΛが人の場

合、その人が愉快なので積極的に話したいと思うという感情を表わす

それに比べて $\text{c}\>\text{c}$ は積極的でなく、単に好ましい状況を歓迎しようという感情である。つまり、 $\text{c}\>\text{c}$ が受動的であるのに対し、 $\text{e}-\Lambda$ は能動的であるといえる

ここで、これまでに述べた $\text{c}\>\text{c}$ ,  $\Lambda\text{ol}$ ,  $\text{e}-\Lambda$ の違いを表わした用例を三つ挙げる

- (?)  $-\Lambda \text{c}\>\text{c} \text{c} \text{I}$  (彼を喜ばせる (彼は私がいることが原因で嬉しい))
- (0)  $-\Lambda \Lambda\text{ol} \text{c} \text{I}$  (彼を幸せにする (彼は私がいることが原因で自分は恵まれていると思う))
- (f)  $-\Lambda \text{e}-\Lambda \text{c} \text{I}$  (彼を楽しいものにさせる。彼が面白い人)

尚、 $\text{e}\>\text{c}$ ,  $\Lambda\text{el}$ ,  $\text{e}\text{c}\Lambda$ に関しては全てそれぞれの逆の気持ちである。たとえば $\text{e}\>\text{c}$ の場合、その状況を嫌だと思って嫌煙している感情を表わす

L : 怒 :  $\text{S}\text{c}\>\text{e}$ ,  $\text{S}\text{e}\>\text{e}$ ,  $\text{S}\text{c}\>\text{e}$ ,  $\text{l}-\text{l}\>\text{e}$

⊙

$\text{S}\text{c}\>\text{e}/\text{S}\text{e}\>\text{e}$

$\text{c}\Lambda-$ 。al,  $\text{c}\Lambda$ 有生。原因は $\>-\Lambda$ 格。Sは $\>-\Lambda$ に対する怒り。Sは $\text{c}\Lambda$ を怒らせるの意味

$\text{S}\text{c}\>\text{e}$

$\text{S}\text{c}\>\text{e}$ はal,  $\text{c}\Lambda$ 有生で、「叱る」の意味。非 $\text{c}\Lambda-$

$\text{l}-\text{l}\>\text{e}$

$\text{c}\Lambda-$ 。al,  $\text{c}\Lambda$ 有生。原因は $\>-\Lambda$ 格。イライラを表わす。 $\text{l}-\text{l}\>\text{e}$ は $\text{c}\Lambda$ をイライラさせること

⊙

$\text{S}\text{c}\>\text{e}/\text{S}\text{e}\>\text{e}$ は $\text{c}\Lambda-$ 。al,  $\text{c}\Lambda$ 有生。原因は $\>-\Lambda$ 格

Sは $\>-\Lambda$ に対する怒りである。Seは逆に $\>-\Lambda$ に対する柔和な気持ちである。後者は頻度が少ない。怒りの矛先は-Iが受ける

$\text{S}\text{c}\>\text{e}$ は $\text{c}\Lambda$ を怒らせるの意味で、 $\text{S}\text{e}\>\text{e}$ は柔和にするの意味である。怒っている人を $\text{S}\text{e}\>\text{e}$ することも、怒っても柔和でもない通常状態の人を $\text{S}\text{e}\>\text{e}$ することもできる。 $\text{S}\text{c}\>\text{e}$ についても同様に、柔和な人を怒らせることも、通常状態の人を怒らせることもできる。無論、 $\text{c}\>\text{c}$ を

感じている人を怒らせてSoを感じさせることもできる

一方、Soʔeはal, ɔʌ有生で、「叱る」の意味。非ɔʌ-。ふつう口に出して怒ることだが、折檻だけでもSoʔeといえる

ʌ-ʂʌはɔʌ-。al, ɔʌ有生。原因は>-ʌ格

ʌ-ʂʌはイライラを表わす。Soの下位概念である

ʌ-ʂʌeはɔʌをイライラさせることを表わす

-ʌ ʌ-ɔc So -l l- 彼に怒っている

-ʌ ʌ-ɔc ʌ-ʂʌ -l l- 彼にイライラしている

-ʌ Soʔe- l- 彼を叱った

10 : 迷 : ʔelʌe, ʔeʌe, l-Zʌe, lcZʌe, S-lʌe, Sclʌe, Z-ʔe, Zcʔe

⊙

ɔʌ-。al, ɔʌ有生（

ʔelʌe

自分が何をすれば良いのかは分かっているけれども、それでも問題を解決できなくて困り悩む気持ち

ʔeʌe

ʔeʌは起きたことに対して悔やむことで、「後悔」の意味

l-Zʌe/lcZʌe

lcZʌは問題に対してどうすれば良いのか分からない状態や気持ち。l-Zʌはその反対で、悟るの意味)

非ɔʌ-。al, ɔʌ有生（

S-lʌe/Sclʌe

Sclʌeは「決めあぐねること」を意味する。決めあぐねる具体的な内容をɔʌに取れるため、具体的な内容があればlcZʌよりSclʌeのほうが使われる

## Z-7>e/Zc7>e

Zc7>eは「選ぶ」で、Z-7>eは「篩う」。Zc7>eは選ぶだから選択肢がない場合は使えない。一方、S-l>eは選択肢がなくても使える)

⊙

9el>e, 9eJ>e, l-ZΛ>e, lcZΛ>eはoΛ-。al, oΛ有生。残り四つは非oΛ-で、以下同様

lcZΛは問題に対してどうすれば良いのか分からない状態や気持ちを指す。対処法、解決法など、自分のすべきことが分からずに迷う場合に使う。l-ZΛは逆に自分のすべきことが分かっている状態や気持ちを指す

一方、9eJは自分が何をすれば良いのかは分かっているけれども、それでも問題を解決できなくて困り悩む気持ちを指す。太っている人は痩せることが対処法だが、それが分かっているのにダイエットできずに太り続ける場合、9eJに当たる。道に迷っている人はどの道を行けば良いのかという方法が分からないのでlcZΛに当たる

lcZΛは解決法を与えれば解消されるが、9eJは解決法は既に分かっているだけにかえって深刻である。lcZΛを解消しても9eJに陥る場合がある

9eJは起きたことに対して悔やむことで、「後悔」の意味である。oΛ-なので(1)のように使う

(1) X-Λ 9eJ>c (9eJ → -Λ Λ>c 9eJ -[>-Λ] (9eJ (テストの出来に後悔している)

9eJがひたすら困ったと思うことで、lcZΛがどうすれば良いのかと悩むことである一方、9eJはああしなければ良かったと否定的に考えることである。9eJやlcZΛはその問題からの脱却を目標にしている一方で、9eJは単に否定的に悔やみ続けるだけである。9eJのほうが9eJ, lcZΛより後ろ向きで否定的で消極的である

一方、ScI>eはlcZΛと似た意味を持つが、lcZΛは「すべきことを知らない状態」を意味し、ScI>eは「決めあぐねること」を意味する。決めあぐねる具体的な内容をoΛに取れるため、具体的な内容があればlcZΛよりScI>eのほうが使われる

Scl<sub>2</sub>eの反対はS-l<sub>2</sub>eで、決めるの意味である。何に決めるかはleしで表わす(∨)

(∨) -Λ S-l<sub>2</sub>c) l- leし μ<sub>2</sub> (私は彼を長に決めた)

ところで、(∨)は(?)でも言い換えられる

(?) -Λ Zc<sub>2</sub>e) l- leし μ<sub>2</sub> (私は彼を長に選んだ)

S-l<sub>2</sub>eとZc<sub>2</sub>eの違いは決めるか選ぶかの違いである。Zc<sub>2</sub>eは選ぶだから選択肢がない場合は使えない。一方、S-l<sub>2</sub>eは選択肢がなくても使える。(∨)(?)では両者の違いは出てこないが、(∅)(f)では意味が異なる

(∅) -Λ S-l<sub>2</sub>c) oZ (a (この規則を決めた (=この規則の内容を作って制定した))

(f) -Λ Zc<sub>2</sub>e) oZ (a (この規則を選んだ (=いくつかある規則候補の中からこの規則を選んだ))

尚、Zc<sub>2</sub>eの反対はZ-<sub>2</sub>eである。これは篩うという意味である。Zc<sub>2</sub>eが選択肢の中からoΛという必要なものを取り出して拾うのに対し、Z-<sub>2</sub>eは選択肢の中からoΛという不必要なものを取り出して捨てることを意味する。したがって(∫)(∫)は同義である

(∫) -Λ Zc<sub>2</sub>e) l- leし V-<sub>2</sub>Λ cl μ-<sub>2</sub>Λ (候補者の中から彼を勝利者として選んだ)

(∫) -Λ Z-<sub>2</sub>e) l- leし Vc<sub>2</sub>Λ cl μ-<sub>2</sub>Λ (候補者の中から彼を敗者として篩った)

11 : 動揺 : Λ-<sub>2</sub>e, Λc<sub>2</sub>e, μe<<sub>2</sub>e, μ<<sub>2</sub>e, hc<sub>2</sub>e, >-<sub>2</sub>e, ->e<sub>2</sub>e, Ve><sub>2</sub>e, V<<sub>2</sub>e, Λo<sub>2</sub>e, Ae<sub>2</sub>e, Cc<sub>2</sub>e

⊙

oΛ-。a, oΛ有生。動詞はoΛをその感情を持った状態にさせるという使役的な意味 (

Λ-<sub>2</sub>e/Λc<sub>2</sub>e

Λ-ᵛは驚き。Λcᵛは平然

ᵛo<ᵛe/ᵛe<ᵛe

ᵛo<は興奮。ᵛe<は沈静

hcᵛᵛe

焦り。問題と目的は把握している

>-l-ᵛe

混乱

->eᵛᵛe

おののき。近寄らないようにしたり動けなくなったりすることを表わす

Vo>ᵛe/Ve>ᵛe

Vo>は恐怖のない勇敢な気持ち。Ve>は恐怖

Λoᵛᵛe/Λeᵛᵛe

Λoᵛᵛeは緊張。Λeᵛᵛeは弛緩

CcᵛΛᵛe

CcᵛΛᵛeはマイナスかつ消極的な感情のせいで自分の思うとおりの行動ができないとき

⊙

恐怖や驚きなどの動揺を表わす語で、全てoΛ-。al, oΛ有生。動詞はoΛをその感情を持った状態にさせるという使役的な意味である

Λ-ᵛは驚きである。逆にΛcᵛは全く驚かない平然を意味する。わっと驚かされたのに何もなかったかのようにしている場合、Λcᵛに当たる

Λcᵛに似たものにᵛe<があるが、こちらは落ち着いているという意味である。平然ではなくむしろ穏やかな気分にあたる。驚かされて全く驚かない場合には使えない。風呂に入っ  
て気持ちがリラックスして落ち着いているときなどに使う

逆にᵛo<は沈静していない興奮した状態を指す。仕事で神経が高ぶっていたりスポーツで  
体が火照っているときなどに使う。勿論この場合Λ-ᵛには当たらない

尚、ᵛo<ᵛe, ᵛe<ᵛeはoΛに無生も取れる。その場合、oΛを荒れた状態にするとか整然とした  
状態にするという意味になる(1)

(1)  $\neg \Lambda \mu e \langle \lambda c \rangle eZ e \neg \Lambda$  (自分の部屋を片付けた)

一方、 $\Lambda \neg$ に近いものに  $hc\uparrow$  がある。  $hc\uparrow$  は焦りを表わす。 目的の事柄が実現しないとき、早く実現させたくて落ち着きを失って急ぐ気持ちを表わす

また、 $\neg \lambda \neg$  は突然の予期せぬ驚くべき事態に遭遇し、どうすれば良いかわからず落ち着きを失うことを表わす。  $hc\uparrow$  は問題と目的が分かっているが  $\neg \lambda \neg$  は自分のすべきことさえ分からない。 そのため、 $\neg \lambda \neg$  のほうが  $hc\uparrow$  より混乱度が高い。  $hc\uparrow$  は目的実現に急ごうとするが、 $\neg \lambda \neg$  はそれもなく単に慌てるだけである

一方、 $\neg \rightarrow eJ$  は自分の力では適わないものに遭遇したときに、恐れて近寄らないようにしたり動けなくなる気持ちを指す。 これも  $\circ \Lambda$  なので (1) のように使う

(1)  $\neg \Lambda \Lambda \rightarrow c \neg \rightarrow eJ \neg \Lambda \forall eI$  (私は銃を前にしておののいた)

$\neg \rightarrow eJ$  は恐怖が原動力になっている。 そしてその結果、近寄らないようにしたり動けなくなったりすることを表わす。 単に恐怖を感じていることだけを言いたい場合、 $Ve \rightarrow$  を使う。 これは  $\neg \Lambda$  に対して恐怖を感じていることを指す

逆に  $Vo \rightarrow$  は  $\neg \Lambda$  に対してなんら恐怖を感じてなく、むしろ勇敢な気持ちで接していることを指す (2)

(2)  $\neg \Lambda \Lambda \rightarrow c Vo \rightarrow \neg I V \neg J$  (戦争など少しも怖くない)

また、恐怖と少し近い分野に緊張がある。 緊張は  $\Lambda \circ \rightarrow$  である。  $\Lambda \circ \rightarrow$  を感じると失敗しないように気を使い、体も硬くなる。 ふつう好ましくないので、悪い意味で使われる

逆に  $\Lambda e \rightarrow$  は緊張の全くない弛緩した状態である。 気も使わないし、体もだれている。 だがこれも  $\Lambda \circ \rightarrow$  同様ふつう好ましくないとされ、悪い意味で使われることが多い。 人間には適度な  $\Lambda \circ \rightarrow$  と  $\Lambda e \rightarrow$  が必要とされ、偏りは好ましくない

だが、気持ちがリラックスしてくつろいでいるときの適度な弛緩は良いとされ、この場合の  $\Lambda e \rightarrow$  は歓迎される (3)

(3)  $\neg \Lambda \Lambda \rightarrow c \Lambda e \rightarrow \neg \Lambda e \mu$  (風呂のおかげで気持ちがくつろいでいる)

一方、緊張と近い分野にシャイがあるが、シャイは᠙᠙᠙᠕である。᠙᠙᠙᠕は緊張したり恥ずかしがったり恐れたりして人前で自分の思うように行動できないときの気持ちを指す。᠙᠙᠙᠕を感じる時は内気で気が弱くなって声も小さめ、体勢も俯き気味になりがちである

また、怒られて萎縮しているときも᠙᠙᠙᠕である。この点は日本語の内気とは違う。緊張、恥、恐怖など、マイナスかつ消極的な感情のせいで自分の思うとおりの行動ができないときは全て᠙᠙᠙᠕に当たる

1/ : 落胆 : -᠗e᠕᠎e, e᠒-᠕᠕᠎e, <᠙᠕᠕᠎e, <-᠕᠕᠎e

☉

al, ᠑᠕有生。<-᠕᠕᠎e/<᠙᠕᠕᠎eは᠑᠕に抽具もあり（

-᠗e᠕᠎e

「呆れる」。原因に対して対処したり関わる気力が減り、評価も下げること。原因は人または人為的なもの。呆れた事態よりも原因そのものに焦点がいく

e᠒-᠕᠕᠎e

「失望」。結果が期待外れであること。原因に対して予め期待がなければ使えない点で-᠗e᠕と異なる。-᠗e᠕よりは失望する原因よりも結果そのものに焦点がいく

<-᠕᠕᠎e/<᠙᠕᠕᠎e

<᠙᠕᠕は面白みが感じられなくなって場や人が沈静化すること。<-᠕᠕は逆に場や人が盛り上がること)

☉

al, ᠑᠕有生。<-᠕᠕᠎e/<᠙᠕᠕᠎eは᠑᠕に抽具もある

-᠗e᠕は悪い事態が起こって対処すべき行動や言葉を失い、その事態に対処したり関わったりする気力が減ることを表わす。また、その悪い事態を引き起こした原因に対して評価を下げることも意味する。更に、その原因がその事態を起こしたことを俄かには信じがたいと思っているニュアンスも持つ。つまり「呆れる」である。᠑᠕-で>-᠕にはふつう人か、人が引き起こした事態がくる(1)(/)



(1)  $\neg \Lambda \Lambda \rightarrow c \neg \exists e \Lambda \neg I \text{ (c)}$  (君には呆れるよ)

(1')  $\neg \Lambda \Lambda \rightarrow c \neg \exists e \Lambda \neg I [\rightarrow \Lambda] \text{ (c)}$  (君のしたことには呆れるよ)

同じ悪い事態でも自然発生的なものにはふつう $\neg \exists e \Lambda$ を使わない。ふつう $\neg \exists e \Lambda$ は人為的な原因に対して抱く気持ちである。よって(1')は非文である

(1'')  $\neg \Lambda \Lambda \rightarrow c \neg \exists e \Lambda \rightarrow \Lambda 0 \neg K \neg c \text{ (a)}$  (この山火事には呆れるよ)

ところが(1'')はある解釈を取れば非文でなくなる。もしこの山火事が放火魔の起こした人為的なものであったり、工場のミスで起こした爆発が原因だったりする場合である。そのときは人為的な山火事であるため、(1'')を使ってその山火事を起こした人間に対して呆れるという意味になることができる

但し、完全な自然現象で人為的な余地がない場合、 $\neg \exists e \Lambda$ は使えない(1''')

(1''')  $\neg I \neg I, \exists \neg \neg e \text{ (c)}$  (まったく、なんて光は速いんだ。光の速さには呆れるばかりだよ)

この場合、 $\neg \exists e \Lambda$ ではなく $\Lambda \neg$ を使えば非文でなくなる

次に、 $e \neg \Lambda \Lambda$ は結果が期待はずれでがっかりすることを表わす。その結果は抽具いずれでも良い。つまり「失望」である。 $\neg \exists e \Lambda$ は起こった事態に対して抱く気持ちであり、 $e \neg \Lambda \Lambda$ は予め結果を期待していたことが裏切られた場合に抱く気持ちである。つまり予め結果を期待していることを強調するのが $e \neg \Lambda \Lambda$ である

また、 $\neg \exists e \Lambda$ のほうがより原因に対する気持ちで、 $e \neg \Lambda \Lambda$ のほうがより結果そのものに対する気持ちであるというのも特徴である

(1'')  $\neg \Lambda \Lambda \rightarrow c \neg \exists e \Lambda \neg I \text{ (c)}$  (君のテストには呆れるよ)

(1''')  $\neg \Lambda \Lambda \rightarrow c e \neg \Lambda \Lambda \neg I \text{ (c)}$  (君のテストにはがっかりするよ)

(f)は君に対する落胆が強く、(g)ではテストに対する落胆が強い。更に(f)のほうが(g)に比べて「常識的に考えて、なぜこんな点を取ったのか信じられない。ふつうこんな間抜けはしないだろう」といった俄かには信じがたいという気持ちがある

一方、<cΛλ>eは面白みが感じられなくなって場や人が沈静化することで、「白ける」である。白けるのが人でも座でもoΛ-か動詞を取る(9)(Δ)(L)(10)

(9) -Λ Λ-c> <cΛλ >-Λ Λc (君のせいで興ざめた)

(Δ) Λc <cΛλ>c -Λ (君のせいで興ざめた)

(L) Λc <cΛλ>- -Λ- (君が宴会を白けさせた)

(10) -Λ- -Λ <cΛλ (宴会が白けた)

逆に<-Λλ>eは面白みを感じて場や人が興奮することで、「盛り上がる」である。文法的な使い方としては(9)～(10)と同じである

17 : 健康 : -Λλ>e, cΛλ>e, V-l>e, Vcl>e, 7e->e, 7ec>e

⊙

oΛ-。al, oΛ有生。oΛ-とともに繋詞も共存する。oΛ-＝精神的。繋詞＝肉体的（

-Λλ>e/cΛλ>e

-Λλは精神や肉体に疲労がなく、気力も活力もある状態。「元気」

V-l>e/Vcl>e

V-lは病気がないという意味。「健康」。「～にかかっている」はその病名を使った繋詞

7e->e/7ec>e

7e-はそのものの元々あるべき状態に戻すこと。-Λλ/V-lをおおまか覆う上位概念だが、元気や健康といった細かな区別がなく、これらとは基本的に別次元の語)

⊙

全てoΛ-。al, oΛ有生。oΛ-とともに繋辞も共存する

-Λは精神や肉体に疲労がなく、気力も活力もある状態。即ち「元気」である。cΛは逆に疲れた状態のことである

V-Iは元気に近いが、病気がないという意味である。病気がない健康な人が一日遊び倒して疲れて帰ってきた場合、V-IであるがcΛである。-Λではない。ゆえにV-Iと-Λは別物である

逆にVclは病気を持っている状態である。「～病にかかる」は(1)のように、病名を繋詞にする

(1) -Λ e<sup>c</sup> h-hVcl (私は喘息にかかっている (喘息持ちである))

病気を持っている人は疲れやすいが、だからといってVclとcΛが共起するとは限らない。慢性の持病で寝込んでいる人は毎日疲れているわけではない。疲れたと感じる日もあれば今日は病気だが元気だと感じる日もある

仮に自分の体力や気力の上限を100%とすると、-Λは体力や気力が100%に近い状態を指し、cΛは100%から遠い状態を指す。一方、V-I, Vclは体力とは関係ない。体力や気力100%の人が病気になることもあるし、10%しかない虚弱な人が病気は持たずに健康ということもある。この点で-Λ/cΛとV-I/Vclは異なる

尚、これらはoΛ-を取れば精神的な意味で使われ、繋辞を取れば肉体的な意味で使われる  
(∨)～(Ⓕ)

(∨) -Λ Λ-<sup>∨</sup>c -Λ[cΛ] (私は気持ちが元気だ[疲れている])

(Ⓚ) -Λ c<sup>c</sup> -Λ[cΛ] (私は体が元気だ[疲れている])

(Ⓛ) -Λ Λ-<sup>∨</sup>c V-I[Vcl] (私は心が健康だ[病だ])

(Ⓕ) -Λ c<sup>c</sup> V-I[Vcl] (私は体が健康だ[病気だ])

また、 $\gamma_e$ -は「あるべき状態」を表わし、 $\gamma_{ec}$ は「あるべきでない状態」を、いうなれば「ないべき状態」を表わす。oΛには有生だけでなく無生も取れる。機械のような無生にとっては $\gamma_{ec}$ は故障した状態を表わすが、有生にとっての $\gamma_{ec}$ は様々である。態度、姿勢、生活習慣、言葉遣い、仕事、勉強、健康など様々な解釈がありうる。その解釈はふつう文中

で判断される。特に断りがない場合、体力・気力・怪我や病気について述べる

その解釈は $\text{ㇿe-}$ が $\text{ㇿㇿ-}$ ・繫辞のどれで使われているかである程度判断できる。 $\text{ㇿㇿ-}$ なら精神的な面で直すといっている(㉑)。繫辞なら肉体的(㉒)である。(㉓)になると(㉑)(㉒)の違いは中和され、直すことが動作を伴った行為として見られる

(㉑)  $-\text{ㇿ} \text{ㇿ-}\text{㉑c} \text{ㇿe-}$  (気持ちが元に戻った)

(㉒)  $-\text{ㇿ} \text{c㉑} \text{ㇿe-}$  (具合が元に戻った)

(㉓)  $-\text{ㇿ} \text{ㇿe-}\text{㉑c} \text{ㇿㇿ}$  (自分を元の状態に戻す)

(㉑)～(㉓)で見るとおり、元々そうであるべき状態というのが分かっている、その状態でなくなってしまったものをその状態に戻すというのが $\text{ㇿe-}$ の本質である。そのものの本来あるべき状態というのが分からないと $\text{ㇿe-}$ とはいえない。これは $\text{ㇿec}$ についても同様である

$\text{ㇿe-}$ は結局、元のあるべき状態に戻すことなので、それが元気か病気かという区別を持たない。 $-\text{ㇿㇿ}$ や $\text{V-}$ をおおまか覆うような別次元の語である

10 : 眠 :  $\text{㉑ㇿ}\text{㉑e}$ ,  $\text{㉑e}\text{ㇿ}\text{㉑e}$ ,  $\text{ㇿ-}\text{㉑}\text{㉑e}$

⊙

$\text{ㇿㇿ-}$ 。al,  $\text{ㇿㇿ}$ 有生 (

$\text{㉑ㇿ}\text{㉑e}/\text{㉑e}\text{ㇿ}\text{㉑e}$

$\text{㉑ㇿ}\text{㉑e}$ は「眠らせる」、 $\text{㉑e}\text{ㇿ}\text{㉑e}$ は「起こす」。 $\text{㉑ㇿ}\text{㉑e}$ の完了相は寝入った時点。 $\text{㉑e}\text{ㇿ}\text{㉑e}$ は起きた時点。 $\text{ㇿㇿ}$ 型だと意図的に寝る。 $\text{ㇿㇿ-}$ だとうっかり居眠りする

$\text{ㇿ-}\text{㉑}\text{㉑e}$

病気や怪我やショックなどが原因で $\text{ㇿㇿ}$ を「昏睡させる」こと)

⊙

$\text{㉑ㇿ}\text{㉑e}$ は「眠らせる」、 $\text{㉑e}\text{ㇿ}\text{㉑e}$ は「起こす」で、ともにal,  $\text{ㇿㇿ}$ 有生。横になるという意味でなく睡眠するという意味である。ともに $\text{ㇿㇿ-}$ 。睡眠時間は $\text{ㇿa}$ 格を取る。寝る場所は $\text{ㇿ-}$ で表わすが、無標なら自分のベッドや布団である(1)

(1) |- >o7e- >co 7- <oA7)c c> leV la Aa <e- (彼は夜、娘をベンチに7時間寝させた)

また、>o7eの完了相は寝入った時点を表わす。>e7eは起きた時点である

ところで、寝るのが自分である場合、oA-か再帰形を取るが、これらはニュアンスが異なる。(v)は自分の意思と関係なく自然に眠ってしまう場合で、寝過ぎときや居眠りするときを使う。(7)は自分が意図的に自分を眠らせる場合で、毎夜の睡眠に使う

(v) -A -c >o7 (私は眠ってしまった)

(7) -A >o7e- o7 (私は寝た)

一方、A-9ueは「昏睡させる」であり、a, oAとも有生。oA-。病気や怪我、ショックなどが原因で昏睡することをいう。見た目には寝ているように見えるため、観測者によっては誤って>o7eで表わすこともありえる。ただ、それが昏睡であると観測者が知っている場合は必ずA-9ueを使う。また、昏睡と睡眠は別物であるため、「彼は殴られて昏睡し、眠りに入った」とはいえない(0)

(0) |- e-o7e- 4a, A-9ue- 4a, -c >o7 → |- e-o7e- 4a, A-9ue- 4a

(0)はA-9ue- 4aの代わりに-c A-9ueとすると、殴った相手の昏睡させようという意図が薄れる。殴ったら昏睡してしまったというニュアンスになる

尚、A-9ueの完了相は昏睡状態が始まった時点である

また、A-9ueはふつう再帰形がない。敢えていうこともできるが、特別な意味を持つ。たとえばわざと頭をぶつけて昏睡させようとするという場合である(9)

(9) -A A-9ue- Aa7 (私は自分を昏睡させた)

1f : 泣笑 : eA-ze, Jaeze, 7--7ze, eohze, A-7ze, Aclze, -le7ze, 7-hze, JaAze, JaaAze, 7a7ze

⊙

ɔʌ-。aɪ, ɔʌ有生（

eʌ-ɾe

悲しみや喜びなど、感情の高ぶりによって涙を流すことである。また、目にごみが入って泣く場合にも使える

ʃaeɾe

すんすんとすすり泣くことである。内気で声を出して泣けないような人がやるようにめそめそ泣くこと

ʃ--ʃɾe

子供が泣き喚くような泣き方。大人が声を出して泣くときでも子供が泣き喚くようにはしない。ゆえにʃ--ʃは子供だけに起こる泣き方

ʔɔhɾe

咽び泣くことである。ごほごほと咳き込んで泣くこと

ʌ-ʃɾe/ʌcʃɾe

ʌ-ʃɾeは笑うの代表で、ʌcʃɾeと対を成す。ʌcʃɾeは声を出さずに表情だけで笑う、即ち微笑むこと。構文は「ɔʌ（再帰）に-ɪを笑わせる」

-leɹɾe

あざ笑うこと。挑戦的かつ侮辱的。無礼

ʃ-hɾe

豪快に笑うことで、男性に多い。ユンクはふつうしない

ʃaʌɾe

くすくすと声を殆ど出さずに笑うことで、口でなく鼻で笑っている

ʃaaʌɾe

鼻で笑うことだが、ʃaʌと違って「ふんっ」という一回きりのものである。侮辱的で挑戦的。怒っているときにも

ʃaʃɾe

「きゃっきゃ」というような笑い声で、子供や女性が笑うときに良く使われる。(はしゃいでいるときの笑い声)

⊙

泣くよりも笑うのほうが単純語のレベルで細かく区別されている。これは笑うのほうが泣くよりも声の出し方が多いためであろう。ここで挙げた語の殆どが古アルカのおノマトペ由来である。泣くは笑うより声の出し方がないため古アルカにオノマトペが少なく、制アルカでも単純語として残りづらかった

オノマトペからこれらの単純語が生まれていることが良く分かるのは $\Lambda\text{c}\text{u}\text{e}$ においてである。 $\Lambda\text{c}\text{u}\text{e}$ は微笑みで音がないためオノマトペが生まれず、微笑み方を表わす細かな区別は複合語に依存している

これらはいずれも $\text{c}\Lambda-$ 。al,  $\text{c}\Lambda$ 有生

$\text{e}\Lambda-$ はもっとも一般的な意味での泣くである。悲しみや喜びなど、感情の高ぶりによって涙を流すことである。また、目にごみが入って泣く場合にも使える(1)

(1)  $-\Lambda \text{e}\Lambda-\text{c} >-\Lambda \text{e}\text{e}-$  (埃が目に入って涙が出る)

$\text{Jae}$ はすんすんとすすり泣くことである。内気で声を出して泣けないような人がやるようにめそめそ泣くことである。少女に多い泣き方である。 $\text{Jae}$ は静かに泣くのは少し違う。静かに泣くのは $\text{lcVe}\Lambda-$ である。これは $\text{Jae}$ と違って大人などが声を出して泣きたいのを我慢して、声を出さずに泣くことである

$\text{y--y}$ は逆に泣き喚くことである。声を出して泣くのは他にも $\text{l-Ve}\Lambda-$ がある。だが $\text{y--y}$ はもつとうるさく、子供が泣き喚くような泣き方である。大人が声に出して泣くときでも子供が泣き喚くようにはしない。ゆえに $\text{y--y}$ は子供だけに起こる泣き方である

$\text{eoh}$ は咽び泣くことである。ごほごほと咳き込んで泣くことである

一方、 $\Lambda-\text{u}\text{e}$ は笑うの代表で、 $\Lambda\text{c}\text{u}\text{e}$ と対を成す。 $\Lambda\text{c}\text{u}\text{e}$ は声を出さずに表情だけで笑う、即ち微笑むことである。逆に $\Lambda-\text{u}\text{e}$ は声を出して笑うことである。ふつう $\Lambda-\text{u}\text{e}$ は $\Lambda\text{c}\text{u}\text{e}$ を含意するが、空笑いの場合は声だけで笑うこともできる

$-\text{le}\text{u}$ はあざ笑うことで、挑戦的かつ侮辱的である。無礼とされる

$\text{y-h}$ は豪快に笑うことで、男性に多い。ユンクはふつうしない

$\text{Ja}\Lambda$ はくすくすと声を殆ど出さずに笑うことで、口でなく鼻で笑っているふうに聞こえる

ものである。Λ-しより控えめな笑いである。嘲笑や侮蔑を表わす場合もあれば親近感を表わす場合もある

JaΛは鼻で笑うことだが、JaΛと違って「ふんっ」という一回きりのものである。侮辱的で挑戦的である。また、怒っているときにも使う

ʔaʔは「きゃっきゃ」というような笑い声で、子供や女性が笑うときに良く使われる。はしゃいでいるときの笑い声である

eΛ-ʔeの構文はalがoΛを泣かせるである。自然と泣く場合はalがoʔになる

-Λ eΛ-ʔ- Λoʔ >-Λ -Λ le>ʔcl l- (彼を騙したかったから泣いた) は自分で意図的に泣いたか或いは嘘泣きである

もしこれが自然と泣いた場合なら-Λ eΛ-ʔ- >-Λ ʔal (a (私はその話を聞いて泣いた) である。oΛ-の場合は自然と泣いた感じである

alとoΛが別人なら泣かせたという意味。-Λ eΛ-ʔ- l-は殴ったり悪口を言うなどして泣かせるか、或いは「今だ、泣く芝居を打て」という合図をoΛに送って泣かせたかのどちらかである。前者はoΛが非自発的に泣くが、後者はoΛが自発的に泣く。だがoΛの自発性は構文には現われない

笑うも事情は同じである。作り笑いの場合は-Λ Λ-ʔ- Λoʔである。つまらない駄洒落に表面上は笑ってやったという場合、駄洒落は自分を笑わせてやろうと思わせた原因になる。ゆえに-Λ Λ-ʔ- Λoʔ <cΛ- ʔoʔΛ ʔcΛとなる

-Λ Λ-ʔe oʔで「笑う」。-Λ Λ-ʔ- >-Λ l-だと彼は笑わせた原因。l- Λ-ʔe -Λにすると彼が私を笑わせようとした意図が出てくる。-Λ Λ-ʔ- -l l-だと彼を馬鹿にして笑った可能性がある。はっきりあざけるといいたければ-Λ -leʔ- -l l-という

19: 音声: ʔcVʔe, ʔ-ʔʔe, ʔcʔʔe, Veʔʔe, <ʔe, 0--ʔe, 0oʔe, oʔʔe, eʔʔe

⊙

非oΛ-。alは有生。oΛはその声や音の内容。聞き手は-l。副詞はʔcΛやl-Vなど (

ʔcVʔe

人間の声、動物の鳴き声。虫や機械は<ʔe



ㄱ-ㄴㄹㄺe/ㄹㄷㄹㄺe

大声。怒っているとは限らない

Veㄴㄹㄺe

痛みや恐怖などのショックによってあげる悲鳴

ㄱㄹㄺe

単に音を出すこと。声はㄱㄹㄺeでなくㄴㄷㄹㄺe。無生の物が音を出すとき、無生の物はalでなくㄱㄹㄺㄹやㄷㄹㄺㄹになり、eがalに立つ

0--ㄹㄺe

賞賛の声を声高に-lに投げかけること。即ち「喝采」。alはふつう観客や群集のように集合名詞

0ㄹㄹㄺe

大勢がおたけぶこと。alは集合名詞

ㄹㄹㄹㄺe/eㄹㄹㄹㄺe

歓喜の声を上げること

⊙

全て非ㄹㄹ-。alは有生で、ㄹㄹはその声や音の内容。内容にはaㄹㄷのようにその声や音そのものを入れても良いし、ㄱㄹ e ㄹㄷㄹㄺのようにその声や音の説明を入れても良い。また、ㄹㄹには節がくることが多い

聞き手は-l格が担う。副詞に関して、その声や音の大きさはうるさいと感じるならl-V、静かならㄷㄹ、単に大きいならㄹㄷㄹ、小さいならVeㄹㄹである。完了相はㄹㄹの声や音を出し終わった地点

ㄷㄹㄹㄺeは人間が声を出すこと。これは言語音でなくても良い。或いは動物が鳴くことを表わす。虫や機械のように声を使わないものはㄱㄹㄺeを使う。無論、声なら虫でもㄷㄹㄹㄺeを使う。

逆に動物でも声でなければㄱㄹㄺeを使う

ㄱ-ㄴㄹㄺeは大声を出すこと。怒っているとは限らない。逆にㄹㄷㄹㄺeは小さい声を出すこと。囁きと呟きの意味を持つ。囁きは相手に聞かせることを目的とするが、呟きは相手に聞こえなくても良い。むしろ呟く場合、独り言か愚痴が大半なので、相手を挑発する気がないかぎり聞こえさせたくない。相手に聞こえさせたいか否かで囁きと呟きは分かれるが、ㄹㄷ

ㄹㄹeは小さい声を出すことであるからこの区別はない。強いて呟きと言いたい場合、ㄱㄴㄴㄹㄹ  
ㄱㄹㄹeを使う

Veㄴㄹeは痛みや恐怖などのショックによってあげる悲鳴のこと

一方、ㄱㄹㄹeは単に音を出すことである。声はㄱㄹㄹeでなくㄴㄹㄹeになる。構文は「alはㄱㄴと  
いう音を出す」である

ㄱㄴは音の内容がくるが、漠然と音がするという場合、動詞が既に「音がする」という意  
味を表わしているため、これ以上ㄱㄴは必要ない。よってㄱㄴはeㄹになる

0--ㄹㄹeは賞賛の声を声高に-ㄹに投げかけること。即ち「喝采」。alはふつう観客や群集のよ  
うに集合名詞を取る

0ㄱㄹㄹeは大勢がおたけぶこと。大勢がㄹ-ㄱㄹㄹeすることに近い。0ㄱㄹㄹeは多少0--ㄹㄹeの要素も  
含む。賞賛といかないまでも、一致団結した士気の高さを感じさせるためである。alは集合  
名詞

ㄱㄹㄹeは歓喜の声を上げること。逆にeㄴㄹㄹeは悲痛な声を上げること

## 19 : 探 : Vㄹㄹe, V-ㄹㄹe, ㄱ-ㄹㄹe, ㄱㄹㄹe

☉

### V-ㄹㄹe, Vㄹㄹe

al有生。ㄱㄴ抽具。「待つ」と「探す」の意

### ㄱ-ㄹㄹe, ㄱㄹㄹe

al有生。ㄱㄴ抽具。ㄱㄴ-。「見つける」と「なくす」の意。ㄱㄴ-は「見つかる」と「なくなる」

☉

al有生。ㄱㄴは抽具

Vㄹㄹeは「探す」の意味。人や物をㄱㄴに取れるし、「良い恋愛」のような抽象も取れる。  
Vㄹㄹeの本義は「ㄱㄴがalの元に到達することを望むalが自分からそれを実現させようとする」  
ことである

これの対であるV-ㄹㄹeは「ㄱㄴがalの元に到達することを望むalが自分からそれを実現させよ

うとしない」ことである。つまり、「待つ」である。これもoΛにVc(ɹ)eと同じものを取れる

これらの完了相は探し終わった時点と待ち終わった時点である。成功は含意しない。つまり、見つかったとは限らないし、待つ相手がきたとも限らない。単に時間切れとか待ちくたびれて諦めたという場合もある

一方、J-ɹeは「発見する」という意味で、oΛはV-(ɹ)eと同じ。完了相は発見成功時を表わす

Jc(ɹ)eはJ-ɹeの反対で「なくす」「見失う」の意味。oΛはJ-ɹe同じ。完了相はなくした瞬間を指す

J-ɹe, Jc(ɹ)eはふつう完了相の意味で使う

これらにはoΛがある。「見つかる」と「なくなる」である。ふと探していたものがひょんなことから見つかったときに使う。(1)は探した結果見つけた場合だが、(V)は特に探していたわけでもないときに以前探していたものやそのうち探そうかなと思っていたものが出てくる場合である

(1) -Λ J-ɹc(ɹ) (a (これを見つけた)

(V) (a c(ɹ)c(ɹ) J-ɹ (これが見つかった)

1Δ : 見 : cΛɹe, cɹɹe, V-cɹɹe, ɹccΛɹe, ZccΛɹe, hccɹe, JcΛɹɹe, Jcɹc(ɹ)e, Jcɹc(ɹ)e, Λcɹc(ɹ)e, Λeɹc(ɹ)e, Λcɹc(ɹ)e, Λeɹc(ɹ)e

⊙

非oΛ-。aI有生。oΛはふつう具象。完了相は目に入った瞬間（

cΛɹe

意識的に見ること

cɹɹe

無意識で目に入ること

V-cɹɹe

凝視すること

ɹccΛɹe

睨むこと。怒りや憎しみや軽蔑を持って目を細めて相手を見ること

ZccΛe

覗くことで、小さな穴や隙間などからoΛに気付かれないように見ること

hocΛe

oΛを単にじっと見るだけでなく、管理監督し、場合によっては口出しもすること。監督

JcΛΛe

oΛを-lに見せること

JoΛΛe/JeΛΛe

oΛを上に向けて-lに見えるようにすること

ΛoΛΛe/ΛeΛΛe

公開すること。一般的にJcΛΛeより公的で、見せる相手の数も多い

ΛoΛΛe/ΛeΛΛe

alはoΛをclから出して-lの前に現すこと。隠していたものを表に出すこと

⊙

非oΛ-。al有生。oΛはふつう具象。完了相は目に入った瞬間を指す。見るのをやめた瞬間ではない

cΛeはもっとも一般的な意味での「見る」。意図的にoΛを見ようとして見ること。見方については何も語らない。見方による区別はここで挙げるいくつかの単純語と多くの複合語で区別する

clΛeはcΛeと殆ど同じで、無意識でoΛを見るという点だけが異なる。つまり「見える」である。取るoΛもcΛeと同じ

V-cΛeはoΛを観察・凝視すること。じいっと興味深げに見ることである。動植物の観察はもちろん、恋人同士が見つめあうことも表わす

9ccΛeはV-cΛeと似ているが、こちらは「睨む」という意味である。アルバザードでは睨むときには怒りや憎しみや軽蔑を持って目を細めて相手を見る

ZccΛeは覗くことで、小さな穴や隙間などからoΛに気付かれないように見ることである。もともと>cΛの意味を含むので強調しないかぎり>cΛと共起しない。尚、ZccΛeには「覗く」と違って何かの一部が見えているという意味はない。その場合、cΛeを使う

hoc:e監督することである。本義は「しっかりとoΛを見ること」であるが、V-cΛ:eとは違う。hoc:eはoΛを管理するという意図を持つためである。単にじっと見るだけでなく、管理監督し、場合によっては口出しもする。それではじめてhoc:eといえる。尚、hoc:eは他よりはoΛに抽象を取ることが多い

JcΛΛ:eはoΛを-|に見せることである。特に注意点はない

JcΛΛ:eは掲げるという意味で、「oΛを上に掲げて-|に見えるようにする」というのが本義である。ゆえにJcΛΛ:eの要素も帯びている。一方、JeΛΛ:eは「oΛを下に下げて-|に見せようとする」というのが本義である

但しこれらはJcΛΛ:eの意味を常に持つわけではない。単に掲げるという位置変化を表わすだけの場合もある。この場合、見せる意図はなくとも良いし、むしろ隠すために行っても良い(1)。ところがJcΛΛ:eの場合、見せる意図を確実に持つため、(∨)は非文となる

(1) -Λ JeΛΛ:e- (a Z-Λ ΛeΛ:c (隠すためにこれを下に下げた)

(∨) X-Λ JcΛΛ:e- (a Z-Λ ΛeΛ:e (隠すためにこれを見せた)

(∨)はそもそも矛盾している。これを非文でないとするならたとえば、「これをあえて見せることによってこの本質を隠す」というような解釈が想定される

さて、見せるのJcΛΛ:eに近いところにΛoΛΛ:eがある。これは公開するである。公開であるため、見せるだけでなく聞かせる触らせるなどの場合もありえるというのが違いの一つである

自分の日記を人に見せる場合はJcΛΛ:eであるが、美術館が絵を観客に見せる場合はΛoΛΛ:eである。もっとも、同じ日記でも昔の偉人の日記を記念展などで来客に見せる場合はΛoΛΛ:eがふさわしい。つまり見せる対象が何かよりも、それが私的か公的か、見せる相手が多いか少ないかで決まる

一方、ΛeΛΛ:eはΛoΛΛ:eの反対で秘匿するという意味である。諸点についてはΛoΛΛ:eと同じである

また、JcΛΛ:eに近いものにΛoΛΛ:eがある。これは「alはoΛをclから出して-|の前に現す」という意味である(γ)。同時にΛoΛΛ:eは隠していたものを表に出すという意味も持つ。隠してい

たもの、或いはこれから隠れうるものでなければ $\Lambda\sigma\gamma\lambda e$ ということにはできない

(?)  $I - \Lambda\sigma\gamma\lambda - \mu - \lambda I \text{ cl } \gamma\sigma V - I \lambda\sigma$  (彼は宝を箱から出して皆の前に現した)

(?)は $\kappa - \Gamma\lambda e$ を使うこともできるが、それでは隠していたニュアンスは示せない。 $\Lambda\sigma\gamma\lambda e$ はあくまでも隠していたものを出すという意味を表わす

逆に $\Lambda e\gamma\lambda e$ は隠すの意味である。「 $\sigma\Lambda$ を $\text{cl}$ の目から逃れるために $-I$ に隠す」である

尚、 $\Lambda\sigma\gamma\lambda e$ にも $\Lambda e\gamma\lambda e$ にも $\sigma\Lambda-$ がある(0)

(0)  $\sigma - \mu - \Gamma \Lambda e\gamma - I e\lambda\sigma$  (太陽が雲に隠れた)

1L : 調査 :  $\Gamma - \epsilon\lambda e, \Gamma - \sigma\lambda\lambda e, \gamma\sigma\lambda\lambda e, \gamma\sigma\sigma\lambda e$

☉

非 $\sigma\Lambda-$ 。al有生。 $\sigma\Lambda$ ふつう具象

$\Gamma - \epsilon\lambda e$

$\sigma\Lambda$ の個人情報を $\Gamma\sigma\Gamma$ について調べること。非テスト形式

$\Gamma - \sigma\lambda\lambda e$

$\sigma\Lambda$ を $\Gamma\sigma\Gamma$ について試験して適正をはかること。テスト形式

$\gamma\sigma\lambda\lambda e$

$\sigma\Lambda$ が $\Gamma\sigma\Gamma$ に適切かどうか知ろうとすること。或いは $\sigma\Lambda$ が $\Gamma\sigma\Gamma$ に勝るか挑戦すること。非テスト形式

$\gamma\sigma\sigma\lambda e$

$\sigma\Lambda$ の数量を $\Gamma\sigma\Gamma$ 単位で調べること

☉

いずれも調べることに関わる語である。全て非 $\sigma\Lambda-$ 。alは有生。 $\sigma\Lambda$ はふつう具象

$\Gamma - \epsilon\lambda e$ は $\sigma\Lambda$ についての情報を得ようとするものであり、「調べる」に当たる。 $\sigma\Lambda$ の何について調べるかは $\Gamma\sigma\Gamma$ が担う。 $\Gamma - \sigma\lambda\lambda e$ は $\sigma\Lambda$ に対して適性検査を行うことである。これも $\sigma\Lambda$ の何

について調べるかについては $\rho\sigma$ が担う

$\rho\text{-}\epsilon\text{-}e$ が $\sigma\Lambda$ について情報を得ようという行為であるのに対し、 $\rho\text{-}\eta\text{-}e$ は $\sigma\Lambda$ が目的や基準に達するかどうか調べることである。また、 $\rho\text{-}\eta\text{-}e$ はテスト形式の調査であることが多いのに対し、 $\rho\text{-}\epsilon\text{-}e$ や後の $\eta\text{-}c\text{-}e$ はテスト形式でないことが多い

さて、 $\rho\text{-}\epsilon\text{-}e$ と $\rho\text{-}\eta\text{-}e$ の違いから(1) (ノ)のニュアンスの差が生まれる。(1)ではその店員の個人情報を調べようとしている。(ノ)ではその店員が店の接客態度に適切な人材かどうかを調査しようとしている

(1) - $\Lambda$   $\rho\text{-}\epsilon\text{-}c$  - $\rho\text{-}\epsilon\text{-}\Lambda$  la (その店員について調べる)

(ノ) - $\Lambda$   $\rho\text{-}\eta\text{-}c$  - $\rho\text{-}\epsilon\text{-}\Lambda$  la (その店員について調べる)

(ノ)の意味には「試す」という意味も含まれている。だが、試すを表わす専用の語は $\eta\text{-}c\text{-}e$ である。 $\eta\text{-}c\text{-}e$ は「allは $\sigma\Lambda$ が $\rho\sigma$ に適正かどうか或いは勝るかどうか知ろうとする」ことである。勝るかどうかという点で「挑戦する」の意味もある。適正かどうか知ろうとするところは $\rho\text{-}\eta\text{-}e$ と同じであるが、 $\rho\text{-}\eta\text{-}e$ ほど調査そのものに重点は置かれていない

要するに、 $\rho\text{-}\epsilon\text{-}e$ は調査を表わし、逆に $\eta\text{-}c\text{-}e$ は適正を表わし、 $\rho\text{-}\eta\text{-}e$ がその中間である。 $\rho\text{-}\epsilon\text{-}e$ に近づくほど調査を重視し、 $\eta\text{-}c\text{-}e$ に近づくほど適正か否かが重視される(?) (の) (の)。(?)は聞き込みなどをして彼について個人情報を調べたという意味である。(の)は彼に試験を受けさせてテストしたという意味である。(の)はわざとひっかけりそうな問題などを出して彼の真意をはかり、彼の適正を調べたという意味である

(?) - $\Lambda$   $\rho\text{-}\epsilon\text{-}c$  - l-

(の) - $\Lambda$   $\rho\text{-}\eta\text{-}c$  - l-

(の) - $\Lambda$   $\eta\text{-}c\text{-}e$  - l-

ところで、調べるに近いところに $\rho\text{-}c\text{-}e$ がある。これは「測る」という意味である。本義は「測量する単位量に対して何倍になっているかを道具を用いたりして知る」ことである。それゆえ $\rho\text{-}c\text{-}e$ は $\sigma\Lambda$ の数量について調べるときに使われる。比較する単位は $\rho\sigma$ で表わす(の)

(の) - $\Lambda$   $\rho\text{-}c\text{-}e$  - el e  $\rho\text{-}e$   $\rho\text{-}a$   $\rho\sigma$   $\eta\text{-}el\epsilon$ - (そのタンクの水をメルバ単位で測った)

ノ : 知 : Je<sub>2</sub>e, lo<sub>2</sub>e, le<sub>2</sub>e, し-<sub>2</sub>e, し<sub>2</sub>e

⊙

非<sub>2</sub>-。 a<sub>2</sub>有生。 <sub>2</sub>抽具（

Je<sub>2</sub>e

未知の情報を脳に入力すること。 lo<sub>2</sub>eは記憶に焦点が当たるが、 Je<sub>2</sub>eは知る過程そのものに焦点が当たる

lo<sub>2</sub>e/le<sub>2</sub>e

lo<sub>2</sub>eは頭で理解すること、未知或いは既知のものごとについてその仕組みを知ること。漠然と知る場合はJe<sub>2</sub>e。 le<sub>2</sub>eは体で理解すること、習得すること

し-<sub>2</sub>e/し<sub>2</sub>e

「認識する」「気付く」である。人がいると気付く場合、物事が起こっていることに気付く場合、物事の真偽に気付く場合など、様々な<sub>2</sub>を取れる)

⊙

非<sub>2</sub>-。 a<sub>2</sub>有生。 <sub>2</sub>抽具

Je<sub>2</sub>eは「知る」の意味。未知の情報を脳に入力すること。 lo<sub>2</sub>eは記憶に焦点が当たるが、 Je<sub>2</sub>eは知る過程そのものに焦点が当たる。 lo<sub>2</sub>eは主に未知の情報であるが、 Je<sub>2</sub>eと違って既知でもありえる。たとえばソームに7匹の悪魔がいて、それぞれの悪魔についても知っているが、個々の名前は記憶していないという場合、 Je<sub>2</sub>e<sub>2</sub> <sub>2</sub>は言えても lo<sub>2</sub>e<sub>2</sub> <sub>2</sub>は言えない

Je<sub>2</sub>eは「気付く」や「理解する」や「知覚する」などのときはふつう使えない。 lo<sub>2</sub>eや し-<sub>2</sub>eなどの専用の語を使うからである。 Je<sub>2</sub>eは未知の情報を入力することで、知り方や知った後については無色である

尚、完了相は知った時点である

lo<sub>2</sub>eは「理解する」である。未知或いは既知のものごとについてその仕組みを知ることである。単に漠然と知っている場合には使えない(1) (ノ)。 (1)の場合、私はジレンマを漠然



と知っている。それは理解かもしれないし、聞き及んでいるだけかもしれない。ところが (V) ではジレンマを理解しているので、その仕組みについて知っていることになる。聞いたことがあるとかぼんやり分かっているというレベルではない

(1)  $\neg \wedge \text{Je} \times \text{c} \wedge (\neg \rightarrow \text{cc})^{\mu}$

(V)  $\neg \wedge \text{lo} \times \text{c} \wedge (\neg \rightarrow \text{cc})^{\mu}$

$\text{lo} \times \text{e}$  は頭で理解することである。一方、 $\text{le} \times \text{e}$  は体で理解することである。身をもって覚えることであり、習得することである。その仕組みについて詳細に頭で理解しているわけではなく、体が覚えているときに使う

幼い子供はふつうジレンマを頭では理解できない。だが、ジレンマを経験的に知っていることは多い。たとえば、勝手に菓子を買ったら怒られて嫌だ。かといって買わなければ怒られないが、菓子がなくてこれも嫌だ。いずれにせよ嫌だ。この程度のジレンマは子供でも知っている。このように、子供はジレンマを  $\text{lo}$  することはないが  $\text{le}$  はしている。ゆえに  $\text{lo} \times \text{e}$  と  $\text{le} \times \text{e}$  は別物である。尚、別の例として言語も挙げられる。言語の文法を子供は  $\text{lo}$  していないが、 $\text{le}$  は確実にしている

$\text{lo} \times \text{e}$ ,  $\text{le} \times \text{e}$  の完了相は理解したり習得した時点である

$\text{u} \text{---} \times \text{e}$  は「認識する」「気付く」である。人がいると気付く場合、物事が起こっていることに気付く場合、物事の真偽に気付く場合など、様々な  $\text{o} \wedge$  を取れる。 $\text{u} \text{c} \times \text{e}$  は逆に「見過ごす」ことである

完了相は認識したり看過した時点である

✓1 : 思考 :  $\text{o} \times \times \text{e}$ ,  $\text{lo} \text{---} \times \text{e}$ ,  $\text{---} \text{u} \times \text{e}$ ,  $\langle \text{lo} \wedge \times \text{e}$ ,  $\langle \text{le} \wedge \times \text{e}$ ,  $\text{Je}^{\mu} \wedge \times \text{e}$ ,  $\text{Jo} \text{---} \times \text{e}$ ,  $\wedge \text{---} \text{u} \times \text{e}$ ,

⊗

非  $\text{o} \wedge \text{---}$ 。  $\text{a}$  有生。  $\text{o} \wedge$  抽具。基底となる情報を表わす格は  $\text{o} \wedge$  でなく  $\text{cl}$  (

$\text{o} \times \times \text{e}$

頭を使って複雑な問題を解くこと。  $\text{o} \wedge$  は複雑な処理を要する問題しか取らない

$\text{lo} \text{---} \times \text{e}$

既知の事実、仮定、前提など（cl格）を基にして未知の事柄を推測すること

-cl>e

oΛについて最善の結果が得られるように今ある情報や資材（cl格）を活かそうと考えること

<loΛ>e/<leΛ>e

<loΛ>eはcl格の情報を使ってoΛを熟考すること。oJ>eよりも深く長く考えること

JeJΛ>e

既知の情報を基に、或いは何も参考にせずに、全く新しい考え方や情報や手段などを考え出すこと。alはclを基にoΛを発想すること

Jo-l>e

alはclを聞いたり思い出したせいでoΛを自発的に思い出してしまうということ

Λ->J>e

clという情報からoΛという印象を抱くこと、或いはclという情報からoΛというのがどういう人物・事物であるか想うこと。即ち「想像する」。但し仮定するの意味はない。そのときはJcΛl>eを使う)

☆

非oΛ-。al有生。oΛ抽具。基底となる情報を表わす格はJcΛlでなくcl

oJ>e, eJ>eは前述。oJ>eは脳の転換動詞で、「頭を使って複雑な問題を解く」ときに使う。

oΛは複雑な処理を要する問題しか取らない。基底となる情報はcl格

lo-l>eは推理すること。既知の事実、仮定、前提など（cl格）を基にして未知の事柄を推し量ること、推測することである

-cl>eはoΛについて最善の結果が得られるように今ある情報や資材（cl格）を活かそうと考えること

<loΛ>eはcl格の情報を使ってoΛを熟考すること。oJ>eよりも深く長く考えること。<leΛ>eは逆に考えの浅いことを示す

JeJΛ>eは既知の情報を基に、或いは何も参考にせずに、全く新しい考え方や情報や手段などを考え出すこと。つまり「発想」すること。本義は「alはclを基にoΛを発想する」である。発想は精神活動で、新しい道具などの具体的なものの場合、発明するのJ-l>eに当たる。

理論などは精神活動なので  $Je/\Lambda \times e$  に当たる

$Jo-\lambda \times e$  は「 $a$  は  $c$  を聞いたり思い出したせいで  $\circ\Lambda$  を自発的に思い出してしまう」というのが本義で、「連想する」である

$\Lambda \rightarrow \lambda \times e$  は「 $c$  という情報から  $\circ\Lambda$  という印象を抱く」こと或いは「 $c$  という情報から  $\circ\Lambda$  というのがどういう人物・事物であるか想う」ことであり、「想像する」である (1) (ノ)。「彼のことを想像する (思い浮かべる)」は  $e/\lambda \times e$  である (イ)。尚、「彼が恋人だったらと想像する」という場合、 $\Lambda \rightarrow \lambda \times e$  ではなく  $Jc/\Lambda \times e$  (仮定する) を使う (ロ)

(1)  $-\Lambda \Lambda \rightarrow \lambda \times e \vdash$  (彼を想像する (彼がどんな人物か考える))

(ノ)  $-\Lambda \Lambda \rightarrow \lambda \times e \quad \text{Ca} \quad e \text{C} \quad \text{Ce} \quad \text{cl} \quad \text{Ce} \text{C} \quad \text{Ca}$  (この情報から、これが正しいという印象を抱く)

(イ)  $\times -\Lambda \Lambda \rightarrow \lambda \times e \vdash \rightarrow -\Lambda e/\lambda \times e \vdash$  (彼を想う)

(ロ)  $\times -\Lambda \Lambda \rightarrow \lambda \times e \vdash \quad e \text{C} \quad \text{C} \text{c} \text{C} \quad \Lambda \quad e \quad -\Lambda \rightarrow -\Lambda Jc/\Lambda \times e \vdash \quad e \text{C} \quad \text{C} \text{c} \text{C} \quad \Lambda \quad e \quad -\Lambda$  (彼が恋人だと想像する)

// : 判断 :  $Sc/\Lambda \times e, \text{?} \text{--} \text{C} \times e, \text{?} \text{c} \Lambda \times e$

⊛

非  $\circ\Lambda$ 。  $a$  有生。  $\circ\Lambda$  抽具。いずれも判断を決定した瞬間が完了相 (

$Sc/\Lambda \times e$

$a$  は  $\circ\Lambda$  を  $le$  しと判断するが本義。物事の是非曲直を選定したり、事柄を確かにそうであると推量すること

$\text{?} \text{--} \text{C} \times e$

$a$  は  $\circ\Lambda$  を  $le$  しであると確信し、しばしば保障すること。  $a$  は  $\circ\Lambda$  を良いと考えること

$\text{?} \text{c} \Lambda \times e$

$a$  は  $\circ\Lambda$  を  $le$  しとして扱うこと。この「扱う」は見なすという意味の扱うで、商品を扱うなどの扱うではない)

⊛

非  $\circ\Lambda$ 。  $a$  有生。  $\circ\Lambda$  抽具。いずれも判断を決定した瞬間が完了相

$Sc/\Lambda \times e$  は「 $a$  は  $\circ\Lambda$  を  $le$  しと判断する」が本義。物事の是非曲直を選定したり、事柄を確か

にそうであると推量すること。裁判での判断にも使える。即ち「裁定」である

判断というほど固くない場面では単に $\omega\lambda e$ で代用することもある。訳としては「見なす」が妥当(1)

(1)  $-\Lambda \omega\lambda c e- \lambda e\lambda e -| -\Lambda \lambda-\lambda\lambda e -\Lambda$  (返事のない者は賛成と見なす)

$\lambda-\lambda\lambda e$ は「 $a$ は $\omega\Lambda$ を $le\lambda$ であると確信し、しばしば保障する」こと、或いは「 $a$ は $\omega\Lambda$ を良いと考える」ことが本義。 $\lambda-\lambda\lambda e$ は $\omega\Lambda$ が $le\lambda$ であることを確信し、しばしば保障もすること(✓)。 $le\lambda$ がなければ $\omega\Lambda$ を価値あるものや適切なものや正しいものと認めることを意味する(?)。尚、「認識する」と「許可する」の意味はない(○)(f)。また、「判断する」の意味もないので、判断の場合は $Sc\Lambda\lambda e$ を使う

(✓)  $-\Lambda \lambda-\lambda\lambda c\Lambda | - e\lambda le-\lambda$  (彼が賢いということを認めている)

(?)  $-\Lambda \lambda-\lambda\lambda c\Lambda | -$  (彼を認めている)

(○)  $\times -\Lambda \lambda-\lambda\lambda c | - \rightarrow -\Lambda \lambda-\lambda\lambda c\Lambda | -$  (彼に気付いている)

(f)  $\times -\Lambda \lambda-\lambda\lambda c | - \lambda e\lambda\lambda\omega \rightarrow -\Lambda \lambda\omega\lambda\lambda c | - \lambda e\lambda\lambda\omega$  (彼が来ることを許可する)

$\lambda\omega\lambda\lambda e$ は「 $a$ は $\omega\Lambda$ を $le\lambda$ として扱う」が本義である。この「扱う」は見なすという意味の扱うで、商品を扱うなどの扱うではない。ある待遇で接するとか、見なすといった意味でしかない。状況によっては $\lambda\omega\lambda\lambda e$ が $Sc\Lambda\lambda e$ のように判断の意味を持つ場合もある(§)。 (§)は $\lambda\omega\lambda\lambda e$ を $Sc\Lambda\lambda e$ に置換できるが、それだと犯罪者と判断することに焦点が置かれるようになる。扱い方ではない

(§)  $-\Lambda \lambda\omega\lambda\lambda e | - le\lambda \lambda-\lambda e-\Lambda$  (彼を犯罪者として扱う)

/? : 計略 :  $-\Lambda\omega\lambda e, \lambda e\lambda\lambda e, \lambda-\Lambda\omega\lambda e$

⊙

非 $\omega\Lambda-$ 。  $a$ 有生。  $\omega\Lambda$ ふつう抽象 (

$-\Lambda\omega\lambda e$

alはoΛをoCという内容で計画すること。未来の行動について何をどうするか決めること

### 7e9λe

alはoΛを7oΛを使って罫にかけること。これはoΛが具象を取りやすい

### J-Λoλe

alはoΛというイベントを-lという時間に行うことを決めること

⊙

非oΛ-。al有生。oΛふつう抽象

-Λoλeは「alはoΛをoCという内容で計画する」が本義である。未来の行動について何をどうするか決めることで、「計画する」である。意味の範囲が広く、「企画」「予定」「計略」「設計」などを含む

7e9λeは「alはoΛを7oΛを使って罫にかける」が本義である。oΛを捕らえたり害したりする場合に使う。これはoΛが具象を取りやすい。抽象はまず無い

J-Λoλeは「alはoΛというイベントを-lという時間に行うことを決める」が本義である。つまり「予定を立てる」である。予定の時間はc>ではない。c>はその予定を組んだ時間を表わす。よって-lとc>の二つは別々の意味を持って共起する(1)

(1) -Λ J-Λoλ- 7e7J -leΛ laC- -l feeZel 7eJ c> <-J (昨日、ルティアへの旅行を次のペーゼルに行くことに決めた)

∕0 : 計算 : -λλe, clλe, <-7λe, <c7λe, <o7λe, <e7λe, -9λe, o9λe, <o<λe, <e<λe

⊙

非oΛ-。al有生。oΛ抽象。完了相は計算した時点（

### -λλe/clλe

-λλeはoΛの数を数えること。当然可算名詞をoΛに取るが、抽象名詞の場合、何かの単位で数えることを意味する。clλeは「oΛを点呼すること。「番号を与える」という意味ではない

<-7λe/<c7λe/<o7λe/<e7λe

接続詞で「足す」「引く」「かける」「割る」の意味

->e

充足率100%であるものに余剰や味付けとして加えること

o>e

充足率が100%でないものに対し、補いとしてプラスアルファを加えること

<o<e/<e<e

1/倍 (倍)、1/分の1 (半分))

⊙

非oΛ-。aΛ有生。oΛ抽象。完了相は計算した時点

-l>eはoΛの数を数えること。当然可算名詞をoΛに取るが、抽象名詞の場合、何かの単位で数えることを意味する(1)。たとえば(1)ではコップなどに入った水を数えている

(1) -Λ -l>e el (水を数える)

-l>eは言い換えれば「数を数える」ことである。ということはcl>eは「oΛの番号を数える」こと、即ち「点呼する」ことである。よって(1)のように使う

(1) -Λ cl>e <el-Λ (生徒を点呼する)

cl>eは「番号を与える」という意味ではない。「彼を三番にする」という場合、(?)になる

(?) -Λ S-l>e la le< cl< Vc

<->e~<e>eは加減乗除を意味する。oΛを-lに足す、など

これらは接続詞を持ち、順に「足す」「引く」「かける」「割る」の意味を持つ(0)(1)(2)(3)。尚、これらは計算式と明らかに分かっている状況でのみ-, c, o, eで代用することができる

(0)  $\text{no} \langle -\text{no} \rangle [-]$   $\text{no}$

(1)  $\text{no} \langle \text{no} \rangle [\text{c}]$   $\text{no}$

(2)  $\text{no} \langle \text{no} \rangle [\text{o}]$   $\text{no}$

(3)  $\text{no} \langle \text{no} \rangle [\text{e}]$   $\text{no}$

(3)はそのまま分数も表わせる。 $\text{lc} \langle \text{e} \rangle \text{vc}$ で分の1である

また、 $\langle \text{no} \rangle$ は名詞として「～倍」という意味がある。 $\text{vc} \langle \text{no} \rangle$ なら倍を意味する。但し、日常的には1倍と0倍は特別に $\langle \text{ok} \rangle$ と $\langle -\text{no} \rangle$ という。もっとも、数学などの場面では $\text{V-} \langle \text{no} \rangle$ などというほうがふさわしい

尚、 $\langle -\text{no} \rangle \text{e}$ には加えるという意味もある。「 $\text{al}$ は $\text{o}\Lambda$ を $-l$ に加える」である。逆に $\langle \text{no} \rangle \text{e}$ は「 $\text{al}$ は $\text{o}\Lambda$ を $\text{cl}$ から除く」という意味がある

また、 $\langle -\text{no} \rangle \text{e}$ と似たものに $\langle -\text{no} \rangle \text{e}$ と $\langle \text{no} \rangle \text{e}$ がある。どちらも構文は「 $\text{al}$ は $\text{o}\Lambda$ を $-l$ に加える」である

$\langle -\text{no} \rangle \text{e}$ は「おまけ」の意味である。充足率100%であるものに余剰や味付けとして加える場合に $\langle -\text{no} \rangle \text{e}$ を使う。充足していないものには使えない。既に完全に満ちているものだけを $\text{o}\Lambda$ に取れる

一方、 $\langle \text{no} \rangle \text{e}$ は充足率が100%でないものに対し、補いとしてプラスアルファを加えることである。充足率が100%のものには使えない

$\langle \text{ok} \rangle \text{e}$ は1倍を表わす。日本語で単に倍というときは1倍なので $\langle \text{ok} \rangle$ である。また、 $\langle \text{e} \rangle \text{e}$ は1分の1を表わす。つまり「半分」である

構文は「 $\text{al}$ は $\text{o}\Lambda$ を～倍（分の1）にする」である

1f : 伝達 :  $\text{o}\text{no}\text{no}\text{e}$ ,  $\text{el-}\text{no}\text{e}$ ,  $\text{no-}\text{no}\text{e}$ ,  $\text{ve}\text{no}\text{no}\text{e}$ ,  $\text{lo}\text{no}\text{no}\text{e}$ ,  $\text{Jlec}\text{no}\text{e}$

⊙

$\text{al}$ 有生。 $\text{o}\Lambda$ は情報内容。完了相は伝達が完了した時点（

$\text{o}\text{no}\text{no}\text{e}$

$\text{o}\Lambda$ を $-l$ に伝えること。 $\text{o}\Lambda$ が単に名詞を取るとき、その名詞について伝える

el-ṛe

oAを-Iに報告する。alは依頼や命令などを受けて調査を行った人であり、それを-Iに伝える

ḡl-ḡe

機械やラジオやテレビを通してoAを-Iに伝えること。もしくは単に人が声で広めること

Veḡe

メディアを使ってoAを-Iに広めること

ḡoḡe

oAを-Iに披露・発表すること。oAはふつう具象

ḡlec

oAを-Iに向けて掲示すること)

⊙

al有生。oAは情報内容。完了相は伝達が完了した時点である。その伝達が相手に届いたかどうかについては、ḡe, el-ṛe, ḡoḡeは比較的届いたと言えるが、それ以外は届いたかどうか問わないことが多い

ḡeはoAを-Iに伝えること。oAが単に名詞を取るとき、その名詞について伝えるという意味(1)

(1) -ḡ ḡe ḡe | -I ḡe (君に彼のことを伝えよう)

el-ṛeはoAを-Iに報告する。alは依頼や命令などを受けて調査を行った人であり、それを-Iに伝える。ḡeと同じく伝えているわけだが、与えられた任務の結果を伝えるという点で意味が特化している。仕事や依頼など、任務の場合はel-ṛeを使うが、それ以外のことには使えない。また、任務の場合に上位概念であるḡeを使うこともできるが、el-ṛeより公的でない言い方である

ḡeは主に機械やラジオやテレビを通してoAを-Iに伝えることで、「放送」に当たる。-Iはふつう多数である。多数に広めるということに焦点が当たるため、機械などなく人が声



で多数に広める場合も $\Gamma$ - $\gamma$ eといえる

$\vee\mu\lambda$ eはメディアを使って $\sigma\Lambda$ を-Iに広めることで、「報道」に当たる。 $\sigma\Lambda$ はニュースがくる。 $-I$ はふつう多数

$\Lambda\sigma\Lambda$ eは $\sigma\Lambda$ を-Iに披露・発表することである。 $\sigma\Lambda$ はふつう具象である。それまで-Iが知らなかったものを初めて公開して知らしめることである。 $-I$ は多数であることが多い

$\mathcal{J}lec$ eは $\sigma\Lambda$ を-Iに向けて掲示することである。掲示板のようなものに情報を書いておくときに使う。 $-I$ は多数でも少数でもありえる

$\forall$ : 書:  $-\lambda$ e,  $\lambda$ - $\gamma$ e,  $\mathcal{J}eV$ e,  $c\lambda$ e

⊙

非 $\sigma\Lambda$ -。al有生。 $\sigma\Lambda$ は読み書きする内容。完了相は読み書きの終了時点（

$-\lambda$ e/ $c\lambda$ e

$-\lambda$ eは $\sigma\Lambda$ を-Iに書くである。絵は $\lambda$ - $\gamma$ e。 $c\lambda$ eは $\sigma\Lambda$ を-Iに読み聞かせる。 $c\lambda$ e単体だと朗読か否かは無色。 $\lambda$ - $\lambda$ V,  $\lambda$ c $\lambda$ Vを使って表わす

$\lambda$ - $\gamma$ e

$\sigma\Lambda$ という絵を-Iに描く

$\mathcal{J}eV$ e

$\sigma\Lambda$ という内容を-Iに執筆する。 $-\lambda$ eより固い。作品性の高いものを $\sigma\Lambda$ に取る)

⊙

非 $\sigma\Lambda$ -。al有生。 $\sigma\Lambda$ は読み書きする内容。完了相は読み書きの終了時点

$-\lambda$ eは $\sigma\Lambda$ を-Iに書くである。字を書くことにしか使えないので、文章は良いが、絵は不可である。 $\sigma\Lambda$ が絵の場合、 $\lambda$ - $\gamma$ eを使う。つまり $\lambda$ - $\gamma$ eは「描く」である

尚、「書き込む」の場合は $\gamma\sigma\lambda$ eを使う。 $-\lambda$   $\gamma\sigma\lambda$ -  $\gamma$ - $\mathcal{J}$   $\gamma\sigma\Lambda$  h-d (字で紙を埋めた)

$-\lambda$ e,  $\lambda$ - $\gamma$ eの完了相は書き終わった時点で、その書物や絵画が完成した時点である。

食事休みのため作業を中断したときは完了相を使わない

また、文章を書くという意味では特に-ルㇰゑでなくJeVゑを使うこともできる。JeVゑはoΛという内容を-lに執筆するという意味である。-ルㇰゑより固い語で、小説や論文など、作品性の高いものを書くときに使う。日記やメモなど、雑多なものにはあまり使わない

-ルㇰゑの対のcㇰゑは「oΛを読む」である。朗読かどうかは無色であるが、-l格が伴っていれば「oΛを-lに読み聞かせる」になるので朗読になる。はっきり朗読か否かと言いたいときは(1) (ノ)のように区別する

(1) -l cㇰゑc (a ㇰΛ ucV (声に出してこれを読む)

(ノ) -l cㇰゑc (a ㇰeΛ ucV (声に出さずにこれを読む)

尚、cㇰゑの完了相は読み終わった時点を目指す。今日はここまでと決めて読み終わった場合、本の途中でも完了で良い

ノ : 聞 : (eΛゑ, (e>ゑ, (oㇰゑ

⊙

非oΛ-。al有生。oΛは聞く内容。完了相は聞いた時点（

(eΛゑ

意識的に聞こうとしてoΛを聞くこと

(e>ゑ

耳をoΛに傾けて良く聞くことである。oΛが遠くにいる場合は実際に耳に両手を当てて集音することもある

(oㇰゑ

無意識で自発的に聞くことである。つまり自然と「聞こえる」こと)

⊙

非oΛ-。al有生。oΛは聞く内容。完了相は聞いた時点

これらはいずれも同じoΛを取れる。聞く姿勢が異なるだけである

まず、ŋeΛɿeは意識的に聞こうとしてoΛを聞くことである。尚、「従う」の意味はなく、その場合はŋoɿɿeになる

これに対しŋe>ɿeは耳をoΛに傾けて良く聞くことである。oΛが遠くにいる場合は実際に耳に手を当てて集音することもある

ŋeΛɿeとŋe>ɿeが意識的に聞こうとしているのに対し、ŋoɿɿeは無意識で自発的に聞くことである。つまり自然と「聞こえる」ことである。「alはoΛが聞こえる」が構文である

∕Δ : 言 : ŋaɿe, ŋalɿe, ɿooŋɿe, ɸeɿɿe, ɸooɿe, leoΛɿe, <coŋɿe, ʃ-lɿe, ŋloɿɿe, >ɿɿɿe, ʌ-ŋɿe, ʃ  
oŋɿe, ɸo-ŋɿe, ɸcoŋɿe, ʌcoŋɿe, ɸ-ŋɿe, ɸcoŋɿe, ɿoŋɿe, ɿeŋɿe, >eZɿe

⊙

非oΛ-。al有生。oΛは言う内容。完了相は言った時点（

ŋaɿe

もっとも一般的な意味での「言う」である。構文は「oΛを-lに言う」

ŋalɿe

oΛがストーリー性を帯びている場合に使われる。つまり「話をする」である

ɿooŋɿe

ただの対話のときはɿooŋɿeを使う。ɿooŋɿeは「alがoΛについて-lと対話する」

ɸoɿɿe/ɸeɿɿe

ɸeɿɿeは「心がない相手のためにならないことをへつらって言う」ことで、追従である。逆にɸoɿɿeは「相手のためになるが辛辣なので言いづらい内容をあえて言うこと」で、訓告

leoΛɿe

leoΛɿeは悪い意味ではない。相手との関係を円滑にするために言うお世辞である

<coŋɿe

「本当のことを言う」という意味で、告白である。罪や気持ちなど、隠していることを打ち明けるときに使う

ʃ-lɿe

「不平を言う」である。oΛには不満内容がくる

ŋloɿɿe

「主張をする」である。㊦㊵㊴eは自分の思っていることや言いたいことを-llに認めさせようとして言うこと

#### >c㊵㊴e

「㊵㊴について-llと論理的に対話する」という意味である。論理的でなくただの感情のぶつけ合いで終わる場合は>c㊵㊴eといえない。また、㊵㊴についてただだらだらと話すのでもない。㊵㊴の改善や解決を目的として話すこと

#### ㊵㊴㊵㊴e

㊵㊴という冗談を-llに言うことである。冗談の意味が既にあるので㊵㊴㊵㊴㊵㊴を文末にわざわざ置かないことが多い

#### ㊵㊴㊴㊴e

㊵㊴という言い訳を-llにすることである。弁明しか㊵㊴に取らない

#### (c㊵㊴e/(cc㊵㊴e

(c㊵㊴eは㊵㊴という内容を-llに言って-llを慰めること。(cc㊵㊴eは逆に㊵㊴という辛辣な内容を-llに言って-llを余計に落ち込ませること

#### Vc㊵㊴e

㊵㊴を暗記して-llに言うことである。つまり暗唱である。㊵㊴は記憶した内容がくる

#### ㊵㊴㊵㊴e/㊵㊴㊴㊴e

㊵㊴㊵㊴eは相手の言ったことを汲んで踏まえて反映した上で協調的に返答することである。逆に㊵㊴㊴㊴eは相手の言葉を踏まえて非協調的な返事を返すことで、言い返すこと

#### J㊵㊴e/J㊵㊴e

J㊵㊴eは㊵㊴という返事を-llに返すことで、-llから話しかけられている状況以外には使えない。J㊵㊴eは㊵㊴という態度を-llに返して-llを無視すること

#### >e㊵㊴e

㊵㊴という内容を-llに噂することである。㊵㊴はそこにはいない人のことを話題にしてあれこれ言うその内容

⊗

非㊵㊴-。al有生。㊵㊴は言う内容。完了相は言った時点

㊵㊴㊴eはもっとも一般的な意味での「言う」である。構文は「㊵㊴を-llに言う」。これはここ

で挙げた全ての動詞に共通する構文である。㇗a㇗eは声、特に言語を使って表現することを表わす

㇗a㇗eは㇗aがストーリー性を帯びている場合に使われる。つまり「話をする」である。話を-Iに聞かせてやるという意味を持つため、対話ではなく語り聞かせである

ただの対話のときは㇗o㇗eを使う。㇗o㇗eは「aが㇗aについて-Iと対話する」という意味である(1)

(1) -㇗㇗o㇗e c le㇗㇗ (a -I la (この映画について彼と話している)

尚、(1)は私と彼をまとめてaに持ってくることもできるが、その際-Iは㇗oになる(1')

(1') -㇗/la㇗o㇗e c le㇗㇗ (a -I㇗o)

一方、㇗e㇗eは「心のない相手のためにならないことをへつらって言う」ことで、追従である。逆に㇗o㇗eは「相手のためになるが辛辣なので言いづらい内容をあえて言うこと」で、訓告である

㇗e㇗eはおべっかのことで、悪い意味で使われる。だが、相手を好意的に見て良く解釈してやるお世辞は必ずしも悪ではなく、その場合はle㇗㇗eという。le㇗㇗eは悪い意味ではない。相手との関係を円滑にするために言うお世辞である

㇗e㇗eと違って本当に思っていることに少し味付けする程度がle㇗㇗eである。脚色が過ぎると㇗e㇗eになって嫌われる。とはいえ、もちろんle㇗㇗eも相手に向かってよもや-㇗ le㇗㇗e c㇗oとすることはない。どちらにせよ相手に気付かれれば好印象は失せる

ふつう相手がle㇗㇗eをしていると読み取っても恥らうときを除けば特に指摘することなく済ませる。だが㇗e㇗eだと思えば嫌がって避ける

一方、㇗o㇗eは「本当のことを言う」という意味で、告白である。罪や気持ちなど、隠していることを打ち明けるときに使う。㇗aは隠している本当のことである。どんな内容でも良い

㇗-l㇗eは「不平を言う」である。㇗aには不満内容がくる(?)

(7) 1- ʔ-lɔc ʔc eʔ 1-V -1 ʔc (彼は君に君がうるさいと不平をいう)

ʔɔɔɔeは「主張をする」である。ʔɔɔɔeは自分の思っていることや言いたいことを-1に認めさせようとして言うことである(8)

(8) -ʔ ʔɔɔɔe ʔc ɔʔ l-cZ -1 ʔc (君が王になるようにと君に主張する)

>cɔɔeは「ɔʔについて-1と論理的に対話する」という意味である。論理的でなくただの感情のぶつけ合いで終わる場合は>cɔɔeといえない。また、ɔʔについてただただ話すのでもない。ɔʔの改善や解決を目的として話すことである。改善や解決などの目的なしでは>cɔɔeとはいえない。日本語の「論議」よりも実際は遥かに高尚である

ʔ-ʔɔɔeはɔʔという冗談を-1に言うことである。冗談の意味が既にあるのでʔ-ʔ-ʔを文末にわざわざ置かないことが多い

ʔcʔɔɔeはɔʔという言い訳を-1にすることである。弁明しかɔʔに取らない(9)

(9) 1- ʔcʔɔɔ- 1- 1-ʔɔal -1 ɔʔ -1 -ʔ (彼は私に電車に乗れなかったと言い訳した)

ʔc-ʔɔɔeはɔʔという内容を-1に言って-1を慰めることである(9)

ʔccʔɔɔeは逆にɔʔという辛辣な内容を-1に言って-1を余計に落ち込ませることである

(9) 1- ʔc-ʔɔɔ- -ʔ eʔ 1-ʔʔ -1 -ʔ ʔ-ʔ (彼は私を綺麗と言ってくれた)

Vcʔɔɔeはɔʔを暗記して-1に言うことである。つまり暗唱である。ɔʔは記憶した内容がくる(9)

(9) >cɔ ʔcS> Vcʔɔɔ- ʔɔɔ> -1 -ʔ (幼い娘が私にソームの名を暗唱してみせた)

㊦ㄥㄨㄝは相手の言ったことを汲んで踏まえて反映した上で協調的に返答することである。逆に㊦ㄥㄨㄝは相手の言葉を踏まえて非協調的な返事を返すことで、言い返すことである。共に返す言葉がㄅㄆにきて、返す相手がㄇにくる

ㄨㄨㄝはㄅㄆという返事をㄇに返すことで、ㄇから話しかけられている状況以外には使えない。ㄨㄝㄝはㄇを無視してㄅㄆを言うことである。言葉でなくても良い(Δ)。何も返さずに完全に無視する場合は(L)になる

(Δ) ㄇ ㄨㄝㄝ- ㄨㄆㄆ ㄇ ㄇ (彼は鼻で笑って私を無視した)

(L) ㄇ ㄨㄝㄝ- ㄇ ㄇ = ㄇ ㄨㄝㄝ- ㄆ ㄇ ㄇ

ㄨㄝㄝㄝはㄅㄆという内容をㄇに噂することである。ㄅㄆはそこにいない人のことを話題にしてあれこれ言うその内容を表わす(10)。ㄆㄇ、ㄇㄇは少数でも多数でも良い

(10) <ㄆㄇㄇ ㄆㄆ ㄨㄝㄝㄝ- ㄇ ㄆㄆㄝ- (ㄆ (その生徒は彼がそれを壊したと噂した)

ㄇㄆ : 問 : -ㄨㄨㄝㄝ, ㄥㄨㄨㄝㄝ, ㄨㄆㄆㄝ, ㄨㄝㄝㄝ

⊙

非ㄅㄆㄇ。ㄆㄇ有生。ㄅㄆ質問内容。聞き手はㄇ。完了相は質問を言い切った時点

-ㄨㄨㄝㄝㄝ/ㄥㄨㄨㄝㄝ

-ㄨㄨㄝㄝㄝは「ㄆㄇはㄅㄆをㄇに問う」。ㄥㄨㄨㄝㄝㄝは「ㄆㄇはㄅㄆをㄇに答える」。-ㄨㄨㄝㄝㄝの場合、ㄆㄇは答えを知らない。ㄥㄨㄨㄝㄝㄝは-ㄨㄨㄝㄝㄝされたものに返すとき使う

ㄨㄆㄆㄝㄝ/ㄨㄝㄝㄝㄝ

-ㄨㄨㄝㄝㄝと同じ構文。意味もおおよそ同じ。違いは、ㄨㄆㄆㄝㄝの場合、ㄆㄇは答えを知っているということ。ㄨㄝㄝㄝㄝはㄨㄆㄆㄝㄝされたものに答えるとき使う

⊙

非ㄅㄆㄇ。ㄆㄇ有生。ㄅㄆ質問内容。聞き手はㄇ。完了相は質問を言い切った時点。ㄅㄆにはいずれも節が取れ、-ㄨㄨなどの疑問詞を含んだ文も取れる(1)

(1) -Λ -J>e c -l (c oΛ -J -Λ Jexel loθΛ (どうやったら駅に行けるかをあなたに問う)

-J>eは「alはoΛを-lに問う」という意味で、cJ>eは「alはoΛを-lに答える」という意味である

実はJΛo>eとJΛe>eもこれと全く同じ構文を取る。では-J>eとJΛo>eの違いは何か。それは、-J>eはalが答えを知らない場合に使われ、JΛo>eはalが答えを知っている場合に使われるということである

学校のテストは教師が答えを知っているのでJΛo>eである。授業中に教師が生徒に答えさせるために生徒に問う場合も、教師は自分で答えを知っているのでJΛo>eである。純粹にalが知りたくて問うのではなく、alは答えを知っているがそれを-lに自力で引き出させたいときにJΛo>eを使う

そしてJΛe>eはJΛo>eに対して答えるという意味である。また、cJ>eは-J>eに対して答えるという意味である。-J>eとJΛo>eが異なるので、それに対するcJ>eとJΛe>eも異なるといえる

JΛe>eはJΛo>eに対して答えることであるから「alが知っている答えを返す」という意味ではない。そもそも答えている以上、自信のあるなしにかかわらず自分なりの答えを知っていることは確かである。だからJΛe>eはそもそも「alが知っている答えを返す」という意味にはなりえない

γ0 : 祈 : loJ'e, leJ'e, leθeΛ'e, l-J'e

⊙

非oΛ-。al有生。oΛ有生。完了形は祈りをしきった時点（

loJ'e/leJ'e

loJ'eは「alはoΛの内容の祈りを-lに願う」。「alはoΛの内容の呪いを-lに願う」

leθeΛ'e

「alはアルティス教の祈りであるデペンテでoΛの内容を-lに願う」

l-J'e

「-lにかかっているoΛの呪いや魔法を解く」)



⊙

非 $\omega\Lambda$ -。al有生。 $\omega\Lambda$ 有生。完了形は祈りをしきった時点。たとえば祈りの言葉の最後の音を言い終わった時点

$\lambda\omega\mu\upsilon\epsilon$ は「alは $\omega\Lambda$ の内容の祈りを-Iに願う」である。 $\omega\Lambda$ にはふつう節がくる(1)。 $\omega\Lambda$ に人がきた場合はその人の安泰やその人が自分のところに来たり行為を向けたりすることを祈るということの意味する(✓)

(1)  $-\Lambda \lambda\omega\mu\upsilon\epsilon \text{ } \text{I- } \eta\epsilon\upsilon\omega \text{ } \text{I-}\rangle- \eta\omega- \text{I- } -\mu\upsilon\epsilon$  (彼が無事にここに来ることを祈る)

(✓)  $-\Lambda \lambda\omega\mu\upsilon\epsilon \text{ } \text{I- } -\text{I- } -\mu\upsilon\epsilon$  (彼の無事を神に祈る)

$\lambda\omega\mu\upsilon\epsilon$ は $\omega\Lambda$ の成就を-Iに願うこととも言える。ではI- $\upsilon\epsilon$ と何が違うか。まず、 $\lambda\omega\mu\upsilon\epsilon$ の-Iは神のように超越的なものだがI- $\upsilon\epsilon$ はそうでない。そして $\lambda\omega\mu\upsilon\epsilon$ は宗教的な行為であるがI- $\upsilon\epsilon$ は違う。また、 $\lambda\omega\mu\upsilon\epsilon$ の内容はふつう誰かを守ったり救ったり益をもたらしたりすることであるが、I- $\upsilon\epsilon$ にはそのような傾向はない

逆に $\lambda\epsilon\mu\upsilon\epsilon$ は「alは $\omega\Lambda$ の内容の呪いを-Iに願う」である。 $\omega\Lambda$ には呪いの内容がくる(?)。 $\omega\Lambda$ が人の場合、その人の不幸や失敗などを願うことを意味する(⓪)

(?)  $-\Lambda \lambda\epsilon\mu\upsilon\epsilon \text{ } \text{I- } \eta\epsilon\upsilon\omega \text{ } \eta\alpha \text{ } -\text{I- } \text{I-}\mu\upsilon\epsilon-$  (彼なんて殺されてしまえとラスティアに願う)

(⓪)  $-\Lambda \lambda\epsilon\mu\upsilon\epsilon \text{ } \text{I- } -$  (彼を呪う)

一方、 $\lambda\epsilon\theta\epsilon\Lambda\upsilon\epsilon\epsilon$ は「alはアルティス教の祈りであるデペンテで $\omega\Lambda$ の内容を-Iに願う」という意味である。 $\lambda\omega\mu\upsilon\epsilon$ と違って $\lambda\epsilon\theta\epsilon\Lambda\upsilon\epsilon\epsilon$ は特にデペンテを行うことに焦点が当たる

また、I- $\mu\upsilon\epsilon$ は「alは $\omega\Lambda$ という内容を呪いの厄払いを-Iにする」という意味で、言い換えれば「-Iの持つ $\omega\Lambda$ という呪いを解く」という意味である。ここでいう呪いは日常的には呪いという意味であるが、神話的には魔法という意味でもある。つまり魔法の存在する神話の世界ではI- $\mu\upsilon\epsilon$ は「-Iにかかっている $\omega\Lambda$ の魔法を解く」という意味を持つ(†)

(f) - $\Lambda$  | - $\mu$   $\rho$   $\lambda$  c  $\gamma$   $\rho$   $\rho$  - | | - (彼にかかっているゴットの魔法を解除した)

$\lambda$  | : 賛否 :  $\zeta$ - $\lambda$ > $\lambda$ e,  $\zeta$ c> $\lambda$ e,  $\rho$ \lambda> $\lambda$ e,  $\rho$ e $\lambda$ > $\lambda$ e,  $\rho$  $\Lambda$ > $\lambda$ e, e $\Lambda$ > $\lambda$ e,  $\lambda$ -|> $\lambda$ e,  $\lambda$ c|> $\lambda$ e

⊙

非 $\rho$  $\Lambda$ -。al有生。 $\rho$  $\Lambda$ 有生。 $\rho$  $\rho$ 賛否内容、完了形は賛否を決定したり表明した時点（

$\zeta$ - $\lambda$ > $\lambda$ e/ $\zeta$ c> $\lambda$ e

alは $\rho$  $\rho$ について $\rho$  $\Lambda$ に賛成する

$\rho$ \lambda> $\lambda$ e/ $\rho$ e $\lambda$ > $\lambda$ e

alは $\rho$  $\rho$ について $\rho$  $\Lambda$ に従う

$\rho$  $\Lambda$ > $\lambda$ e/e $\Lambda$ > $\lambda$ e

alは $\rho$  $\rho$ について $\rho$  $\Lambda$ のいうことを聞いてやる、了承する

$\lambda$ -|> $\lambda$ e/ $\lambda$ c|> $\lambda$ e

alは $\rho$  $\rho$ について $\rho$  $\Lambda$ を支持する)

⊙

非 $\rho$  $\Lambda$ -。al有生。 $\rho$  $\Lambda$ 有生。 $\rho$  $\rho$ 賛否内容、完了形は賛否を決定したり表明した時点

$\zeta$ - $\lambda$ > $\lambda$ eは「alは $\rho$  $\rho$ について $\rho$  $\Lambda$ に賛成する」である。 $\zeta$ c> $\lambda$ eは逆に、「alは $\rho$  $\rho$ について $\rho$  $\Lambda$ に反対する」である

$\rho$ \lambda> $\lambda$ eは「alは $\rho$  $\rho$ について $\rho$  $\Lambda$ に従う」である。逆に「 $\rho$ e $\lambda$ > $\lambda$ e」は逆らうの意味である

$\rho$  $\Lambda$ > $\lambda$ eは「alは $\rho$  $\rho$ について $\rho$  $\Lambda$ のいうことを聞いてやる、了承する」という意味である。e $\Lambda$ > $\lambda$ eは逆に「断る」の意味である

$\lambda$ -|> $\lambda$ eは「alは $\rho$  $\rho$ について $\rho$  $\Lambda$ を支持する」である。逆に $\lambda$ c|> $\lambda$ eは反対して邪魔することである

いずれも賛否を表わすが、賛否の仕方やその後の行動がそれぞれ異なる。 $\zeta$ - $\lambda$ > $\lambda$ eはおおよそalが $\rho$  $\Lambda$ と同意見で主幹と支持の関係がないときに使われる。 $\rho$  $\Lambda$ が主幹の場合、alは支持にしなければいけないので $\lambda$ -|> $\lambda$ eを使う

$\rho$ \lambda> $\lambda$ eはalが $\rho$  $\Lambda$ と同意見であるなしにかかわらず、 $\rho$  $\Lambda$ に従うことである。同志として従って

いるならoΛと同意見であるが、力で押しえつけられている場合はoΛと同意見でなくても従うことがある。ゆえにCɔɪɛはoΛと同意見かどうかということは問わない。単にaɪがoΛに従うという主従関係を示すだけである

oΛɯɛはoΛの依頼を聞いてやる場合に使う。oΛと同意見かどうかは問わない。oΛと同意見でなくともoΛに借りがあるので言うことを聞いてやろうと思う場合がありえるからである。また、Cɔɪɛのような主従関係もない。目上が目下の言うことを聞く場合もあるからである

し->ɛとoΛɯɛは近い語法を持つが、気をつけたいのは内容が提案のときである。依頼の場合はoΛɯɛになるが、意見や提案の場合はし->ɛである

ㄱ/ : 表現 : -Sɛ, eŋɯɛ, Scɛ, Vɔɪɛ, Velɛ, ɔɪɛ, leŋɛ

⊙

非oΛ-. aɪ有生。oΛ抽具。完了相は表現しきったとき（

-Sɛ

aɪはoΛを-Iに表わす。aɪが記号だとするとoΛは指示物或いは意味

eŋɯɛ

「aɪはoΛを意味する」である。-Sɛと似ているが、oΛがaɪの意味に相当する場合以外は使えない

Scɛ

「aɪはoΛを-Iに見てもらおうように指さす」。足の指のときはŋɔɪ lcɯを伴う

Vɔɪɛ/Velɛ

Vɔɪɛは「aɪはoΛを-I（結果・産物）に具象化する」。実現化の意味はなく、その場合はし-ɛɛ。Velɛは「aɪはoΛを-I（結果・産物）に抽象化する」という意味である

ɔɪɛ/leŋɛ

ɔɪɛは「aɪは-Iに対してoΛを言葉で表わす」。leŋɛは「aɪは-Iに対してoΛについて言葉で示さず、暗黙のうちに秘めて伝える」

)

⊙

非oΛ-. aɪ有生。oΛ抽具。完了相は表現しきったとき。たとえば指を指した瞬間

-Sɿeは「alはoΛを-lに表わす」という意味である。この「表わす」は示すという意味の表わすである。alが記号だとするとoΛは指示物或いは意味である(1)。また、alがシニフィアンだとするとoΛはシニフィエである

(1) Ocɿ -Sɿe oΛɿ (額きは了承を表わす)

尚、(1)は(1)とも言える

(1) Ocɿ eɿɿe oΛɿ

eɿɿeは「alはoΛを意味する」である。-Sɿeと似ているが、oΛがalの意味に相当する場合以外は使えない(?)

(?) X>elɿ eɿɿc ɿo → >elɿ -Sɿc ɿo (時計が一時を指している)

また、「指す」という意味ではScɿeが使えることもある。但しScɿeはScが「指」であることから分かる通り、主に人が指でoΛを指す場合しか使えない。oΛを指で指しているのを見てほしい相手は-l格が担う。つまりalはoΛを指差して-lに見せたいという意味である。尚、この指はふつう手の指である。足の指の場合、(0)のようにɿoΛ格を付け足す

(0) -l Scɿc l- -l (c ɿoΛ lcɿ ɿoΛc ɿlcɿ) (仰向けで寝つつ、足の指で君に彼を指した)

一方、Volɿeは「alはoΛを-l (結果・産物) に具象化する」という意味である。oΛは抽象しか取らない。はじめ抽象だったoΛを具象にするときに使う。たとえば考えのような抽象的なものを文に書いて具象化することがプロトタイプである

Volɿeは抽象的なものをより実現に向けた抽象的なものにする意味はない。現実化に向けて一步前進させるという意味はない。日本語では「このプロジェクトを具体化した」といえば抽象的なプロジェクトというものをより現実近づけたという意味である。だが、プロジェクトはたとえ現実化されても形がないので抽象のままである。VolɿeはoΛの成就には

何ら関心がない。抽象のものを具象にすることだけを表わす。抽象のものを実現することとは一切関係がない。ゆえに(ℓ)は非文である。このように、現実化するという意味の場合 VolC'eではなくし-f'eを使う

(ℓ) ×-Λ VolC'c) -Λo (a → -Λ し-f'e'c) -Λo (a (この計画を具体化させた)

逆に VelC'eのoΛは具象しかなく、具象のものを抽象化するときを使う。「alはoΛを-l(結果・産物)に抽象化する」という意味である。詩という具象なものを音楽やダンスで表わす場合、そこに抽象化が行われるが、そのような場合に VelC'eを使う。もちろん既に抽象のものには使えない

但し、VolC'eにせよ VelC'eにせよ、より具象化或いは抽象化する場合には、既に具象或いは抽象のものをoΛに取ることができる。詩は具象であるが、散文や論文よりは抽象的である。その詩を解釈して散文に変える場合、より具象化することになるので VolC'eが使える。この際、具象化によってできた結果や産物を-l格が担うようになる(ℓ)

(ℓ) -Λ VolC'e- V-o Λ-le> (a -l JeV (その詩をより具象化して文章にした)

一方、loΛ'eは「alは-lに対してoΛを言葉で表わす」という意味である。言葉という形に具象化するという意味では VolC'eも使えるが、既に具象である人物について言葉で表現するときも loΛ'eは使える。尚この場合、VolC'eは使えない

逆に leΛ'eは「alは-lに対してoΛについて言葉で示さず、暗黙のうちに秘めて伝える」という意味を持つ。oΛにはふつう暗黙にする内容を表わす節がくる(ℓ)

(ℓ) -Λ leΛ'e- MeC' -l Cc (君には依頼を暗黙のうちに伝えた)

leΛ'eは言葉を使ってoΛを表わさないため、言葉以外の何かでoΛを伝えることになる。それは身振りでも信号でも良い。或いは敢えて何もしないことでoΛを伝えても良い。たとえば沈黙で何もしないことによって却って怒りをあらわにする場合が考えられる(Δ)

(Δ) -Λ leΛ'e- So -l l- 7oΛC'[4al] 7a'c a (何も言わずに黙って彼への怒りを表わした)

?? : 音楽 : le>e, >c7J>e, >elo>e, >ele>e

⊙

非oΛ-。al有生。oΛ音楽内容。完了相は音楽をひき終わった時点（

le>e

alはoΛという何かしらの音楽活動をする

>c7J>e

alはoΛを-lに歌う

>elo>e/>ele>e

>elo>eは「alはoΛという歌曲を-lに歌う」。>ele>eは「alはoΛという楽曲を-lに聞かせる」。

人間の声メインパートを務めれば>c7J、サブパートなら>elo)

⊙

非oΛ-。al有生。oΛ音楽内容。完了相は音楽をひき終わった時点

le>eは音楽にかんすることをするという意味で、oΛは音楽に関する内容ならなんでも取れる。作曲でも作詞でも歌でも良い。何かしらの音楽活動をするという意味である

それに対して>c7J>eの場合、歌を歌うことに限定される。oΛは歌の内容しか取らない。歌の歌詞を具体的に取っても良いが、ふつうは曲名をoΛに取る。歌い聞かせの場合、聞き手は-lにくる。よって>c7J>eは「alはoΛを-lに歌う」である

>elo>eは「alはoΛという歌曲を-lに歌う」である。oΛは歌曲以外取らない。対して>ele>eは「alはoΛという楽曲を-lに聞かせる」である。oΛは楽曲以外取らない。尚、歌曲とは人間の声が入ったもので、楽曲とは人間の声が入らないものである

では>eloと>c7Jは何が違うのだろうか。>c7Jはふつうのポップミュージックのように人間の声メイン部分を担当するものである。声メインパートを務め、その他の楽器がそれを引き立てる。それが>c7Jである。尚、>c7Jは声だけの歌で楽器がなくても良い

一方、>eloは人間の声バイオリンやピアノといった別の楽器と等しい関係にある場合に使われる。つまり声メインを担当するのではなく、あくまで一つのサブパートしか務めない場合に使われる。声を楽器の一つと見立て、他の楽器と等しく扱い、楽曲の中に人間

の声を楽器として取り入れる。それがeloである

70 : 評価 : 71clxe, -Slxe, cSlxe, h-7xe, hc7xe, 7eolxe

⊙

非oA-。al有生。oAふつう有生。完了相は評価を下した瞬間（

71clxe

alはoAをoCについて批評する。中立的な批判

-Slxe/cSlxe

-Slxeは「oAをoCについて良く評価する」。cSlxeは「oAをoCについて悪く評価する」

h-7xe/hc7xe

h-7xeは「oAをoCについて誉める」。hc7xeは「oAをoCについて貶す」

7eolxe

「oAをoCについて侮辱する」。cSlxe, hc7xeと違って不当な悪評価。cSlxe, hc7xeは罪にならないが7eolxeは罪になる

⊙

非oA-。al有生。oAふつう有生。完了相は評価を下した瞬間

71clxeは「alはoAをoCについて批評する」である。-SlxeやcSlxeと違って中立的に評価することを表わす

-Slxeは71clxeと似ているが、oAを良く評価するという点で異なる。「oAをoCについて良く評価する」ことである。逆にcSlxeは「oAをoCについて悪く評価する」ことである

また、良い評価という点では-Slxeはh-7xeに似ている。h-7xeは「oAをoCについて誉める」という意味である。逆にhc7xeは「oAをoCについて貶す」という意味である

-Slとh-7の違いについて。-Slは71clとh-7の間であり、評価と誉めるを兼ねたものである。一方h-7は評価という意味合いはなく、単に賞賛の意味合いしかない。その点で両者は異なる

アルバザードでは個人主義が発達しているので、個人がどう見るかということが非常に重要視されている。そのため、個々人は独立した観点や評価を持っていることが期待される。それは身分の上下や年齢にかかわらず等しく持っているべきであると期待されることで、逃げられない。ゆえに小さい子供でも自分なりの価値観で評価することが期待される

ゆえにアルバザードでは年下かつ目下のものが年上かつ目上のものを評価することに対して何ら抵抗がない。よって、-Sl̄eもh-ŋeも抵抗なく年上の目上に使うことができる。-Sl̄eの場合は評価が入っているが、h-ŋeは評価がなく、感想である。そのため、社会的な場面では-Sl̄eのほうが有難がられ、個人的な場面では感情の籠ったh-ŋeのほうが有難がられる

また、ŋeol̄eは「oΛをoCについて侮辱する」という意味である。これはcSl̄eやhcŋeより程度が悪い語である。cSl̄eやhcŋeはそういわれても仕方のない何らかの原因がある場合が多い

しかしŋeol̄eはそういった原因がないのに言われる場合が多い。また、hcŋeはある程度論説的に悪い点をつくが、ŋeol̄eは単に感情的に相手の弱点をあげつらう意味合いが大きい。更にhcŋeは欠点や失点など、言われても仕方のない失敗について述べることが多いが、ŋeol̄eは相手の体の悩みなど、どうしようもない弱点をわざと突くことが多い

cSl̄e, hcŋeとŋeol̄eの違いは要は相手の受け取り方しだいである。cSl̄eのつもりでも穿った相手が侮辱されたと取られればŋeol̄eと取られてしまう。アルバザードの裁判でもcSl̄eやhcŋeは罪にならないがŋeol̄eは罪になる。その点でもこれらの違いは重要かつ線引きの難しいものである

ŋf : 呼 : ŋeŋ̄e, ŋeŋ̄e, -ŋ̄e, -ŋ̄e, eŋ̄e, oŋ̄e

☉

非oΛ-。al有生。oΛ有生。完了形は呼び声を相手に向け終わったとき（

ŋeŋ̄e

「alはoΛに-lまで来てもらう」。用があって来てもらう場合

ŋeŋ̄e

「oΛを-lに招待する」。oΛとあって歓談したりoΛに-lに参加してほしい場合



- $\mu\epsilon\lambda\epsilon$

「alは $\omega\Lambda$ （神）を-lへ召喚する」。宗教的な語

- $\Lambda\lambda\epsilon$

「alは $\omega\Lambda$ をleしという名前と呼ぶ」

$\omega\mu\epsilon\lambda\epsilon/e\mu\epsilon\lambda\epsilon$

$e\mu\epsilon\lambda\epsilon$ の本義は「alは $\omega\Lambda$ にleしという名前を付ける」。 $\omega\mu\epsilon\lambda\epsilon$ は名前ではなく姓を担うだけで、後は $e\mu\epsilon\lambda\epsilon$ と同じ)

✧

非 $\omega\Lambda$ -。al有生。 $\omega\Lambda$ 有生。完了形は呼び声を相手に向け終わったときで、相手が来たときではない

$\eta\epsilon\eta\lambda\epsilon$ は「alは $\omega\Lambda$ に-lまで来てもらう」という意味である。上下関係は一切ない。目上が呼ぼうと目下が呼ぼうと $\eta\epsilon\eta\lambda\epsilon$ である。-lには人も場所も取れる (1) (✓)

(1) - $\Lambda$   $\eta\epsilon\eta\lambda\epsilon$  c l- -l - $\Lambda$  (彼を私のところに呼んだ)

(✓) - $\Lambda$   $\eta\epsilon\eta\lambda\epsilon$  c l- -l  $\eta\omega$ - (彼をここに呼んだ)

$\eta\epsilon\mu\lambda\epsilon$ は「 $\omega\Lambda$ を-lに招待する」で、-lは人でも場所でも良いし、パーティのようなイベントでも良い

$\eta\epsilon\eta\lambda\epsilon$ は $\omega\Lambda$ に用があるので来てもらうことである。対して $\eta\epsilon\mu\lambda\epsilon$ は $\omega\Lambda$ が-lに来て団欒したり、-lに参加するということをalが望む場合に使う。パーティは参加して楽しむものだから (?) のように $\eta\epsilon\mu\lambda\epsilon$ を使う

(?)  $\nearrow$ - $\Lambda$   $\eta\epsilon\eta\lambda\epsilon$ - l- -l - $\Lambda$ -  $\rightarrow$  - $\Lambda$   $\eta\epsilon\mu\lambda\epsilon$ - l- -l - $\Lambda$ - (彼をパーティに呼んだ)

また、(0) (1) はいずれも非文でないが、上記で述べた意味合いにおいて互いに異なる。(0)は彼に何か用があるので来てもらうという意味で、(1)は彼と歓談したいので来てもらうという意味である

(0) -A 7e7i- 1- -1 μ- (彼を家に呼ぶ)

(1) -A 7e7μ- 1- -1 μ- (彼を家に招く)

一方、同じ来てもらうという意味でも-μe7eは特殊である。これは神話に登場する語で、神を召喚するという特殊な意味を持つ。したがってoAには神がくる。神に助力してもらうためにアレフと引き換えに特別に来てもらうことを指す。日常的に使う場合は神に来てもらうという宗教的な意味しか示さない

尚、-μe7eで呼べるのは神だけである。テーマスやアデルは召喚できない。アトワークやアヴェラントも召喚できない。エルト・サールのいずれかである

よって、-μe7eの意味は「alはoA (神) を-1へ召喚する」である

ところで、「呼ぶ」には来てもらう以外に声をかけるとか人を～という名前で呼ぶという意味がある。後者の意味を担うのは-A7eである。-A7eは「alはoAをleしという名前で呼ぶ」。である。再帰だと名乗るという意味にもなる(1) (2)

(1) -A -A7c 1- leし >ccμ (彼女をミールと呼ぶ)

(2) -A -A7e oμ leし (c7Ao (私はティクノと名乗っている)

ところで、(2)の「呼ぶ」は名前にかんすることだから、e7eを使えるのではないかという予想が立つ。e7eの本義は「alはoAにleしという名前を付ける」である。leしが省略されれば単に「oAを名付ける」という意味である。そこで(2)にe7eが使えるかというところではない

(Δ) -A e7i- 1- leし (c7Ao (彼をティクノと名付けた)

この場合、私は彼の名付け親になってしまう。(Δ)では名付け親になってしまうので意味が違う

7i : 論理 : h--7e, h-cl7e, 1-7e, lc7e, >-μ7e, >ccμe

⊙

非 $\circ\Lambda$ -。aI有生。 $\circ\Lambda$ 抽象。完了相はたとえば演繹をし終わった瞬間（

$h--I\lambda e/h-cl\lambda e$

「aIは $\circ\Lambda$ を演繹して-Iという結論を導く」

$I-cI\lambda e/lcI\lambda e$

$I-cI\lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ をclから-Iに導入する」。lcI $\lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ をclから-Iに導出する」

$>-I\lambda e$

「 $\circ\Lambda$ という論理的な内容を-Iに言う」

$>ccI\lambda e$

「 $\circ\Lambda$ を非論理の形から論理化された形に変える」

⊙

非 $\circ\Lambda$ -。aI有生。 $\circ\Lambda$ 抽象。完了相はたとえば演繹をし終わった瞬間

$h--I\lambda e$ は「aIは $\circ\Lambda$ を演繹して-Iという結論を導く」である。学術的な演繹という意味しかないので特に語法の上で注意点はない。 $h-cl\lambda e$ は逆に帰納である。「 $\circ\Lambda$ を帰納して-Iを導く」である

$I-cI\lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ をclから-Iに導入する」という意味である。 $\circ\Lambda$ は抽象で、「この式に虚数を導入する」というような学術的なシーンで使われる。逆にlcI $\lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ をclから-Iに導出する」で、論理学などで良く使われる(✓)

(✓)  $-I lcI\lambda e- le\delta c (a cl le\delta- (a$  (この前提からこの結果を導出した)

$>-I\lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ という論理的な内容を-Iに言う」である。 $\circ\Lambda$ には論理的な内容しかこない。 $\circ\Lambda$ が長い場合、ふつう $\circ\Lambda$ にJo-を入れて次の文に繰り越す

$>ccI\lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ を非論理の形から論理化された形に変える」ことである。日常的に使うとすれば、意味不明なちぐはぐな言葉を分かるように論理的なものにしると頼むときなどが考えられる。だが、そういうことを除けばあまり使うことのない語である

ㄱ: 騒 : l-Vㄹe, lcVㄹe, >-lㄹe, >clㄹe

⊙

ㅇㄴ-. aㄴ有生。ㅇㄴ有生。完了相はㅇㄴが騒ぎはじめた瞬間（

l-Vㄹe/lcVㄹe

l-Vㄹeは「ㅇㄴをうるさくする」。lcVㄹeは「ㅇㄴを静かにさせる」

>-lㄹe/>clㄹe

>-lㄹeは「ㅇㄴを騒がせる」。>clㄹeは「ㅇㄴを沈静する」。l-Vは音がうるさいとって音に焦点を当てている。音の原因には焦点がいかない。>-lㄹは音でなくその原因に焦点がいく。人だかりがうるさい場合、人の声に焦点なのでl-V。人だかりが騒がしい場合、人だかりそのものに焦点なので>-lㄹ)

⊙

ㅇㄴ-. aㄴ有生。ㅇㄴ有生。完了相はㅇㄴが騒ぎはじめた瞬間。ゆえに騒いでいる場合は影響相

l-Vㄹeは「ㅇㄴをうるさくする」という意味で、lcVㄹeは逆に「ㅇㄴを静かにさせる」。非ㅇㄴ-のㅇㄴはふつう有生だが、ㅇㄴ-の場合、aㄴが無生をとることがある(1)

(1) ㅇㄴㄴ cㄴ >- lcV (公園が静かになった)

>-lㄹeは「ㅇㄴを騒がせる」で、>clㄹeは「ㅇㄴを沈静する」である。l-Vは音だけに焦点を当てているが、>-lㄹはその音を立てる原因に焦点を当てるという点で両者は異なる(ㄴ)(?)

(ㄴ) ㅇㄴㄴ cㄴ l-V (公園がうるさい)

(?) ㅇㄴㄴ cㄴ >-lㄹ (公園が騒がしい)

(ㄴ)は音楽や子供の声などが公園から聞こえて、その音が大きくて不快だと考えている。あくまで音に焦点を当てている。一方、(?)では音が不快と感じているかどうかは不明である。公園で何かあったらしく、人だかりができていてそれによって大きな音が出ている。騒がしいと感じる人は不快に思っているかどうかは不明で、単に何が起こったのだろうと

不思議がる程度である。>-lはうるささに関しては何も言わない。そこで非日常的な何かが起こり、人だかりができて音がする。そのことを>-lは表現するだけである

>clも同様に、音が聞こえない静かさというよりは人だかりなどが沈静化していることそのものに焦点を置く。焦点は音ではない

∇Δ : 演 : 4eΛe, 74b>e, 74cl>e

⊙

非oΛ-。al有生。oΛ演じる内容。完了相は演じ終わった時点（

4eΛe

「alはoΛをleしとして振舞わせる」

74b>e

「alはoΛを演じる」

74cl>e

「oΛを演出する」)

⊙

非oΛ-。al有生。oΛ演じる内容。完了相は演じ終わった時点

4eΛeは「alはoΛをleしとして振舞わせる」である。74b>eとの比較が重要(1)(√)。どちらも彼女が本当に良い娘かどうか不明である

(1)では娘に良い娘であるように仕向けている。娘は良い娘であろうと努力する。何もしらない他人は娘を良い娘と思うだろう

逆に(√)ではalが勝手にそのように思い込んでいるので娘は何ら苦勞を要求されない。alは娘を良い娘と思っているが、他人はそう思わないかもしれない

(1) -Λ 4eΛc l- leし >co -o (私は彼女に良い娘であるように振舞わせている)

(√) -Λ 74b>c l- leし >co -o (私は彼女を良い娘として扱う)

一方、74b>eは「alはoΛを演じる」である。oΛには役柄がきても良いし、演じる内容がき

でも良い

では、 $\forall e \lambda x e$ と $\forall x \lambda e$ の違いは何か。 $\forall x \lambda e$ は $\circ \Lambda$ の内容を振舞うだけでなく、演技の役柄を演じるという意味もある。だが $\forall e \lambda x e$ には役柄を演じるという意味はない(?)

(?)  $-\Lambda \forall e \lambda x e \circ \mu \text{ le} \lambda \succ \text{cc} \mu$  (×ミール役を演じる→ミールのように振舞う)

ミールを演じるという意味では(φ)のようにいう

(φ)  $-\Lambda \forall x \lambda e \succ \text{cc} \mu$

また、上述からもわかるとおり、 $\forall x \lambda e$ と $\forall e \lambda x e$ は構文も異なる。以上2点が違いである

一方 $\forall x \lambda e$ は「alは筋書きどおりに $\circ \Lambda$ という劇やイベントが進行するよう影で指示したり尽力したりすること」である。つまり「 $\circ \Lambda$ を演出する」ことである。 $\circ \Lambda$ にはイベントなどがくる

$\forall e \lambda x e$ は「演出する」と違って自分が駒となって動く場合も含める。たとえば映画のディレクターは指示者で自分では動かないが、 $\forall x \lambda e$ は自分で動くこともある。それが違いである

$\lambda \text{L}$  : 授受 :  $\langle -\lambda x e, \langle c \lambda x e, \lambda -\lambda x e, \lambda c \lambda x e, \lambda -\lambda \lambda x e, \lambda c \lambda \lambda x e, \circ \lambda \lambda x e, e \lambda \lambda x e, \lambda \circ \lambda x e, \lambda e \lambda x e$

⊙

非 $\circ \Lambda$ -。al有生。 $\circ \Lambda$ 具象。完了相は所有者が変化した時点（

$\langle -\lambda x e / \langle c \lambda x e$

$\langle -\lambda x e$ は「alは $\circ \Lambda$ をclから取る」。 $\langle c \lambda x e$ は「alは $\circ \Lambda$ を-lに与える」

$\lambda -\lambda x e / \lambda c \lambda x e$

「alは $\circ \Lambda$ をclから得る」。 $\lambda c \lambda x e$ は「alは $\circ \Lambda$ を-lになくす」

$\lambda -\lambda \lambda x e / \lambda c \lambda \lambda x e$

$\lambda -\lambda \lambda x e$ は「alは $\circ \Lambda$ を-lに送る」。 $\lambda c \lambda \lambda x e$ は「alは $\circ \Lambda$ をclから受け取る」。 $\circ \Lambda$ はプレゼント

o<?e/e<?e

o<?eは「aはoをcから奪う」。e<?eは「aはoをcから盗む」

Jo<?e/Je<?e

Jo<?eは「aはoをcから受け取る」。Je<?eは「aはoを-lに渡す」。所有権の移動ではなく単に物理的な移動)

⊙

非o-l。a有生。o具象。完了相は所有者が変化した時点

<-?eは「aはoをcから取る」である。<?eは「aはoを-lに与える」である

一方、?-<?eは「aはoをcから得る」である。?c<?eは「aはoを-lになくす」である。

-lになくすとは、-lがoの行方を表わしている

<-?と?-<?は、aがoを得たのが意図的か否かという違いである。意図的なら<-?/?c?で、非意図的なら?-</?c?である

これら四つはいずれも所有権の移動を示すが、例外的に?c<?eはそうでないことがある。?c?は非意図的に与えることだが、-lがなければただなくしたに過ぎない。単になくしたというときは-lがないため、所有権の移動は起こらない

一方、?-?e, ?c?eも所有権の移動に伴う授受を意味するが、こちらはoがプレゼントであることが条件である。構文は同じで、「aはoを-lに送る」と「aはoをcから受け取る」である。いずれもoがプレゼントでなければならない

また、他にも所有者の移動を表わす語にo<?eとe<?eがある。これは「aはoをcから奪う」と「aはoをcから盗む」である。oを得る方法が犯罪であるという点が共通する。だがo<?eは力づくで奪い、e<?eは知らぬ間に盗み取ることを意味する点で異なる。これらの場合所有者は移動するが、手口が犯罪なので所有権は移動しない

一方、所有権が全く移動しない授受もある。Jo<?e, Je<?eである。これらは賃借のように一時的に使用权が移ることもない。Jo<?eは「aはoをcから受け取る」である。?c?eと違って渡されたものを受け取るという意味である。たとえば食卓で「塩とって」といっ

て取ってもらったときの受け取るが $J_0 \times e$ である

$J_e \times e$ は逆に「 $a$ は $\circ\Lambda$ を $-l$ に渡す」である。これは所有権の移動ではなく、単に物理的な移動しか示さない。 $J_e \times e$ は手渡しがあつたが、投げて渡してもかろうじて $J_e \times e$ のといえる。ベルトコンベアに乗せて相手のところまで回してやっても一応 $J_e \times e$ になる

00 : 賃借 :  $l-\partial \times e, lc \partial \times e, J_0-\times e, J_0c \times e$

⊙

非 $\circ\Lambda-$ 。  $a$ 有生。  $\circ\Lambda$ 具象。 完了形は一時的に使用権が移った時点（

$l-\partial \times e / lc \partial \times e$

$l-\partial \times e$ は「 $a$ は $\circ\Lambda$ を $-l$ に $l_0$ の期間貸す」。  $lc \partial \times e$ は「 $a$ は $\circ\Lambda$ を $cl$ から $l_0$ の期間借りる」。 引き換えるものは $\kappa a^c$ で表わす。  $\circ\Lambda$ を返せば $\kappa a^c$ は手元に戻る

$J_0-\times e / J_0c \times e$

$J_0-\times e$ は「 $a$ は $\circ\Lambda$ を $-l$ に $l_0$ の期間 $\gamma-\mu$ で賃貸しする」。  $J_0c \times e$ は「 $a$ は $\circ\Lambda$ を $cl$ から $l_0$ の期間 $\gamma-\mu$ で借りる」。 引き換えるものは金なら $\gamma-\mu$ 、それ以外は $\kappa a^c$ で表わす。  $\circ\Lambda$ を返しても引き換えたものは手間賃として処理され、手元に返ってこない

⊙

非 $\circ\Lambda-$ 。  $a$ 有生。  $\circ\Lambda$ 具象。 完了形は一時的に使用権が移った時点

$l-\partial \times e$ は「 $a$ は $\circ\Lambda$ を $-l$ に $l_0$ の期間貸す」である。  $lc \partial \times e$ は「 $a$ は $\circ\Lambda$ を $cl$ から $l_0$ の期間借りる」である

$J_0-\times e$ は「 $a$ は $\circ\Lambda$ を $-l$ に $l_0$ の期間 $\gamma-\mu$ で賃貸しする」で、  $J_0c \times e$ は「 $a$ は $\circ\Lambda$ を $cl$ から $l_0$ の期間 $\gamma-\mu$ で借りる」である

$l-\partial$ と $J_0-$ の違いは無料か有料かという違いである

尚、 $l_0$ でなく $\gamma cl \gamma$ とって期限を示しても良い

また、金でなく自分の服の代わりに相手の服を貸した場合は $l-\partial \times e$ を使う(1)

(1)  $-l$   $l-\partial \times e$   $J_0-\times e$   $\Lambda \circ J$   $-l$   $l$   $\kappa a^c$   $J_0-\times e$   $l$  (私は彼の服と引き換えに彼に服を貸した)



また、金に準ずるものと引き換えに貸した場合もI-くえを使う(ノ)

(ノ) -Λ I-くえ- J-é e ΛoJ -I I- <aC hoμλ e I- (私は彼のダイヤモンドと引き換えに彼に服を貸した)

ところが(1)も(ノ)もI-くえでなくJc-えを使うことができる。その場合、意味はどう変わるのか。実はJc-えを使った場合、一度貸したら引き換えたものをもう返さなくて良い。Jc-えはいってみればレンタルするということだからである

たとえばビデオ屋でビデオを700円で借りる。この借りるはlc-えでなくJc-えである。そして一度借りたらビデオを返しても700円は戻ってこない。つまりJc-え/Jc-えではδ-μや&aCに置かれたものは二度と戻ってこないのである

ところがI-くえ/lc-えの場合、借りたものを返せば&aCに置かれたものは返ってくる。ゆえに(ノ)と(0)では意味が違う。(ノ)では金を返せば娘は戻る。しかし(0)では金を返しても娘は帰ってこない。娘は貸してもらった手間賃や諸経費に充当されるためである

(ノ) -Λ lc-え- δcl <aC >c0 (娘と引き換えに金を借りた)

(0) -Λ Jc-え- δcl <aC >c0 (娘と引き換えに金を借りた)

01 : 売買 : -c>え, c<>え, 7-c-え, 7-c<>え, Jc-c<>え, Jc<>え, V-c-え, V-c<>え, 0->え, 0->c<>え

⊙

非oΛ-。al有生。oΛ具象。完了相は取引成立時点（

-c>え/c<>え

-c>えは「alはoΛを-Iに売る」。唯一oΛ-があり、「alは売れる」の意味。c<>えは「alはoΛをclから買う」である

7-c-え/7-c<>え

7-c-えは「alはoΛをclから輸入する」。7-c<>えは「alはoΛを-Iへ輸出する」

Jc-c<>え/Jc<>え

Jc-c<>えは「oΛを-Iに卸売りする」。Jc<>えは「oΛを-Iに小売する」

V-(->e/V-(->c)e

V-(->eは「oAを-lに競で売る」。V-(->c)eは「oAをclから競で買う」

0->->e/0->c)e

0->->eは「alはoAを-lに売春する」。0->c)eは「alはoAをclから買春する」)

⊗

非oA-。al有生。oA具象。完了相は取引成立時点

-(->eは「alはoAを-lに売る」である。唯一oA-があり、「alは売れる」の意味である

c(->eは「alはoAをclから買う」である

∩(->eは「alはoAをclから輸入する」である。∩(->c)eは「alはoAを-lへ輸出する」である

∩(->e/∩(->c)eはどちらも売るの仲間であるが、卸売りと小売の違いである。順に「oAを-lに卸売りする」と「oAを-lに小売する」である。小売とはふつうに売ることであるから、日常生活ではふつう-(->eを使う。経済の話をしているときなどによようやく∩(->c)eが使われる

V-(->eは「oAを-lに競で売る」で、V-(->c)eは「oAをclから競で買う」である。どちらもオークションをして売買することを表わす

0->->eは「alはoAを-lに売春する」である。oAは人を取る。再帰形も可能。0->c)eは「alはoAをclから買春する」である。clがoAと同一の場合、clはなくなる(∨)

(∨) X| 0->c)- |Z la cl |Z la → | 0->c)- |Z la (彼はその少女を買った)

尚、0->-、0->cは人身売買ではなく売春である。主に金銭と引き換えに性交渉することで、奴隷などとして売買することではない。人身売買の場合、-(->e, c(->eを使って、oAに人がくる(?)

(?) |o la eA eC ∩c∩ -(->- >co e A∩ <aC ∩cl (その貧しい母親は金と引き換えに娘を売った)

0∨ : 金 : ∩(->e, ∩(->c)e, ∩(->->e, ∩(->->c)e, |(->->e, |(->->c)e, |(->->->e, |(->->->c)e, |(->->->->e, |(->->->->c)e, |(->->->->->e, |(->->->->->c)e

⊙

非oΛ-。al有生。oΛ金銭、或いはそれに準じるもの。完了相は支払った時点（

γ-γ&e/γcγ&e

γ-γ&eは「alはoΛを-lに払う」。γcγ&eは「alはoΛをclから払われる」

γ-γ&e

「alは>-Λが原因でoΛを-lに償いとして払う」

μ-γ&e

μ-γ&eはγcγ&eの一種で、「oΛをclから稼いだ」。「父は金を稼ぐ」という場合μ-γ&eを使う。

γcγ&eだと稼ぐでなく受け取ったというニュアンスになる

l-γ&e

「oΛ（賃金）を-lに払う」

lecγ&e

「oΛという印税を-lに払う」

Jeμγ&e

「oΛ（金銭）を-lに投資する」

Γ-γ&e

「alはoΛという報酬を-lに与える」である。oΛは金でも良いし、物や行為でも良い

Γμγ&e/Γμeγ&e

Γμγ&eは「oΛという報奨金を-lに与える」。Γμeγ&eは「oΛという罰金をclから奪う」

γ-μ&e

「alはoΛという価格である」或いは「alは-lにとってoΛだけコストがかかる」

⊙

非oΛ-。al有生。oΛ金銭、或いはそれに準じるもの。完了相は支払った時点

γ-γ&eは「alはoΛを-lに払う」で、oΛには金銭がくる。キャッシュでも良いし、カード上の金銭でも良い。物と交換なら物をoΛにしても良い。また、買った品物は金と引き換えたものなので<aΓで表わせる(1)

(1)  $-A \text{ } \delta\text{-}\gamma\text{-} \text{ } h\text{o}\mu\lambda \text{ } -\text{I} \text{ } | \text{ } - \text{ } \langle a\text{C} \text{ } \langle -V \text{ } - \text{ } \text{ (彼にダイヤを払ってドレスを買った)}$

逆に  $\delta\text{C}\gamma\text{e}$  は「 $a\text{I}$  は  $\text{o}\Lambda$  を  $\text{cl}$  から払われる」である。詳細は  $\delta\text{-}\gamma\text{e}$  と同じ

$\gamma\text{-}\delta\text{-}\text{e}$  は  $\delta\text{-}\gamma\text{e}$  の一種で、「償う」の意味。「 $a\text{I}$  は  $\text{>-}\Lambda$  が原因で  $\text{o}\Lambda$  を  $-I$  に償いとして払う」である (✓)。  $\text{o}\Lambda$  は金銭だけでなく行為でも良い

(✓)  $-A \text{ } \gamma\text{-}\delta\text{-}\text{e} \text{ } -A \text{ } V\text{c}\lambda\lambda\text{e} \text{ } | \text{ } -\text{I} \text{ } | \text{ } - \text{ } \text{>-}\Lambda \text{ } -A \text{ } V\text{c}\text{u}\text{-} \text{ } | \text{ } \text{ (彼を傷つけた償いとして彼を守った)}$

$\mu\text{-}\delta\text{e}$  は  $\delta\text{C}\gamma\text{e}$  の一種で、「 $\text{o}\Lambda$  を  $\text{cl}$  から稼いだ」である。労働や窃盗など、金になる行為をして金を得ることである。  $\delta\text{C}\gamma\text{e}$  は金が入ってくる収入のことで、  $\mu\text{-}\delta\text{e}$  は稼ぐことである。

「父は金を稼ぐ」という場合、 (?) になる

(?)  $\times | \text{-e} \text{ } \delta\text{C}\gamma\text{e} \text{ } \delta\text{cl} \rightarrow | \text{-e} \text{ } \mu\text{-}\delta\text{e} \text{ } \delta\text{cl}$

$\delta\text{C}\gamma\text{e}$  では「金を受け取る」という意味で、ニュアンスが違ふ

$| \text{-}\delta$  は賃金の意味で、  $| \text{-}\delta\text{e}$  は賃金を払うである。つまり「 $\text{o}\Lambda$  (賃金) を  $-I$  に払う」という意味である。  $a\text{I}$  は雇用者がくるが、雇用者の名でなく抽象的に会社ということが多い (♯)

(♯)  $V\text{e}\Lambda\text{C} \text{ } | \text{-}\delta\text{-} \text{ } -A \text{ } \text{ (企業が私に賃金を支払った)}$

$\text{lec}\delta$  は印税で、  $\text{lec}\delta\text{e}$  は「 $\text{o}\Lambda$  という印税を  $-I$  に払う」である

$\text{J}\text{e}\mu\delta\text{e}$  は「 $\text{o}\Lambda$  (金銭) を  $-I$  に投資する」である

$\text{C-}\delta\text{e}$  は「 $a\text{I}$  は  $\text{o}\Lambda$  という報酬を  $-I$  に与える」である。  $\text{o}\Lambda$  は金でも良いし、物や行為でも良い。何の報酬か示すときは  $\langle a\text{C}$  で表わす (†)。また、単に報酬の原因と考えるなら  $\langle a\text{C}$  でなく  $\text{>-}\Lambda$  でも良い

(†)  $\langle -A \text{ } \text{Ia} \text{ } \text{C-}\delta\text{-} \text{ } \text{hc}\theta\text{C} \text{ } -\text{I} \text{ } | \text{ } - \text{ } \langle a\text{C} \text{ } | \text{-é} \text{ } \text{ (その女は労働の報酬として彼に体を許した)}$

また、  $\text{C-}\delta\text{e}$  に似たものに  $\text{C}\mu\text{o}\gamma\text{e}$  がある。これは「 $\text{o}\Lambda$  という報奨金を  $-I$  に与える」である。罰金の反対で、何か良いことをしたときに特別に与えられる金である。  $\text{C}\mu\text{o}\gamma\text{e}$  の  $\text{o}\Lambda$  は金し

か取らないし、良いことをしたときしか与えられない

逆に $\text{C}\mu\text{e}\text{?}\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ という罰金を $\text{cl}$ から奪う」である。 $\text{o}\Lambda$ の分だけ $\text{cl}$ から金銭を取ることである。取ることだから $\text{cl}$ を使う。 $-\text{I}$ にしないように

$\text{?}\text{-}\mu\text{e}$ は「 $\text{al}$ は $\text{o}\Lambda$ という価格である」という意味。 $\text{al}$ は商品。 $\text{o}\Lambda$ は金額。 $\text{o}\Lambda$ は抽象的に高い安いともいえる(9)。また、「 $\text{al}$ は $-\text{I}$ にとって $\text{o}\Lambda$ だけコストがかかる」と考えることもできる(9)

(9)  $\text{C}\text{a}\text{ ?}\text{-}\mu\text{e}\text{ }<\text{o}\mu = \text{C}\text{a}\text{ e}\text{C }<\text{o}\mu$  (これは高い)

(9)  $\mu\text{- ?}\text{-}\mu\text{e}\text{ }<\text{o}\mu\text{ }-\text{I}\text{ }-\Lambda$  (家には非常にコストがかかる)

$\text{o}\text{?}$  : 預 :  $\text{C}\text{o}\text{C}\text{?}\text{e}$ ,  $\text{C}\text{e}\text{C}\text{?}\text{e}$ ,  $\text{?}\text{-}\Lambda\text{?}\text{e}$ ,  $\text{?}\text{C}\Lambda\text{?}\text{e}$

⊙

非 $\text{o}\Lambda$ -。  $\text{al}$ 有生。  $\text{o}\Lambda$ 具象。 完了相は預かり始めた時点 (

$\text{C}\text{o}\text{C}\text{?}\text{e}/\text{C}\text{e}\text{C}\text{?}\text{e}$

$\text{C}\text{o}\text{C}\text{?}\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を $-\text{I}$ に預ける」。  $\text{C}\text{e}\text{C}\text{?}\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を $\text{cl}$ から引き出す、返してもらう」

$\text{?}\text{-}\Lambda\text{?}\text{e}/\text{?}\text{C}\Lambda\text{?}\text{e}$

$\text{?}\text{-}\Lambda\text{?}\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を $\text{cl}$ から出て $-\text{I}$ まで出迎える」。  $\text{C}\text{o}\text{C}\text{?}\text{e}$ された人を迎えることはできない。  
 $\text{?}\text{C}\Lambda\text{?}\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を $\text{cl}$ から出て $-\text{I}$ まで見送る」)

⊙

非 $\text{o}\Lambda$ -。  $\text{al}$ 有生。  $\text{o}\Lambda$ 具象。 完了相は預かり始めた時点

$\text{C}\text{o}\text{C}\text{?}\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を $-\text{I}$ に預ける」の意味。 $\text{o}\Lambda$ は預けるものを示す。子供など、人でも良い

$\text{C}\text{e}\text{C}\text{?}\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を $\text{cl}$ から引き出す、返してもらう」で、一度 $\text{C}\text{o}\text{C}\text{?}\text{e}$ したものを返してもらうときに使う。一度 $\text{C}\text{o}\text{C}\text{?}\text{e}$ したものでないと使えない。預けていた子供を返してもらうときにも使える(1)。このときは「迎えに行く」と訳す

(1)  $-\Lambda\text{ }<\text{C}\text{o}\text{C}\text{?}\text{e}\text{- }>\text{C}\text{o }-\text{I}\text{ }-\text{I}\text{- }>\text{C}\text{o }-\text{I}\text{-}\text{e}$ ,  $\text{V}\text{o}\text{I }>\text{C }-\text{I}\text{-}\text{e}$ ,  $-\Lambda\text{ }<\text{C}\text{e}\text{C}\text{?}\text{e}\text{- }-\text{I}\text{a }>\text{cl }-\text{I}$  (仕事前、娘を彼に預けた。)

そして仕事が終わると彼のところに彼女を迎えにいった)

(1)はCe<l>eでなくし-ll>eを使うことができるか？ し-ll>eは「oAをclから出て-Iまで出迎える」という意味である。だが(1)では使えない。一度Co<l>eされた人を返してもらうにはCe<l>eしか使えない。し-ll>eは預けられたもの以外を出迎えるときに使う。自主的に仕事に赴いた人を出迎えるとか、空港まで来た友人を出迎えるとか、預けられたもの以外に使う

逆にlc<ll>eは「oAをclから出て-Iまで見送る」である。詳細はし-ll>eと同じ

00 : 学習 : し-し>e, lc<し>e, <el>e, <ol>e, Co<し>e, Ce<し>e

⊙

非oA-。al有生。oA抽具。完了相はoAについて学習しきった時点（

し-し>e/lc<し>e

し-し>eは「oAを-Iに教える」で、lc<し>eは「oAをclから習う」である。教える教わるの師弟関係しか表わさない

<ol>e/<el>e

<ol>eは「oAを研究する」。<el>eは「oAを学ぶ、勉強する」

Co<し>e/Ce<し>e

Co<し>eは「alはCoCの訓練をoAにする」。Ce<し>eは「alはCoCの教育をoAにする、施す」

⊙

非oA-。al有生。oA抽具。完了相はoAについて学習しきった時点。覚えてマスターしたとは限らないが、履修要項は満たしたような時点

し-し>eは「oAを-Iに教える」で、lc<し>eは「oAをclから習う」である。教える教わるの師弟関係しか表わさない。oAはいかなるものでも良い。物なら物について、人なら人について、事ならその事について、である

<el>e/<ol>eは師弟関係は意識しない。あくまで自分ひとりの問題である。誰かに教わり

つつ勉強しようとも独学だろうとも関係ない。一切師弟関係は意識しない。あくまでoΛについてどのように学ぶかの違いである

<el>eはoΛについての既知の知識を理解習得することである。oΛは人・物・事いずれでもかまわない。人ならその人について既知の知識を理解習得することである

一方、<ol>eはoΛについての未知の知識を知るために考えたり書いたり調べたり実験したりすることを表わす。つまり研究である。他の詳細は<el>と同じ

このように、<ol>eと<el>eはoΛについての知識が未知か既知かという違いがある。日本語の場合、大学院生以上が研究と呼ばれ、それまでは勉強と呼ばれることが多い。高校生が研究をしてもふつつ勉強とみなされる。研究などと言おうものなら生意気と取られる。日本語の場合、研究と勉強は日常的には高尚かそうでないかという違いで実際は使われる。アルカではそうではなく、<ol>eする小学生もいるし、<el>eする学者もいる。高尚とかそうでないという差別なく区別される

一方、<ol>eはalはoΛをoΛの内容で訓練するというので、つまり「alはoΛの訓練をoΛにする」という意味である。再帰形がある。具体的な訓練内容を更に述べる場合、<ol>格を使う(1)

(1) -Λ <ol>e- <ol> <μ>le< <ol> le< <μ> (私は長い道を走ってマラソンの練習をした)

逆に<el>eは教育するという意味で、構文は「alはoΛの教育をoΛにする、施す」という意味である(✓)。alはふつつ有生だが、メタファーなら無生も取れる(✓)

(✓) >c<- <el>e <el>-Λ <ol> -μ)- le< <ol> (小学校では母語として生徒にアルカを教育する)

0f : 好悪 : <ol>e, <ol>e, l-<e, lc<e, <ol>-e, <ol>e, <el>e

⊙

非oΛ-。al有生。oΛ抽具。完了相は好きになった瞬間（

<ol>e/<ol>e

<ol>eは「alはoΛを好む」。<ol>eは「alはoΛを嫌う」

## l-くゝe/lcくゝe

l-くゝeは「oΛを好んで一緒にいたいと思う」。lcくゝeは「oΛを嫌って近づきたくない」

## lc-lゝe/lcclゝe

lc-lゝeは「oΛを愛する」。lcclゝeは「oΛを憎む」

## くゝecゝe

「oΛを即座に第一の恋愛対象とみなす」

⊙

非oΛ-。al有生。oΛ抽具。完了相は好きになった瞬間

l-Λゝeは「alはoΛを好む」である。lcΛゝeは「alはoΛを嫌う」

l-くゝeは「oΛを好んで一緒にいたいと思う」である。lcくゝeは「oΛを嫌って近づきたくない」である

lc-lゝeは「oΛを愛する」である。lcclゝeは「oΛを憎む」である

これらはどれも意味が似ているが、ニュアンスが異なる。l-ΛゝeはoΛに楽しみや面白みや喜びを見出すということである。oΛを良いものとして見て、alがoΛに良さを見出し、alがoΛの良さを享受することである。oΛのために自分を犠牲にしようとはまでは思っていない。また、一緒にいたい、一体化したいとはまでは思っていない

l-くゝeはoΛが好きで、しかも一緒にいたい、一体化したいと願うことである。oΛが必要でなくてはならないと思うことである。その意味でl-くゝeはl-Λゝeより思いが強い。だが、l-くゝeは自分を犠牲にしてまでoΛの幸せを望むことはしない。ふつう恋人を好きだという場合、l-くゝeであることが多い

lc-lゝeはoΛの幸せを自分の幸せより望むことで、l-くゝeより更に思いが強い。献身的な気持ちであり、そもそもこの気持ちを誰にも持てない人もいる。恋人や夫婦が相手だとしても「自分はそこまで献身的にはなれない。お互い助け合うだけだ」とドライに考える人はl-くゝeはできてもlc-lゝeはできない。だが実際のところ、l-くゝeだけで恋愛を続ける人がいるため、愛してるというlc-lゝeだけでなくl-くゝeと訳すこともある

尚、これらの取るoΛは全て共通。人も物も取れる。酒をl-Λゝeすることもできるしlc-lゝeすることもできる。l-Λゝeならただ好きなだけだが、lc-lゝeになるとたとえ自分の体を壊そうとも飲むという強い意味になる



一方、 $\langle ecl \rangle e$ は「 $\circ\Lambda$ を即座に第一の恋愛対象とみなす」である。つまり一目ぼれである。この $\circ\Lambda$ も上記と同じである

09 : 信 :  $\cup\mu \rangle e$ ,  $\cup c\mu \rangle e$ ,  $\Lambda c\text{-}\mu \rangle e$ ,  $\Lambda cc\mu \rangle e$ ,  $\ell e \rangle \rangle e$

⊙

非 $\circ\Lambda$ -。al有生。 $\circ\Lambda$ 抽具。完了相は信じ始めた時点（

$\cup\mu \rangle e / \cup c\mu \rangle e$

$\cup\mu \rangle e$ は「 $\circ\Lambda$ を信じる」。 $\circ\Lambda$ が真だと信じること。 $\cup c\mu \rangle e$ は「 $\circ\Lambda$ を疑う」。 $\circ\Lambda$ が偽だと思ふこと

$\Lambda c\text{-}\mu \rangle e / \Lambda cc\mu \rangle e$

$\Lambda c\text{-}\mu \rangle e$ は「 $\circ\Lambda$ を-Iに任せる」。  $\Lambda cc\mu \rangle e$ は「 $\circ\Lambda$ についてclから任せられる」であり、換言すれば「clのために $\circ\Lambda$ についてあれこれと便宜をはかってやる」

$\ell e \rangle \rangle e$

「 $\circ\Lambda$ を $\circ\circ$ という内容で騙す」)

⊙

非 $\circ\Lambda$ -。al有生。 $\circ\Lambda$ 抽具。完了相は信じ始めた時点

$\cup\mu \rangle e$ は「 $\circ\Lambda$ を信じる」である。 $\circ\Lambda$ が真だと信じることである。 $\circ\Lambda$ には節も取れる。 $\circ\Lambda$ が偽を表わす内容でも良い。その場合、 $\circ\Lambda$ （が偽であるということ）を真だと思ふという意味になる

一方、 $\cup c\mu \rangle e$ は「 $\circ\Lambda$ を疑う」である。 $\circ\Lambda$ が偽だと思ふことである。詳細は $\cup\mu \rangle e$ と同じ

$\cup\mu \rangle e$ は $\circ\Lambda$ に人を取ると、その人の言うことや行動を正しいと思ふことを意味する。逆に $\cup c\mu \rangle e$ の場合、その人の言うことを信じなかったり、その人を不審人物であると思ふことを意味する

$\Lambda c\text{-}\mu \rangle e$ は「 $\circ\Lambda$ を-Iに任せる」である。 $\circ\Lambda$ は委任する内容で、-Iは人である

$\Lambda cc\mu \rangle e$ は「 $\circ\Lambda$ についてclから任せられる」であり、換言すれば「clのために $\circ\Lambda$ についてあ

れこれと便宜をはかってやる」ことである。やはりoΛが内容でclが人である。したがって(1)が成り立つ。左の文は彼に焦点が当たり、右は私に焦点が当たる。事態としては同じである

(1)  $\vdash \wedge c-\cup\lambda-\cup a -\vdash -\Lambda = -\Lambda \wedge cc\cup\lambda-\cup a cl \vdash$  (彼はそれを私に任せた)

一方、 $le\lambda\lambda e$ は「oΛをcΛという内容で騙す」である(∨)(?)

(∨)  $\langle c\Lambda \text{ la } le\lambda\lambda e \rangle-\langle -\Lambda \vdash \cup\Lambda \text{ la } \vdash-\langle \lambda e \vdash$  (この男はあの女を愛しているといっって騙した)

(?)  $\langle c\Lambda \text{ la } le\lambda\lambda e \rangle-\langle -\Lambda \vdash \cup\Lambda \text{ la } \langle c\Lambda\cup\lambda \cup cl -\vdash \vdash \langle a\cup hc\cup\Lambda$  (この男はあの女に性交と引き換えに金をやるといっって騙した)

09 : 助 :  $l-\lambda\lambda e, lcl\lambda e, \cup\Lambda\lambda\lambda e, \cup e\Lambda\lambda\lambda e, \cup\Lambda\cup\lambda e, \cup e\Lambda\cup\lambda e, l-S\lambda e, lcS\lambda e, -\cup\Lambda e\lambda e$

⊙

非oΛ-。al有生。oΛ抽具。完了相は助けた瞬間（

$l-\lambda\lambda e/lcl\lambda e$

$l-\lambda\lambda e$ は「oΛをcΛという内容で助ける」。  $lcl\lambda e$ は「oΛをcΛという内容で邪魔する」

$\cup\Lambda\lambda\lambda e/\cup e\Lambda\lambda\lambda e$

$\cup\Lambda\lambda\lambda e$ は「alはoΛをclから-へどける」。  $\cup e\Lambda\lambda\lambda e$ は「alはoΛを?で通せんぼする」

$\cup\Lambda\cup\lambda e/\cup e\Lambda\cup\lambda e$

$\cup\Lambda\cup\lambda e$ は「oΛとcΛという内容で協力する」。  $\cup e\Lambda\cup\lambda e$ は「cΛについてoΛと競争する」

$l-S\lambda e/lcS\lambda e$

$l-S\lambda e$ は「oΛを親切にする」。  $lcS\lambda e$ は「oΛを不親切にする」)

$-\cup\Lambda e\lambda e$

「oΛをcΛという内容で励ます」

⊙

非oΛ-。al有生。oΛ抽具。完了相は助けた瞬間。相手が助けられてもう大丈夫になり始めた時点

l-l'eは「oΛをc'cという内容で助ける」ことである。oΛには人を取ることが多い。c'cが書かれない場合、漠然とoΛの手伝いをしたとかoΛを救助したという意味になる

l-l'eはoΛが何かをなしとげたり無事に生きたりすることを手助けすることである。たとえば本来oΛが自力でできたであろう達成度の割合をΔ0%だとすると、それを何%でも良いから上げてやることである。l-le'e'は割合を上げた時点を意味するが、その量は定かではない。100%まで上げて良いし、たとえ1%上げただけでもl-l'eといえる

lcl'eは「oΛをc'cという内容で邪魔する」ことである。c'cがなければ漠然と邪魔をするとか助かろうとするのを阻止する、邪魔立てするといった意味になる。これも相手の達成度を1%でも落とせばlcl'eといえる

oΛZ'eは「alはoΛをclから-lへどける」である。邪魔なoΛの場所を変えることを表わす。oΛは人や物で、ふつう物理的な移動を表わす。だが、職場での係りから人をどかせるなど、抽象的な意味も持つ

「どく」という意味では再帰形を使う。-Λ oΛZ'-のように。ゆえに「どいて」はoΛZ'-l (cΛ- -Λ)になる

oΛZ'eは「alはoΛを'で通せんぼする」である。構文がoΛZ'eと違うので注意。oΛZ'eはalがoΛをどけようとすることで、その行為には動きと方向がある。ゆえに-lがくる。だがoΛZ'eはalがoΛを通さないように道を固めることである。alはoΛZ'eと違って道を塞ぐだけなので動きと方向がない。ゆえに-lは取れずに'を取る。(1)はoΛZ'eとoΛZ'eを使った例である

(1) l- oΛZ'- -Λ ' oΛ,, oΛ -Λ oΛZ'- l- cl oΛ (彼は道で私を通せんぼした。だから私は彼を道からどけた)

また、oΛZ'eして通せんぼしている者が、やってきた別の人を邪魔なので突き飛ばしてどけた場合、その人はoΛZ'eしつつoΛZ'eも行ったことになる

VoΛ'eはl-l'eと似ていて、協力するという意味である。つまり「oΛとc'cという内容で協力する」である。oΛには人を取り、c'cに内容を取る点でl-l'eと同じである。それもそのは

ず、これらの意味は良く似ている

V<sub>o</sub>Λ<sub>λ</sub>eも相手の達成度を上げようとするものである。l-l<sub>λ</sub>eの場合alはあくまでサブ要素でoΛがメイン要素であったが、V<sub>o</sub>Λ<sub>λ</sub>eの場合、alもoΛと同じくらいメイン要素である。l-l<sub>λ</sub>eはoΛが行為をしているところにその補助としてalが付く。だがV<sub>o</sub>Λ<sub>λ</sub>eはoΛと協力する形でalがoΛとともに行為をする。行為への干渉度の違いがl-l<sub>λ</sub>eとV<sub>o</sub>Λ<sub>λ</sub>eの違いである

一方、VeΛ<sub>λ</sub>eは「oΛについてoΛと競争する」であり、協力するの反対である(∨)。競う、対抗するなど訳しても良い。競走ではないので走ることではない。単にoΛと協力関係でなく敵対関係でoΛに臨むという意味である

(∨) -Λ VeΛ<sub>λ</sub>- l- oΛ oΛ oΛ-Λ<sub>λ</sub>e l >-Λ- l- (私は彼とどちらがあの少女を彼女にできるか競争した)

l-Sは親切の意味で、これは気持ちではない。性質である。よってSoなど、感情を表わす語と一線を画す。l-S<sub>λ</sub>eはむしろ性質を表わすJo<sub>μ</sub> (高い) などの仲間である。よって構文もJo<sub>μ</sub>eと同じである。よってl-S<sub>λ</sub>eは「oΛを親切にする」という意味である。l-S<sub>λ</sub>eは動詞で使われることは少ない。ふつう形容詞か繫詞である。lcS<sub>λ</sub>eに関しても同様で、「oΛを不親切にする」という意味である

ではl-Sとl-lの違いは何か。l-Sは弱い立場の者に優しくしてやる態度のことである。優しい態度で接してやることや、あれこれと便宜を図ってやることである。だがl-lは態度が優しいかどうかということには頓着しない。また、あれこれ便宜を図るというのとも違う。なぜならl-lは相手がしようとしている行為の達成度を上げるが、l-Sは行為の達成度にかんしては頓着しないからである

l-lは相手が何を達成したいのかはっきりしているときに具体的にその達成度を上げてやる行為である。より目的が具体的な行為である。比べてl-Sは漠然としていて目的はない。単に相手に優しい態度であれこれ便宜を図ることである。その意味でより抽象的である。どちらも助力の意味を持つことは確かだが、意味はこのように異なる。尚、lcSとlclに関しても同様である

一方、-lCe<sub>λ</sub>eは「oΛをoΛという内容で励ます」ことである。励ます内容なら何でも良い。ここでの励ますとは相手の元気ややる気ができるように落ち込んだ相手を言葉や行為で慰め

ることである。慰めるの $\text{C}c\text{-}$ と違うのは言葉だけでなく動作も取れるという点と、優しく宥めるようにではなくむしろ奮い立たせるように元気良くという点である。つまり $\text{-C}c$ は $\text{al}$ の態度も元気が良くなければ成立しない

$\text{O}\Delta$  : 許 :  $\text{lo}\text{li}\text{e}$ ,  $\text{le}\text{li}\text{e}$ ,  $\text{CeS}\text{e}$ ,  $\text{lo}\text{q}\text{e}$ ,  $\text{le}\text{q}\text{e}$ ,  $\text{lo}\text{q}\text{U}\text{e}$ ,  $\text{le}\text{q}\text{U}\text{e}$

⊙

非 $\text{o}\Lambda\text{-}$ 。  $\text{al}$ 有生。  $\text{o}\Lambda$ 抽具 (人か節)。 完了相は許したとき (

$\text{lo}\text{li}\text{e}/\text{le}\text{li}\text{e}$

$\text{lo}\text{li}\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を許す」。  $\text{le}\text{li}\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を許さず仕返しする」

$\text{CeS}\text{e}$

$\text{CeS}\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ に復讐する」。  $\text{le}\text{li}\text{e}$ より意味が強い

$\text{lo}\text{q}\text{e}/\text{le}\text{q}\text{e}$

$\text{lo}\text{q}\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を許可する」である。  $\text{o}\Lambda$ は抽具。 人なら漠然とその人の申し出を許可してやること。 具体的な許可内容を述べるには $\text{Yal}$

$\text{lo}\text{q}\text{U}\text{e}/\text{le}\text{q}\text{U}\text{e}$

$\text{lo}\text{q}\text{U}\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を許可あつてする」。  $\text{le}\text{q}\text{U}\text{e}$ は $\text{lo}\text{q}\text{U}\text{e}$ の反対だから「禁止されて $\text{o}\Lambda$ する」)

⊙

非 $\text{o}\Lambda\text{-}$ 。  $\text{al}$ 有生。  $\text{o}\Lambda$ 抽具 (人か節)。 完了相は許したとき。 もう罪はないと決めた瞬間や、しても良いと認めた瞬間

$\text{lo}\text{li}\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を許す」である。  $\text{o}\Lambda$ は抽具である。  $\text{o}\Lambda$ に人がくればその人を、節がくればその節の内容を許す

$\text{le}\text{li}\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を許さず仕返しする」である。 詳細は $\text{lo}\text{li}\text{e}$ に同じ。 許さない内容は $\text{o}\Lambda$ に取れ、具体的な復讐方法は $\text{Yal}$ で表わす(1)

(1)  $\text{-}\Lambda$   $\text{le}\text{li}\text{-}$   $\text{I-}$   $\text{e-}\text{o}\text{U}\text{-}$   $\text{-}\Lambda$   $\text{Yal}$   $\text{-}\Lambda$   $\text{e-}\text{e}\text{U}\text{c}$   $\text{I-}$  (彼を蹴ることによって彼が私を殴ったことの仕返しをした)

一方、*ʔeSɿe*は「*ɔ*Λに復讐する」である。構文は*leɹɿe*と同じ。*ʔeSɿe*は*leɹɿe*より意味が強いというだけの違いである。*ʔeSɿe*は*leɹɿe*に比べると恨みが積年のものであったり、仕返しの仕方が酷いものである

*leɹɿe*は「*ɔ*Λを許可する」である。*ɔ*Λは抽具。人なら漠然とその人の申し出を許可してやること。具体的な許可内容を述べるには*ʔal*(*ʔ*)

(*ʔ*) -*ʔ* *leɹɿe*- |*ʔ* *ʔeɿɔ* *ʔɔ*- *ʔal* *ʔaɿc* *ɹ*-*ʔ**ʔ**ʔ* (いいよと言って彼がそこに行くのを許した)

*leɹɿe*は逆に「*ɔ*Λを禁止する」である。*ɔ*Λが人なら*ɔ*Λの漠然と申し出や行為を禁止すること

*leɹɿe*は「*ɔ*Λを許可あってする」ことである。*leɹɿe*自体に含まれる「する」という意味は抽象的である。これだけでは具体的に何をするのか分からない。そこで*leɹɿe*の*ɔ*Λはふつう節を取る(*ʔ*)。ただ、何のことだか分かっている場合には節でない場合もありえる(*ʔ*)

(*ʔ*) -*ʔ* *leɹɿe*- -*ʔ* *ʔeʔcʔ* *ʔɔ*- (私は許可あってここに来ているのだ)

(*ʔ*) -*ʔ* *leɹɿe*- *ʔa* (私は許可を得てこうしているのだ)

逆に*leɹɿe*は*leɹɿe*の反対だから「禁止されて*ɔ*Λする」である。より日本語らしく言えば「禁止されているのに*ɔ*Λする」である(*ʔ*)

(*ʔ*) -*ʔ* *leɹɿe*- *ʔeɿɔ* *eZɔ* (禁止されているのに森へ行った)

DL : 養 : *ʔ*-*ʔ**ɿe*, *ʔ*-*clɿe*, *ʔ*-*ʔ**ɿe*, *ʔ**clɿe*, *ʔ*-*clɿe*, *ʔ**clɿe*

⊙

非*ɔ*Λ-。al有生。*ɔ*Λ具象。完了相は*ɔ*Λが育ちきって大人になった時点（

*ʔ*-*ʔ**ɿe*/*ʔ*-*clɿe*

収穫目的

## ㄱ-ㄹㄷㄹe/ㄱcㄹㄷㄹe

収獲目的でない

## ㄱ-cㄹㄷe

ㄱ-cㄹㄷeは授受構文で、「ㄱㄹという栄養を-lに与える」

## ㄱcㄹㄷe

ㄱ-cㄹㄷeの下位概念で、「ㄱㄹという肥料を-lに与える」。植物相手にしか使わない

⊙

非ㄱㄹ-。al有生。ㄱㄹ具象。完了相はㄱㄹが育ちきって大人になった時点

ㄱ--ㄹㄷeは収獲目的で育てること。人を取る場合はたとえば源氏の若紫のようにいずれ嫁にしようとして養うといった意味になる

ㄱ-ㄹㄷㄹeは収獲を目的としない

ㄱ-cㄹㄷeは授受構文で、「ㄱㄹという栄養を-lに与える」という意味である

栄養とは-lが活動する上で必要な体内物質のうち、外部から経口摂取できるものである。塩・砂糖・脂といった身近なものはもちろん、アントシアニンやルチンといったものも全て栄養に含まれる。水さえ栄養である

ただ、血はふつう栄養とはいわない。食品でないし、輸血の場合は経口摂取でないためである。但し、それは人の話しであって、蚊にとっては栄養である

ㄱcㄹㄷeは「-lにㄱㄹという肥料を与える」で、これも授受構文である。ㄱcㄹㄷeは植物にとってのㄱ-cㄹㄷeであり、ㄱ-cㄹㄷeの下位概念に当たる

f0 : 捕縛 : <ㄱㄱㄹㄷㄹe, <eㄱㄹㄷㄹe, <ㄱㄹㄱㄹe, <eㄹㄱㄹe, <ㄱㄹㄷㄹe, <--ㄹㄷe, <-ㄱㄹe

⊙

非ㄱㄹ-。al有生。ㄱㄹ有生。完了相は捕らえて逃げられなくした時点（

## <ㄱㄱㄹㄷㄹe/<eㄱㄹㄷㄹe

＜oΛΛeは「oΛを-lに捕らえる」。＜eΛΛeは「oΛをclから解放する」。肉体的な拘束

＜oΛΛe/＜eΛΛe

＜oΛΛeは「oΛを自由にする」。＜eΛΛeは「oΛを不自由にする」。精神的な拘束

＜oΛe

＜oΛeは「紐を使ってoΛを縛る、結ぶ」

＜--lΛe/＜-clΛe

＜--lΛeは「oΛをきつくする」。＜-clΛeは「oΛをゆるめる」で、oΛには物を取る)

☆

非oΛ-。al有生。oΛ有生。完了相は捕らえて逃げられなくした時点

＜oΛΛeは「oΛを-lに捕らえる」で、逃げられないように捕まえることである。ふつう、が  
んじがらめにするまではいかない。逃げられないようにすれば道具は何でも良い。縄でも  
手錠でも良い。また、逃げたら殺すと言っておいて縛らない場合、言葉を道具にして捕ま  
えていることになる。これも＜oΛΛeといえる。つまり、＜oΛΛeに使う道具は無形でも良い

＜eΛΛeは「oΛをclから解放する」である。oΛが自由にどこへなりとも行けるようにするこ  
とである。一度＜oΛΛeされたもの以外には使えない

＜oΛΛeは「oΛを自由にする」である。＜eΛΛeとの違いは、＜eΛΛeが肉体的な自由である  
のに対し、＜oΛΛeは精神的な自由という点である

＜eΛΛeは「oΛを不自由にする」である。これはoΛを精神的に拘束するという意味である。  
＜oΛΛeは肉体的な拘束なので意味が違う

一方、＜oΛeは＜oΛΛeに似ていて、「紐を使ってoΛを縛る」である。oΛが動けないように  
紐で縛ることである。ただ、＜oΛeはoΛが自分に逆らえないように縛るというニュアンスも  
ある。これは＜oΛeと似ていない。＜oΛeは逃げられなくすることに焦点が置かれている

そのため、暴れている人を抵抗できなくするために縛ることはできても捕まえることは  
できない。暴れている人を捕まえた場合、抵抗できないようにといるところに焦点は当た  
らず、むしろ逃げられないようにとといったニュアンスが強い

一方、＜--lΛeは「oΛをきつくする」で、がんじがらめにする事である。＜oΛeより意味  
が強いが、紐を使うかどうかの指定はない。そのため、紐で縛る場合は＜oΛと明示する必要  
がある。また構文も異なる。彼をきつく縛ると言う場合、彼はoΛになれない(1)



(1) - $\Lambda$  <-- $\lambda$ - < $\sigma$   $\rho$  |- (彼の紐をきつくした=彼をきつく縛った)

<-- $\lambda$ eは方向がないため、-|ではなく $\rho$ を使う

また、<- $\lambda$ eは「 $\sigma$ をゆるめる」で、 $\sigma$ には物を取る。縄を緩める場合、人は $\rho$ を取る(✓)。また、靴の紐をゆるめるは(?)になる

(✓) - $\Lambda$  <- $\lambda$ - < $\sigma$   $\rho$  |- (彼の紐をゆるめる)

(?) - $\Lambda$  <- $\lambda$ - < $\sigma$   $\rho$  |- $\Lambda$

尚、< $\sigma$   $\rho$  |は< $\sigma$  e |と名詞句に代えることができる

f1 : 共 :  $\sigma$  $\lambda$ e, e $\lambda$ e,  $\rho$  $\sigma$  $\lambda$ e,  $\rho$ e $\lambda$ e,  $\sigma$  $\lambda$ e, e $\lambda$ e

⊗

非 $\sigma$ -。al有生。 $\sigma$ 抽具。完了相は随伴しはじめた時点

$\sigma$  $\lambda$ e/e $\lambda$ e

$\sigma$  $\lambda$ eは「 $\rho$ について $\sigma$ を伴う」。e $\lambda$ eは逆に「 $\rho$ について $\sigma$ を伴わない」

$\rho$  $\sigma$  $\lambda$ e/ $\rho$ e $\lambda$ e

$\rho$  $\sigma$  $\lambda$ eは「alは $\sigma$ を兼用する」。 $\rho$ e $\lambda$ eは「alは $\sigma$ を専用にする」

$\sigma$  $\lambda$ e/e $\lambda$ e

$\sigma$  $\lambda$ eは「 $\rho$ について $\rho$ に対してalは $\sigma$ を $\sigma$ と共有する」。e $\lambda$ eは「 $\rho$ について $\rho$ に対してalは $\sigma$ と $\sigma$ を特有する」

⊗

非 $\sigma$ -。al有生。 $\sigma$ 抽具。完了相は随伴しはじめた時点

$\sigma$  $\lambda$ eは「 $\rho$ について $\sigma$ を伴う」である。 $\rho$ で表わされた事態に $\sigma$ を随伴することを表わす(1)

(1) -Λ αῖα >αα αα ααα (娘を旅行に連れて行く)

ααについてはαがメインの役を担う。αはサブか或いは最高でもαと対等の役を担う。αΛのほうがααについてメインの役を担えば、αがαを随伴すると言い換える。たとえば(1)では父のおまけとして娘が旅行に行くのであり、娘はサブである。娘の勉強のための旅行ならば娘がメインなので、娘が父を同伴することになる

尚、ααは逆に「ααについてαを伴わない」ことである

αααは「αはαを兼用する」で、αααは「αはαを専用にする」である。(✓)(?)

(✓) -Λ ααα ααα αα αα (スプーンを娘と兼用する)

(?) -Λ ααα ααα αα (スプーンを自分専用にする)

尚、晴れ雨兼用の傘に対して(♯)のようにいうこともできる

(♯) -Λ ααα αα αα αα αα/αα

一方、αααは「αααについてαααに対してαはααをαと共有する」である。αはαと共にααを共有する。ふつうααは省略されない。αααは範囲指定で、特に指定がなければ省略する。αααは誰に対して共有するかを表わすが、特に指定がなければ省略する(♯)

(♯) -Λ ααα ααα αα αα (私は彼と猫を共有している)

ααは物でも良いし、共通の性質でも良い。αααのαとααの関係は対等で、どちらも等しい割合でααを共有している。ゆえにααをααに持っていき、代わりにαααを置いても良い(♯)

(♯) -Λ/Λ- ααα ααα αα αα (私と彼女は女という特徴を互いに共有している)

αααは「αααについてαααに対してαはαとααを特有する」である。αは物でも良い。その場合は特徴を持つと訳す。ααは特有する仲間である。ここにα, α, αの三人がいて、αとαだけ

女だとする。そのとき、 $\text{C}$ というalは $\text{?}$ という $\text{o}$ とともに $\text{<-}\Lambda$ であるという $\text{o}\Lambda$ をしに対して特有する(9)

(9)  $\text{C } e\text{?}\text{?e}\Lambda \text{ <-}\Lambda e\text{C } \text{o? } \text{?}$

(9)は言い換えれば $\text{C}$ は $\text{?}$ と女という特徴を共有することである。つまり(9)は( $\Delta$ )ともいえる。 $\Delta$ はしが念頭に置かれていない。 $\text{C}$ が $\text{?}$ と女であることを共有することが重要で、しのこととはどうでも良い。逆に(9)はしに対して $\text{C}$ と $\text{?}$ が女という特徴を持っているということが焦点化されている

(9)  $\text{C } \text{o?}\text{?e } \text{<-}\Lambda e\text{C } \text{o? } \text{?}$

尚、 $\text{b}\text{?}\text{C}$ は範囲を表わす。 $\text{C}$ ,  $\text{?}$ ,  $\text{し}$ の中では確かに $\text{C}$ ,  $\text{?}$ は女を特徴とするが、これはあくまで $\text{?}$ 人の中だけであり、世の中にはもっと女が存在する。そこで $\text{b}\text{?}\text{C}$ はこの $\text{?}$ 人の中でという範囲を表わす。また、 $\text{Cel}$ は誰に対する特有かということを表わす(L)

(L)  $\text{b}\text{?}\text{C } \text{la}\text{?}\text{o}, \text{C } e\text{?}\text{?e } \text{<-}\Lambda e\text{C } \text{o? } \text{? } \text{Cel } \text{し}$

$\text{?}/$  : 望 :  $\text{I-}\text{?}\text{?e}, \text{Ic}\text{?}\text{?e}, \text{?c}\text{?}\text{?e}, \text{I-}\text{?}\Lambda\text{?e}, \text{?}\text{o}\text{C}\text{?e}, \text{?}\text{e}\text{C}\text{?e}, \Lambda\text{-}\text{?}\text{?e}, \Lambda\text{c}\text{?}\text{?e}$

⊙

$\text{I-}\text{?}\text{?e}/\text{Ic}\text{?}\text{?e}$

$\text{o}\Lambda$ を望むこと。完了相は $\text{o}\Lambda$ をはっきりと望みだしたとき。 $\text{o}\Lambda$ は抽具語節

$\text{?c}\text{?}\text{?e}$

$\text{?c}\text{?}\text{?e}$ は適わないと分かっているときに使う $\text{I-}\text{?}\text{?e}$

$\text{I-}\text{?}\Lambda\text{?e}$

適えるを意味する。完了相は実際に願いを適えた時点

$\text{o}\Lambda$ には適えてやる内容がくる。抽具語節

$\text{?}\text{o}\text{C}\text{?e}/\text{?}\text{e}\text{C}\text{?e}$

「 $\text{o}\Lambda$ という命令を $\text{-I}$ に命じる」である。 $\text{o}\Lambda$ にはふつう節がくるが、語も

μe(は命令でなく依頼

Λ-J&e/ΛcJ&e

Λ-J&eは「(o(についてoΛを支えてやる、補佐する」。ΛcJ&eは「依存する」

⊙

非oΛ-。oΛ抽具

I-し&eはoΛを望むこと。完了相はoΛをはっきりと望みだしたとき。たとえばケーキを見て一瞬ほしかないかと思いはじめたときがI-し&e(。だがまだこの段階ではケーキが目に入った瞬間である。徐々に自分がほしいと意識していくところがI-し&eJ。そして自分はこれがほしいと思い、「あ、ほしい」と思った瞬間がI-し&e)である

oΛが物や人なら「ほしい」という意味。人をほしいとは解釈が多く、人材としてほしいとか恋人としてほしいとか、さまざまである。また、oΛは抽象も節を取れる(1)

(1) -Λ I-し&c (c )e(はo )o-

尚、願う相手がoΛから推測できない場合、相手は-Iに来る。(/)の場合、君がくるように彼に願うという意味である。相手が-Iに来るのはIcし&eも>cIし&eも同じである

(/) -Λ I-し&c (c )e(はo )o- -I Ia

逆にIcし&eはそうなってほしくないと思うこと。詳細はI-し&eと同じ。物や人を取る場合、いらぬという意味になる

>cIし&eはI-し&eと同じく願うことだが、>cIし&eは適わないと分かっているときに使う。後はI-し&eと同じである

I-θΛ&eは適えるを意味する。完了相は実際に願いを適えた時点。oΛには適えてやる内容がくる。節を取ることが多いが、人を取ってその人の願いを聞いてやるという意味になることもある(/) (?)

(✓)  $-A \vdash \exists x \neg \neg C \quad \neg e \quad \neg c \quad \neg o-$

(?)  $-A \vdash \exists x \neg \neg C$

$\mu o \neg e$ は命令を表わす。完了相は命令を出したときで、遂行されたときではない。「 $\circ A$ という命令を $-I$ に命じる」である。 $\circ A$ にはふつう節がくる(Ⓞ)。語だけで命令が伝われば語でも良い(ℓ)。また、 $-I$ は $\circ A$ から分かれば省略する

(Ⓞ)  $-A \quad \mu o \neg c \quad C \quad \neg e \quad \neg o \quad \neg o-$

(ℓ)  $-A \quad \mu o \neg c \quad C_a \quad -I \quad C$

$\mu e \neg e$ は「 $\circ A$ という依頼を $-I$ に頼む」である。命令が依頼に軟化しているだけである

$\wedge -J \neg e$ は「 $\neg C$ について $\circ A$ を支えてやる、補佐する」という意味である。完了相は支え始めた瞬間。 $\circ A$ はモノである。物理的に体を支えるという意味と補佐するという抽象的な意味がある

後者は $\wedge -I \neg e$ とどう違うか。 $\wedge -I \neg e$ は選挙民が利益をくれそうな政治家を支えるようなイメージがある。計算的な支持である。 $\wedge -J \neg e$ は妻が夫を支えるようなイメージがある。人情味である。自分と利害が一致している者を利益のために主に金銭的に支えるのが $\wedge -I \neg e$ で、好きな相手を主に励ましや愛情などや金銭で支えるのが $\wedge -J \neg e$ である。大きな違いはないが、語の持つイメージが異なる

$\wedge c J \neg e$ は逆に「 $\neg C$ について $\circ A$ に依存する」である。詳細は $\wedge -J \neg e$ と同じ

ℓ? : 戦 :  $V - J \neg e, V c J \neg e, C o V \neg e, -I \neg e \delta \neg e, V - J - \neg e, V - J c \neg e, V - J I \neg e, V c J I \neg e$

⊛

非 $\circ A-$ 。いずれも敵などの相手を $\circ A$ に取る。 $\circ A$ 有生。完了相は戦争終了時

$V - J \neg e / V c J \neg e$

「 $a$ は $\circ A$ と戦う」である。戦う相手を $\circ A$ に取る。味方は $\circ \neg$ で表わす

$C o V \neg e$

「oΛと喧嘩する」で、V-Jeの下位概念

-IeSe

「oΛと決戦する」という意味で、V-Jeの下位概念

V-Je/V-Je

「oΛについてoΛと試合する」という意味。ルールのある競争を意味する

逆にV-Jeはルールのない競争を意味する

V-Je/V-Je

V-Jeは「攻撃側としてoΛと戦う」「oΛを攻める」。V-Jeは「oΛに対して防戦する」

◇

V-Jeは「alはoΛと戦う」である。戦う相手をoΛに取る。味方はoで表わす(1)

(1) eJ V-Je- (ee>J o) J--J

V-Jeは「oΛと和平する、仲良くする」という意味である。和平相手をoΛに取る。alが誰とともにoΛと和平するかを表わすにはoを取る

oV-Jeは「oΛと喧嘩する」で、V-Jeの下位概念である。程度や規模の小さい戦いで、殺し合いではなくせいぜい殴り合い程度のもの。また、V-Jeは一对一の戦いでも複数体複数の戦いでもあるが、oV-Jeは一对一が多い

-IeSeは「oΛと決戦する」という意味で、V-Jeの下位概念。決戦なので最も大きな、そしてふつう最後の戦いのときに使う

V-Jeは「oΛについてoΛと試合する」という意味である。ルールのある競争を意味する。逆にV-Jeは「oΛについてoΛと争う」という意味である。こちらはルールのない競争を意味する

V-Jeは「攻撃側としてoΛと戦う」であり、つまりは「oΛを攻める」である。V-Jeと同じく戦うであるが、それが攻撃側としてであるということを明示したものがV-Jeである

逆に  $V_{c\lambda}e$  は「防御側として  $\circ\Lambda$  と戦う」である。つまり「 $\circ\Lambda$  に対して防戦する」である (✓)

(✓)  $-M_e V_{c\lambda}e - V-M_e \gamma - M_e - Z-M_e$

⑩ : 勝敗 :  $V-J\lambda e, \circ-V\lambda e, V_{c\lambda}e, V_{\circ\lambda}e, V_{e\lambda}e$

⊙

非  $\circ\Lambda$ 。  $\circ\Lambda$  抽具。完了相は勝敗が決まった時点

$V-J\lambda e / V_{c\lambda}e$

$V-J\lambda e$  は「 $\lambda$  は  $\circ\Lambda$  に勝利する」という意味

$\circ\Lambda$  抽具。人だけでなく試験や宝くじも取れる

$\circ-V\lambda e$

「 $\circ\Lambda$  という競技会で優勝する」である。  $\circ\Lambda$  は競技会を取り、人は取らない

$V_{\circ\lambda}e / V_{e\lambda}e$

「 $\circ\Lambda$  に対して勝ち名乗りを上げる、勝利宣言をする、勝鬨をあげる」

$V-J\lambda e$  と同じ  $\circ\Lambda$  を取る

⊙

非  $\circ\Lambda$ 。  $\circ\Lambda$  抽具。完了相は勝敗が決まった時点

$V-J\lambda e$  は「 $\lambda$  は  $\circ\Lambda$  に勝利する」という意味である。  $\circ\Lambda$  が有生の場合、戦いや競争に勝つことを意味する。  $\circ\Lambda$  が無生の場合、たとえば試験や宝くじの場合、合格するや当たるという意味になる

$\circ-V\lambda e$  は「 $\circ\Lambda$  という競技会で優勝する」である。  $\circ\Lambda$  は競技会を取り、人は取らない (1)

(1)  $- \Lambda V-J\lambda e - \Gamma, \circ-V\lambda e - V-J-$

逆に  $V_{c\lambda}e$  は「 $\circ\Lambda$  に負ける」である。同じ  $\circ\Lambda$  を取る

一方、  $V_{\circ\lambda}e$  は「 $\circ\Lambda$  に対して勝ち名乗りを上げる、勝利宣言をする、勝鬨をあげる」であ

る。V-JC:eと同じく勝利を表わすが、V<sub>o</sub>J:eは勝利を声明に出して公表するという行為を表わす。V-JC:eと同じoΛを取れる(✓)(?)。(?)は合格したことを皆に公表するときを使う

(✓) -JCe V<sub>o</sub>J:- Cee>J C<sub>o</sub>C V-JCe

(?) -Λ V<sub>o</sub>J:- C-θJ

逆にVeJ:eは「oΛに降伏する、負けを認める」である。VcJ:eと同じoΛを取れる。試験の場合、落ちたことを認めて公表するという意味になる

ff : 会 : -JCe, cJCe, loΛJ:e, leΛJ:e

⊙

非oΛ-。oΛ有生。完了相は集合した時点

-JCe/cJCe

「oΛに会う」である。何か用事があって特定の場所と時間に会うことを指す。待ち合わせと鉢合わせの区別はない。cJCeは別れる

loΛJ:e/leΛJ:e

loΛJ:eは「oΛに待ち合わせて会う」で、-JCeの下位である

leΛJ:eは鉢合わせを意味する。「oΛにたまたま会う、出くわす」

⊙

非oΛ-。oΛ有生。完了相は集合した時点。たとえば人が待ち合わせ場所に行って会う人と出くわした瞬間

-JCeは「oΛに会う」である。何か用事があって特定の場所と時間に会うことを指す。また、ちょっとすれ違って道端で話す程度では-JCeといわない。教室や病院の待合室で一緒になってちょっと世間話した程度でも-JCeといわない。何か用事があってそのためにわざわざ集まるとき、-JCeという

ただ、わざわざでなく鉢合わせの場合でも-JCeといえる。かねてから用事があった人にたまたま出くわして、好都合なのでその場で用事を済ませる場合も-JCeといえる。ゆえに



- $\text{c}\text{c}\text{e}$ は待ち合わせと鉢合わせの区別がない

$\text{c}\text{c}\text{e}$ は「 $\text{o}\text{A}$ と別れる」である。会っていた人と別れる場合にしか使えない。恋人が別れるという意味や、人が仲たがいするという意味では使えない(ノ)

(ノ)  $-\text{A} \text{c}\text{c}\text{e} - \text{I} - \text{c} - \text{el}\text{c}$  (学校で彼と別れた)

$\text{le}\text{A}\text{c}\text{e}$ は「 $\text{o}\text{A}$ に待ち合わせて会う」で、 $-\text{c}\text{c}\text{e}$ の下位である。 $-\text{c}\text{c}\text{e}$ は待ち合わせと鉢合わせの区別をしないが、 $\text{le}\text{A}\text{c}\text{e}$ は待ち合わせを専門に表わす。その他の詳細は $-\text{c}\text{c}\text{e}$ と同じである

そして $\text{le}\text{A}\text{c}\text{e}$ が鉢合わせを意味する。「 $\text{o}\text{A}$ にたまたま会う、出くわす」という意味である。これも $-\text{c}\text{c}\text{e}$ と詳細は同じである

$\text{f}\text{f}$ : 集:  $\text{A}\text{o}\text{c}\text{e}$ ,  $\text{Ae}\text{c}\text{e}$ ,  $\text{>}\text{c}\text{e}$ ,  $\text{>}\text{c}\text{c}\text{e}$

⊙

$\text{o}\text{A}$ -あり。 $\text{o}\text{A}$ 抽具。ふつうモノ。完了相は集合しきった時点

$\text{A}\text{o}\text{c}\text{e}/\text{Ae}\text{c}\text{e}$

$\text{A}\text{o}\text{c}\text{e}$ は「 $\text{o}\text{A}$ を $\text{cl}$ から $-\text{I}$ に集める」である

$\text{cl}$ は随意格。 $-\text{I}$ は集合地点を指す。ふつう人や物を取る

$\text{A}\text{o}\text{c}\text{e}$ ,  $\text{Ae}\text{c}\text{e}$ は個性を失わない

$\text{>}\text{c}\text{e}/\text{>}\text{c}\text{c}\text{e}$

$\text{>}\text{c}\text{e}$ は「 $\text{o}\text{A}$ を $-\text{I}$ に合流させる」。  $\text{>}\text{c}\text{c}\text{e}$ は「 $\text{o}\text{A}$ を $-\text{I}$ に分ける」

$\text{>}\text{c}\text{e}$ は $\text{o}\text{A}$ が個体、 $-\text{I}$ が集合。  $\text{>}\text{c}\text{c}\text{e}$ は逆に $\text{o}\text{A}$ が集合、 $-\text{I}$ が個体

$\text{>}\text{c}\text{e}$ ,  $\text{>}\text{c}\text{c}\text{e}$ は個性の捨象が鍵

⊙

$\text{o}\text{A}$ -あり。 $\text{o}\text{A}$ 抽具。ふつうモノ。完了相は集合しきった時点

$\text{A}\text{o}\text{c}\text{e}$ は「 $\text{o}\text{A}$ を $\text{cl}$ から $-\text{I}$ に集める」である。 $\text{o}\text{A}$ -あり。 $\text{cl}$ は随意格。 $-\text{I}$ は集合地点を指す。

ふつう人や物を取る。金という物も取れるし、力という抽象的なモノも取れる

$\Lambda\cup e$ は集めるというところから、 $\circ\Lambda$ は一般名詞のときは大抵複数なので、 $\circ\Lambda$ をわざわざ複数形で書くことはない(1)

(1)  $-\Lambda \Lambda\cup e - lec -l \cup e$

$\Lambda e\cup e$ は「 $\circ\Lambda$ を $cl$ から $-l$ に散らばらせる」である。 $cl$ は集まっていた地点を指す。 $-l$ はふつう様々な場所を取る。 $cl, -l$ は随意格

(1)  $\succ V \Lambda e\cup e - lec cl \cup e$

一方、 $\succ\cup e$ は「 $\circ\Lambda$ を $-l$ に合流させる」である。 $\circ\Lambda$ -あり

$\Lambda\cup e$ はいくつもの個体を合わせることであった。 $\Lambda\cup e$ の場合、集まった個々の要素は個体として認識される。ところが $\succ\cup e$ は一つのまとまりで認識され、個々の要素は個性を失う。 $\succ\cup e$ のプロトタイプは川である。川が $\sqrt$ 本集まって1本の川になるとき、もともと $\succ\cup e$ がふさわしい。 $\sqrt$ 本の川は個性を失って一つのまとまりになる

$\circ\Lambda$ が川でなく人間のときも同様である。人間が融合することはないが、個性を焦点化しないで集団を焦点化することによって個性を失うことができる。 $\succ\cup e$ が人間を取る場合、個々の人間には焦点を当てず、集合に焦点を当てている

また、 $\succ\cup e$ の $-l$ は集合や集合地点でも良いし(1)、結果状態でも良い(2)。(2)の場合、別々に動いている彼らを一つの集団にまとめたということで、 $\cup$ は一つの集団という結果状態を表わしている

(1)  $e\cup e \cup a e\cup \succ\cup -l e\cup e le$

(2)  $-\Lambda \succ\cup e - la\cup -l \cup$

$\succ\cup e$ は「 $\circ\Lambda$ を $-l$ に分ける」である。 $\succ\cup e$ は $\circ\Lambda$ という個体の個性を失わせて $-l$ という集合に集めることを指す。そして $\succ\cup e$ は $\circ\Lambda$ という個性を失った集合を $-l$ という個体に分けることを指す。集合が $-l$ から $\circ\Lambda$ に代わっているが、いずれにせよ個性の捨象が両社を理解する上で共通の鍵である

>c(→e もやはり -l に分岐物や分岐地点 (f) と結果状態 (s) を取れる

(f) -l >c(→e - e)e (a -l (→e)e

(s) -l∪∪ >c(→e - l∪∪∪ -l (→e (二手に分かれた)

f∪ : 催 : c(→e, c(e→e, -l→e, -l→e,

⊙

非∪∪-。∪∪は抽具。完了相は会議終了時点

c(→e

「alは∪∪という会に出席する」という意味である。∪∪には会の名や内容がくる

c(e→e

「alは∪∪とデートする」

-l→e

「alは∪∪について∪∪と会議する」である。∪∪は会議の内容で、∪∪は会議する相手である

-l∪→e

「∪∪についての宴会と∪∪と開く」である。∪∪には宴会する理由がくる

⊙

非∪∪-。∪∪は抽具。完了相は会議終了時点

c(→eは「alは∪∪という会に出席する」という意味である。∪∪には会の名や内容がくる。  
∪∪はイベントであるなら何でも良い。人が集まって何かするイベントを漠然とc(→eと呼んで  
いる。そしてc(→eはそれに参加することである

c(e→eは「alは∪∪とデートする」である。alと∪∪は恋人同士かこれから恋人未満の間柄であ  
る。恋人や恋人未満が互いに会い、どこかで何かして楽しく時間を過ごすことである。遊  
園地にいたり図書館にいたり、内容は何でも良い。性交渉があってもなくてもc(e→e  
といえる。本当は好きでないが金のためにするデートでもc(e→eといえる

-ㄱ-ㄹeは「alはoΛについてoㄱと会議する」である。oΛは会議の内容で、oㄱは会議する相手である。何かを話し合って決めるための集まりが-ㄱ-である

-ㄴ-ㄹeは「oΛについての宴会とoㄱと開く」である。oΛには宴会する理由がくる(1)。尚、alがoㄱも表わすことがある。(1)はalが-ㄴでoㄱがlaㄴoでも良いが、oㄱをalにまとめて-ㄴㄴoとしている

(1) -ㄴㄴo -ㄴ-ㄹ- >cㄴ- (花見をした)

ㄹΔ : 敵 : ㄹoㄴㄹe, ㄹeㄴㄹe, h-ㄹㄴㄹe, hㄹㄴㄹe

⊙

非oΛ-。oΛ有生。完了相は敵と認めた時点

ㄹoㄴㄹe/ㄹeㄴㄹe

「ㄱoㄱについてalはoΛの味方をする」「oΛと組む」

h-ㄹㄴㄹe/hㄹㄴㄹe

「ㄱoㄱについてalはoΛを友人にする」

⊙

非oΛ-。oΛ有生。完了相は敵と認めた時点

ㄹoㄴㄹeは「ㄱoㄱについてalはoΛの味方をする」「oΛと組む」という意味である。oΛは有生、特に人

逆にㄹeㄴㄹeは「ㄱoㄱについてalはoΛの敵になる」「oΛと敵対する」という意味である。やはりoΛは人

h-ㄹㄴㄹeは「ㄱoㄱについてalはoΛを友人にする」である。逆にhㄹㄴㄹeは「ㄱoㄱについてalはoΛをライバルにする」である

ㄹL : 推薦 : ㄹ-ㄴㄹe, ㄹcㄴㄹe, <eㄴㄹe, ㄴccㄹㄹe, ㄹ-<ㄹe, ㄹc<ㄹe

⊙

### l-ʌe/lcʌe

「oʌを-lに推薦する」である。oʌは抽具。推薦内容が来ても良いし、人が来ても良い。人が来ると、その人を適任として薦めることを指す

### <eʌe

「oʌを-lに勧誘する」。l-ʌeと<eʌeの違いはalを含まないか否かの違いである

### ʌccʌe

「ʌccʌeについてoʌを誘惑するである」。oʌは人が来る。大抵は異性を恋仲や性交渉に誘惑することである。ただ、悪事に誘う場合もある

### ʌ-cʌe/ʌcʌe

「oʌを-lに立候補させる」である(1)。自発的な立候補の場合、再帰形を使う(ʌ)。ふつう再帰形を使う。ʌcʌeは推薦

⊙

非oʌ-。oʌ抽具。完了相は推薦を申し込んだ時点

l-ʌeは「oʌを-lに推薦する」である。oʌは抽具。推薦内容が来ても良いし、人が来ても良い。人が来ると、その人を適任として薦めることを指す

lcʌeは「oʌを-lに警告する」である。oʌが内容ならその内容を警告する。oʌが人ならその人は不適であるとか危険であると警告することを指す

<eʌeは「oʌを-lに勧誘する」である。l-ʌeと詳細は同じ。何が違うかということ、l-ʌeは-lが賛成すれば-lは一人でoʌを行う。だが、<eʌeは-lが賛成すればalとともにoʌを行う。alを含まないか否かの違いである

ʌccʌeは「ʌccʌeについてoʌを誘惑するである」。oʌは人が来る。大抵は異性を恋仲や性交渉に誘惑することである

ただ、悪事に誘う場合もʌccʌeを使う。この場合、異性間でなくとも良い

$\mu\text{-}\langle\text{z}\rangle\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を-Iに立候補させる」である(1)。自発的な立候補の場合、再帰形を使う(✓)。ふつう再帰形を使う

(1)  $-\Lambda \mu\text{-}\langle\text{z}\rangle\text{-} \text{I-} -\text{I} \mu\text{o}\text{J}$  (彼を委員長に立候補させた)

(✓)  $-\Lambda \mu\text{-}\langle\text{z}\rangle\text{-} \Lambda\text{o}\text{J} -\text{I} \mu\text{o}\text{J}$

$\mu\text{c}\langle\text{z}\rangle\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を-Iに推薦する」である(?)。では、(1)と(?)の違いは何か。(1)は「君が立候補すれば絶対受かる」などに入れ知恵して $\text{o}\Lambda$ を立候補させることである。表向きは $\text{o}\Lambda$ が立候補したように見える

(?)は私が彼を委員長に推薦する場合で、公言しているので表向きにも $\text{o}\Lambda$ が推薦されたように見える。(1)の場合、立候補枠に入るが、(?)は推薦枠に入る

(?)  $-\Lambda \mu\text{c}\langle\text{z}\rangle\text{-} \text{I-} -\text{I} \mu\text{o}\text{J}$

50 : 案内 :  $\text{S}\text{o}\langle\text{z}\rangle\text{e}$ ,  $\text{S}\text{e}\langle\text{z}\rangle\text{e}$

⊙

非 $\text{o}\Lambda$ -。  $\text{o}\Lambda$ 抽具。完了相は紹介を終えた時点

$\text{S}\text{o}\langle\text{z}\rangle\text{e}/\text{S}\text{e}\langle\text{z}\rangle\text{e}$

$\text{S}\text{o}\langle\text{z}\rangle\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を-Iに紹介する」である。 $\text{o}\Lambda$ は人や物を取る。学問や理論や思想など、抽象的なものも取れる。-Iが知らない人、物、考えなどを知らせることである

$\text{S}\text{e}\langle\text{z}\rangle\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を-Iに案内する」である。 $\text{o}\Lambda$ は人を取る。-Iは主に場所を取る。 $\text{o}\Lambda$ が不案内である-Iに $\text{o}\Lambda$ を連れて行くことである。また、-Iは場所以外も取れる

⊙

非 $\text{o}\Lambda$ -。  $\text{o}\Lambda$ 抽具。完了相は紹介を終えた時点

$\text{S}\text{o}\langle\text{z}\rangle\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を-Iに紹介する」である。 $\text{o}\Lambda$ は人や物を取る。学問や理論や思想など、抽象的なものも取れる。-Iが知らない人、物、考えなどを知らせることである

考えは取るが情報は取らない。たとえば勝利を知らせる場合、 $\text{S}\text{o}\langle\text{z}\rangle\text{e}$ は使えない。 $\text{S}\text{o}\langle\text{z}\rangle\text{e}$

は知らせるとというのが本義ではない。-Iが知らない人、物、考えなどを知らせることによって-IがoAに不案内でなくなることを指す。不案内でなくするという点でし-J&eとも異なる

SeC&eは「oAを-Iに案内する」である。oAは人を取る。-Iは主に場所を取る。oAが不案内である-IにoAを連れて行くことである。また、-Iは場所以外も取れる。数学の世界へ案内するというような比喩的な用法である(1)

(1) -I SeC&c Cc -I -IK

㊦ : 訪 : しo>&e, しe>&e

⊙

非oA-。oAは人か場所。完了相は訪問した時点

しo>&e/しe>&e

どちらも「oAを訪れる」。oAは人か場所。しo>&eは目的のある訪問。しe>&eは目的のない訪問で、物見遊山

⊙

非oA-。oAは人か場所。完了相は訪問した時点。たとえばチャイムを鳴らして相手に対応した時点。中に入って話してから帰る時点ではない

しo>&eは「oAを訪れる」である。oAは人か場所を取る。実はしe>&eも「oAを訪れる」である。では何が違うのか。しo>&eは目的があってoAを訪ねることである。一方、しe>&eは目的がなくoAを訪ねることである。つまり、物見遊山することである

友人が遊びに来る場合、特に目的もなく遊びに来るならしe>&eである。一方、何か話しがあって来たり、何か遊ぶ内容が決まっている場合はしo>&eになる

㊦ : 雇 : <oA>&e, <eA>&e

⊙

非 $\omega$ -。  $\omega$ は人。完了相は雇うことが決定した時点

$\langle\omega\lambda\lambda\epsilon/\epsilon\lambda\lambda\epsilon\rangle$

$\langle\omega\lambda\lambda\epsilon\rangle$ は「 $\omega$ を $\lambda\epsilon$ の役職で雇う」である。  $\lambda$ はメタファーとしての企業でも個人でも良い。  $\langle\epsilon\lambda\lambda\epsilon\rangle$ は解雇

⊗

非 $\omega$ -。  $\omega$ は人。完了相は雇うことが決定した時点

$\langle\omega\lambda\lambda\epsilon\rangle$ は「 $\omega$ を $\lambda\epsilon$ の役職で雇う」である。  $\lambda$ はメタファーとしての企業でも個人でも良い(1)

(1)  $\lambda\omega\omega\langle\omega\lambda\lambda\epsilon\rangle-$   $\lambda-$

$\langle\omega\lambda\lambda\epsilon\rangle$ は $\omega$ を雇い、労働を得る代わりに賃金を払う契約をすることである。企業でなく、親が手当を当てる代わりに子に特別な手伝いをさせる場合も $\langle\omega\lambda\lambda\epsilon\rangle$ といえる

$\langle\epsilon\lambda\lambda\epsilon\rangle$ は「 $\omega$ を $\lambda\epsilon$ の役職から解雇する」である。一度雇用したものを $\omega$ に取る

⊗ : 期待 :  $\lambda-\lambda\lambda\epsilon, \lambda\omega\lambda\lambda\epsilon, \lambda-\lambda\lambda\epsilon, \lambda\omega\lambda\lambda\epsilon$

⊗

非 $\omega$ -。  $\omega$ 抽具。完了相は期待を抱いた時点

$\lambda-\lambda\lambda\epsilon/\lambda\omega\lambda\lambda\epsilon$

「 $\omega$ に期待する」。  $\omega$ が人ならその人のこれからの行為を楽しみに待つことや、その人が上手くいかどうかと心待ちにすることを表わす。  $\lambda\omega\lambda\lambda\epsilon$ は心配する

$\lambda-\lambda\lambda\epsilon, \lambda\omega\lambda\lambda\epsilon$

$\omega$ が大丈夫だろうと信頼することと、大丈夫だろうか心配すること

⊗

非 $\omega$ -。  $\omega$ 抽具。完了相は期待を抱いた時点



$\Gamma\Lambda\lambda\epsilon$ は「 $\alpha\Lambda$ に期待する」である。 $\alpha\Lambda$ が人ならその人のこれからの行為を楽しみに待つことや、その人が上手くいくだろうと心待ちにすることを表わす。(1)は、君がこれから上手くやるだろうと心待ちにすることを表わす。つまり期待するである

$\alpha\Lambda$ が物や節なら $\alpha\Lambda$ が実現することを心待ちにすることである。(1)は、君が試験に受かることを心待ちにすることで、期待するである

(1)  $-\Lambda \Gamma\Lambda\lambda\epsilon \text{ c c}$

(1)  $-\Lambda \Gamma\Lambda\lambda\epsilon \text{ c c } V\text{-}\mathcal{U}\text{c}\epsilon\text{o } \text{ c-}\mathcal{U}\mathcal{U}$

$\alpha\Lambda$ は $\alpha\Lambda$ が実現することを願うが、どれくらいの確率で実現するかについては語らない。なるかもしれないという予測や、まあなるだろうという予想などがありえる。ただ、絶望視していることはない

$\Gamma\alpha\Lambda\lambda\epsilon$ は「 $\alpha\Lambda$ を心配、懸念する」である(1)

(1)  $-\Lambda \Gamma\alpha\Lambda\lambda\epsilon \text{ c c } V\text{c}\mathcal{U}\text{c}\epsilon\text{o } \text{ c-}\mathcal{U}\mathcal{U}$

$\Gamma\Lambda\lambda\epsilon$ は $\alpha\Lambda$ が大丈夫だろうと信頼すること。 $\Gamma\alpha\Lambda\lambda\epsilon$ は大丈夫だろうか心配すること(1)

(1)  $-\Lambda \Gamma\alpha\Lambda\lambda\epsilon \text{ l-}$  (彼、大丈夫かなあ)

☞ : 吝 :  $Z\alpha\lambda\epsilon, Ze\lambda\epsilon, \mathcal{U}\text{b}\text{c}\epsilon, \mathcal{U}\text{le}\text{c}\epsilon$

⊙

非 $\alpha\Lambda$ -。  $\alpha\Lambda$ は物。完了相は節約行為をした時点

$Z\alpha\lambda\epsilon/Ze\lambda\epsilon$

$Z\alpha\lambda\epsilon$ は「 $\alpha\Lambda$ を気前良く-lに与える」である。 $\alpha\Lambda$ は物を取る

$Z\alpha\lambda\epsilon$ は良い意味

$Ze\lambda\epsilon$ は「 $\alpha\Lambda$ をケチって-lに与える」

$\mathcal{U}\text{b}\text{c}\epsilon/\mathcal{U}\text{le}\text{c}\epsilon$



㊦に脚でも服でも取れる

㊦-㊦ㄨㄝ

腕で持つ場合は㊦㊦を使わずに㊦-㊦ㄨㄝを使う。これは「㊦㊦を抱える」という意味

㊦㊦ㄨㄝ

背中で持つ場合、つまり背負う場合は㊦㊦を使わず、㊦㊦ㄨㄝを使う

㊦ㄨㄝ

「㊦㊦を携帯する」である。持つことと運ぶことを同時に行う行為。但し、目的地はない

㊦㊦ㄨㄝ/㊦ㄨㄝ

「㊦㊦を-ㄨㄝに持ち上げる」と「㊦㊦を-ㄨㄝに下ろす」

㊦ㄨㄝ

「㊦㊦を担ぐ」

㊦ㄨㄝ

「㊦㊦を握る」。人間の手以外でも手と見なせるものなら使える

⊙

非㊦ㄨㄝ。㊦㊦は物。完了相は持った時点

-㊦ㄨㄝは「㊦㊦を所有する」という意味である。㊦㊦は物がふつうだが、人を取ることもできる。その場合は人身売買における人の所有を表わす場合と、所属を表わす場合がある(1)。

(1) -ㄨㄝ -㊦ㄨㄝ ㄨㄝㄨㄝ (私には妹がある)

㊦ㄨㄝは所有ではなく、「㊦㊦を持つ」という意味である。ふつう持っているのは所有者であるが、確実にそうとは言い切れない。㊦ㄨㄝは単に体で物を持っていることだけを指す。ふつう手で持つことを指す。手以外で持つ場合は㊦㊦を使う(✓)

(✓) -ㄨㄝ ㊦ㄨㄝㄨㄝ ㄨㄝㄨㄝ ㊦㊦ ㊦ㄨㄝ (脚で板を持っている=脚に板を挟んでいる)

手以外といったが、実は腕で持つ場合は㊦㊦を使わずに㊦-㊦ㄨㄝを使う。これは「㊦㊦を抱える」という意味である(?)

(7) -Λ (c-7)εcΛ Λ-Λ-

また、背中で持つ場合、つまり背負う場合も7oΛは使わず、socoεを使う(8)

(8) -Λ socoεcΛ Λ-Λ-

尚、日本語の「持つ」は服の中に入れている場合は使えない。「携帯を手で持つ」は言えるが、「携帯をポケットで持つ」とは言えない。だがcclεは7oΛに脚でも服でも取れる。更に、工事のクレーンを使って岩を持つ場合もcclεである(9)(10)。但し、上述のように腕と背中とはふつう(c-7)εとsocoεを使うので7oΛは使えない

(9) -Λ (ccl)εcΛ 7-ε 7oΛ 7->-

(10) -Λ (ccl)εcΛ (c-7) 7oΛ 7-Λ

一方、εc-εは「oΛを携帯する」である。持つことと運ぶことを同時に行う行為である。ゆえにcclεしつつεcε (運ぶ) することを意味する。ただ、運ぶはある地点が目的地になるが、εc-εに目的地はない。目的地がなく持ち運ぶことである。だから携帯するである。やはり何を使って携帯するかは7oΛで表わす(9)

(9) -Λ εc-εcΛ εel 7oΛ 7->-

<loεは「oΛを-lに持ち上げる」である。肩を支点にして、肩と同じか肩より上にあげることに焦点を置く<le<loεと、肘を支点にして、肘と同じか肘より上にあげることに焦点を置くΛ-7<loεがある。バーベル上げは前者である。地面の米袋を持ち上げたりダンベルカールをする場合は後者である。但し、<loεの段階では両者の区別はない

<loεはふつう手腕で行う。手腕以外だと7oΛを使うが、ふつうありえない。脚のトレーニングでバーベルを持ち上げることがあるが、恐らく日常的にはそのくらいだろう

一方、<leεは「oΛを-lに下ろす」ことである。詳細は<loεと同じである。つまり<le<leεとΛ-7<leεがあるということである

◁leゝeは「oΛを担ぐ」である。肩で持つことである。これも◁clゝeはふつう使わない

◁cゝeは「oΛを握る」である。手で握ることを示す。手以外だと握るのは難しいが、手と見なされるものなら使うことができる

たとえばロボットの手や動物の手、或いは工場で部品を組み立てるアームの手の部分など、これらは全て◁cゝeといえる(Δ)。猫は拳を作れないが、手を軽く丸めて握る程度なら可能であり、(Δ)はそれを表わしている

(Δ) ㊦◁cゝcΛ しe (猫が何か握っている)

また、◁cゝeは「oΛを掴む」とか「oΛにつかまる」といった意味もある(L)

(L) ◁cゝ-l -Λ (俺につかまれ (ふつう「俺の手につかまれ」の意味))

㊦ : 比 : ◁clゝe, ◁elゝe

⊙

非oΛ-。oΛ抽具。完了相は比較を行った時点

◁clゝe/◁elゝe

◁clゝeは「oΛを相対化する」「oΛを-lと比べる」である。比べる対象は相手なので-lを取る。

oΛは抽具、節を取れる

一方、◁elゝeは「oΛを絶対化する」である。意味上、-lは取れない。

⊙

非oΛ-。oΛ抽具。完了相は比較を行った時点

◁clゝeは「oΛを相対化する」「oΛを-lと比べる」である。比べる対象は相手なので-lを取る。

oΛは抽具、節を取れる(1)

(1)  $-\Lambda \Lambda \circ \lambda \times - \Lambda \circ \lambda \times \circ - \mid \text{C} \circ \circ \lambda \times \circ$

一方、 $\Lambda e \lambda \times e$ は「 $\circ \Lambda$ を絶対化する」である。意味上、 $\circ \lambda$ は取れない。 $\Lambda e \lambda \times e$ は $\circ \Lambda$ を比較が行われない絶対的なものにするを意味する。あまり日常的な語ではない

㊦ : 攻守 :  $V-\Lambda \lambda \times e, Vc\Lambda \lambda \times e$

⊙

非 $\circ \Lambda -$ 。 $\circ \Lambda$ は抽具。完了相は攻撃防御を完成させた時点

$V-\Lambda \lambda \times e / Vc\Lambda \lambda \times e$

$V-\Lambda \lambda \times e$ は「 $\circ \Lambda$ を攻撃する」である。 $\circ \Lambda$ に損害や損傷を与えることを表わす

$Vc\Lambda \lambda \times e$ は「 $\circ \Lambda$ を $\text{C}el$ から守る」

⊙

非 $\circ \Lambda -$ 。 $\circ \Lambda$ は抽具。完了相は攻撃防御を完成させた時点。たとえば盾をかざして今から守れると決まった時点。影響相は盾をかざしたままの状態を保っている時点。今はもう守っていない場合、今と連続していないので単純に守ったと過去形になる

$V-\Lambda \lambda \times e$ は「 $\circ \Lambda$ を攻撃する」である。 $\circ \Lambda$ に損害や損傷を与えることを表わす。 $\circ \Lambda$ は人や国を取ることができる。更に、理論という抽象も取れる。(1)の場合、理論に反論を立てるという意味である。彼を殴ることではない

(1)  $-\Lambda V-\Lambda \lambda \times - \times c \mu e \mid -$

$Vc\Lambda \lambda \times e$ は「 $\circ \Lambda$ を $\text{C}el$ から守る」である。 $\circ \Lambda$ を損害や損傷から守ることである。敵は $\text{C}el$ に来る。 $\circ \Lambda$ も $\text{C}el$ も抽具を取る。 $V-\Lambda \lambda \times e$ と同じ $\circ \Lambda$ を取れる。つまり、理論も取れる(✓)

(✓)  $\mid - Vc\Lambda \lambda \times c\Lambda \times c \mu e \Lambda \circ \cup \text{cl} \cup \mid \circ \cup \text{C}el - \Lambda$  (彼は私に対抗して自分の理論を去年から守り続けている)

ㄨ : 使 : ㄨㄨㄨㄨㄨ, ㄨㄨㄨㄨㄨ, ㄨㄨㄨㄨㄨ

⊙

ㄨㄨㄨㄨㄨ象。完了相は使用した時点

ㄨㄨㄨㄨㄨ/ㄨㄨㄨㄨㄨ

「ㄨㄨㄨㄨㄨを使う」である。ㄨㄨㄨㄨㄨの能力を引き出して役立てることである。ㄨㄨㄨㄨㄨは人でも物でも良い。悪い意味はない。中立的である。ㄨㄨㄨㄨㄨは「ㄨㄨㄨㄨㄨを温存する」

ㄨㄨㄨㄨㄨ

「ㄨㄨㄨㄨㄨを使ってなくす」である。つまり使い切ることである。詳細はㄨㄨㄨㄨㄨと同じ

⊙

ㄨㄨㄨㄨㄨ象。完了相は使用した時点

ㄨㄨㄨㄨㄨは「ㄨㄨㄨㄨㄨを使う」である。ㄨㄨㄨㄨㄨの能力を引き出して役立てることである。ㄨㄨㄨㄨㄨは人でも物でも良い。人の場合、日本語の「使う」と違って悪い意味はない。中立的である。単に相手の能力を役立てたという意味である。完了相は使った時点。ペンなら書きたいことを書き終わって役目を終えた時点を目指す

ㄨㄨㄨㄨㄨは「ㄨㄨㄨㄨㄨを温存する」で、死蔵するの意味もある。ㄨㄨㄨㄨㄨを使わずに取っておくことである。詳細はㄨㄨㄨㄨㄨと同じ

ㄨㄨㄨㄨㄨは「ㄨㄨㄨㄨㄨを使ってなくす」である。つまり使い切ることである。詳細はㄨㄨㄨㄨㄨと同じ。ㄨㄨㄨㄨㄨに人を取る場合は、その人の能力や財力を出し切らせ、もうなくなった状態にすることである。こちらはㄨㄨㄨㄨㄨより悪い意味で使われることが多い

ㄨㄨㄨㄨㄨにはㄨㄨㄨㄨㄨがある。ㄨㄨㄨㄨㄨには物を取る人が多い(1)

(1) ㄨㄨㄨㄨㄨ ㄨㄨㄨㄨㄨ (ペンが切れた)

ㄨㄨ : 飾 : ㄨㄨㄨㄨㄨㄨ, ㄨㄨㄨㄨㄨㄨ, ㄨㄨㄨㄨㄨㄨ

⊙

非 $\alpha$ -。  $\alpha$ 具象。完了相は飾り終えた時点

$\lambda\alpha\gamma\epsilon$

$\lambda\alpha\gamma\epsilon$ は「 $\alpha$ を $\gamma\alpha$ で飾る」である。 $\alpha$ は場所や人や物が来る。言葉や文といった抽象も取れる

$\lambda\alpha\mu\epsilon/\lambda\epsilon\mu\epsilon$

$\lambda\epsilon\mu\epsilon$ は「 $\alpha$ を $\gamma\alpha$ で化粧する」。  $\lambda\epsilon\mu\epsilon$ は $\alpha$ に人以外のモノやコトも取れる。その場合、実際より良く見せるという意味になる。 $\lambda\alpha\mu\epsilon$ は「 $\alpha$ の化粧を $\gamma\alpha$ でとる」

⊙

非 $\alpha$ -。  $\alpha$ 具象。完了相は飾り終えた時点

$\lambda\alpha\gamma\epsilon$ は「 $\alpha$ を $\gamma\alpha$ で飾る」である。 $\alpha$ は場所や人や物が来る。言葉や文といった抽象も取れる(1)。文などを取る場合、要点だけを伝えた簡潔な文に比喻などの表現法を付け足すことを表わす。別の論点や別の解釈を加えることではない。つまりは文飾である。また、語句の修飾という意味もある

(1)  $-\lambda \lambda\alpha\gamma\epsilon- \text{JeV } \gamma\alpha \text{ clJJeV}$  (メタファーで文を飾った)

$\lambda\epsilon\mu\epsilon$ は「 $\alpha$ を $\gamma\alpha$ で化粧する」である。 $\alpha$ には人や身体部がくる(1)。  $\alpha$ に人をおいて $\alpha$ に身体部を置くこともできる。これは全体主義のアルカらしい言い方である(2)。但し、(1)のほうが短いため、(1)もふつうに使われる

(1)  $-\lambda \lambda\epsilon\mu\epsilon- \text{JeU } \gamma\alpha \mu->$

(2)  $-\lambda \lambda\epsilon\mu\epsilon- \lambda\alpha\text{J } \alpha\alpha \text{ JeU } \gamma\alpha \mu->$

また、 $\lambda\epsilon\mu\epsilon$ は $\alpha$ に人以外のモノやコトも取れる。その場合、実際より良く見せるという意味になる(3)

(3)  $-\lambda \lambda\epsilon\mu\epsilon- \text{JeV}$



(㊦)は(1)とどう違うか。(㊦)は実際より文を良く見せるために表紙を綺麗にしたりレイアウトを考えたり、字を見やすくしたり、短文や分かりやすい表現を心がけたりすることである。(1)も良くしようという意図がないわけではないが、味気ないものを派手にしようというところに焦点が当たっている点で異なる

㊦ $\mu$  $\times$ eは「㊦の化粧を㊦でとる」である。㊦ $\mu$  $\times$ eしているものしか㊦に取れない。詳細は㊦ $\mu$  $\times$ eと同じである。人の化粧をとることや、文を良く見せるためのものを取ることである。㊦には化粧落としなどがくる

## ㊦0 : 準備 : ㊦-V $\times$ e, ㊦cV $\times$ e

⊙

非㊦ $\Lambda$ -。㊦ $\Lambda$ 抽具。完了相は準備完了した時点

### ㊦-V $\times$ e/㊦cV $\times$ e

㊦-V $\times$ eは「㊦について㊦を準備する」である。いつでも実行可能なように備えておくことである。㊦は物、人、抽象、節全て取れる

㊦cV $\times$ eは「㊦について㊦をアフターケアする」。㊦cV $\times$ eは㊦が起きた後に㊦の環境を整えることである

⊙

非㊦ $\Lambda$ -。㊦ $\Lambda$ 抽具。完了相は準備完了した時点

㊦-V $\times$ eは「㊦について㊦を準備する」である。いつでも実行可能なように備えておくことである。㊦は物、人、抽象、節全て取れる(1)( $\surd$ )(?) (㊦)

(1) - $\Lambda$  ㊦-V $\times$ c $\uparrow$  V-- $\uparrow$  ㊦ $\uparrow$  V-J (戦争のための武器を用意した)

( $\surd$ ) - $\Lambda$  ㊦-V $\times$ c $\uparrow$   $\Lambda$ oJ ㊦ $\uparrow$  ㊦o $\downarrow$  (外出の準備をした)

(?) - $\Lambda$  ㊦-V $\times$ c $\uparrow$  <el ㊦ $\uparrow$  ㊦- $\mathfrak{d}$ J (試験に向けて勉強の準備をした)

(㊦) - $\Lambda$  ㊦-V $\times$ c $\uparrow$  - $\Lambda$  ㊦o $\downarrow$ o >co ㊦ $\uparrow$  ㊦o $\downarrow$  (出先で娘をおぶっていく準備ができた)

尚、(1)は軍議の時点で述べた場合は「武器を用意した」と訳して良いが、敵が目の前にいて実際に武器をふるっている白兵戦の場合は「構えた」と訳すべきである。たとえばJ-V<sub>2e</sub> <Pecは軍議の段階では「剣を用意する」だが、実戦の段階では「剣を構える」である

JcV<sub>2e</sub>は「CocについてoAをアフターケアする」。J-V<sub>2e</sub>はCocが起こる前にoAの環境を整えておくことである。逆にJcV<sub>2e</sub>はCocが起きた後にoAの環境を整えることである。詳細はJ-V<sub>2e</sub>と同じ。(f)は戦争が終わってから、再戦に備えて或いは単に戦後処理として武器の数を数えたり直したり並べたりして、アフターケアすることである

(f) -A JcV<sub>2c</sub> V--? Coc V-J (戦争後、武器のアフターケアをした)

上述のようにJcV<sub>2e</sub>もoAに人などを取れる。(g)では喧嘩の後、謝ったりして相手を宥める場合に使う

(g) -A JcV<sub>2c</sub> I- Coc Coc (喧嘩の後、彼をアフターケアした)

91 : 働 : I-f<sub>2e</sub>, Icf<sub>2e</sub>, <-l<sub>2e</sub>, <cI<sub>2e</sub>

⊙

非oA-。再帰形が多い。oAは人。完了相は労働時間終了時点

I-f<sub>2e</sub>/Icf<sub>2e</sub>

I-f<sub>2e</sub>は「oAを働かせる」である。内容はHalで表わし、関連はCocで表わす。場所は?-である。ふつう再帰形を使う。Icf<sub>2e</sub>は労働の休み

<-l<sub>2e</sub>/<<cI<sub>2e</sub>

<-J<sub>2e</sub>は「oAを働かせる」である。I-f<sub>2e</sub>は生活のためにしなければならない労働であり、<-J<sub>2e</sub>は自分の使命としての仕事である

<cJ<sub>2e</sub>は「oAを休ませる」

⊙

非oΛ-。再帰形が多い。oΛは人。完了相は労働時間終了時点

l-éæeは「oΛを働かせる」である。内容はHalで表わし、関連はoocで表わす。場所は?-である。ふつう再帰形を使う(1)

(1) -Λ l-éæe ?- looc (a ooc JoμJ la lc Jel o-c Jooc (この会社でコンピュータについて週五日働いている)

<-léæeは「oΛを働かせる」である。l-éæeは生活のためにしなければならない労働であり、<-léæeは自分の使命としての仕事である。前者は必ず有償であるが、後者は使命感次第では無償でありうる

ㄱ : 吸吐 : J-ǵǵæe, Jcǵǵæe, J-ǵǵæe, Jcǵǵæe, >-ǵǵæe, ǵo-ææe, ǵæææe, ǵæǵǵæe, ǵe<ææe, ǵeǵǵæe

⊙

非oΛ-。oΛ物。完了相は吸った時点

J-ǵǵæe/Jcǵǵæe

J-ǵǵæeは「oΛを吸う、しゃぶる」ことである。ストローでジュースを吸う場合、キスマークを付けようと肌を吸う場合、飴を口に入れてしゃぶる場合、全てJ-ǵǵæeである

Jcǵǵæeは吸うの反対動作である。口内の圧力を変えて「oΛを吹く、吐く」こと

J-ǵǵæe/Jcǵǵæe

J-ǵǵæeは「oΛに息を吸わせる、呼吸させる」。Jcǵǵæeは「oΛに息を吐かせる」

>-ǵǵæe

「alはoΛの乳首を吸う」である。ふつう性的な意味はない。alは赤ん坊でoΛは授乳者しか取らない

ǵo-ææe

「oΛを-lに吐く」である。oΛは体内に取り込んだものである。物しか取らない。抽象的な意味はない。oΛは液体でも固体でも良い

ǵæææe

「oΛに唾を吐く、垂らす」である。吐くか垂らすか或いは付けるかは不明。但し、ふつ

うは吐きつける。oΛは場所でも人でも物でも良い

oΛoΛe

「oΛを-|にぷっと吐き出す」である。oΛは物しか取らない。固体でも液体でも良い。人は物理的に取れない

Λe<Λe

「oΛに息を吹きかける」「oΛを吹く」である。蝋燭を消すときや手を暖めるときなどに使う。oΛは物や人で、抽象は取らない

JeΛe

「oΛを唇で啣える」ことである。「口に啣える」と訳しても良い。唇で挟んで口の中にoΛの一部を含むことである。犬が紐を啣える場合や、人が棒アイスを啣える場合などに使う。oΛは人や物だけで、抽象は取れない

⊙

非oΛ-。oΛ物。完了相は吸った時点

J-oΛeは「oΛを吸う、しゃぶる」ことである。ストローでジュースを吸う場合、キスマークを付けようと肌を吸う場合、飴を口に入れてしゃぶる場合、全てJ-oΛeである

J-oΛeは口内の圧力を変えてoΛを吸い込むことを指す。ふつう物を取る。人は物理的に吸えない。また、精力を吸い取るという場合は精力を取る (<-Λe) という。抽象はoΛに取れない

完了相は吸い込んだ時点である。ジュースを吸おうとした時点が将前相、吸い始めて口に力を入れれば開始相、ジュースが管を上ってくる時点が経過相、口に届いた時点が完了相、届いて飲んでいる時点が影響相である。力を緩めてジュースが下に戻ったとき、影響相が終わる

JcΛeは吸うの反対動作である。口内の圧力を変えて「oΛを吹く、吐く」ことである。ストローでジュースをぶくぶくさせる場合も使える(1)

(1) >cV JcΛeΛ -Λe

ところで、 $\text{J-}\partial\text{e}$ は空気を吸う場合にはふつう使わない。代わりに $\text{J-}\partial\text{e}$ というからである。 $\text{J-}\partial\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ に息を吸わせる、呼吸させる」ことである。厳密に言えば呼吸のうち、吸うほうだけを指す

逆に $\text{Jc}\partial\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ に息を吐かせる」である。 $\text{J-}\partial\text{e}$ と組み合わせさせて初めて呼吸である。尚、これらは $\text{o}\Lambda$ に人を取る(ノ)(?)。ふつう再帰形を取る

(ノ)  $-\Lambda \text{J-}\partial\text{e}-$  (息を吸った)

(?)  $\text{J-}\partial\text{e}-\text{l}$  (はい吸って～)

一方、 $\text{>-}\partial\text{e}$ は「 $\text{al}$ は $\text{o}\Lambda$ の乳首を吸う」である。ふつう性的な意味はないので公的に使える。但し、ふざけて性的な意味で使うこともある

$\text{al}$ は赤ん坊で $\text{o}\Lambda$ は授乳者しか取らない。授乳するでなく乳首を吸うなので、 $\text{al}$ と $\text{o}\Lambda$ を逆にしたないように注意(0)

(0)  $\Lambda-\Lambda- \text{>-}\partial\text{e} \text{cJ l-o}$

$\text{Yc-}\partial\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を $-\text{l}$ に吐く」である。 $\text{o}\Lambda$ は体内に取り込んだものである。物しか取らない。抽象的な意味はない(フ)。 $\text{o}\Lambda$ は液体でも固体でも良い

(フ)  $-\Lambda \text{Yc-}\partial\text{e} - \text{Vell} -\text{l} \partial\text{o}\Lambda$

$\text{Jae}\partial\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ に唾を吐く、垂らす」である。吐くか垂らすか或いは付けるかは不明。但し、ふつうは吐きつける。 $\text{o}\Lambda$ は場所でも人でも物でも良い(イ)

(イ)  $\text{Jae}\partial\text{e} \text{ol} \partial\text{o}\Lambda$  (道に唾を吐くな)

$\partial\text{a}\partial\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を $-\text{l}$ にぷっと吹き出す」である。 $\text{Jae}\partial\text{e}$ は吐いた様態が良く分からないが、 $\partial\text{a}\partial\text{e} \text{Jae}$ といえばぺっと吐いたことを表わす

$\text{o}\Lambda$ は物しか取らない。固体でも液体でも良い。人は物理的に取れない。無論、恐竜が人を飲み込んで吐くことはできるが、非日常的である。 $-\text{l}$ は場所や人や物など、受取人を取る

(9)

(9) -Λ ʒaʒʒ- eʒc -l ʒoΛ

ʒe<ʒeは「oΛに息を吹きかける」「oΛを吹く」である。蠟燭を消すときなどに使う。oΛは物や人で、抽象は取らない(Δ)

(Δ) -Λ ʒe<ʒ- ZoΛo

ʒe<ʒeは蠟燭を消す「ふー」なのか、冬に手を温める「はー」なのか分からない。後者の場合もある(L)。日本語で息を吹きかけるといふと(Δ)のように「ふー」を連想するが、ʒe<ʒeは「ふー」も「はー」もあり、文脈で区別する

(L) -Λ ʒe<ʒ- l-J Z-Λ c<ʒc (a (暖めるために手に息を吐いた)

ʒeʒeは「oΛを唇で啣える」ことである。「口に啣える」と訳しても良い。唇で挟んで口の中にoΛの一部を含むことである。犬が紐を啣える場合や、人が棒アイスを啣える場合などに使う。oΛは人や物だけで、抽象は取れない(10)

尚、oΛの全体を含むとʒeʒeとはいえない

完了相は啣えた時点で、啣えた後の持続状態は影響相である

(10) <c-Λ ʒeʒcΛ eeʒc

ʒ : 食 : ʒoΛʒe, ʒeΛʒe, ʒcoʒe, ʒeʒΛʒe

⊗

非oΛ-。oΛは食物。完了相は食べて飲み込んだ時点

ʒoΛʒe/ʒeΛʒe

ʒoΛʒeは「oΛを食べる」。ʒeΛʒeは「oΛを飲む」。咀嚼するものがʒoΛʒe。尚、元々飲むものに対して特別に咀嚼が必要な場合は食べるでなくʒcoʒeΛʒeという

ㄨㄨㄨㄨㄨㄨ

「ㄨㄨを噛む」である。ㄨㄨが結果的にバラバラになるかどうかは不明

ㄨㄨㄨㄨㄨㄨ

「ㄨㄨを舐める」である。舌を出して舐める場合と口の中に含んだものを舐める場合の区別はない。ペロペロ舐めるのかペロっと舐めるかの区別もない。ㄨㄨは具象である。特に固体を取る

⊙

非ㄨㄨ-。ㄨㄨは食物。完了相は食べて飲み込んだ時点

ㄨㄨㄨㄨㄨㄨは「ㄨㄨを食べる」である。ㄨㄨㄨㄨㄨㄨは「ㄨㄨを飲む」である。では、どこからが食べ物でどこからが飲み物か

パン・肉・野菜は食べ物である。水は飲み物である。どうも固体か液体かという違いが大きいようである。では液体の中に固体が入るスープはどうか。アルバザードのスープは具が多いため、スープは大抵食べるものとして認識される(1)

(1) -ㄨㄨ ㄨㄨㄨㄨㄨㄨ- ㄨㄨㄨㄨ

一方、薬は英語のように取るものではなく、中国語のように食べるものでもなく、日本語のように飲むものである(1)。但し、食材を薬代わりに食べる場合はㄨㄨㄨㄨㄨㄨという(2)

(1) -ㄨㄨ ㄨㄨㄨㄨㄨㄨ- ㄨㄨㄨㄨ-

(2) -ㄨㄨ ㄨㄨㄨㄨㄨㄨ- ㄨㄨㄨㄨ ㄨㄨㄨㄨㄨㄨ-

また、ゼリーは食べ物である。ヨーグルトも食べ物である。粥も食べ物である

つまり、食べ物は咀嚼を必要とするものである。ヨーグルトやゼリーは殆ど噛まずに食べることもできるが、全く噛まないことはない。一方、飲み物は咀嚼を必要としないものである。スープは具を噛むので食べるである。薬は噛まないで飲むという

では、チュアブル錠の薬はどうか。これは噛んで飲むという。食べるとは言わない。なぜか。薬は元々飲むものだからである。元々飲むものに対して特別に咀嚼が必要な場合は

食べるでなく噛んで飲むという(0)

(0)  $\lambda c\lambda e\lambda i-l \lambda c\lambda - \lambda a$

また、 $\lambda e\lambda i$ は $\lambda a$ が風や水や波のとき、 $\lambda a$ を飲み込むという意味になる。これは比喩的な用法で、擬人法である

一方、 $\lambda c\lambda e$ は「 $\lambda a$ を噛む」である。 $\lambda a$ が結果的にバラバラになるかどうかは不明である。噛んで壊れなくても噛んで壊れても、いずれにせよ $\lambda c\lambda e$ である。 $\lambda a$ は食べ物だけでなくそれ以外の物も取れる(1)。 $\lambda c\lambda e$ は食べるための行為とは限らないということである

(1)  $-\lambda \lambda c\lambda - \lambda c\lambda$

$\lambda e\lambda i$ は「 $\lambda a$ を舐める」である。舌を出して舐める場合と口の中に含んだものを舐める場合の区別はない。文脈で判断する。ベロベロ舐めるのかペロっと舐めるかの区別もない

$\lambda a$ は具象である。特に固体を取る。雨より氷のほうが共起しやすい

また、境界線のある雨粒のほうが境界線の曖昧な火よりも舐めやすい。火のように境界線がハッキリしない非固体までいくと $\lambda e\lambda i$ といえなくなってくる

尚、抽象的な意味はない

90 : 置 :  $\lambda V\lambda e, eV\lambda e$

⊙

非 $\lambda a-$ 。 $\lambda a$ は具象。完了相は配置を終えた時点

$\lambda V\lambda e/eV\lambda e$

「 $\lambda a$ を $-l$ に置く」。  $\lambda a$ が人・物を取れる。抽象は取れない。無形物は一応取れる

$eV\lambda e$ は「 $\lambda a$ を $cl$ から取り除く」

⊙

非 $\lambda a-$ 。 $\lambda a$ は具象。完了相は配置を終えた時点



oVxeは「oAを-lに置く」である。oAが人の場合、文脈に合わせて配置するとか待たせておくなどと訳す。oAが物の場合、配置するという意味である。抽象は取れない

(1)は松明やライターなどの火種を着火点に設置する場合である。だがこれは<-cが松明などのメタファーになっていると言えなくもない

(1) -A oVx- <-c -l Zo>

また、水も火と同じくoVxeと言えなくない。ただ、その場合はたいてい容器に入った水を置くという意味で、これも容器と内容物のメタファーである

一方、eVxeは「oAをclから取り除く」という意味である。oVxeの反対動作である。詳細はoVxeと同じである。単に置くか除くかの違いである

汚れを取る場合も使える。逆に汚れが付く場合は「置く」のoVxeを使うので注意

打 : 打 : e-lxe, e-oVxe, e-eVxe, Aozxe, YcAoxe, ZoAlxe, Yelxe, eolxe

⊙

非oA-。oA具象。完了相は力を与えきった時点

e-lxe

「oAをoAで打つ」。oAに衝撃を加えること全般を表わす

e-oVxe/e-eVxe

e-oVxeは「oAを殴る」。e-eVxeは「oAを蹴る」

Aozxe

「oAをoAで引っ掻く」。ふつう爪で引っ掻くことを指す

YcAoxe

「oAをoAで引っ掻く」

ZoAlxe

ZoAlxeは「oAを-lにショットする」である。スポーツなどで使う

ZoAlxeのほうがYelxeより弱い

## ʃelʌe

ʃelʌeは「oʌを-lにシュートする」である。スポーツなどで使う

## ʃoʌʌe

ʃoʌʌeは「oʌをハンマーで-lへ打つ」である。釘などを板へ打つような場合に使う

⊙

非oʌ-。oʌ具象。完了相は力を与えきった時点

ʃ-lʌeは「oʌをʌoʌで打つ」である。oʌに衝撃を加えること全般を表わす。ʃ-oʌʌeなどの上位概念にある

ʃ-oʌʌeは「oʌを殴る」である。ʃ-oʌʌeは拳で殴る場合にか使えない

ʃ-eʌʌeは「oʌを蹴る」である

ʃ-oʌʌeの完了相は殴った時点である。殴る準備動作がʃ-oʌʌeʌ、腰を回し始め腕を伸ばし始めた時点がʃ-oʌʌeʌ、相手に届くまでの間がʃ-oʌʌeʌ、相手に当たった瞬間がʃ-oʌʌeʌ、その結果が残存する間がʃ-oʌʌeʌである

また、野盗が酔っ払いを殴っているという場合は(1)である

(1) X-ʃeʌʌ ʃ-oʌʌʌ V oʌʌ → X-ʃeʌʌ ʃ-oʌʌʌ V oʌʌ → -ʃeʌʌ ʃ-oʌʌʌ l- V oʌʌ

日本語の殴っているというのは一回の殴打ではない。複数回殴るという意味である。したがって一回一回の殴るという動作の相は無視される

殴るという一回の動作が複数回集まった動作の集合が焦点化されているので、一回の動作、ましてその中の相などという小さなものには焦点が当たらないというわけである。したがってʃ-oʌʌʌ l-のように動詞はアオリストを取り、そこに副詞のl-が加わって表わされる

日本語では、殴るのような瞬間動詞について「～している」というと、それは複数回を意味することが多い。このような場合、アルカではアオリスト+副詞のl-で表わすので注意。経過相、影響相にしないよう注意が必要である

一方、 $\lambda\sigma z^{\lambda}e$ は「 $\sigma\lambda$ を $\rho\sigma\lambda$ で引っ搔く」である。ふつう爪で引っ搔くことを指す。その場合、特に $\rho\sigma\lambda$ は添えない

$\gamma c\lambda\sigma^{\lambda}e$ は「 $\sigma\lambda$ を $\rho\sigma\lambda$ で引っ搔く」である。 $\lambda\sigma\lambda^{\lambda}e$ と違うのは、 $\gamma c\lambda\sigma$ は鉤爪という武器である点である。ゆえに $\gamma c\lambda\sigma^{\lambda}e$ は $V-\lambda\lambda^{\lambda}e$ の下位概念であるといえる

一方、 $Z\sigma\lambda\lambda^{\lambda}e$ は「 $\sigma\lambda$ を $-l$ にショットする」である。 $\sigma\lambda$ はふつう球。スポーツなどで使う

$\gamma el\lambda^{\lambda}e$ は「 $\sigma\lambda$ を $-l$ にシュートする」である。これもスポーツなどで使う

では両者の違いは何か。 $Z\sigma\lambda\lambda^{\lambda}e$ のほうが $\gamma el\lambda^{\lambda}e$ より弱い。それが違いである。 $Z\sigma\lambda\lambda^{\lambda}e$ は牽制的な攻撃で、 $\gamma el\lambda^{\lambda}e$ は必殺の一撃である。卓球でいうなら、パチパチと互いに打ち合っているときは $Z\sigma\lambda\lambda^{\lambda}e$ であるが、スマッシュを決めるときは $\gamma el\lambda^{\lambda}e$ である

$Z\sigma\lambda\lambda^{\lambda}e$ と $\gamma el\lambda^{\lambda}e$ の頻度と役割は競技によって変わる。サッカーのようにゴールへ向けて打てる数が卓球より圧倒的に少ない球技の場合、一発一発の攻撃が全て $\gamma el\lambda^{\lambda}e$ である必要がある。卓球のように相手のゴール（陣地）に入れ続けないと成立しない競技の場合、一発一発は $Z\sigma\lambda\lambda^{\lambda}e$ で、ここぞというときのスマッシュだけが $\gamma el\lambda^{\lambda}e$ になる

このことから、テニスなどは卓球と同じタイプで、ホッケーなどはサッカーと同じタイプであるといえる

尚、これらの $-l$ は受取人である。ゴールキーパーや競技の相手を取る。また、 $-l$ に場所を取ることもできる。そのときは相手のゴールか陣地を取る

$\epsilon\sigma l\lambda^{\lambda}e$ は「 $\sigma\lambda$ をハンマーで $-l$ へ打つ」である。釘などを板へ打つような場合に使う

$\rho\lambda$  : 投 :  $\rho c\rho^{\lambda}e$ ,  $\lambda e\rho^{\lambda}e$ ,  $ha-\lambda^{\lambda}e$

⊗

非 $\sigma\lambda-$ 。 $\sigma\lambda$ 具象。完了相は物が手を離れたとき

$\rho c\rho^{\lambda}e$

「 $\sigma\lambda$ を $-l$ に投げる」である。 $\sigma\lambda$ は投げられる具象物を取る

形のないものは投げられない

## <eθ̣̣̣e

「 $\sigma\Lambda$ を-lに放り投げる」である。 $\theta c\thetạ̣̣e$ の下位概念である。<eθ̣̣̣eは弧を描いて遠くに投げ飛ばす場合に使う

## ha-̣̣̣e

「 $\sigma\Lambda$ を-lにふわっと投げる」である。ha-̣̣̣eはふつう前方ではなく上方に投げることを指す

⊙

非 $\sigma\Lambda$ -。 $\sigma\Lambda$ 具象。完了相は物が手を離れたとき

$\theta c\thetạ̣̣e$ は「 $\sigma\Lambda$ を-lに投げる」である。 $\sigma\Lambda$ は投げられる具象物を取る。形のないものは投げられない。但し、火でも松明のようにメタファーとして使う場合は投げられる。また、神話では魔法で出した火を投げられる

<eθ̣̣̣eは「 $\sigma\Lambda$ を-lに放り投げる」である。 $\theta c\thetạ̣̣e$ の下位概念である。<eθ̣̣̣eは弧を描いて遠くに投げ飛ばす場合に使う

ha-̣̣̣eは「 $\sigma\Lambda$ を-lにふわっと投げる」である。スポーツのトスやコイン投げなどに使う。ha-̣̣̣eはふつう前方ではなく上方に投げることを指す。結果として前方に行ってしまうても良い。ただ、上方へ投げたことに焦点が当たっている

ただ、「ふわっと」がついていることから分かるように、勢い良く投げると上方に投げてもha-̣̣̣eとはいえない。石を上方に投げるとき、下手投げで軽く投げるのはha-̣̣̣eだが、上手投げの場合は $\theta c\thetạ̣̣e$ になる

逆に前方に投げる場合でもソフトボールのように下手で投げる場合はha-̣̣̣eといえる

## ㊿ : 捨 : V-Λ̣̣̣e, VcΛ̣̣̣e

⊙

非 $\sigma\Lambda$ -。 $\sigma\Lambda$ は抽具。完了相は拾った時点

## V-Λ̣̣̣e/VcΛ̣̣̣e

V-Λ̣̣̣eは「 $\sigma\Lambda$ をclから拾う」。VcΛ̣̣̣eは「 $\sigma\Lambda$ を-lへ捨てる」

oAは物・人・抽象全て取れる

⊙

非oA-。oAは抽具。完了相は拾った時点

V-AJ>eは「oAをclから拾う」という意味である。VcAJ>eは「oAを-lへ捨てる」である

oAは抽具いずれでも良い。物のときは所有権を放棄しつつ、地面やゴミ箱へ投げたり置いたりすることである(1)

(1) -A VcAJ>- ceC -l ceC-

oAが人のときはoAとの関係を絶つことを意味する。実際に地面に投げることは意味しない。単に関係を絶つことである。alとoAの関係によって具体的な意味は変わる。上司と部下なら上司を見限ったり部下を切ることである。男女なら振る、別れるという意味である

oAが物の場合、alは所有者である。所有者と所有物では所有者のほうが立場が上である。つまりalのほうがoAより立場が上である。このことはoAが人のときも同様である。たとえば(1)の場合、男は女より立場が上である

(1) <cA VcAJ>- <-A

但し上なのは関係を絶つということに関してだけ言えることである。実は会社では男は女の部下かもしれない。だが、女をふったということに関しては男のほうが立場が上である。どういう風に上なのかというと、女のほうが男にぞっこんであったり、或いは女の浮気が発覚したため、男に文句を言えないような場合である

oAは抽象も取れる。たとえば理論などを取れる。oAが抽象の場合、却下する、棄却するなどという意味になる。(2)の場合、この理論を私は駄目だと思って棄却している

(2) -A VcAJ>- >cc' (a

いずれにせよ所有権かそれに近いものを持っていなければ捨てることはできない。それに近いものとは具体的にはたとえば人間である。天気のような誰のものでもないものは $\circ\Lambda$ に取れない

$V-\Lambda\cup e$ についても同様に、人も物も抽象も取れる。 $\circ\Lambda$ は捨てられたものや元々そこにあったものしか取れない。物の場合は正に「拾う」である

人の場合は捨てられた人や元々孤独にしていた人を $\circ\Lambda$ に取る。 $a\Lambda$ は $\circ\Lambda$ より立場が上で、 $\circ\Lambda$ と何らかの関係を持つ。ふつうは協力か庇護の関係である

抽象の場合、一度駄目だと捨てた理論をもう一度良いと考えなおすことを示す。或いは、誰が言い出したか分からないようなそこらにあった理論を良いと認めて自分のものにすることを表わす

完了相は捨てた瞬間である。ぽいっと手から離れた瞬間である。或いは物を拾って物に触れた瞬間である

$\textcircled{\Delta} : \text{触} : \circ S \times e, e S \times e, \cup \Lambda \cap \times e$

⊙

非 $\circ\Lambda-$ 。 $\circ\Lambda$ は具象。完了相は接触した瞬間

$\circ S \times e / e S \times e$

$\circ S \times e$ は「 $\circ\Lambda$ を $\cup\Lambda$ で触る」である。ふつう手で触ることを表わす。手の場合、 $\cup\Lambda$ は省略する。 $\circ\Lambda$ は触れる具象物なら何でも良い

$e S \times e$ は「 $\circ\Lambda$ を $\cup\Lambda$ で弄る」である。これは性的に弄ることも意味する。 $\circ\Lambda$ は人を取る

$e S \times e$ は再帰形を取れる。自分を弄ることであるから、つまりは自慰である

$\cup \Lambda \cap \times e$

「 $\circ\Lambda$ を $\cup\Lambda$ で撫でる」である。やはりふつうは手である。 $\circ\Lambda$ を優しく触ることである。さわさわと同じ部分を優しく往復することが多い

⊙

非 $\circ\Lambda-$ 。 $\circ\Lambda$ は具象。完了相は接触した瞬間

oʂˤeは「oʌをʌoʌで触る」である。ふつう手で触ることを表わす。手の場合、ʌoʌは省略する。oʌは触れる具象物なら何でも良い。形がなくても触れるので、火でも空気でも良い。ただ、火はともかく空気はあまり触っている実感がないので、ふつうoʌに取らない  
勿論oʌは人も取れる。単に触れることを指す。他意はない

eʂˤeは「oʌをʌoʌで弄る」である。触ってその上で動かすことである。これは性的に弄ることも意味する。ふつうは手で行う。手のときはʌoʌを省略する

eʂˤeは触る行為しか意味しないので、それ以上の行為は含まない。舐めたり、キスしたり性交したりといった意味はない

eʂˤeは相手が合意しない場合は痴漢を意味する。性交のできない少女をoʌに取る場合、悪戯すると訳すほうが自然である。但し、悪戯するといってもあくまで触るだけである。それ以上のことは意味しない

eʂˤeは再帰形を取れる。自分を弄ることであるから、つまりは自慰である。leeʂˤeのやや婉曲な用法である

ʌoʌʂˤeは「oʌをʌoʌで撫でる」である。やはりふつうは手である。oʌを優しく触ることである。さわさわと同じ部分を優しく往復することが多い

また、性交時は愛撫するという意味にもなる。これはeʂˤeともいえるが、ニュアンスが異なる。ʌoʌʂˤe <-ʌの場合、主に性器以外を撫でることである。背中や髪などを撫でることである。eʂˤe <-ʌの場合、主に性器を弄ることである。日本語ではどちらも愛撫であるが、アルカでは区別するので注意

ʌʌ : 摩擦 : <cʂˤe, ʌ-ʌ>ʂˤe, >-clʂˤe, <oʌʂˤe, ʌʌeʂˤe, eʌʂˤe

⊛

非oʌ-。oʌは物。完了相は掃除を終えた時点

<cʂˤe

<cʂˤeは「ʌelに対してoʌをʌoʌで拭く」である。ʌoʌをoʌに接触させ、oʌの上を移動させることによってoʌの汚れや水分などを除去することである。ʌoʌは手や布などがくる

### l-l>e

l-l>eは「oAをタオルで拭く」ことである。<c>eの下位概念である

### >-cl>e

>-cl>eは「oAをバスタオルで拭く」ことである。<c>eの下位概念である

### <ol>e

<ol>eは「oAをoAで摩擦する」である。oAとoAを接触させたままoAの表面でoAを何度も移動させることである。「oAをoAと擦り合わせる」と訳すこともある

### le>e

le>eは「oAをoAで磨く」である。oAは光沢を持ちえるものしか取らない。磨いた結果、oAは光沢を持つようになる。元々光沢を持ちえない物は取れない

### eol>e

eol>eは「oAをoAでゴシゴシ擦る」である。<ol>eとle>eの間にある。まず、<ol>eより一生懸命擦るという点で異なる。更に、le>eと違って光沢を作ることが目的でない

☆

非oA-。oAは物。完了相は掃除を終えた時点

<c>eは「elに対してoAをoAで拭く」である。oAをoAに接触させ、oAの上を移動させることによってoAの汚れや水分などを除去することである。oAは手や布などがくる

oAは拭けるものなら何でも良い。人を取ることもできる。水など、固体でないものは物理的に拭けない

oAには拭く場所がくるので、elには除去するものそのものが来る。たとえば汚れや汗などが来る

完了相は拭いた時点である。汚れが取れたかどうかに関わらず、拭くのを止めた時点である(1)

(1) -l <c>c) eel oA -le (el hcA) (顔の汗を布で拭いた)

l-l>eは「oAをタオルで拭く」ことである。<c>eの下位概念である

>-cl>eは「oAをバスタオルで拭く」ことである。<c>eの下位概念である



くさゝeは「oΛをㇿoΛで摩擦する」である。ㇿoΛとoΛを接触させたままoΛの表面でㇿoΛを何度も移動させることである。「oΛをㇿoΛと擦り合わせる」と訳すこともある(ノ)(?)

(ノ) -Λ くさゝ- ㇿ--> e | ㇿoΛ ㇿ--> e ΛoJ (彼の頬に自分の頬を擦り合わせた)

(?) -Λ くさゝ- | ㇿ ㇿoΛ | ㇿ (手を擦り合わせた)

くさゝeと違って必ず何度もoΛの表面で移動をするし、綺麗にするという意図もない

ㇿeゝeは「oΛをㇿoΛで磨く」である。oΛは光沢を持ちえるものしか取らない。磨いた結果、oΛは光沢を持つようになる。元々光沢を持ちえない物は取れない。水、火、空気など、形がなかったり固体でなかったりするものは磨けない。固体でも、豆腐のような磨かれるほど耐久性のないものにも使えない

磨けるのは机、石、刃物など、光沢を持つものである。写真も磨ける。指紋や曇りを取れば磨いたことになる

ㇿeゝeはくさゝeと違って光沢を作る。また、清潔にするのが目的ではなく光沢を作るのが目的である

eしゝeは「oΛをㇿoΛでごしごし擦る」である。くさゝeとㇿeゝeの間にある。まず、くさゝeより一生懸命擦るという点で異なる。更に、ㇿeゝeと違って光沢を作ることが目的でない。ごしごし擦ることなのである程度の強度があるものにしか使えない

風呂釜やフライパンなどを主に取る。くさゝeなどと違ってeしゝeはくさゝeの要素がある。つまり、清潔にするという意味が入る

Δ0 : 積 : h-Λㇿゝe, hcΛㇿゝe, h-ΛJゝe

⊙

h-Λㇿゝe/hcΛㇿゝe

h-Λㇿゝeは「oΛを-|に積み上げる」。hcΛㇿゝeは「oΛをclから降ろす」

h-ΛJゝe

「 $\circ\Lambda$ を畳む」。絨毯や紙など、平面的なものを折り曲げて重ねること

⊙

非 $\circ\Lambda$ -。  $\circ\Lambda$ は物。完了相は積み上げた時点

$h-\Lambda\text{r}\text{e}$ は「 $\circ\Lambda$ を-lに積み上げる」ことである。 $\circ\Lambda$ は物を取る。人はふつう取らないが、サーカスや死体置場なら取りうる

$hcl\text{r}\text{e}$ は「 $\circ\Lambda$ をclから降ろす」ことである。積み重ねてあるものしか $\circ\Lambda$ を取れない

$h-\Lambda\text{r}\text{e}$ は「 $\circ\Lambda$ を畳む」ことである。絨毯や紙など、平面的なものを折り曲げて重ねることを指す

$\Delta 1$  : 表裏 :  $h-\text{r}\text{e}$ ,  $hcl\text{r}\text{e}$

⊙

非 $\circ\Lambda$ -。  $\circ\Lambda$ は物。完了相は面を変えた時点

$h-\text{r}\text{e}/hcl\text{r}\text{e}$

$h-\text{r}\text{e}$ は「 $\circ\Lambda$ を表にする」。  $hcl\text{r}\text{e}$ は「 $\circ\Lambda$ を裏にする」

⊙

非 $\circ\Lambda$ -。  $\circ\Lambda$ は物。完了相は面を変えた時点

$h-\text{r}\text{e}$ は「 $\circ\Lambda$ を表にする」。  $hcl\text{r}\text{e}$ は「 $\circ\Lambda$ を裏にする」である。両者はどちらも「 $\circ\Lambda$ をめくる」という意味がある。カレンダーやページをめくることができる。 $h-\text{r}\text{e}$ の場合、1ページ前に戻し、 $hcl\text{r}\text{e}$ の場合、1ページ後ろに進める

$\Delta 7$  : 回 :  $\text{r}\text{e}\text{r}\text{e}$ ,  $\text{r}\text{e}\text{r}\text{e}$ ,  $hol\text{r}\text{e}$ ,  $\text{r}\text{e}\text{r}\text{e}$ ,  $\text{r}\text{e}\text{r}\text{e}$ ,  $\text{r}\text{e}\text{r}\text{e}$ ,  $\text{r}\text{e}\text{r}\text{e}$ ,  $\text{r}\text{e}\text{r}\text{e}$

⊙

非 $\circ\Lambda$ -。  $\circ\Lambda$ は具象。完了相は回し終えた時点

### >oJ>e/>eJ>e

>eJ>eは「oΛの周りを回る」或いは「oΛを囲む」である。oΛは具象。囲む場合、一人では行えないのでalは二人以上になる

### hol>e

hol>eは「oΛを回転させる」である。再帰形あり。>eJ>eはalが回るが、hol>eはoΛ自身が回る

### <-CΛ>e

<-CΛ>eは「oΛをくるっと回らせる」である。再帰形が多い。I-ZからCΛ-までがしがち

### oΛ->e/oΛc>e

oΛc>eは「oΛを-lに曲げる」である。折ってはいけない。oΛは物か人である。-lは曲げる位置や方向を表わす。方向と特に言いたければoΛを使うこともあるが、-lで代用することが多い。oΛ->eはまっすぐにする

### h->>e

h->>eは「oΛをoΛでぶんぶん振り回す」である。ふつう手を使う

### ∫elC>e

∫elC>eは「oΛをoΛで捻る」である。oΛは捻れるものがある。栓や腕や首などを取れる。何かの一部分を持って左右に回転させることである

⊙

非oΛ-。oΛは具象。完了相は回し終えた時点

>eJ>eは「oΛの周りを回る」或いは「oΛを囲む」である。oΛは具象。囲む場合、一人では行えないのでalは二人以上になる

alは無生のこともある。地球が太陽の周りを回るような場合である(1)。これは一種の擬人法である。ただ、これでは地球が意思を持っているかのように聞こえるため、より厳密に(1)と言うこともある

(1)の場合、誰だか分からない者が地球に陣取って、地球を動かして太陽の周りを回るというイメージである。これだとあくまで回っているのはその誰かであり、無生の地球ではない

(1) -cɔl-J >eɯɰe ʔ-M

(✓) e> >eɯɰe ʔ-M ɔl -cɔl-J

>ɔɯɰeは逆に「ɔlを中央にする」である

holɰeは「ɔlを回転させる」である。再帰形あり。>eɯɰeはalが回るが、holɰeはɔl自身が回る(?) (0)

(?) -l holɰ- (回った)

(0) e> holɰe -cɔl-J → -cɔl-J eɰ hol (地球は自転している)

<-lɰɰeは「ɔlをくるっと回らせる」である。再帰形が多い。スカートを履いた女性が可愛げに或いは優美にくるっと回転することを表わす。少女も若い女も可能。老女は体力的にあまりしない。幼女は身体技能がそこまで発達していないことが多く、あまりできない。したがってふつうは<c-lからJ--Zまでである。但し、実際はl-Zからcɔl-までがしがちである(f)

(f) <c-l la <-lɰɰ- ɔɰ

ɔlɰeは「ɔlを-lに曲げる」である。折ってはいけない。ɔlは物か人である。-lは曲げる位置や方向を表わす。方向と特に言いたければɔɰを使うこともあるが、-lで代用することが多い(ɣ)

(ɣ) -l ɔlɰ- Zɔl -l ʔ- (杖を右に曲げた)

ɔlが人の場合、体を折り曲げるという意味である。再帰形あり。(ɣ)は体操の指示である

(ɣ) ɔlɰ-l lɔɯ -l ɰc (はい、後ろに曲げて～)

ɔl-ɰeは逆に「ɔlをまっすぐにする」である。特に方向や位置は表わさない。どうしても

言うなら-|である

h->eは「oΛをoΛでぶんぶん振り回す」である。ふつう手を使う

ʎel'eは「oΛをoΛで捻る」である。oΛは捻れるものが来る。栓や腕や首などを取れる。何かの一部分を持って左右に回転させることである

Δ? : 覆 : lo'e, ʎeel'e

⊙

非oΛ-。oΛは具象。完了相は覆った時点

lo'e

lo'eは「oΛをoΛで覆う」である

ʎeel'e

ʎeel'eは「oΛをoΛで包む」である

⊙

非oΛ-。oΛは具象。完了相は覆った時点

lo'eは「oΛをoΛで覆う」である。主に守るため、隠すために行う。oΛは物である。人でも良い。oΛの一部或いは全部を何かで見えなくすることや、寒さなどから守ることである

ʎeel'eは「oΛをoΛで包む」である。こちらは完全にoΛが見えないようにすることである。大抵は紙や布などで巻くことである

贈答用にラッピングする場合も表わせる。紙でなく箱に入れる場合も贈答用なので包むといえる(1)

(1) -Λ ʎeel- ʎ-Λo oΛ oV

人を包むこともできる。赤ん坊を布にくるむような場合である。その場合、完全に包むと窒息するので、ふつう顔、特に鼻は覆わない

loʼeʼeは主に上から何かをかぶせることを指す。かぶせ方は平面的である。ʼeelʼeは約90度全方向から見えなくする。かぶせ方は立体的である

尚、包みを開ける場合は合成語のeʼeelʼeを使う

Δ0 : 挟 : ho>ʼe, ʼi-ʼe, Z->ʼe

⊙

非oʼ-。oʼは具象。完了相は挟んだ時点

ho>ʼe

ho>ʼeは「oʼをʼoʼで挟む」である。指で挟む場合は抓むと訳す。oʼは具象を取る

ʼi-ʼe

ʼi-ʼeは「oʼをクリップなどのはさみで挟む」ことである。道具は挟みと決まっている

Z->ʼe

Z->ʼeは「oʼを股で挟む」「oʼにまたがる」

⊙

oʼ-あり。oʼは具象。完了相は挟んだ時点

ho>ʼeは「oʼをʼoʼで挟む」である。指で挟む場合は抓むと訳す(1)。oʼは具象を取る

(1) -ʼ ho>ʼcʼ ʼaʼo ʼoʼ Sc (指で虫を抓んでる)

指をドアに挟んだような場合もho>ʼeといえる。再帰形を使うかoʼ-にするかでニュアンスが変わる。(✓)は自分でドアを閉めたときに指を挟んでしまった場合で、自業自得な場合である。(?)は電車のドアなどに知らずに指を挟まれた場合である

(✓) -ʼ ho>ʼ- Sc ʼoʼ o>c

(?) Sc -ʼ ho>ʼ ʼoʼ o>c

㊦-㊨eは「㊦をクリップなどのはさみで挟む」ことである。道具は挟みと決まっている

Z-㊨eは「㊦を股で挟む」である。㊦が物でなく馬を取る場合、馬に乗るという意味になる。もちろん、またがって乗るものなら何でも良い。つまり「㊦にまたがる」という意味も持つ

Δf : 切 : ㊦cl㊨e, ce㊦㊨e, ㊦-㊨e, ㊦c㊦㊨e

非㊦-。㊦は具象。完了相は切った時点

㊦cl㊨eは「㊦を㊦㊦で切る」である。㊦㊦は刃物かそれに準じるものである。㊦を切断するか切り目を入れるだけか不明である。切断なら㊦cl㊨e㊦㊨e、切りつけるなら㊦cl㊦㊦㊨eを使う

ce㊦㊨eは「㊦をカッターで切る」。㊦-㊨eは「㊦を鋏で切る」。㊦c㊦㊨eは「ナイフで切る」。これらは㊦cl㊨eと同じ㊦㊦を取る

Δf : 刺 : ㊦ce㊨e, ㊦-㊦㊨e, ㊦㊦㊦㊨e, ㊦㊦㊦㊨e

非㊦-。㊦は具象。完了相は突いた時点

㊦ce㊨eは「㊦を㊦㊦で刺す、突く」。㊦の内部にまで入っていくかどうかは不明。㊦-㊦㊨eと違って㊦を貫通して㊦の向こう側までいくことはない。㊦の表面か内部に留まる

㊦-㊦㊨eは「㊦を㊦㊦で貫く」である。貫通した時点で初めて完了相である。刺し通す意味を持つ。㊦の内部に必ず入る。そして㊦を突き抜けて㊦の向こう側まで行くことを表わす

㊦㊦㊦㊨eは㊦ce㊨eと㊦-㊦㊨eの間で、「㊦を串で突き刺す」である。㊦の内部か或いは㊦の向こう側まで通る。表面で止まることはない。必ず内部にめり込むか貫通する。バーベキューは先端の肉は串が肉の内部で止まるが、中間の肉は突き抜けている。どの肉にせよ㊦㊦㊦㊨eと

いえる

ᄃcΛλᄃeは「ᄃΛを針で刺す」である。ᄃΛの内部にまで至る。裁縫などの場合、貫通もある。ちくっと人肌を刺すとき、血が出ない程度に留めると、表面で止まったことになる。つまりᄃcΛλᄃeは表面、内部、貫通、全て使える

Δᄃ : 剥 : ᄃcVᄃe, ᄃ-Vᄃe, ᄃᄃᄃᄃe, ᄃeᄃᄃe, <eᄃᄃe

ᄃcVᄃeは「ᄃΛをᄃᄃΛでclから剥ぐ」である。貼ったものしかᄃΛに取れない。ᄃ-Vᄃeは「ᄃΛをᄃᄃΛで-lに貼る」である。ᄃᄃΛに道具を取れる。ふつう糊やテープである。ᄃΛは貼れるものなら何でも良い。-lは貼る場所である

粘性のある接着物や圧力などを媒介として何かを何かの表面に接触させ、重力に負けて離れないようにすることがᄃ-Vᄃeである。ポスターを壁に貼る場合も使える。人に絆創膏を貼る場合も使える。野菜にステッカーを貼る場合も使える

そして一度ᄃ-Vᄃeしたものを除去するのがᄃcVᄃeである。eVΛᄃeとは言えない

ᄃᄃᄃᄃeは「ᄃΛにᄃᄃΛで皮をつける」である。この皮はᄃΛの一部でなくても良い。りんごの皮はりんごの一部だが、ロールキャベツのキャベツは中身の肉の一部ではない。肉はキャベツではないからである。しかしながらこのキャベツは肉を包む皮として機能している。このような場合にᄃᄃᄃᄃeを使う

逆にᄃeᄃᄃeは「ᄃΛをᄃᄃΛで肉にする」である。皮の反対なので、「ᄃΛの皮を剥く」ともいえる。りんごの皮もᄃeᄃᄃeである。ロールキャベツのキャベツもᄃeᄃᄃeを使える

<eᄃᄃeは「ᄃΛをclから剥ぎ取る」である。ᄃΛは服などの装身具を取る。追いはぎの意味と、女などの服を剥ぎ取る意味がある。前者は服がほしいために剥ぎ取るが、後者は女を裸にしたくて剥ぎ取る。後者は追いはぎとはいえないが、アルカでは区別せずに<eᄃᄃeである

では、ᄃcᄃᄃeとどう違うか。まず、<eᄃᄃeは服を奪う可能性がある。そして<eᄃᄃeは無理やり脱がせるという意味を持つ

ΔΔ : 着脱 : ᄃ-eᄃe, ᄃcᄃᄃe



非oΛ-。oΛは装身具。完了相は着た時点

J-εεeは「oΛを-lに着せる」である。-lが再帰の場合が多く、その場合は「oΛを着る」である。oΛは装身具である。服だけでなく、身に付けるものなら全てoΛに取れる。帽子、靴下、靴、アクセサリ、生理用品、おむつ、包帯（巻くでも良い）、絆創膏（貼るでも良い）、湿布（貼るでも良い）、カツラ、義足など、全てoΛに取れる

着た時点でJ-εεeである。部屋で着替えた時点でJ-εεeで、その後でかける時点から脱ぐ時点まではずっとJ-εεeである

Jcεεeは「clのoΛを脱がせる」である。clは再帰が多く、その場合は「oΛを脱ぐ」である。J-εεeしたものしかoΛに取れない

ΔL : 踏 : OoΛJεe, OoΛCεe

非oΛ-。oΛ具象。完了相は踏んだ時点

OoΛJεeは「oΛをoΛで踏む」。足がoΛならoΛは省略するのがふつう。oΛには靴の種類などが来る。oΛは場所か物か人を取る。抽象は取れない

OoΛCεeは「oΛのペダルを-lまで漕ぐ」である。乗物を使った移動動詞である点に注意。oΛはペダルを持つ乗り物が来る

では、「漕いでいる」は何というか。これは移動動詞なので完了相はε-oJεeとは違って一回漕いだ時点ではない。ゆえに「漕いでいる」はアオリスト+l-ではない。OoΛCεeの完了相は目的地に着いた時点である。したがって「漕いでいる」は経過相である(1)

(1) -l OoΛCεcJ 4->e -l <el7- (学校に向かって自転車を漕いでいる)

L0 : 歩 : lo<εe, le<εe, Cεεεe

非oΛ-。oΛは場所。完了相は目的地到着時点

lo<ɣeは「oΛを歩いて-lまで行く」である。oΛは場所で、-lは目的地である。oΛはどこを歩くかという意味で、道や公園やアルバザードなどが来る。特にどこを歩いたか明示しない場合はe>化する(1)

(1) -Λ lo<ɣ- -l <elʔ-

完了相は着いた時点なので、「歩いている」は経過相である(✓)

(✓) -Λ lo<ɣcʊ -l <elʔ-

le<ɣeは「oΛを走って-lまで行く」である。詳細はlo<ɣeと同じ

では、lo<ɣeとle<ɣeはどう違うか。ふつうは速さの違いと思われるが、それは厳密ではない。速く歩く方が非常にゆっくり走る場合よりも速いこともあるからである。むしろ両者の違いは速度でなく足の動かし方にある

le<ɣeは常に片方の足しか地面に接触していない。片方が上がっているとき、もう片方は宙に浮いている。ところがlo<ɣeはそうでなく、両足が地面に付く瞬間がある。lo<ɣeは片方の足が付いてからほぼ同時にもう片方を上げる。だが、le<ɣeは片方が付く前にもう片方が上がっている

また、le<ɣeのほうが腿があがるというのも違いである

lo<ɣeは「oΛをよちよち歩いて-lまで行く」である。lo<ɣeの一種である。子供の歩く様を述べるものである

L1 : 泳 : lo<ɣe, le<ɣe

lo<ɣeは「oΛを泳いで-lまで行く」である。非oΛ-。移動動詞。oΛは場所。完了相は到着時点

一方、leᵛᵛeは移動動詞ではない。「ᵛᵛを-lに濡れさせる」である。-lは海や水や湖や滝などを取る。ᵛᵛ-あり(1)

(1) -ᵛ -ᵛ- leᵛᵛ -l -ᵛ- (海で濡れた)

leᵛᵛeは泳ぎのコントロールを失うことである。死亡を意味するかどうかは不明(✓)。完了相を勝手に溺死にしてはならない

(✓) -ᵛ -ᵛ leᵛᵛ -l -ᵛ-,, ᵛ-l -ᵛ ᵛᵛᵛᵛ- ᵛᵛ

ㄥ : 寝 : ᵛᵛ-ᵛᵛe, ᵛᵛᵛᵛe, ᵛᵛᵛᵛᵛe, ᵛᵛᵛᵛᵛe, ᵛᵛᵛᵛᵛe, ᵛᵛᵛᵛᵛe

非ᵛᵛ-。再帰頻発。ᵛᵛは人や物。完了相は寝せた時点

ᵛᵛ-ᵛᵛeは「ᵛᵛを-lにうつぶせにする」。ᵛᵛは人か物。物の場合、人間に見立てられるような長い物でないと行かない。玉は寝せずらい。また、ᵛᵛ-ᵛᵛeのᵛᵛに物を取るのにはやや擬人法的である。ふつうはし-ᵛᵛeという

ᵛᵛᵛᵛᵛeは「ᵛᵛを-lに仰向けで寝かせる」である

ᵛᵛᵛᵛᵛeは「ᵛᵛを-lに右を下にして寝かせる」である

ᵛᵛᵛᵛᵛeは「ᵛᵛを-lに左を下にして寝かせる」である

ᵛᵛᵛᵛᵛeは「ᵛᵛを-lに伏せさせる」である。床などに伏せることである。腹は床につくか、或いはつかんばかりである。物を伏せることもできる。玉のように形が伏せられないものがあるが、本などの平面的なものは伏せられる。本の場合、開いて字のある面を床に向けて置くことを伏せるといふ。紙の場合、字面を床に向けることである。伏せるには多少なりとも隠す要素があるようである

ᵛᵛᵛᵛᵛeは「病でᵛᵛを-lに臥せさせる」である。ᵛᵛは人しか取らない。病名を述べる場合は>-ᵛᵛを取る(1)。臥せた時点が完了相である。影響相はその後の寝ている状態である

(1) -Λ Vcl>꜀Λ -l >꜀꜀ >-Λ e<- (風邪で床に臥せっている)

L7 : 風呂 : e꜀꜀꜀e, ꜀꜀꜀꜀e

非꜀Λ-。꜀Λは人。再帰頻発。完了相は風呂から上がる直前

e꜀꜀꜀eは「꜀Λを風呂に入れる」である。風呂に入った時点がe꜀꜀꜀e꜀。入って温まっている時点がe꜀꜀꜀e꜀。もう出ようと上がった時点がe꜀꜀꜀e꜀。その後のぼかぼかが持続したり清潔が持続したりしている時点がe꜀꜀꜀eΛである

また、風呂でごしごし物を洗う場合なら物を꜀Λに取れる

꜀꜀꜀꜀eは「꜀Λをシャワーで綺麗にする」である。詳細はe꜀꜀꜀eと同じ。꜀꜀꜀꜀eも꜀Λに物を取れる。シャワーをかけて物を洗うことがある

L8 : 作 : l-꜀꜀e, ꜀꜀꜀꜀e, ꜀-꜀꜀e, ꜀-꜀꜀e, l꜀꜀꜀e, ꜀-꜀꜀꜀e, ꜀꜀꜀꜀e, ꜀e-꜀꜀e, ꜀e-꜀꜀e, Ve꜀꜀꜀e, ꜀꜀꜀꜀e

一部꜀Λ-あり。꜀Λは物。完了相は完成時や破壊時

l-꜀꜀eは「꜀Λを꜀꜀Λで作る」である。꜀꜀Λが材料で꜀Λが完成品である。꜀Λは物が来るが、人間も子供なら取れる。>cVではなく>caである。完了相は完成した時点である

l-꜀꜀eは直すではない。直すは元々完成品だったものが損傷を受けたのでその損傷を取り除くことである。そうではなく、l-꜀꜀eは作るである。つまり元々完成品でないものしか꜀Λに取れない。l-꜀꜀e (e>꜀)といった場合、元はただの材料でしかないガラスをやパッキンを使って窓という完成品にすることである。この窓は始めの時点では完成品どころか存在すらなかった。それを完成品にする行為がl-꜀꜀eである

꜀Λは物を取るが、作りうるものであれば何であろうと取れる。また、新理論や音楽やコネのように抽象的なものも作るができる。ゆえにl-꜀꜀eの꜀Λは抽具を取る

꜀꜀꜀꜀eは「꜀Λを꜀꜀Λで建てる」である。建物を作るときに使う「作る」である。築くともいえる。꜀Λは建物である。建物以外には使えない。抽象的な意味はない。日本語では信頼は

築くというが、cʎɪeに抽象的な意味はないので不可である。その代わりlɪeは抽象も取れるので、アルカでは信頼は作るものである

ʒ-ɸɪeは「ɸɪを開拓する」である。ɸɪは場所である。森や山など、自然を取る。自然を切り開いて人間の暮らす文明に即すことである。具体的には道路をひいたり家を作ったり水道をひいたりすることである

ɸ-ɸɪeは「ɸɪを発明する」である。発明品がɸɪに来る。他はlɪeと同じ

lɸɪeは「ɸɪをɸɪで壊して-lにする」である。lɪeしたものをɸɪに取る。完成品として機能しているものに機能できなくなる程度の損傷を与えることである。ɸɪは物を取る。人も取れる。-lは壊した結果物である

物は完成品を取る。火や水のように既製品はふつう取れない。取るなら作った水や火の場合である

lɸɪeはɸɪがɸɪとして機能しなくすることである。どう機能しなくなるかまでは語らない。ラジオを壊す場合、ラジオとして機能しなくすれば良い。具体的な方法は問わない。つまりハンマーで壊しても良いし、過度な電気を流して内部を壊しても良い。形状が変わろうと変わらなかりと構わない

窓についても窓と機能しなくすればlɸɪeである。ここでいう機能とは限定された時間での機能ではない。全開にした窓は現在は機能していない。だが、それは現在という限定された時間において機能しないだけである。閉めればまた機能する。ゆえに全開の窓は壊れた窓ではない

また、少し傷がついたくらいではふつう壊れたとはいわない。小さな穴が開いた程度でも壊れたとはいわない。ただ、このあたりだと個人差が大きい。同一人物でも状況によって評価が変わる。ただ、いずれにせよバラバラにガラスが割れればまちがいなく壊れた窓であるといえる

lɸɪeはɸɪ-がある。「壊れる」である

また、lɸɪeは幅がある。といっても「ちょっと壊れた」という日本語的な表現はしない。つまり、ɸa -ɸ ɸo lɸɪとはいえない。ちょっと壊れたとは壊れかけているという意味なので相で表わす

まだ損傷はないが損傷が近づいている場合、 $lc\lambda\epsilon\eta$ である。損傷が始まると $lc\lambda\epsilon\theta$ 。損傷を受けたがまだ壊れていない間は $lc\lambda\epsilon\iota$ 。壊れた時点で $lc\lambda\epsilon\kappa$ 。壊れた状態を保持するのが $lc\lambda\epsilon\lambda$ である(1)

(1)  $\rho\alpha\ c\theta\ lc\lambda$  (ちょっと壊れた)

$\rho\lambda$ に人を取る場合、人間として機能しなくさせることを意味する。この人間とはまともな人間のことである。つまり五体満足で精神を病んでいない人間である。風邪や怪我ぐらいでは $lc\lambda\epsilon$ は使えないが、もう戻らない重大な怪我の場合は $lc\lambda\epsilon$ といえる。また、精神に異常をきたして狂った場合も $lc\lambda\epsilon$ といえる

$lc\lambda\epsilon$ の $\rho\lambda$ はかなり広い。壊すより遥かに広い。形状をどう変化させるかとか、形状を変化させるさせないとか、そういったことは言及しない。その物がその物として機能しなくなるようにすることを表わす。抽象的な分、 $\rho\lambda$ の領域が広い

また、上記のとおり、 $l-\lambda\epsilon$ は $-l$ を取れる。 $-l$ は結果物である(1)

(1)  $-\lambda\ lc\lambda\epsilon-\ (\epsilon)\iota\ -l\ V--\kappa$  (ガラスを砕いて武器とした)

$l-\lambda\epsilon$ は「 $\rho\lambda$ を $\rho\lambda$ で砕いて $-l$ にする」である。 $l\mu\epsilon$ は「 $\rho\lambda$ を $\rho\lambda$ で割って $-l$ にする」である。これらは $lc\lambda\epsilon$ と似ているが、必ず形状変化を伴う点で異なる。砕くと割ると分けてはいるが、別に逆でも良い。割ると砕くでも良い

実は両者の違いは $\rho\lambda$ が $\rho\lambda$ でなくなるか否かにある。両者はいずれも力を加えて $\rho\lambda$ をより小さな欠片に変えることである。だが、 $l-\lambda\epsilon$ は $\rho\lambda$ を $\rho\lambda$ のまま欠片にすることである。一方、 $l\mu\epsilon$ は $\rho\lambda$ を $\rho\lambda$ でなくすることである

たとえば砂糖の塊を砕いた場合、粉状の砂糖になる。 $\rho\lambda$ は砂糖だが、砂糖を砕いても依然として砂糖のままである。つまり $\rho\lambda$ を $\rho\lambda$ のまま欠片にしたといえる。この場合、 $l-\lambda\epsilon$ と使う。だが窓はどうか。窓を欠片にすればもはや窓ではなくガラスである。この場合、 $l\mu\epsilon$ を使う

尚、窓でなくガラスの場合は砕いてもガラスの欠片になるだけなので $l-\lambda\epsilon$ である。他にも $l-\lambda\epsilon$ を使うものは水晶や宝石の類、塩などの塊、金属の塊などである

これらが取る $\rho\lambda$ は固体である。液体と気体は欠片にできない。塊やガラス板など、同じ

材質のものが寄り集まってできているものは砕いても同じものであるため、 $l-l\grave{a}e$ を使う。窓など、道具として何らかの機能を持っているものは砕くと壊れて道具でなくなるため、 $l\circ\mu\grave{a}e$ を使うことが多い

また、布に $l-l\grave{a}e$ や $l\circ\mu\grave{a}e$ は使えない。これらは何らかの打撃を加えることによって壊すときに使う。たとえばハンマーで殴ったりする場合である。布はハンマーで殴っても壊れないからこれらが使えない

厳密に言えば、引っ張った布を機械で固定して機械のハンマーで殴れば千切れるだろう。それなら $l-l\grave{a}e$ といえる。ただ、ふつうそのようなことはしないので言わない。つまり、ある物を壊そうとするときに打撃力を加えるなら $l-l\grave{a}e$ や $l\circ\mu\grave{a}e$ が使えるというわけである

布はふつう殴っても壊れないので切るはずである。だから $l-l\grave{a}e$ や $l\circ\mu\grave{a}e$ と叫ぶ。同じように紙や本にも使えない。破いたりや切るものだからである

$l\epsilon-l\grave{a}e$ は「 $\circ\Lambda$ を $\circ\Lambda$ でバラバラにする」である。 $l-l\grave{a}e$ と $l\circ\mu\grave{a}e$ の区別はない。その物の機能を保持するかどうかは問わない。また $lcl\grave{a}e$ とも違って必ず形状変化を伴う

$l\epsilon-l\grave{a}e$ は $lcl\grave{a}e$ 、 $l-l\grave{a}e$ 、 $l\circ\mu\grave{a}e$ と違って爆発的な勢いで壊すことを意味する。ハンマーで殴って水晶を割るくらいでは $l\epsilon-l\grave{a}e$ とはいえない。爆発的な勢いでバラバラにすることなので、爆弾で窓を吹き飛ばしたり、バイクで窓に突っ込んで吹き飛ばしたりしなければ $l\epsilon-l\grave{a}e$ とはいえない。爆発的な威力で吹き飛ばすため、破片もしばしば遠くに散乱しがちである

$l\epsilon-l\grave{a}e$ は人を取ることもできる。爆弾などでバラバラに吹き飛ばすことである。刃物などでバラバラ殺人を行うときは勢いが弱いので使えない

$l\epsilon-cl\grave{a}e$ は「 $\circ\Lambda$ を $\circ\Lambda$ で大破壊する」である。これは窓や水晶といった小さいレベルの話ではない。街を爆弾で破壊したり国を戦争で壊滅させたりすることである。最低でもビルを爆破するくらいのことをしなければ使えない

$Ve\mu\grave{a}e$ は「 $\circ\Lambda$ を $\circ\Lambda$ で崩壊させる」である。 $\circ\Lambda$ は塔など、建っているものを取る。抽象的な意味はない。信頼関係が崩壊したという場合、 $lcl\grave{a}e$ を使う。 $Ve\mu\grave{a}e$ は崩すことであるから、ふつうは建物や山などに使う。高さが無い本山でも $Ve\mu\grave{a}e$ が使える。要は高さのあるものが壊れ、重力に従って下方向に落ちていく場合に使うわけである

ㇿ>ㇿeは「ㇿㇿをㇿㇿで-|に折る」である。この-|はlclㇿeの-|とは違い、ㇿㇿeの-|と同じである。つまり折ってできる物ではなく、折る方向である(?)

(?) -ㇿ ㇿ>ㇿ- >-ㇿ -| lㇿ (手前に紙を折った)

ㇿ>ㇿeはㇿㇿを折ることを表わす。棒か面的一部分をある線に沿って鋭く曲げることである。折った結果、ふつうはㇿㇿが分断することはない。もし分断するならㇿ>>eㇿeという。折り紙の場合、折っても紙は分断しないのでㇿ>ㇿeである。骨は折ると分断するのでㇿ>>eㇿeという。だが、そのようなことは常識で分かるため、骨も単にㇿ>ㇿeということがあり、むしろそのほうが自然である

ㇿ>ㇿeは形状変化を意味する。ㇿㇿがㇿㇿでなくなるかどうかとは関係がない。つまり、lclㇿeの一種ではない。lclㇿeは形状がどうなるかが構わない。代わりにㇿㇿがㇿㇿとして機能するかどうかを気にする。しかしㇿ>ㇿeはそうではなく、形状変化を気にする

Lㇿ : 手芸 : >elㇿe, >elㇿe, ㇿ>ㇿe, ㇿ>ㇿe

非ㇿㇿ-。ㇿㇿは縫う対象。-|は縫ってできた結果物。ㇿㇿは材料や道具。完了相は縫い終わった時点。完成したかどうかは不明。単に止めた時点

>elㇿeは「ㇿㇿをㇿㇿで縫って-|を作る」である。ㇿㇿは縫う対象である。縫える物を取る。布などである。ㇿㇿは材料や道具

>elㇿeは「ㇿㇿをㇿㇿで-|に刺繍する」である。刺繍内容がㇿㇿ。ㇿㇿは道具や材料。-|は刺繍の受取人(1)

(1) -ㇿ >elㇿ- h-rㇿ ㇿㇿ >elㇿ h-rㇿ -| ㇿ-e (服に赤い糸で幻字を刺繍した)

ㇿ>ㇿeは「ㇿㇿをㇿㇿで編んで-|を作る」である。ㇿㇿは草や糸など、材料を取る。したがってㇿㇿは道具だけを取る。道具は編み棒である。-|はマフラーやセーターなどの結果物である



る。>elθ>eと違ってoΛに材料を取る

Jo>C>eは「oΛをJoΛで織って-lを作る」である。詳細はJe>C>eと同じ

Lf : 掘 : >eθ>e, >eθC>e, >eθ->e, ΛoZ->e, >oθ>e, -lθ>e, >oθl>e, >eθl>e

非oΛ-。oΛは物。完了相は穴が完成した時点

>eθ>eは「oΛをJoΛで掘って-lを作る」である。oΛは掘れる物で、土などが来る。-lは掘ってできたものである。日本語は土を掘るとも穴を掘るともいえるが、アルカでは穴を掘るとはいえない。土を掘って穴を作るである。穴はoΛでなく-lに来る。-lだけ言いたければoΛは省略できる(1)

(1) -Λ >eθ->e -l >-し

>eθC>eは「oΛをシャベルで掘って-lを作る」である。>eθ>eの一種

>eθ->eは「oΛを鋤で耕して-lを作る」である

ΛoZ->eは「oΛを熊手で掘って-lを作る」である

>oθ>eは「oΛを-lに埋める」である。oΛは埋められる物なら何でも良い。-lは埋める場所である

-lθ>eは「oΛを-lに葬る」である。oΛは死人を取る。-lは埋める場所である。動物にも使える

>oθl>eは「oΛを満員にする、埋まった状態にする」である。>oθ>eと違って土をかぶせて埋めるという意味ではない。用紙に必要事項を埋めるとき、時間の空きに予定を埋めるとき、席を満員にするときなどに使う。抽象的な意味での埋めるである

>eθl>eは「oΛを空いた状態にする」である。意味は>oθl>eの逆である

## L9 : 刷 : ㊦e㊦e, h-d㊦e

非㊦㊦-。㊦㊦は印刷物。完了相は刷り終わった辞典

㊦e㊦eは「㊦㊦を㊦㊦で-Iに刷る」である。㊦㊦は印刷物、印刷内容が来る。㊦㊦はプリンターやパソコンなどの道具が来る。フォント名も㊦㊦である。-Iは普通紙、感熱紙、新聞紙など印刷の素地となるものが来る

プリンターがガーガーと音をたてて印刷している最中は㊦e㊦e㊦である。㊦e㊦e㊦は印刷終了を意味する。10枚印刷する場合、1枚出た時点で㊦e㊦e㊦ではなく、10枚目が終わって初めて㊦e㊦e㊦である

h-d㊦eは「㊦㊦を-Iに㊦㊦で印字する」である。特に印字面を強調した㊦e㊦eである(1)

(1) h-d㊦e-I (a -I >-㊦ ㊦㊦ (㊦h-d

## LΔ : 撮影 : ㊦-㊦㊦e, ㊦e㊦e

非㊦㊦-。㊦㊦具象。完了相は撮影終了時点

㊦-㊦㊦eは「㊦㊦をビデオカメラで-Iに撮影する」である。㊦㊦は撮る対象で、人でも景色でも良い。-Iはテープやメモリなどの記憶媒体である

㊦e㊦eは「㊦㊦を写真で-Iに撮る」である。-Iはフィルムなどを表わす

## LL : 料理 : ㊦e㊦e, <-c㊦e, e>㊦e, ㊦-㊦e㊦e, <-㊦㊦e, -<㊦e, <-㊦㊦e

非㊦㊦-。㊦㊦材料。-I結果物。完了相は料理を終えた時点

㊦e㊦eは「㊦㊦を料理して-Iを作る」である。㊦㊦は材料で、-Iはできた料理の名が来る。抽象的に㊦-㊦-などといっても良い

尚、料理とはただ材料を切って盛り付けるだけのことも含む。盛り付けただけでも  $\text{fel}\text{e}$  といえる。火を通す必要はない。最悪、切る必要もない。-l はどんな手ぬるい過程でできたものでも良い

但し、盛り付けるといっても材料を皿に配列することである。できた料理を皿に移し変えるだけでは  $\text{fel}\text{e}$  ではない。たとえば切つてある野菜を皿に盛り付ければサラダを料理したことになるが、炒めたナポリタンをフライパンから皿に移しただけでは料理とはいえない。盛り付けは食材を綺麗に見せるという点で料理であるが、皿に移し変える行為はそうではない。尚、仮に綺麗にフライパンから皿に盛り付けるなら料理といえるが、ふつうそのようなことはない

$\text{c}\text{e}$  は「 $\text{c}$  を焼いて -l を作る」である。料理動詞が本領ではないが、料理動詞としても使える

以下は全て  $\text{fel}\text{e}$  や  $\text{c}\text{e}$  と同じ構文である

$\text{e}\text{c}\text{e}$  は「炒める」、 $\text{V}\text{-}\text{el}\text{e}$  は「煮る、茹でる」、 $\text{c}\text{-}\text{el}\text{e}$  は「蒸す」、 $\text{-}\text{c}\text{e}$  は「揚げる」、 $\text{c}\text{-}\text{el}\text{e}$  は「燻す」である

#### 100 : 洗 : $\text{ol}\text{e}$ , $\text{eel}\text{e}$ , $\text{eel}\text{el}\text{e}$ , $\text{e}\text{c}\text{e}$ , $\text{Ac}\text{ol}\text{e}$ , $\text{Acel}\text{e}$

非  $\text{c}$ -。  $\text{c}$  具象。完了相は洗い終えた時点

$\text{ol}\text{e}$  は「 $\text{c}$  を水洗いする」ことである。洗濯ほど大量の水を使うのではなく、皿を洗ったり風呂で体を洗ったり洗面所で手を洗ったりするときに使う(1)

(1)  $\text{-}\text{A}\ \text{ol}\text{e}\text{-}\ \text{l}\text{-}\text{J}$

$\text{eel}\text{e}$  は「 $\text{c}$  を洗濯する」である。「すすぐ」という意味もある。シャンプーやリンスは大量の水を使わないので  $\text{ol}\text{e}$  である。尚、大量といっても一度に大量の水を使うという意味である。皿洗いやシャワーは風呂より水を使いうるが、一度に出る水が少ないので  $\text{ol}\text{e}$  である

eeしㇿeは「ㇿを洗剤で洗う」である。洗剤で洗えるものならㇿは何でも良い

e<eㇿeは「ㇿをスポンジで洗う」である

Λcolㇿeは「ㇿをシャンプーで洗う」。Λcelㇿeは「ㇿをリンスで洗う」

#### 101 : 粘 : S-ㇿㇿe, Scㇿㇿe, S-eㇿe, S-ㇿㇿe, Scㇿㇿe, S-ㇿㇿe

非ㇿΛ-。ㇿは具象。-Iは終点。完了相はくつついた時点

S-ㇿㇿeは「ㇿを粘らせる」である。ㇿΛ-あり(1)

(1) e> S-ㇿㇿcΛ (a = cΛ cΛ S-ㇿ (これは粘っこくなっている)

S-ㇿㇿeはㇿに粘性を持たせることで、粘性を持ちうるものなら何でもㇿに取れる。粘性を持たせる道具はㇿㇿである

肌もS-ㇿㇿeといえる。脂や化粧でベトベトした肌である

Scㇿㇿeは「ㇿをさらさらにする」である。「つるつる」でも「しとやか」でも良いが、とにかく粘性のないことである。肌の場合、さらさらな肌である

S-eㇿeは「ㇿを-Iに糊付けする」である。ㇿは対象で、具象しか取らない。しかもふつうは物であり、人はまずありえない。-Iは終点である。何次元体でも良いが、壁などの1次元体が多い

S-ㇿㇿeはS-ㇿㇿeと意味が似ているが、こちらは移動動詞である。まずはScㇿㇿeから見てみる。Scㇿㇿeは「ㇿを滑って-Iへ行く」である。つまり「滑る」である。ㇿは経路で-Iは終点である(✓)。尚、(✓)では壁に激突したかまでは不明である。少なくとも壁に達したことしか述べない

(✓) -Λ Scㇿㇿ- VeΛΛ -I ecl (氷の上を滑って壁まで行った)

そしてS-ᵛeは滑るの反対なので、「粘る」である。滑る道とは摩擦の少ない道であるから、粘る道とは摩擦の多い道であるといえる。つまりS-ᵛeのoAは摩擦の高い経路が来る。仮にガムテープが張り巡らされた床の上を歩くような場合、摩擦の高い経路なのでS-ᵛeといえる

だが、日常的にはそのような道は存在しない。日常的には摩擦の高いのは経路のoAではなく、むしろ移動する主体のaIである。ボールが坂を転がる際はふつう転がるを使うが、Sc ᵛeとも言える。ここでもしボールが餅玉だったらどうか。これは粘つきながら坂を転がるだろう。このような場合、S-ᵛeといえる。oAではなく、aIが粘性を帯びている

餅を坂に転がすことはふだないが、まな板の上を転がすことならある。そのような場合、S-ᵛeも使うことができるというわけである(?)

(?) S-ᵛe S-ᵛc ᵛe -I el (白玉がまな板の上をねばねばしながら転がって流しに落ちていく)

S-ᶜeは「oAを練って-Iにする」である。「こねる」も同じ。oAは練るもので、パンの生地などを取る。-Iは結果物で、パンなどを取る。練ることは料理そのものではなくその下ごしらえだが、料理に近いため料理動詞と同じ構文を取る

10/ : 植 : ᵛe, ᵛe, >-ᵛe, ᵛe, >-ᵛe, ᵛe

非oA-. oA具象。-I終点。完了相は植えた時点

ᵛeは「oAを-Iに植える」である。-Iは土などの土壌を表わす。oAは植物を取る。動物の場合、埋めるである。植えるは植物だけに使う

また、ᵛeはoAの全部を植えることではない。全部を植える場合はそもそも種をまくときくらいしかありえない。ゆえに全部を埋める場合は種をまくという動詞のᵛeを使う

ᵛeは「oAをclから摘む」である。一度植えたものしかoAに取れない。つまり植物以外は摘めない

>-ᵛeは「oAを-Iに撒く」である。種を土にまく場合だけでなく、水を地面にまくことも

できる

107 : 移動 : 7e2e, 7o2e, 7e2e, oVΛ2e, eVΛ2e, >oI2e, >eI2e, >oΛ2e, >eΛ2e, 3co2e, 3c-2e

7e2eは「alはoΛへ移動する」である。oΛは場所である。完了相はoΛへの到着時点である。ゆえに道の途中は経過相である

7o2eは「alはoΛへ行く」である。7e2eは「alはoΛへ来る」である。これらは日本語の行くと来ると同じである。英語のgoと come とは違う。英語は終点を視点にして come を使う。呼ばれて I'm going という場合、視点は終点、つまり呼んだ相手のところにある。ところがこの場合、アルカでは7e2eでなく7o2eを使う

7o2eは視点から遠ざかっていく移動を表わす。今私が家にいて学校に来るとする。私が視点の場合、視点は家に置かれる。家から学校へ私が遠ざかっていくため、7o2eを使う

逆に7e2eは視点に近づいてくる移動を表わす。上の例だと、学校から誰かが家に来るとき、7e2eを使う

アルカではふつう私は視点になる。私が家にいる場合、学校に視点が置くのは不自然である。では、もし私でなく彼だったらどうか。ミールが家にいて、シオンが学校でミールを待っている場合はどうか。この場合、ミールに視点を置けばミールが学校へ遠ざかるので7o2eを使う。もしシオンに視点を置けば、ミールが学校に近づくので7e2eを使う。私でなければ視点は自由に置ける

では、これらと7e2eの違いは何か。7e2eは視点を含まない移動である。7o2eは視点から遠ざかり、7e2eは視点に近づく。だが7e2eは視点を考えない

より厳密に言えば、起点と終点のいずれにも視点を置かない。その代わりに、起点と終点及びその間の経路で結ばれる線以外の場所に視点を置く

ミールが家から学校に行く場合、家に視点を置けば起点に視点を置くことになる。学校に視点を置けば終点に視点を置くことになる。ところが7e2eの場合、ミールが家から学校へ移動するその全工程、起点から終点までの全てを眺められるところに視点を置く。つまり外からの視点で移動を見るということになる。外からといっても別に遠くから見るという意味ではない。起点にも終点にも視点を置かず、ただ移動だけを客観的に外部から眺める視点という意味である。実際の距離の問題ではない

-Λ 7o2eの場合、私に視点があり、私が視点から離れていくことを意味する。映像でい

うと、私が今いる場所にカメラがあり、そこから私がだんだん遠くへ離れていくというものである。-l 7e2eの場合、視点は私にない。目的地に行くまでの全工程を見渡せるところに視点を置く。映像でいうと、私がいるところと目的地を見渡せる上空にカメラがあるというものである。その分、7e2eのほうが客観的である

oVΛ2eは「oΛを-lへ動かす」である。再帰形あり。-lは目的地。oΛは具象。-lに着いた時点で完了相である。また、目的地がなく、単に動かしたという場合、動かし終えた時点で完了相である

eVΛ2eは「oΛを-lに止める」である。この-lは動いているoΛを止める地点である。たとえば動いている自転車を手でひっぱって止めようとする。ひっぱりはじめはなかなかとまらないが、徐々に減速していく。この過程は経過相である。やがて自転車は止まる。この止まった地点が-lである。そしてこの時点が完了相である

また、単に自転車をブレーキで減速させ、駐輪場に止める場合もeVΛ2eで良い(1)

(1) -l eVΛ2- 4->e -l 4->e7-

>oΛ72eは「oΛを-lに移住させる」である。再帰形あり。oΛは人で、-lは場所である

>eΛ72eは「oΛを-lに定住させる」である。詳細は同上

>oΛl2eは「oΛを-lへ持っていき、連れていく」である。oΛは持っていけるものなら何でも良い。-lは場所である

>elΛ2eは「oΛを-lへ持ってくる、連れてくる」である。両者の違いは7oΛ2eと7eΛ2eの違いである。即ち、視点から遠ざかるか近づくかである

9co2eは「oΛを-lに運ぶ」である。oVΛ2eよりも圧倒的に距離が大きい。oVΛ2eは移動というより動くことそのものに焦点がある。9co2eはある地点から別の地点までoΛの位置を変えることに焦点を当てる

oΛは物でも人でも良い。-lは場所でも受取人でも良い。持っていくとも違う。運ぶはoΛの位置を新しい位置に変えることに意味がある。ふつう一度運んだものは暫くその場所に置いておくというニュアンスがある。だが持っていくはそうではない。一度持っていったも

すぐまたどこかへやることが多い

ゆえにタンスをノ階に移動させる場合、持っていくより運ぶという。>olɽeではなくɤcoɽeである。逆に、学校に菓子を持っていく場合、>olɽeである

また、暫くそこに置いておくものはふつう重いものや定住性の高いものである。つまりɤcoɽeというものは重いものや定住性の高いものと結びつきやすい。タンスは重いのでɤcoɽeである。柱時計はそこに置いたままで使うものなのでɤcoɽeである。菓子はどちらにも当てはまらないので>olɽeである

ɤc-ɽeは「oɽを-lへ携帯する」である。-lは場所。日本語の携帯するは移動動詞でないが、ɤc-ɽeは移動動詞である。つまり「携帯していく」である。oɽは携帯できるものなら何でも良い。人はまず取らない。物のように扱う場合だけである。親が子供を携帯するとふざけて言う場合くらいである

では、運ぶと何が違うか。ɤcoɽeはoɽの位置変化に焦点があった。だがɤc-ɽeはoɽの位置変化でなく、oɽを帯びて-lへ行くという点に焦点が当たっている

それではɤc-ɽeは>olɽeのように聞こえる。だが>olɽeは視点があり、ɤc-ɽeはない。そこが異なる。逆に視点がない点でɤc-ɽeはɽeɽeと同じである。つまりɤc-ɽeはɽeɽeと>olɽeの中間にあるといえる

#### 100 : 進退 : ɤ-ɽe, ɤcɽe

非oɽ-。oɽは経路。-lは終点。完了相は到着時

ɤ-ɽeは「oɽを進んで-lまで行く」である。ɤcɽeは「oɽを戻って-lまで行く」である

これらは進行方向が確定している場合、その方向に順ずる移動(ɤ-ɽe)と逆行する移動(ɤcɽe)とを表わす。進行方向が分からない場合は使えない

#### 10f : 昇降 : >oɽe, >eɽe, >olɽe, >elɽe, >o<ɽe, >e<ɽe

>oɽeは「oɽを-lに上げる」である。oɽを上方向へ上げることである。方法は問わない。投げても叩いてもロケットで発射させても良い。oɽは物か人である。場所や経路は取れない



いので移動動詞ではない。ふつう物を取る

ᵛeᵛeは「ᵛΛを-lに落とす」である。再帰形頻発。ᵛΛは物か人。ᵛΛ-あり(1)

(1) -Λ -ᵛ ᵛeᵛ -l -ᵛᵛ

完了相は落とした時点或いは上げた時点である。たとえば崖で人をどんと突き飛ばした瞬間がᵛeᵛeである

ᵛᵛeは移動動詞で、「ᵛΛを登って-lへ行く」である。ᵛΛは経路である。上方向への移動を表わす。階段、山、梯子などを取る。角度は問わない。急転直下の崖でもなだらかな坂でも同じくᵛᵛeである

ᵛeᵛeは「ᵛΛを降りて-lへ行く」である。詳細はᵛᵛe

母親が梯子に登った子供に「ゆっくり降りてきなさい」という場合、ᵛeᵛeとはいえない。ᵛeᵛeという。自分の意思でどこかを伝って徐々に昇降する場合はᵛᵛe, ᵛeᵛeを使う

完了相は-lに到着した時点である

106 : 発着 : ᵛᵛe, leᵛe

非ᵛΛ-。ᵛΛは場所か人。完了相は到着した時点

ᵛᵛeは移動動詞で、「ᵛΛを去って-lへ行く」である。-lは特になければ省略する。ᵛΛは場所である。完了相は-lへ着いた時点である

leᵛeは「clから出てᵛΛに着く」である。詳細はᵛᵛe。完了相はᵛΛに着いた時点である

これらは出発と到着を表わす。ᵛᵛeはᵛeᵛeと同じ意味を表わすが、前者は出発に焦点が置かれる

109 : 遠近 : -ᵛᵛe, cᵛᵛe

非ᵛΛ-。ᵛΛ具象。-lは近づける相手。clは遠ざける相手。再帰形あり

完了相は近づけた時点。近づいていく時点が $-c\lambda\epsilon$ 。近づいても近づかなくても良いところで止まった時点で $-c\lambda\epsilon$ 。その後の状態が $-c\lambda\epsilon\lambda$ である

$-c\lambda\epsilon$ は「 $\circ\lambda$ を $-l$ に近づける」である。 $\circ\lambda$ は具象。つまり物か人。 $-l$ は近づけられる相手で、近づけるという移動の終点でもある。 $-l$ も具象(1)

(1)  $-l -c\lambda\epsilon$   $-l$  ( $c$  (君に近づいた))

$-c\lambda\epsilon$ は空間的な近さのほかに時間的に近づけることと、関係を近付けることを表わせる。男が女に近づくような関係での近さである。数量を近付けることもできる。但し、程度の近さは表わせない

$c\lambda\epsilon$ は「 $\circ\lambda$ を $cl$ から遠ざける」である。抽象的な意味はない。数学から遠ざかるなど、非物理的な遠ざけは表わせない。数学を遠ざける場合、 $Jc\mu\epsilon$  (倦厭する) などを使う

10Δ : 接触 :  $\>\circ\lambda\epsilon$ ,  $\>e\lambda\epsilon$

非 $\circ\lambda-$ 。  $\circ\lambda$ は具象。完了相は接触した時点。再帰頻発

$\>\circ\lambda\epsilon$ は「 $\circ\lambda$ を $-l$ に接触させる」である。 $\>e\lambda\epsilon$ は「 $\circ\lambda$ を $cl$ から離す」である。前述 $-c\lambda\epsilon$ / $c\lambda\epsilon$ と同じ構文である。近づくか接触か、つまり短距離かゼロ距離かという違いだけである。だから構文も同じになっている

これらも抽象的な意味はない。 $\circ\lambda$ も $-c\lambda\epsilon$ などと同じものを取る。つまり具象のみである。 $-l, cl$ も具象である

10Δ : 逃避 :  $e\lambda\epsilon$ ,  $\circ\lambda\epsilon$

非 $\circ\lambda-$ 。  $\circ\lambda$ 具象。完了相は逃げ切った時点

$e\lambda\epsilon$ は「 $\circ\lambda$ から逃げる」である。更に $-l$ をつけてどこまで逃げるかを言える

o<eは「oを追う」である。-Iをつけてどこまで追うかを言える

完了相は逃げるのを止めた時点である。逃げ切れたかどうかは不明。捕まって逃げられなくなっても完了相である。追跡も同じで、相手に逃げられて諦めた時点でも完了相になる

#### 10L : 入出 : I<e, lc<e

非o-。o具象。完了相は入れた時点。再帰頻発

I<eは「oを-Iに入れる」である。oは具象。-Iは場所である

lc<eは「oをclから出す」である。clも場所である

出し入れは立体の中に対して行える。-I, clは立体しか取らない。箱や靴や穴や公園など、完全にoを囲むものから一部しか囲まないものがある。いずれにせよ-I, clはoを囲うような立体である

抽象的な意味はない。大学を出るという場合、卒業の意味はない。場所としての大学を出たということだけを表わす(1)

(1) -I lc<- I< cl >c<e

尚、中に入るタイプの乗り物、車、電車、客船、飛行機などはI<eで「乗る」を表わす。

o<eは不適

#### 110 : 戻 : o<e, o<e, o<e, o<e, o<e

o<eは「oへ出かける」である。外出する際に使う。学校へ行く場合、買い物に行く場合などに使う。基点となる場所からの外出なので家からは限らない。学校にいれば学校が基点となる。建物でなく公園のような場所でも基点になれる

o<eはo<eと何が違うか。o<eは後でまたそこに帰ってくることを含意する。o<eにはそれがない

oΛは場所である。非oΛ-。完了相はoΛに到着した時点

oelΛeは「oΛへ帰る」である。基点となる場所へ帰ることである

oelΛeは「oΛを-lに返す」である。oΛは抽具。借りたものを返す場合は具象であるが、受けた攻撃を返す場合は抽象である(1)。非oΛ-。完了相はoΛを-lに返した時点

(1) -Λ oelΛ- V-ΛΛ -l l-

oΛΛeは「oΛを-lに戻す」である。oΛは抽具。-lは戻した結果状態や場所。oΛを-lという元の状態や位置に戻すことを意味する(1)

(1) -Λ oΛΛ- lec -l oΛe (本を棚に戻した)

oΛΛeは「oΛを-lに跳ね返す」である。oΛは物や魔法などである。また、「oΛを-lに反映させる」という意味の場合、oΛは抽象でも良い

#### 111 : 押 : loΛΛe, leΛΛe

非oΛ-。oΛは具象。完了相は-lまで押した時点

loΛΛeは「oΛを-lまで押す」である。oΛは具象。-lは場所

leΛΛeは「oΛを-lまで引く」である

どちらも移動を伴わなくても良い。地面を押しても地面が動くことはないのと同じである。ふつう手で押すことを表わすが、それ以外ならoΛで表わせれば良い

押すはふつう視点方向に向かって非衝撃的で緩慢な圧力を加えることである。引くはそれと同じ力を視点方向に逆行して加えることである

尚、抽象的な意味はない

#### 111 : 配達 : oΛΛΛe, oΛΛΛe, oΛΛΛe

非oΛ-。oΛは具象。完了相は届けた時点

O-ŕeは「oΛを-lへ届ける」である。oΛは具象。-lは届けた地点で、場所か受取人。運ぶとは違う。O-ŕeは誰かにoΛを渡すためにoΛを運ぶことを表わす。つまり、渡すと運ぶが混ざっている

ʔoΛŕeは「oΛを-lに配る」である。ʔeΛŕeは「oΛをclから回収する」である

ʔoΛŕeとO-ŕeとの違いは何か。O-ŕeは運ぶの要素があるため、その間の移動に焦点が置かれる。それゆえ、大抵ある程度長い距離を運ぶことになる

ʔoΛŕeは教室で教師が生徒にプリントを配るような、距離が長いとは思えない場面で使う。教師が家からわざわざプリントを持ってきたらO-ŕeと言えるが、ふだんはʔoΛŕeである

ʔoΛŕeが渡すまでの距離を問題にしないことは、街頭でのティッシュ配りに良く表われる。ティッシュ配りは自分が移動して誰かに配るのではなく、やってくる人に配るものである。この場合、渡すまでの距離はゼロに近い。そしてティッシュ配りの場合はO-ŕeとは言えず、ʔoΛŕeと言う。このように、ʔoΛŕeは渡すまでの距離を問題にしない

117 : 及 : h-Λŕe, hcΛŕe, clŕe, ʔoŕe, ʔeŕe

非oΛ-。oΛは抽具。完了相は広めた時点

h-Λŕeは「oΛを-lに広める」。普及させるという意味である。oΛは抽具。-lは場所や人。完了相は広める努力を終えた時点。結果的に広まったかどうかは不明

hcΛŕeは「oΛを-lに専門化する」。h-Λŕeの逆で、-lの間だけにoΛの普及を制限するという意味である。h-Λŕeが広げる行為なら、hcΛŕeは狭める行為である

clŕeは「oΛを使ってoΛにʔoŕについて影響を与える」である。ʔoŕの代わりにʔalでも良い。oΛは影響を与える対象で、抽具。oΛ-あり(1) (✓)

(1) >cc<sup>μ</sup> (a -l cl<sup>l</sup> ɔΛ[>-Λ] (a (このことはこの理論に影響を与えた)

(1) l- cl<sup>l</sup>- >cc<sup>μ</sup> (a (彼の存在はこの理論に影響を与えた)

ɔΛ<sup>l</sup>eは「ɔΛを-lに対して有縁にする」。つまり関連付けるという意味である。ɔΛ, -lは抽具。ɔΛと-lを何らかの形で有縁にすることを表わす。ɔΛ, -lが人のときは関わらせるという意味にもなる(?)

(?) -Λ (ɔΛ<sup>l</sup>- ΛoJ -l l- (彼に関わった)

ɔΛ<sup>l</sup>eは「ɔΛを-lに対して無縁にする」である。ɔΛ, -lが人のときは「関わらない」(0)

(0) (eɔΛ<sup>l</sup>-l -l -Λ (私に関わらないで、ほうっておいて)

110 : 魅 : J<sup>l</sup>-μ<sup>l</sup>e, J<sup>l</sup>c<sup>μ</sup>e, ɔ<sup>μ</sup>e, e<sup>μ</sup>e

非ɔΛ-。ɔΛは人。-lは抽具

J<sup>l</sup>-μ<sup>l</sup>eは魅力ある状態にすることで、ɔ<sup>μ</sup>eも同じ。ただ、前者は自分から人を惹きつけるような感じで、後者は自然と人を惹きつける感じ。後者がいわゆる「もてる」だとするなら前者は「もたせる」に当たる

プレゼントをしたり笑わせたりして女の機嫌を取って彼女を作った場合、J<sup>l</sup>-μ<sup>l</sup>であるが、ɔ<sup>μ</sup>ではない。いうまでもなくɔ<sup>μ</sup>のほうが優秀とみなされる

119 : 浮沈 : >ɔΛ<sup>l</sup>e, >eΛ<sup>l</sup>e, >ɔΛ<sup>l</sup>e, >eΛ<sup>l</sup>e

ɔΛ-。ɔΛは具象。完了相は-lまで沈みきった時点

>ɔΛ<sup>l</sup>eは「ɔΛを-lに浮かべる」である。ɔΛは具象。-lは場所である。船はɔΛになれるが、水は難しい

水は浮かばないためというより、水を水に入れたら混ざってしまっ、浮いたかどうか

分からないためである。だが、赤い水や油なら水に浮かべても水との差異が分かるので浮いているといえる

つまり、-lとoΛに差異があつて見分けがつくなら液体でも浮かべることができるということである。気体も同じことがいえるが、見えることや浮かぶことがふつうない

浮かぶ場所は水だけでなく空気中でも良い。気球が浮かぶのと同じである(1)

(1) S-Λχe? -C >oΛC -l S-Λ

>eΛCχeは「oΛを-lに沈める」である。>oΛCχeと同じoΛを取る。沈められるものならoΛになる(✓)

(✓) S-Λχe? -C >eΛC -l -?o

尚、自分で浮かぶ、自分で沈むは>oΛχe, >eΛχeを使う。格組は上と同じ。水泳などでよく使う

119 : 乗 : ?oΛχe, ?eΛχe, oθΛχe, θ-Λχe, Joχe, C-θχe, 4->oχe, 4->eχe, ->oχe, ->eχe

非oΛ-。完了相は到着時点

?oΛχeは「oΛに乗って-lへ行く」である。oΛは乗り物。人もお馬さんごっこや肩車のときなどは一時的に乗り物になっているといえるのでoΛになれる。完了相は-lへ着いた時点

?eΛχeは「clから来てoΛで降りる」である。完了相は着いて降りた時点

oθΛχeは「oΛを運転して-lへ行く」である。oΛは乗り物。-lは場所か人。たとえば-l l-なら彼の家や彼のいるところという意味である

θ-Λχeは「oΛを乗り物にして-lまで行く」である。oΛは具象。人を乗り物にしたり馬を乗り物にしたりする場合に使う。完了相は-l到着時点

ㄐㄌㄨㄝは「バスでㄅㄆへ行く」である。ㄗㄨㄝと同じ意味で、その方法がバスである

同様にㄨㄨㄝはフェリーで、ㄨㄨㄝは船で。またㄑㄨㄝ, ㄑㄨㄝ, ㄨㄨㄝ, ㄨㄨㄝなども同じである

#### 11Δ : 越 : ㄗㄨㄝ, ㄗㄨㄝ

非ㄅㄆ-。ㄅㄆは抽具。完了相は越えた時点

ㄗㄨㄝは「ㄅㄆを越える」である。ㄅㄆが場所なら、ㄆが物理的にㄅㄆを越えた場所に移動したことを表わす。ㄅㄆが人の場合、ㄆがㄅㄆを超越した優れた強い存在であることを意味する。或いは失恋をふっきるという意味にもなる

またㄅㄆが悲しみなどの感情なら、その気持ちを乗り越えたことを意味する。テストなどの抽象の場合、テストが赤点もなく無事終わったことを示す。赤点もなくという点が日本語の「テストを乗り越えた」とは異なる。病人の病なら、その病気の峠を越えたということを表わす

ㄗㄨㄝは「ㄅㄆよりこちら側にいる」という意味である。ㄗㄨㄝはある地点を超越して向こう側に行くことを示す。ならㄗㄨㄝはある地点を超越しないでこちら側にいることを表わす。抽象的な意味もㄗㄨㄝのまるまる反対である。たとえば人を取るならその人に及ばないか、失恋をふりきれていないことを指す

完了相はある地点を越えようと努力したがその手前で止まってしまった時点である。ㄗㄨㄝに比べて相よりアオリストで表わされることが多い

#### 11L : 通 : ㄑㄨㄝ, ㄑㄨㄝ, ㄑㄨㄝ, ㄑㄨㄝ

非ㄅㄆ-。ㄅㄆは場所。完了相は-Iに着いた時点

ㄑㄨㄝは「ㄅㄆを通って-Iへ行く」である

ㄑㄨㄝは「ㄅㄆを辿って-Iへ行く」である。ㄅㄆは場所というより線や足跡や軌跡などを取る。また、ㄑㄨㄝと違って紙に書いた線を指でなぞって辿る場合も使える。ㄑㄨㄝは有生の移動



だけを表わすが、 $\theta\text{-}\eta\text{e}$ は移動でなく指の動作なども表わせる

$\text{lo}\eta\theta\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を迂回して-Iへ行く」。 $\text{o}\Lambda$ は迂回路を取る。-Iが目的地である

$\text{le}\eta\theta\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を近道して-Iへ行く」。 $\text{o}\Lambda$ は近道である

たとえば家から学校へ行くのに車道に行くのが近いとする。一方、歩道は安全だが遠いとする。この条件で例を挙げると(1) (✓)になる。(1)の $\text{o}\Lambda$ は迂回路である。(✓)の $\text{o}\Lambda$ が近道である。両者を逆にしないように注意。尚、特に道を指定しない場合、 $\text{o}\Lambda$ は $\text{e}$ 化する

(1) - $\Lambda$   $\text{lo}\eta\theta\text{e}$  - $\Lambda\theta\text{o}\Lambda$  -I  $\langle\text{el}\rangle$ -

(✓) - $\Lambda$   $\text{le}\eta\theta\text{e}$  - $\rightarrow\text{o}\theta\text{o}\Lambda$  -I  $\langle\text{el}\rangle$ -

#### 1/1 : 飛 : $\eta\text{e}\mu\Lambda\text{e}$ , $\text{le}\langle\eta\text{e}\rangle$

非 $\text{o}\Lambda$ -。 $\text{o}\Lambda$ は場所。大抵は空中なので省略されやすい。完了相は到着時。移動動詞

$\eta\text{e}\mu\Lambda\text{e}$ は「 $\text{o}\Lambda$ を飛んで-Iまで行く」である(1)

$\text{le}\langle\eta\text{e}\rangle$ は「 $\text{o}\Lambda$ を跳んで-Iまで行く」である(✓)。-Iが水面なら飛び込むと訳す

両者は飛行か跳躍かの違いしかない。飛行機は $\eta\text{e}\mu\Lambda\text{e}$ しかできない。人間は $\text{le}\langle\eta\text{e}\rangle$ しかできない。雀はどちらもできる

(1) - $\Lambda$   $\eta\text{e}\mu\Lambda\text{e}\text{c}\eta$  S- $\Lambda$  -I - $\mu\text{e}$ -Z- $\mu\text{l}$   $\eta\text{o}\Lambda$  S- $\rightarrow\theta$

(✓) - $\Lambda$   $\text{le}\langle\eta\text{e}\text{c}\rangle$  -I  $\eta\text{o}\text{le}$  (池に飛び込んだ)

尚、人も空想の中では飛べる。こういう場合の飛ぶは大抵走るよりも速いというニュアンスがある(?)。ただ、日本語とは違ってすぐ行くよという意味ですぐ飛んでいくよとは言えない。すぐ飛んでいくよといったら航空機を使うという意味に限定される(0)

(?) - $\Lambda$   $\eta\text{e}\mu\Lambda\text{e}\text{cl}$  S- $\Lambda$  -I  $\text{c}$

(0) - $\Lambda$   $\eta\text{e}\mu\Lambda\text{e}\text{o}$  -I  $\text{c}$

1/7 : 急 : oΛʼe, eΛʼe, ʼ-ʼe, ʼcʼe, V-ʼe, Vcʼe

非oΛ-。oΛは抽具。完了相は早くした時点

oΛʼe 「oΛを急がせる」。eΛʼe 「oΛをゆっくりさせる」

ʼ-ʼe 「oΛを速くする」。ʼcʼe 「oΛを遅くする」

V-ʼe 「oΛを早くする」。Vcʼe 「oΛを遅くする」

全て、はやさに関する語である

oΛʼeは心理的なはやさである。ゆえにoΛは人や人の動作を取る

ʼ-ʼeは物理的な速度を速めることである。具象を取る

V-ʼeは所要時間を早くすることである。逆にVcʼeは延長である。イベントや人の動作などの抽象を取る

1/7 : 流 : eʼe, eeʼe, eʼe

eʼeは「oΛを-lに流す」。oΛは具象。-lは場所。水のあるところを指す。ただ、砂の山など、水でなくとも流れるものならeʼeが適応される。oΛ-あり。完了相は流れていることが認められるようになった時点。バケツの水を溝に流す場合、バケツをひっくり返して水が溝に落ち、流れ出したその時点である。影響相はその後、流れている状態を指す(1)

(1) eʼ eʼ eʼ -l eʼe (川に水が流れている)

eeʼeは「oΛを-lに注ぐ」である。eʼeと何が違うか。eʼeは落とした水が流れてどこかへ行くが、eeʼeは落とした水がどこにも行かずに残る。それが違いである

バケツをひっくり返して水を溝に落とせばその水は溝を流れてすぐになくなってしまう。ところが茶の水を湯のみに落とした場合、その水はどこにもいかずにその場に留まる。それが違いである

eʼeは「oΛに水をかける」である。oΛは植物や地面など。人も取れる。飲ませてやるでは

なく、かけるという意味。熱射病でばてて倒れている人にバケツで水をかける場合に使える。また、海でふざけて恋人に水をかける場合も使える

1/0 : 方向 : ㄥㄥㄥe, ㄥㄥㄥe, eeㄥe

非ㄥㄥ-。ㄥㄥは具象。完了相は方向を変えきった時点

ㄥㄥㄥeは「ㄥㄥを-lの方向にする」である。ㄥㄥは具象で、ㄥㄥの向いている終点方向が-lになるようにすることである(1)

(1) -ㄥ ㄥㄥㄥ- ㄥㄥㄥ -l ㄥe<- (像を南に向けた)

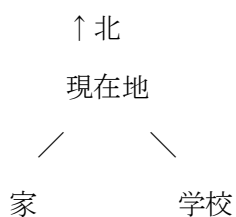
ㄥㄥㄥeは「ㄥㄥをclからの方向にする」である。ㄥㄥㄥeは終点を意識した方向だが、ㄥㄥㄥeは起点を意識した方向である。ㄥㄥㄥeの場合、像の顔が-lに向く。逆にㄥㄥㄥeの場合、像の背中がclに向く

仮に家と学校があり、自分はその中間の道にいるとする。(1)では像を学校に向けるので像の顔は学校へ向く。だが、像の背中が家に向くとは限らない。家と学校が一本道ならたまたま背中が家を向くが、そうでもない限り像の背中が家を向くことはない

(2)では逆に像の顔は家から来た方向を向いている。言い換えれば像の背中が家に向いている。この場合、逆に像の顔が学校を向いているかは不明である。一本道でもない限り、顔は学校を向いていない

(1) -ㄥ ㄥㄥㄥ- ㄥㄥㄥ -l <elㄥ-

(2) -ㄥ ㄥㄥㄥ- ㄥㄥㄥ cl ㄥ-



上の図で、(ノ)の場合、像の顔は南東を向き、学校を見る。だが背中では北西を見るので家を向かない。逆に(?)の場合、像の背中では家を向き、顔は北東を向くので学校は見えない

一方、eel<eは「oΛの顔を-lに向けさせる」である。また、oΛが抽象の場合、そのことに直面するという意味になる。向き合うというところから戦うとか解決するとか乗り越えるといった積極的なニュアンスになる

eel<eは方向動詞ではなく姿勢動詞である。lo><eなどと同じである。ゆえに再帰形を取る。-Λ eel<cΛ (oμ) -l <el?で「私は学校に顔を向けている」

#### 1/4 : 逸 : Zeθ<e, Zoθ<e, -Vol<e

非oΛ-。oΛは抽象。完了相はそらした時点

Zeθ<eは「話をそらしてoΛを-lに言う」。単に話をそらすなという場合、oΛがe>化してZeθ<ol -l -Λという。-l -Λも省略できる

Zoθ<eは「話を戻してoΛを-lに言う」

-Vol<eは「oΛを-lにそらす」で、こちらは物理的な意味でのそらすである。たとえば飛んできたボールをはじいてそらすといった場合に使う

-Vol<eは逸らすである。反らすではない。つまり棒を曲げて反らす場合は-Vol<eではない。これはΛAc<eである。腕を反らす、背を反らす、棒を反らす。全てΛAc<eである。-Vol<eはボールを避けたりするために逸らすことである。曲げるではない

#### 1/5 : 溢 : eΓ<e, e>Γ<e, h-Γ<e

oΛ-あり。oΛは具象。完了相はこぼれた時点。抽象的な意味はない

eΓ<eは「oΛを-lへこぼす」。oΛは液体。-lは場所。oΛ-は「こぼれる」。コップを倒して水をこぼしたときなどに使う

e>Γ<eは「oΛを-lへ漏らす」。oΛ-は「漏れる」。容器か容器に準じる物の穴から液体が出る

場合に使う。失禁の意味はない

h-ㇰꞰeは「ㇰㇰを-lへ垂らす」。ㇰㇰ-は「垂れる」。液体が下へ落ちていくときに使う

#### 1/9 : 衝撃 : ㇰ-ㇰꞰꞰe, ㇰ-ㇰꞰꞰe

非ㇰㇰ-。ㇰㇰは具象。完了相はぶつかった時点

ㇰ-ㇰꞰꞰeは「ㇰㇰとぶつかる」。ㇰ-ㇰꞰꞰeは「ㇰㇰにぶつかる」。では何が違うか

ㇰ-ㇰꞰꞰeは動いているもの同士がぶつかり合うことである。人と車がぶつかるときなどに使う。どちらをalにしても良いが、alのほうがㇰㇰより通常アニメーションが高い。つまりこの場合、alは人である

一方、ㇰ-ㇰꞰꞰeではalは動いているが、ㇰㇰは止まっているか、少なくともこちらに向かって激しく動いていることはない。一方的にalがㇰㇰにぶつかることである

#### 1/Δ : 添付 : heㇰㇰꞰe

非ㇰㇰ-。ㇰㇰ, -l物。完了相は添付した時点

heㇰㇰꞰeは「ㇰㇰを-lに添付する」である。-lは手紙やメールである。ㇰㇰは同封するもので、金でも羽でも画像データでも良い。添付できれば何でも良い

#### 1/L : 染 : ㇰꞰꞰꞰe, ㇰ-ㇰꞰꞰe, ㇰꞰꞰꞰe

非ㇰㇰ-。ㇰㇰは具象。ㇰꞰㇰは材料、道具。-lは色。完了相は塗り止めた時点

ㇰꞰꞰꞰeは「ㇰㇰをㇰꞰㇰで-lに染める」。抽象的な意味はない。「染み込ませる」ともいえる。水をシャツに染み込ませる場合などに使う

色を染み込ませることもできる。糸に赤の染料を染み込ませて赤い糸を作るような場合である。これはㇰ-ㇰꞰꞰeではない。色を塗るのとは違う。染料を塗るのと染み込ませるのでは動作が異なる。染み込ませる場合は液体の染料に漬けるからである

また、浸すや漬けるという意味もある。漬物にする場合などに使う。ㇰㇰは食材で、ㇰꞰㇰは

ぬかみそや漬物石などの道具である

$\Lambda\text{-}\acute{e}\text{-}e$ は「 $\circ\Lambda$ を $\circ\Lambda$ で $-I$ に塗る」である。壁にペンキを塗る場合などに使う。染めるではないので液体の染料に漬けることではない。どろっとしたペンキなどを塗りたくることである

$\Lambda c\text{-}\acute{e}$ は「 $\circ\Lambda$ を $\circ\Lambda$ で $-I$ にする」である。これは $\cup\circ\circ\acute{e}$ と $\Lambda\text{-}\acute{e}\text{-}e$ の上位概念である。糸を染める場合も壁を塗る場合も言おうと思えば $\Lambda c\text{-}\acute{e}$ といえる。 $\Lambda\text{-}\acute{e}\text{-}e$ などのほうがその状況では優勢ではあるものの

更に $\Lambda c\text{-}\acute{e}$ はパソコンの画面を赤に変えるというような場合にも使うことができる。パソコンの画面を赤く表示させることは、染料で染めることでも絵の具で塗ることでもない。このような場合は上位概念で抽象的な $\Lambda c\text{-}\acute{e}$ でしか表わすことができない(1)

(1)  $-\Lambda \Lambda c\text{-}\acute{e}- \cup\text{le} \text{ e } \cup\text{-c } -I \text{ h-}\acute{e}$

1?0 : 連 :  $-\acute{e}\text{-}e, c\acute{e}\text{-}e, \cup\text{-}\acute{e}\text{-}e$

$\circ\Lambda$ -あり。 $\circ\Lambda$ 具象。完了相は繋いだ時点

$-\acute{e}\text{-}e$ は「 $\circ\Lambda$ を $-I$ に繋ぐ」。物理的な接続である。繋ぐ材料は $\circ\Lambda$ で表わす。繋ぎ方は問わない。はめ込み式ではめても良い。接着剤で止めても良い。リングを組み合わせて繋いでも良い。ただ、面と面を単に接触させただけでは $\cup\text{le}\text{-}e$ でしかない。たとえばサイコロの横に別のサイコロを接触させただけでは $-\acute{e}\text{-}e$ とはいえない。サイコロの間にテープや接着剤があつて初めて $-\acute{e}\text{-}e$ といえる

$c\acute{e}\text{-}e$ は「 $\circ\Lambda$ を $cI$ から外す」である。 $-\acute{e}\text{-}e$ したものを外す

$\cup\text{-}\acute{e}\text{-}e$ は「 $\circ\Lambda$ を $-I$ に絡ませる」である。糸と糸を絡ませる場合などに使う。人同士を絡ませる場合、性的な意味が必ずしもあるわけではない。勿論性的に抱き合つて絡まることもあるが、組体操で人同士が絡まり合う場合にも使える。完了相は絡めた時点。再帰形あり(1)

(1) -Λ J->θ×cΛ ΛoJ -l la (彼と絡んでいる)

1?1 : 並 : J-J×e, JcJ×e

非oΛ-。oΛは抽具。完了相は並べた時点

J-J×eは「oΛを順に並べる」である。JcJ×eは「oΛを逆順に並べる」である。複数の要素に一つの順序を設けたとき、順と逆順が存在する。たとえば使徒の名に日付という順序を設けたとき、リディア、オヴィ…が順であり、クミール、クノン…が逆順である

J-J×eは複数の要素をリディア、オヴィ…というように順に並べることである。そしてJcJ×eは複数の要素をクミール、クノン…というように逆順に並べることである

oΛは抽具。リディアのように人も取れるし物も取れる。テストの日程といった抽象も取れる。何について並ぶかはcΛで表わす(1)

(1) J-J-l ΛoJc cΛ le l-c×o -l loθ (誰が電車に乗るかということについて順番どおりに並びなさい)

1?7 : 混 : loZ×e, leZ×e

oΛ-あり。oΛは具象。完了相は混ぜた時点

loZ×eは「oΛを-lに混ぜる」。leZ×eは「oΛをclから抽出する」

oΛは液体、気体、砂のような固体である。固体や人は取りづらい。混ぜづらいからである。ただ、無理に言おうと思えばいけないこともない

loZ×e l- -l laといえば抽象的な意味はなく、本当に彼と彼女を混ぜることを意味する。たとえばファンタジーの世界で二人を合体させたりすることを表わす

1?? : 人気 : l-?×e, lc?×e, l-?c×e, lc?c×e

非oΛ-

l-ŋeは「oΛを賑やかにする」である。lcŋeは「oΛを寂しくする、さびれさせる」である。oΛは店や公園など、場所を取る。人は取らない。ただ、集団なら取れる

集団は集団であるがゆえに個人より集団であることが重視される。ゆえに集団ではより個性が埋没される。その結果人としてのアニマシーが減り、より無生性が高まる。そして場所性の持つ無生性と合わさり、場所に準じるものと認知される。ゆえに集団もoΛに取れる

完了相は賑やかにした時点である

l-ŋeは「oΛを人気にする」である。lcŋeは「oΛを不人気にする」である。この場合oΛは人も場所も使える。場所も使えるということは、店はlcŋeともlcŋeともいえることになる。では両者は同じ意味を持つか

lcŋeはさびれることである。過疎にある店なら客が少ないので、個々の客はその店を慕っていて人気があったとしても、さびれていることに変わりはない。ゆえにlcŋeであるがcŋeでないということがある。したがってlcŋeとlcŋeは意味が異なる。さびれているのがlcŋeで、人気がないのがlcŋeである

1ŋ: 単複 : V<sub>o</sub>ŋe, V<sub>e</sub>ŋe

非oΛ-。oΛは抽具。完了相は数を変えた時点

V<sub>o</sub>ŋeは「oΛを複数にする」。oΛは抽具なので物でも人でも試験のような抽象でも良い

V<sub>e</sub>ŋeは「oΛを単数にする」

1ŋ: 溜 : V-eΛe, V-elē

V-eΛeは「oΛを-lに溜める」。oΛは抽具。oΛは液体が多いが液体でなくとも良い。砂糖も水も金も溜められる。怒りを溜めるというように抽象でも良い。oΛ-あり。完了相は溜め終わった時点



V-el<sub>2</sub>eは「o<sub>1</sub>をビン詰する」である。ふつう液体だが、液体でなくとも良い。抽象的な意味はない

177 : 嵌 : lo>C<sub>2</sub>e, le>C<sub>2</sub>e, lo<sub>1</sub>u<sub>2</sub>e

非o<sub>1</sub>-

lo>C<sub>2</sub>eは「o<sub>1</sub>を-lの典型例にする、型に嵌める」である。o<sub>1</sub>は-lという集合のプロトタイプである。o<sub>1</sub>も-lも抽具である。完了相は型に嵌めた時点

逆にle>C<sub>2</sub>eは「o<sub>1</sub>を-lの周遍的事例にする、型に嵌めない」である。o<sub>1</sub>は-lの周遍的事例である

alは認知者を取ることができる(1)

(1) V-l(e lo>C<sub>2</sub>e >cc) -l V-l<sub>1</sub> (アルティス教徒にとってリンゴは果物の典型例である)

lo<sub>1</sub>u<sub>2</sub>eは「o<sub>1</sub>を-lの鋳型に嵌める」である。これは物理的な意味にしか使わない。溶けた金属であるo<sub>1</sub>を鋳型である-lに流し込む場合などに使う

金属だけではない。ケーキを星型に焼くとき、星の形をしたカップにケーキの生地を流し込む。このとき、カップが-lで、ケーキの生地がo<sub>1</sub>である

紙に線を引いて作った型の上に粉をまぶす場合でも使える

完了相は流し込んだ時点である

178 : 敷 : e-l<<sub>2</sub>e, eol<<sub>2</sub>e, ele-<sub>2</sub>e, J<sub>2</sub>-l<sub>2</sub>e

o<sub>1</sub>-あり。完了相は敷いた時点

e-l<<sub>2</sub>eは「o<sub>1</sub>を-lに敷く」である。o<sub>1</sub>は具象で、敷ける物である。カーペットやテーブルクロスなどをo<sub>1</sub>に取る。だが、カーペットやテーブルクロスは専用の語があるのでそちらを使いやすい。ハンカチを敷いたりする場合にも使える。-lは場所である(1)

(1) <cə cŋ ɛ-k -l eleΛ

尚、敷く場所は平面である。坂でも水平でも良いが、平面である。死体の顔にハンカチをかける場合、顔は平面でないので敷くというよりは覆うという

ただ、多少凹凸があっても良いこともある。山でレジャーシートを敷く場合、地面は凹凸がある。だがɛ-kɛといえる。なぜか。地面は凹凸があっても全体としては平面だと認識されるからである。顔は鼻が出っ張っていて目がくぼんでいると認識される。そのため平面だと認識されない。地面の凹凸は大抵どうでも良いことだが、顔の凹凸は人間にとって重要だからである

ɛɔɭɛは「カーペットをɔΛに敷く」。ɔΛは場所

ele-ɛeは「テーブルクロスをɔΛに敷く」。ɔΛは場所

ɭə-lɛeは「シーツをɔΛに敷く」。ɔΛは場所

尚、敷けるのはこういった比較的面積の大きい広いもので、しかも薄いものである。但し、ハンカチは狭いので必ず広いとはいえないが。クッションのように小さく厚みのあるものは転換して敷くという意味にはなれない

əɔk- (クッション) は転換すると衝撃を吸収するである。>ɔŋ (ベッド) はベッドに寝かせるという意味である。構文がまるで異なる

1?9 : 寝具 : >ɔŋɛ, >ɔŋ-ɛe

非ɔΛ-。ɔΛは人。完了相は寝かせた時点

>ɔŋɛは「ɔΛをベッドに寝かせる」

>ɔŋ-ɛeは「ɔΛを布団に寝かせる」

横にすることだけを意味する。ɔΛが睡眠するかただ休息するかの区別はない

1?Δ : 吊 : h-lɛɛ, əɔhɛ

h-lθeは「oΛを-lに吊るす」。oΛ-あり。oΛは具象。-lは吊るす場所。吊るせるものなら何でも良い。完了相は吊った時点

θchēは「oΛを首吊りにする」。刑としての絞首刑と単なる首吊りの場合との区別はない。再帰形あり(1)。完了相は吊った時点。その後死んだかは不明

(1) l- θchē- λoJ

1γL : 巻 : -ēle, -yēe, -yce, γoole, γole, γole

-ēleは「oΛに包帯を巻く」。非oΛ-。oΛ人。完了相は巻いた時点

-yēeは「oΛを螺旋にする」。oΛ-あり。oΛは液体でも固体でも気体でも良い。完了相は螺旋にした時点

-yceは「oΛにγoΛの蔓を這わせる」。oΛ-あり。完了相は這わせた時点(1)

(1) λc-l cēcΛ -yc γoΛ Meē (柱に葡萄の蔓が這っている)

γooleは「oΛを-lに巻く」。oΛは巻く道具。-lは巻かれる物や人。蛇が巻く場合も使える。完了相は巻いた時点。再帰形あり(γ)

(γ) loo γoolecΛ λoJ -l lae

γoleは「oΛをclから巻き取る」である。巻いていたものを巻き取る場合に使う

γoleは「oΛに対して釣竿のリールを巻く」である。oΛは獲物。巻ききった時点が完了相なので巻いている途中は経過相(?)

(?) -λ γolecJ elc

## 100 : 収納 : lo<ŋe, ɔvɔe, ɔe>ɔe, <cŋe, <-ŋe

非oΛ-。oΛは具象。-lは場所。完了相は収納した時点

lo<ŋeは「oΛを-lに収納する」。人をドームに収納するときも使える。服をタンスにしまうときも使える

ɔvɔeは「oΛを箱詰めする」

ɔe>ɔeは「oΛを倉庫にしまう」

<cŋeは「oΛを-lへしまう」。lo<ŋeよりも保管目的が強い。lo<ŋeは収容、収納である。人を会場に収納するときや、服をタンスに詰め込む際に使う。服を<cŋeする場合、詰め込むというよりは保管するためにしまうというニュアンスが大きい。また、<cŋeのほうがoΛをもともとあった場所に戻すというニュアンスが大きい

<cŋeは服だけでなく剣を鞘に収めるときにも使う。この場合、保管目的が強いため、lo<ŋeは使わない。lo<ŋeは-lにはこれだけのものが入ることができますよということが強調されている

lo<ŋeはその収納能力が問われるような場面で使われやすい。鞘は剣が入るのが当たり前で、入る数も一本と決まっている。ゆえに収納能力は目立たず、lo<ŋeは言いがたい。もし剣が二本入る鞘なら、この鞘は二本収納できるということでlo<ŋeを使うことができる(1)

(1) -l eŋc (a, e) lo<ŋel (- ɔcc)

<-ŋeは「oΛをclから取り出す」である

## 101 : 咲 : >-ŋe, >cŋe

ふつうoΛ-。oΛは植物。完了相は咲いた時点

>-ŋeは「oΛを咲かせる」である。oΛ-だと「咲く」。ふつうoΛ-だが、園芸して咲かせる場合はaŋが人(1)

(1)  $\neg \lambda \supset \neg \lambda \cup e \cup c \circ \lambda - c \supset \lambda e \cup - I$  (私は毎年カモミールを咲かせる)

$\supset c \lambda \cup \lambda e$ は「 $\circ \lambda$ を散らす」

107 : 占領 :  $\forall - \lambda \supset e$

$\circ \lambda$ -あり。 $\circ \lambda$ は抽具。完了相は占拠した時点

$\forall - \lambda \supset e$ は「 $\circ \lambda$ を $\lambda a$ の量や $\lambda \cup \cup$ の範囲だけ占領する」。 $\circ \lambda$ は抽具だが、ふつう具象。物理的に町を占領するという意味が本来である。だが、抽象的に「 $\circ \lambda$ を占める」という意味もある。割合でどれだけ占めるかを述べるのは $\forall - \lambda \supset e$ である

ベッドが部屋の面積の何割を占めるか、得票が全票の何割を占めるかなど、物理的であるなしに関わらず割合の占有率を表わす。有生は $a \lambda$ にくるが無生は $\supset \circ \lambda$ にくる(1) (✓)。但し無生でもメタファーの場合は $a \lambda$ に来る(?)

(1)  $\neg \lambda \forall - \lambda \supset c \lambda e e \supset \lambda a \lambda e \lambda - \supset \supset \lambda - I$  (株を10%占有している)

(✓)  $e \supset \forall - \lambda \supset c \lambda S e \lambda \supset \lambda a \supset \circ \lambda - \supset \supset \lambda - I \supset \circ \lambda e \supset \supset = S e \lambda \supset c \supset \forall - \lambda \lambda a \supset \circ \lambda - \supset \supset \lambda - I \supset \circ \lambda e \supset$   
? (天気は雨に10%占領されている=天気の10%は雨だ)

(?)  $\lambda c \supset \supset a \forall - \lambda \supset c \lambda e e \supset \lambda a \lambda \circ \lambda - \supset \supset \lambda - I$  (この会社は株の9割を占有している)

つまり $\forall - \lambda \supset e$ は場所を占領する場合と割合を占める場合に分かれる

場所を占領するとは戦争で占領する場合だけでなく、その場所に陣取っている場合も表わす。トイレを使っている場合、トイレを占領しているという。戦争でない占領にも日常的に使える。(0)は経過相ではない。入った時点で占領したことになるから完了相である。よってその後の使用中は影響相になる

(0)  $\neg \lambda \forall - \lambda \supset c \lambda e e \supset$  (トイレを使っています)

107 : 含 :  $\supset - \forall \supset e, \supset c \forall \supset e$

oΛ-あり。oΛは抽具。完了相は含んだ時点

∩-V∩eは「oΛを∩oΛで-Iに含む」。含まれるものは抽具が良いが、含むものが集合のような無生の場合はalでなく∩oΛになる(1)(∩)

(1) -Λ ∩-V∩- I- -I -Λo (彼を計画に含んだ)

(∩) e∩ ∩-V∩e ∩coΛ- -I >cΛ- = ∩coΛ- e∩ ∩-V -I >cΛ- (カモミールは花に含まれる)

∩cV∩eは「oΛを∩oΛでclから外す」である。含まないということである

#### 100 : 変化 : >-∩e, >c∩e

oΛ-あり。oΛは抽具。完了相は変えた時点

>-∩eは「oΛを-Iに変える」である

>c∩eは「oΛをclのままにする」である。clを取る点に注意(1)

(1) -Λ >c∩- ecl cl h-μ (壁を赤のままにした)

>-∩eはあらゆるoΛを取れる。oΛが-Iの状態に変化することを表わす。変化の内容も何でも良い。適応する範囲が広すぎるわりに抽象的な意味はない

人を取る場合も人を-Iの状態に変化することを表わす。-Iの内容次第で何でも表わせる。範囲が広い上に穿った意味はないので語法はあまり気にしなくとも良い。ただ、ナル言語の日本語とは違うのであまり>-∩eを多様しないように

#### 101 : 存在 : ∩-∩e, ∩c∩e

非oΛ-。al抽具。oΛ場所。完了相はあるといえるようになった時点

∩-∩eは「alはoΛにある」である。「いる」でも良い。実在するという意味とそこに存在す

るという意味の区別はない。oAは存在する場所である。それ以外は取らない。場所といっ  
ても場所化した人も取れる

alは抽象。そこに存在するという意味では具象しか取れないが、実在するという意味では  
抽象も取れる

完了相はあるといえるようになった時点。仮に人間が人間として存在すると認められる  
境界線を出産時に決めるとすると、産まれた瞬間が完了相である。産んでいる過程が経過  
相である。仮に人間が存在しはじめる時点を着床時だとすると、着床時に開始相となる。  
そして出産した後の生きている時点は影響相である

このようにし-れには相を求めることができるが、ふつうはアオリストで用いる

#### 10f : 再度 : 4ooAe, >e>e

非oA-。oAはふつう抽象。完了相はやり直した時点

4ooAeは「oAをやり直す」である。oAはふつう抽象。戦争、試験、恋愛、結婚などを取  
る。失敗したものや成果が気に食わないものをもう一度行うことを表わす

oAが具象を取ることもある。(1)の解釈は文脈による。犯人だと思われる彼について調べ  
るのをやり直すとか、醒めた恋人を見直そうとやり直すとか、見放した相手をもう一度試  
してやろうとやり直すとか、様々である

#### (1) -A 4ooA- I-

oAは人だけでなく、物も取れる。たとえば石も取れる。解釈はやはり文脈による。石を  
やり直すとはどういう場面か。化学の実験をしている場合か。或いは川に石を投げて遊ん  
でいるときもう一度投げ直してみる場合か。いずれにせよ場面によって様々である

>e>eは「oAを再び行う」である。詳細は4ooAeと同じである。では何が違うか

4ooAeは「やり直す」である。oAについての失敗をなかったことにするためにもう一度  
行うことである。oAを失敗したことを撤回するために行う

一方、>e>eは「再び行う」である。前にoAに失敗したかどうかは不明である。仮に失敗

していたとしてもそれを撤回しようというつもりがあるとは限らない。前回とは別件でもう一度行うという意味である

ЧооУѣeは前回とは別件ではなく、あくまで前回分をもう一度行って記録を変えようという意味である

ЧооУѣeと>e>eは同じoΛを取れる。ただ、ニュアンスの違いがあるだけである。たとえば競走した後で、その結果が不服なので勝敗をなかったことにしてやり直す場合はЧооУѣeであるが、今回負けたので次回は勝とうと再戦する場合は>e>eである

ただ、フライングではじめからやり直しという場合はЧооУѣeしか使えない。途中でエラーが起きて降り出しに戻る場合はЧооУѣeを使う

#### 106 : 直 : cVl>e, Ce->e, Cec>e, J-l>e, Jcl>e

非oΛ-。oΛは抽具。-lは結果。完了相は直した時点

cVl>eは「oΛを-lに修正する」

Ce->eは「oΛを-lに正しくする」

Cec>eは「oΛを-lに不正にする」

J-l>eは「oΛを-lに新しくする、更新する」

Jcl>eは「oΛを-lに古くする」

cVl>eは細かい間違いや変更を修正すること。oΛは間違いや変更を持ちうるものなら何でも良い。化粧、計算、顔、日取など、何でも良い

Ce->eは正しくはないか或いは不正であるものを正しくすること。変更する場合には使えない。Cec>eはその逆

J-l>eは新旧を改めることである。間違いや正不正の問題ではない

#### 107 : 交換 : <aC>e

n 対の中心形の中では珍しく頻度が高い

非oΛ-。oΛは具象。完了相は交換成立時



$\langle a \rangle e$ は「 $\circ\Lambda$ を $\langle a \rangle$ と交換する。相手は $\circ$ 」である。 $\circ\Lambda$ は具象。 $\langle a \rangle$ は交換対象。 $\circ$ は交換相手(1)

(1)  $-\Lambda \langle a \rangle - \rangle cc \rangle - | \in en \cup \circ \rangle \vdash$  (彼と、リンゴとバナナを交換した)

10Δ : 死生 :  $V-M \rangle e, VcM \rangle e, V\circ M \rangle e, \cup \rangle e, Je \rangle e, l-\Lambda \cup \rangle e, lc\Lambda \cup \rangle e, \langle - \cup \rangle e, \langle cl \cup \rangle e$

$V-M \rangle e$ は「 $a$ は $\circ\Lambda$ の時間や様態で生まれる」である。 $VcM \rangle e$ は「 $a$ は $\circ\Lambda$ の時間や様態で生きる」である。 $V\circ M \rangle e$ は「 $a$ は $\circ\Lambda$ の時間や様態で死ぬ」である

これらは非 $\circ\Lambda-$ 。完了相は生まれた時点と死ぬ時点である。 $VcM \rangle e$ の完了相はその $\circ\Lambda$ の生き方を止めた時点である。必ずしも死ではない。開始相も必ずしも誕生ではない

(1)は「私は贅沢に生きた」で、贅沢な生き方が終わったことを表わす。死んだとは限らない。単にそういう生き方を止めただけかもしれない

(1)  $-\Lambda VcM \rangle c \rangle \forall \delta$

$\circ\Lambda$ には方法や原因も取れる。 $V-M \rangle e$ は風呂場出産を取れるし、 $V\circ M \rangle e$ は絞首刑を取れる

$\cup \rangle e$ は「 $\circ\Lambda$ を産む」で、 $Je \rangle e$ は「 $\circ\Lambda$ を殺す」である。 $\circ\Lambda$ は人。非 $\circ\Lambda-$ 。完了相は産んだ時点

では $V-M \rangle e, V\circ M \rangle e$ との違いは何か。 $V\circ M \rangle e$ は死であり、死ぬことに焦点が当たる。誰が息の根を止めたかということは考えず、死の様態が $\circ\Lambda$ になる。誰かに殺されるという人間関係ではなく、個人が他人と関係なくどう死ぬかということを表わしている

$Je \rangle e$ は殺すであり、 $a$ が $\circ\Lambda$ の息の根を止めたことに焦点が置かれる。 $V\circ M \rangle e$ は人が死んだことであり、殺した人が仮にいても焦点化されない。いてもいなくても言語の上では大差ないことである。だが $Je \rangle e$ は誰が誰を殺したかを明示する

日本語で「息子を戦争で死なせた」というが、これは $\cup \cup \rangle e$ を使ってはならない。死ぬように仕向けたという意味になってしまうからである。 $\rangle ce Je \rangle e - \forall a$ というように受動態を使うのが自然である

また、 $Je \rangle e$ は $\circ\Lambda-$ がある(✓)。殺したのが人でなく無生の場合に使う

(✓)  $e \triangleright \mathcal{J}e\mathcal{L}^- - \vdash \mathcal{J}o\mathcal{L} \mathcal{C}\mathcal{M}e = \vdash -\mathcal{C} \mathcal{J}e\mathcal{C} \triangleright -\mathcal{L} \mathcal{C}\mathcal{M}e$

$\mathcal{L}-\mathcal{L}\mathcal{J}e$ は「 $o\mathcal{L}$ を妊娠する」。  $\mathcal{L}\mathcal{C}\mathcal{L}\mathcal{J}e$ は「 $o\mathcal{L}$ を出産する」である

ところで、 $\mathcal{J}o\mathcal{C}e$ と $\mathcal{L}\mathcal{C}\mathcal{L}\mathcal{J}e$ の違いは何か。  $\mathcal{J}o\mathcal{C}e$ は産むという意味だが、直接出産を表わすわけではない。産むのに関わった人物、即ち母だけでなく父も取ることができる

つまり $\mathcal{J}o\mathcal{C}e$ の $a\mathcal{L}$ は父でも良い。だが $\mathcal{L}\mathcal{C}\mathcal{L}\mathcal{J}e$ できるのは母だけである

$\mathcal{L}-\mathcal{L}\mathcal{J}e$ は「 $o\mathcal{L}$ について生き残る、勝ち残る」である。  $o\mathcal{L}$ は抽具。イベントを主に取る

$\mathcal{L}\mathcal{C}\mathcal{L}\mathcal{J}e$ は「 $o\mathcal{L}$ について生き残れない」

非 $o\mathcal{L}-$ 。完了相は生き残った時点

これらは文字通り生き残るという意味の他に、試験や試合などに勝ち残ったり脱落したりという意味もある

## 10L : 生起 : $\mathcal{J}o\mathcal{L}e, \mathcal{J}e\mathcal{L}e$

非 $o\mathcal{L}-$ 。  $o\mathcal{L}$ は無生か抽象。完了相は起こした時点

$\mathcal{J}o\mathcal{L}e$ は「 $o\mathcal{L}$ を起こす」。  $\mathcal{J}e\mathcal{L}e$ は「 $o\mathcal{L}$ を消す、なくす」。  $o\mathcal{L}$ は無生か抽象なので、火事、雨、会議、委員会などを取る。会議の場合、 $-\mathcal{L}e$ と何が違うか。  $-\mathcal{L}e$ は会議を開くだが、 $\mathcal{J}o\mathcal{L}e$ はそもそも無い状態から会議を発足するという意味である

$\mathcal{J}o\mathcal{L}e$ は生きていないものを存在させるようにすることである。  $\mathcal{J}e\mathcal{L}e$ はその逆である。単に $o\mathcal{L}$ の機能をなくすだけなら $\mathcal{L}\mathcal{C}\mathcal{L}e$ を使う

$\mathcal{J}e\mathcal{L}e$ の場合、 $o\mathcal{L}$ が見えなくなるか、極めて見づらい状態にするときに使う。火を消す場合は見えなくなるので $\mathcal{J}e\mathcal{L}e$ である。氷を粉々に吹き飛ばした場合、破片が見づらいので砕くだけでなく消したともいえる

尚、 $\mathcal{J}e\mathcal{L}e$ は人も取れることがある。人を爆弾で吹き飛ばす場合は破片しか残らないので極めて見づらい状態である。このような場合、人を消したといえる。また、魔法などで姿を消した場合も $\mathcal{J}e\mathcal{L}e$ といえる。  $\mathcal{J}e\mathcal{L}e$ には見えなくなるという要素もあるということである

#### 1f0 : 有名 : ʃ-ʁɛ, ʃcʁɛ, ʁɔʃ-ɛ

非ɔʌ-。ɔʌは抽具。-lは人か場所。完了相は有名にした時点

ʃ-ʁɛは「ɔʌを-lの間で有名にする」である

ʃcʁɛは「ɔʌを-lの間で無名にする」

ʁɔʃ-ɛは「ɔʌを-lの間で話題にする」である。話題になってそのことについて-lに喋らせたり人気を出させたりすることである

#### 1f1 : 充足 : ʁ-ʃɛ, ʁcʃɛ, ʁɔʃɛ, ʁeʃɛ

ɔʌ-あり。ɔʌ抽具。ʁɔʌ材料、道具。完了相は満足にした時点

ʁ-ʃɛは「ɔʌをʁɔʌで-lに充足度100%にする」である。ɔʌが必要とする充足度を100%にしてやることである。-lは受取人や場所

ʁcʃɛは充足度が高いことを、ʁɔʃɛは少ないことを、ʁeʃɛは0%であることを表わす

何の充足度であるかは文脈で判断する。充足度が考えられるようなものなら何でも良い。ガソリンをタンクに満タンにする場合はもちろん、心を悲しみで一杯にするというような比喩的な場合も表わせる

#### 1f2 : 残 : ʃɔʃɛ, ʃeʃɛ

ɔʌ-。ɔʌは抽具。完了相は残した時点

余分という意味である。10人いるのに12個ケーキがあったら2個があまり、ʃɔʃɛになる。100gの米があるのに80しか食べなくて後は残飯になったらその残りの20はʃɔʃɛである。前者は日本語では余り、後者は残りというが、アルカではどちらもʃɔʃɛ

彼を残して死ぬ (ʋɔʃɛ ʃ-ɪ) というような置いてけぼりにするという意味はない。ケーキを残しておいてやる (ʃeʃɛ ʃcʃɪ) という意味もない。遺産を残して死ぬ (eʃɔʃɛ ʃ)

o-) という意味もない

尚、足りるという意味ではない。足りるは充足率が100%のことなので $\sim$ である。JoSは必要な分を超えた場合を指す。JeSは逆にそれに満たないことを指す

1?? : 傾 : (o)~e, (o)~>e, AcJ~e, A-~e, Mel~e

oA-あり。oAは具象。-Iは方向、終点。完了相は傾けた時点

(o)~eは「oAを-Iに傾ける」。抽象的な意味はない。倒してはいけない。傾けるだけである。手で支えながら傾けても良いし、斜塔のように支えなしで傾いても良い(1)

(1) -A (o)~e- e-e -I lco (手前にコップを傾けた)

(o)~>eは「oAをlaだけの角度を与える」。数学で使う。日常的にはあまり使わない。棒を板に対して直角にしてとかの角度にしてなどといった指示ならば日曜大工などで使いうる

AcJ~eは「oAを-Iに倒す」である。倒さねばならない。どう倒したかはMalで示す。AcJ~JeをoAを地面に倒すことである。地面は水平でなくて坂でも良い

oAを倒すにはoAがふつう人のようにある程度の高さを持っている。横に寝かせた定規は倒せない

そもそも形態的に倒せないものは倒せない。ボールは倒せない。丸いからである。紙も倒せない。平たく高さが無いからである。だが、箱は倒せる。但し向きが変わる。別の面が上を向く

A-~eは「oAをclから起こす」。人も取れる。再帰形あり(✓)。ふつう起床時には毎朝(✓)を行う

(✓) -A A-~e- cl >oJ

Mel~eは「oAをよろめかせる」である。oAはふつう人。酒 (JoA) を使ってよろめかせたり、

殴ることによって (4al) よろめかせたりする。倒れるまではいかない。ふらふらの段階である

Meレeは物も取れる。立っているもの、とりわけぐらぐらしやすい棒などを指でつんと押ししてよろめかせる場合などに使う

#### 1f0 : 丸 : ㇿ→ㇺe, ㇺㇿレe, ㇺㇿㇺe

ㇿ→ㇺeは「ㇺㇿの拳を丸める」こと。再帰頻発。手を握って拳を作ることである。非ㇺㇿ-。完了相は丸めた時点

ㇺㇿレeは「ㇺㇿに丸まりを持たせる」。とがっているものを丸めるという意味である。ㇺㇿ-あり。完了相は丸めた時点。抽象的な意味はない。鉛筆を使って先を丸めたり、髪が切ってから時間がたって丸まったり、ペンの先がつぶれて丸くなったりといった場合に使う

ㇺㇿㇺeは「ㇺㇿを尖らせる」である

#### 1f1 : 潰 : ㇿ→ㇺレe, ㇺㇿㇺe

非ㇺㇿ-。ㇺㇿ具象。完了相は潰した時点

ㇿ→ㇺレeは「ㇺㇿㇿでㇺㇿを搦る」。すりつぶすという意味である。ㇺㇿはふつう食材が来る。大根をおろす場合も使える。ㇿ→ㇺレeはㇺㇿㇿにㇺㇿを擦り付け、摩擦の衝撃によって削るように潰すことである

ㇺㇿㇺeは「ㇺㇿㇿでㇺㇿを潰す」である。ㇺㇿは具象。日常的には液体と気体は潰せない。仮に潰すというなら圧縮するといった程度の比喩になる。固体は何でも潰せる。ダイヤモンドのように硬いものでも潰そうという動作を行うことはできる。また、半分液体であるゼリーも潰せる

#### 1f2 : 凸凹 : ㇺㇿㇺレe, ㇺㇿㇺㇺe, ㇺㇿㇺㇺe, ㇺㇿㇺㇺㇺe, ㇺㇿㇺㇺㇺㇺe, ㇺㇿㇺㇺㇺㇺㇺe, ㇺㇿㇺㇺㇺㇺㇺㇺe

非oΛ-。完了相は平らにした時点

ノ-ㇿeは「oΛを平らにする」。表面の凹凸をなくすことである

ㇿcㇿeは「oΛを凸凹にする」

ㇿ-しeは「oΛをざらざらにする」。ㇿcㇿeはふつう目に見える凹凸であるが、ㇿ-しeは目に見えないか見えづらい小さな突起の集まりが作るものである。タオルは糸による輪状の小さいな突起が無数に集まってあのざらざらした感触を作っている。これは山道のように目に見える凹凸ではない。このようなときにㇿ-しeを使う

ㇿceは「oΛをつるつるにする」。小さな突起をなくすことである。削ったり剥いだりと、方法は何でも良い

ㇿcoΛeは「oΛをぎざぎざにする」。歯車やのこぎりの歯のように無数の刻み目がある状態にすること。歯車やのこぎりのように、面でなく線に近い面についていうことが多い。紙がぎざぎざという場合、面積の大きい表面部がぎざぎざなのではない。端の部分、紙の厚みの部分がぎざぎざしていることを表わす。板ガムを包む銀紙がたまにこういう形をしている

ㇿceΛeは「oΛのぎざぎざをとる」。丸みを帯びてつるつるにすることである

-ㇿeは「oΛを滑らかにする」である。oΛは抽具。物を取る場合、摩擦がなく滑らかにすることである。水道管につまったゴミを取って水が滑らかにつかえずに出るようにする場合は-ㇿeである

道路を取る場合、渋滞や人ごみを解消するという意味である。人はふつう取らない

試験や思考などを取ると試験や思考を問題なくつかえることないものにするという意味になる

cㇿeは「oΛをぎこちなくする」である。人との関係がぎこちないという意味では使えない。ぎこちない動作や演技など、人以外の物事に対して使う

1ㇿ9 : 開閉 : ho>e, he>e, ㇿoㇿe

oΛ-あり。完了相は開けた時点

ho>eは「oΛを開く」。oΛはドアなど。押す引くスライドする回転するなど、何でも良い。

ただ、回転式は回すともいえる。脚も開ける。腕も開ける。目、口も開ける。手術で切開する場合も使える

つまり、狭くなっているものを広くする場合に使うことができる。その意味では $lo\lambda e$ に近い。尚、抽象的な意味はない

$he\lambda e$ は「 $o\Lambda$ を閉じる」

$Mo\lambda e$ は「 $o\Lambda$ を $o\Lambda$ で閉じる、蓋をする」である。蓋をできる場合にしか使えない

1?Δ : 増減 :  $\langle -\lambda e, \langle c\lambda e, \lambda-\lambda e, \lambda c\lambda e$

$o\Lambda$ -あり。完了相は増やした時点

$\langle -\lambda e$ は「 $o\Lambda$ を $\lambda a$ だけ増やす」。 $o\Lambda$ は数えられるものや計れるものなら何でも良い。飴の数は勿論、水でもメルバなどの単位を伴えば数えられるので増やせる。出来事の数でも良い。したがって $o\Lambda$ は抽具

$\langle c\lambda e$ は「 $o\Lambda$ を $\lambda a$ だけ減らす」

$\lambda-\lambda e$ は「 $o\Lambda$ を多くする」。量は $\lambda a$ で表わせる。では $\langle -\lambda e$ と何が違うか。 $\langle -\lambda e$ は数を増やすことしか表わさない。増やした結果多くなるかどうかは分からない

飴が10個ほしいのに1個しかないときを考える。1個増やして計7個になった場合、それは確かに増えたといえるが多くなったとはいえない。しかし10個増やして11個にすれば増やしたと同時に多くしたともいえる。その結果、充足度と対照して多いかどうかを見るのが $\lambda-\lambda e$ である。 $\lambda-\lambda e$ は充足度は考えない。一つでも増えれば $\langle -\lambda e$ である

尚、結果として多ければ $\lambda-\lambda e$ といえるか。それは言えない。結果として多い状態を繫詞で $\lambda-$ ということはできる。だが、動詞は多くするという動作なので $\lambda-\lambda e$ は使えないことがある

たとえば上の状況で11個の飴があるとき、ここから1個飴を減らす。すると計10個である。この一つ取るという動作は減らしているので多くするという動作ではない。だから $\lambda-\lambda e$ とはいえない。だが、10個という結果状態は充足度に対して多いといえる。したがって $o\Lambda$   $c\lambda$   $\lambda-$ とはいえる

lc̣eは「oΛを少なくする」。詳細はḷe。<c̣eとの関係もḷeと<̣eの関係である

#### 19L : 上下 : ḥe, hc̣e, -̣e

oΛあり。完了相は上げた時点。もうこれ以上上げる動作をしないという時点

ḥeは「oΛを-lに対して上の位置にさせる」という空間的な意味でしかない。hc̣eは下になっただけ

-̣eは「oΛを舞い上げる」である。oΛ-だと舞い上がる。oΛは葉など、舞い上がるもの。人も台風などで舞い上がるので取れる

尚、日本語と違って気分が高揚するという意味はない

#### 190 : 延伸 : <-̣e, <c̣e, <-̣e

<-̣eは「oΛを-lに伸ばす」。-lは方向。oΛは伸ばせる具象なら何でも良い。腕は勿論、餅、ガム、唇など、大抵は引っ張って伸ばせるものである

伸ばすとは引っ張ったりして張ったり長くしたりすることである。髪や腕の場合は構造上長くなるのではなく張るという意味である。ガムなどは長くなるという意味である

したがって日本語では髪を伸ばすといえるが、アルカで髪を伸ばすというと髪を引っ張ってピンとさせることである。ハードジェルでツンツンした髪にする場合、伸ばして固めるといえる。尚、髪を長くするという意味で伸ばすという場合は<-̣eでなく<oΛを使う

<c̣eは「oΛを-lに縮める」。詳細は<-̣e

<-̣eは「oΛをストレッチする」。oΛは人か身体部分を取る。人をoΛにして身体部分をoΛにすることもできる。<-̣eよりも健康目的、準備体操目的の意識が強い。猫が伸びをする場合にも使える

通常、健康目的なので<-̣eより時間が長く、じっくり行う

#### 191 : 強調 : ḍe, dc̣e



oΛ-あり。oΛは抽具。完了相は強調した時点

$d\text{-}\lambda\text{e}$ は「oΛを強調する」である。oΛはあらゆる抽具である。既に目立っているものを更に目立たせても良いし、目立たないものを目立たせても良い。とにかくそれと人に分かりやすくするように目立たせて強調することである

文字や絵なら可視なので色や枠や書体や太さなどを駆使して目立たせることである。声や音ならプロミネンスやアクセントやイントネーションを駆使して目立たせることである。全く形のない音もない思想のようなものでも強調できる。その思想が正しいとか間違っているとか、とにかくその思想について他の話題よりも大きく取り上げれば $d\text{-}\lambda\text{e}$ といえる

$d\text{c}\lambda\text{e}$ は逆に「oΛを目立たなくする」である。強調しないというより、むしろ埋没させることである

プラスの方向からあまりに下げてマイナスにまで食い込んでしまうとマイナスであることが今度はかえって目立つので $d\text{c}\lambda\text{e}$ ではない。プラスをゼロにして存在感をなくすことである

19/ : 良悪 :  $-o\lambda\text{e}$ ,  $-e\lambda\text{e}$ ,  $\mu\text{-}\lambda\lambda\text{e}$ ,  $\mu\text{c}\lambda\lambda\text{e}$ ,  $-\mu\lambda\text{e}$ ,  $\text{c}\mu\lambda\text{e}$

非oΛ-。oΛ抽具。完了相は良くした時点

$-o\lambda\text{e}$ は「oΛを良くする」。何らかの形でoΛを良くすれば全て当てはまる。oΛが良悪の基準に当てはまるものなら何でも良い。実際、全て例外なく良悪の基準を当てはめられるだろう。数字の1は良い1といわれても一見ピンとこないが、字として綺麗な1などという解釈も文脈によって可能である

いずれにせよ $-o\lambda\text{e}$ はoΛを良くすることである。良いというのは主観的なもので、誰かが勝手に設ける基準である。誰かが多数であればその価値観が常識となる。常識外れの人間が勝手に決めた価値観でもその人の中では良いといえる

何かの基準があり、それを越えることが望ましいとき、越えているものを良いという。これが $-o\lambda\text{e}$ の基本的な概念である

-e<sub>2</sub>eは「o<sub>1</sub>を悪くする」である。詳細は-o<sub>2</sub>e。人も物も抽象も取れる。解釈は文脈による。ひとえに人を悪くするといってもどういう意味かは分からない。文脈で判断するのみである

これは形容詞でも同じで、悪い人といっても具体的にどういう面で悪いのか分からない

μ<sub>2</sub>eは「o<sub>1</sub>の価値を高める」である。o<sub>1</sub>を良質なものにすることである。o<sub>1</sub>は人でも物でも良い。抽象でも良い。o<sub>1</sub>に価値を想定したとき、その価値が高いようにすることである

μ<sub>1</sub>eは「o<sub>1</sub>の価値を低める」。価値をなくすことである

-μ<sub>2</sub>eは「o<sub>1</sub>を完全にする」である。o<sub>1</sub>に進捗度や完成度を仮定したとき、その度合いを100%か限りなくそれに近い値にすることである。進捗度や完成度が考えられるものには何でも使うことができる

cμ<sub>2</sub>eは「o<sub>1</sub>を不完全にする」。こちらは上の度合いを0%かその近似値にすることである

## 19 : 優劣 : h<sub>2</sub>e, hc<sub>2</sub>e

非o<sub>1</sub>-。o<sub>1</sub>抽具。完了相は優劣をつけた時点

h<sub>2</sub>eは「o<sub>1</sub>をc<sub>2</sub>に関して優れたものにする」。c<sub>2</sub>は比較対象かo<sub>1</sub>が属す集合を取る。o<sub>1</sub>にc<sub>2</sub>に対する優劣を与えるときに使う。c<sub>2</sub>がないときが文脈から判断できるか、或いは一般と比べてという意味である

h<sub>2</sub>eはc<sub>2</sub>或いは一般と比べて優れているわけである。必ずしも良質とは限らない。比較対象が劣悪なら良いとはいえない

優れているというのは何かと比べて良いということである。良いについては--c<sub>2</sub>eを参照

hc<sub>2</sub>eは「o<sub>1</sub>をc<sub>2</sub>に関して劣ったものにする」

## 190 : 振舞 : l<c<sub>2</sub>e, lc<c<sub>2</sub>e, 4a<sub>1</sub>-<sub>1</sub>e, 4a<sub>1</sub>c<sub>1</sub>e, c<sub>2</sub>l<sub>2</sub>e, c<sub>2</sub>el<sub>2</sub>e

非oΛ-。oΛは人。完了相は上品にした時点。再帰頻発

l-くれは「oΛを上品にする」。lcくれは下品

YaΛ-れは「oΛを優雅にする」。YaΛcれは粗野

l-くれとYaΛ-れの違いは何か。l-くれは精神的、内面的な上品さである。高い教養や高い倫理観、高尚なマナーや作法や喋り方や振舞い方をわかまえていることである。一方、YaΛ-れは見た目重視である。肉体的、外見的な上品さである。服装や挙動、物腰、態度などについていう

l-くれとYaΛ-れは重複する面もある。喋り方や態度などはどちらにもいえることである。ただl-くんな態度は内面的なもので、目に見えないが何となく上品だと感じる態度に使う。YaΛ-れな態度は外見的なもので、スカートのたなびかせ方や座り方など、目に見えるところで上品だと感じる態度に使う

人と話していて特に向こうが上品なそぶりも見せないのにこちらが何となく上品な人だと思う場合、それはl-くである

colれは「oΛを正々堂々とさせる」。卑怯でなく倫理をわかまえ、人道にそむかず、約束を守る態度である

celれは「oΛを卑怯にする」。自分に都合なことは倫理や人道や約束に背いても得ようとする態度である

#### 199 : 巧拙 : -くれ, clくれ

非oΛ-。oΛ抽具。完了相は得意になった時点

-くれは「oΛを-lに対して得意にする」。clくれは苦手にする

oΛに習得度というものを考えたとき、-くは習得度が高いことを表わし、clくは低いことを表わす

字の巧さ、リスニング・スピーキングの巧さ、人心の掴み方、スポーツ、絵、音楽など、多彩に使える

199 : 広長 :  $h\text{-}\Lambda\text{e}$ ,  $hc\text{-}\Lambda\text{e}$ ,  $\text{<}\text{o}\text{-}\Lambda\text{e}$ ,  $\text{<e}\text{-}\Lambda\text{e}$

$\text{o}\text{-}\Lambda$ -あり。 $\text{o}\text{-}\Lambda$ は具象。完了相は広げた時点

$h\text{-}\Lambda\text{e}$ は「 $\text{o}\text{-}\Lambda$ を広げる」。  $hc\text{-}\Lambda\text{e}$ は狭める。面積にしか使えない

$\text{<}\text{o}\text{-}\Lambda\text{e}$ は「 $\text{o}\text{-}\Lambda$ を長くする」。  $\text{<e}\text{-}\Lambda\text{e}$ は短くする。物理的には長さにはしか使えない。線の長さ、面積を構成する辺の長さ、体積を構成する辺の長さである

抽象的には時間の長さである。要するに $\text{<}\text{o}\text{-}\Lambda\text{e}$ は延長である

199 : 膨萎 :  $\text{<-}\text{e}\text{-}\Lambda\text{e}$ ,  $\text{<c}\text{e}\text{-}\Lambda\text{e}$

$\text{o}\text{-}\Lambda$ -あり。 $\text{o}\text{-}\Lambda$ 具象。完了相は膨張した時点

$\text{<-}\text{e}\text{-}\Lambda\text{e}$ は「 $\text{o}\text{-}\Lambda$ を膨らませる」。  $\text{o}\text{-}\Lambda$ は三次元体だけを取る。借金など、抽象的なものは膨らまない。道具は $\text{o}\text{-}\Lambda$ で表わす。自転車のタイヤに空気入れで空気を入れる場合、空気入れも空気も道具になれる。膨らませるために使う気体も $\text{o}\text{-}\Lambda$ に取れる

尚、道具は気体でなくても良い。液体を球の中に入れ、液体の中に熱を出す化合物を入れておく。自動的に徐々に液体の温度は高まり、その熱によって膨張が起こる。この場合気体ではなく液体か或いは化合物という固体で膨張を起こしたといえる

$\text{<c}\text{e}\text{-}\Lambda\text{e}$ は「 $\text{o}\text{-}\Lambda$ を萎ませる」

199 : 張弛 :  $\text{<}\text{o}\text{-}\text{c}\text{-}\Lambda\text{e}$ ,  $\text{<e}\text{-}\text{c}\text{-}\Lambda\text{e}$ ,  $\text{<-}\text{c}\text{-}\Lambda\text{e}$ ,  $\text{<c}\text{-}\text{c}\text{-}\Lambda\text{e}$

$\text{o}\text{-}\Lambda$ -あり。 $\text{o}\text{-}\Lambda$ は具象。完了相は弛緩した時点

$\text{<}\text{o}\text{-}\text{c}\text{-}\Lambda\text{e}$ は「 $\text{o}\text{-}\Lambda$ を縮れさせる」。  $\text{<e}\text{-}\text{c}\text{-}\Lambda\text{e}$ は「 $\text{o}\text{-}\Lambda$ を皺にする」

$\text{<-}\text{c}\text{-}\Lambda\text{e}$ は「 $\text{o}\text{-}\Lambda$ を張らせる」。  $\text{<c}\text{-}\text{c}\text{-}\Lambda\text{e}$ は「 $\text{o}\text{-}\Lambda$ を弛ませる」

$\text{<}\text{o}\text{-}\text{c}\text{-}\Lambda\text{e}$ は $\text{<e}\text{-}\text{c}\text{-}\Lambda\text{e}$ の集まりである。縮れは皺がいくつも寄り集まって縮まったものである。ど

ちかも二次元、三次元に使える。紙を少し折れ目をつけたくらいでは皺であるが、無数に皺を与えるとその紙は縮れた紙といえる

髪は毛は皺にできるが、皺程度では目立たないのでふつうしおの段階で問題にされる。だから皺の髪というのはふつう言表されず、縮れ髪が言表される。逆に顔の場合、一本の皺でも問題になる。ゆえに顔の皺についてはしおが使われる。顔にしおということもできるが、老人のように皺くちやになった顔をいう。したがってしおは皺くちやにするという意味もある

しおはピンと張った状態にすることである。しおはその逆で、ダラーンとした状態にすることである。二次元にも三次元にも使える。人にも物にも使える。顔や腕の筋肉を弛ませられる

19L : 強弱 : -VΛe, cVΛe, Υ--VΛe, Υ-cVΛe

非oΛ-。oΛ抽具。完了相は強くした時点

-VΛeは「oΛを強くする」。cVΛeは弱くする。oΛは抽具で、強弱を求められるものなら何でも良い。広範囲なoΛを取れる。解釈は文脈による

Υ--VΛeは「oΛを迫力あるものにする」。Υ--VΛeは迫力ある様子。それに変えることである。音楽や声などの聴覚的なものから、大きさや色使いなどの視覚的なものまで取れる。嗅覚触覚味覚は迫力と無縁。つまり音か見た目である。人も取れる。その人の態度が迫力あるようにすることである

Υ-cVΛeは「oΛを迫力ないものにする」。ちんけなものにするという意味である

尚、これらは再帰頻発である

190 : 早遅 : V-ZΛe, VcZΛe

oΛ-あり。oΛは抽具

V-ZΛeは「oΛを時間より早く行う」。遅刻の反対である。oΛは抽具で、授業を取るなら授

業前に教室に到着したことを表わす

VcZ<sub>レ</sub>eは「oΛに遅刻する」。授業やデート、会合などイベントを取る。人も取れる。その人との約束に遅れたという意味である

#### 191 : 害毒 : ㄱcㄴ-ㄹe, ㄱcㄴcㄹe, ㄹ--ㄹe, ㄹ-clㄹe, ㄹ->ㄹe, ㄹc>ㄹe

授受構文。非oΛ-。oΛは与えるもので、抽具。-lは受取人。完了相は与えた時点

ㄱcㄴ-ㄹeは「oΛという薬を-lに与える」。oΛは薬の名や内容

ㄱcㄴcㄹeは「oΛという毒を-lに与える」。服毒させるである。毒を盛るといっても良い

ㄹ--ㄹeは「oΛという害を-lに与える」。oΛは害の内容で、抽具

ㄹ-clㄹeは「oΛという無害を-lに与える」。oΛは無害の内容。殆ど動詞として使うことはない。

尚、「何かを無害にする」はㄹ-clㄹeではなく、>-ㄹe ㄴe -l ㄹ-clである

ㄹ->ㄹeは「oΛという利益を-lに与える」

ㄹc>ㄹeは「oΛという損害を-lに与える」

#### 197 : 複雑 : ㄴo>ㄹe, ㄴe>ㄹe, ㄴoㄹe, ㄴeㄹe, ㄹ-fㄹe, ㄹcfㄹe

oΛ-あり。oΛ抽具。完了相は複雑にした時点

ㄴo>ㄹeは「oΛを複雑にする」。仕組みや体系が複雑なこと。問題などの抽象から髪型のよ  
うな具象も取れる

ㄴe>ㄹeは「oΛを単純にする」

ㄴeㄹeは「oΛを難しくする」。ㄴo>ㄹeと違って難易度が高いことを表わす。ㄴeㄹeなら大抵ㄴo  
>といえるが、同一ではない。フェルマーの定理は問題としては非常に単純であるが、難易  
度は極めて高い。このような場合、ㄴeㄹeではあってもㄴo>ではないといえる。ゆえに両者は  
同一ではない

ㄴoㄹeは「oΛを簡単にする」

l-f-eは「oAを面倒にする」。難しいとか複雑だということではない。労力がかかることである。しかも大抵は難しくない単純作業の場合に使う。労力がかかる上に退屈である。このような場合に面倒だということでl-f-eという

l-c-f-eは「oAを簡単にする」。l-c-fは難易度が低いという意味だが、l-c-fは面倒くさくないという意味である。労力がかからず、時間もかからない。更に場合によっては退屈でさえないかもしれない

#### 197 : 基本 : Z-o-r-e, Z-e-r-e

非oA-。oA抽具。完了相は基本にした時点

Z-o-r-eは「oAを-lに应用する」。oAは抽具で、应用されるもの。-lが結果物を取る。「知識を商品化する」という場合、知識を应用して商品にするわけだからZ-o-r-e le-l-a -l -r-oAとする。oAは抽象だけでなく人でも良い。彼の何かを应用して-lにすることである

Z-e-r-eは「oAを-lという基本にする」。oAは基本化されるもの。-lは結果物。Z-o-r-eの反対である。元々基本でないoAを基本にするという意味である

#### 198 : 振揺 : >-r-e, O--r-e, O-J-r-e

oA-あり。完了相は揺らした時点

>-r-eは「oAを揺らす」。O--r-eも「oAを揺らす」である。違いは何か。>-r-eは小刻みに揺れることで、グラグラその場で揺れたり貧乏ゆすりする場合に当たる。地震の揺れ方も>-r-eである

O--r-eは振り子のようにゆっくりといくらかの距離を行ったり来たりすることである。ブランコ、ゆりかごもO--r-eである

O-J-r-eは「oAを振る」である。非oA-。oAの軸を中心にして、その先端を動かすことである。大抵速度は速い。oAは物を取る。大抵手で振る。したがってoAはふつう手で振れるものである。剣や棒などは振りやすい。手も振れる

#### 19f : 暮 : 4ol>e, μ-7>e

4ol>eは「alはoΛを過ごす」。oΛは時間か時間が読み取れるものが来る。つまり1時間という具体的な時間や、夏休みというような時間を読み取れるものである。内容は4alに来る

μ-7>eは「alにとってoΛという時間が過ぎる」である。oΛは4ol>eと同じ。alはe>化しやすい。つまりoΛ-頻発

4ol>eはoΛという時間を過ごすことに焦点が当たる。その時間を消費したという意味で、使ったという意味である。μ-7>eはoΛという時間を使ったことよりも、それが自然と過ぎていったことに焦点を置く。つまり、時間の使用か経過の違いである

両者とも完了相は時間が過ぎた時点である

#### 19g : 天気 : e7>e, o7>e, 7-e>e, eo7>e, h-c<>e, e7>e

特殊な構文。完了相は雨が止んだ時点

e7>eは「alはoΛに雨を降らせる」である。oΛは場所か人。人だと、その人に焦点を当て、その人が雨に降られたことを強くいう。現実には場所全体に降っているのだが、その文では特にその人だけに焦点を当てていることになる

alはまずe>である。仮に来るとすれば7leeVelが来る。ではoΛ-が多いかといわれるとそうではない

実はoΛも頻繁にe>化する。雨が降っているという場合、殆どどこに降っているかを問題にすることはない。なぜなら天気予報でもないかぎり今自分のところに降っているのは明白だからである。一々e> e7>c7 7o-とは考えない。どこに降るかは自明なので、天気予報や、誰かと電話していて相手方で降っているときなどを除けばoΛはe>化するのが自然である

alもoΛもe>化した動詞はoΛ-が起こらない。ゆえに雨が降っているはe> e7>c7 e>を基にし、e>を消して単にe7>c7とする。これだけで文である

勿論、alだけがe>化した場合はoΛ-を使う(1)



(1) -μΛ- c(ꜛc) eJ) (アルナでは雨が降っている)

以下、詳細は全てeJ)ꜛeと同じである

oJ)ꜛeは晴れを意味する。晴れにした時点が完了相である

J-eꜛeは雪である。雨が雪になっただけである

eoJ)ꜛeは霜である。oΛに霜が降りることである

h-cꜛeは天気と少しずれがある。これは彗星が落ちるである。「alはoΛに彗星を落とす」  
で、oΛ-が他に比べて多い(ノ)

(ノ) -μΛ- c(ꜛc) h-cꜛ (アルナに彗星が落ちた)

eJ)ꜛeは「alはoΛを曇らせる」。oΛは場所か人。人の場合、その人のいる上空に雲があるということである。eJ)ꜛeよりこの人は場所化している。eJ)ꜛeのほうがoΛに人を取る頻度が少ない

199 : 三態 : J-ꜛe, Jcꜛe, Joꜛe, JcJ)ꜛe, V-ꜛe, VeΛꜛe

oΛ-あり。完了相は状態変化した時点

J-ꜛeは「oΛを気体にする」。oΛは液体、固体

Jcꜛeは「oΛを液体にする」。oΛは気体、固体

Joꜛeは「oΛを固体にする」。oΛは気体、液体

これらは状態変化を表わす

JcJ)ꜛeは「oΛを-lに蒸留する」。oΛは液体。-lは結果物

V-ꜛeは「oΛを沸騰させる」。oΛはふつう液体

VeΛꜛeは「oΛを氷にする」。oΛはふつう液体。Joꜛeと重なる点があるが、VeΛꜛeのほうが狭い。水を凍らせれば氷でも固体でもある。これに関しては両者は重なっている。だが溶けた鉄を冷やして固めた場合、固体ではあるが氷ではない。これが両者の異同である

#### 19Δ : 酸 : -JΛe, cJΛe

oΛ-あり。完了相は酸かアルカリに傾いた時点

-JΛeは「oΛを酸性にする」。酸性にしうるものなら何でも良い

cJΛeは「oΛをアルカリ性にする」

#### 19Δ : 吹 : ʒ-lΛe, ʒ-clΛe, ʒ-cae

非oΛ-。完了相は吹き終わり

ʒ-lΛeは「横笛でoΛを吹く」。oΛは曲や音階や音符など、音である。ʒ-clΛeは縦笛

ʒ-caeは「口笛でoΛを吹く」。oΛは内容。曲でも伝えたい内容でも音階でも良い。口笛を言語の代わりに使って何かを伝える場合、oΛがその内容である

#### 19L : 風 : CeeZΛe, CeeZeΛe

CeeZΛeはeJΛeと同じ構文で、「alがoΛに風を吹かせる」である。oΛは場所や人で、風を食らうものである

CeeZeΛeは「alは竜巻をoΛに起こす」

#### 1Δ0 : 光影 : ʒ-lΛe, ʒ-clΛe, ʒ-clʒΛe, ʒ-μʒΛe, ʒ-cμʒΛe, ʒ-elʒΛe

oΛ-あり。oΛ具象。完了相は光った時点

ʒ-lΛeは「oΛを光らせる」である。oΛ-頻発

ʒ-clΛeは「oΛを闇にする」である。oΛ-頻発。闇というのは光のない状態である。ʒ-lΛeが光ある状態にすることなら、ʒ-clΛeはその逆である

ʒ-clʒΛeは「oΛをきらっと光らせる」。一瞬強めの光が起こって消えることである

ʒ-μʒΛeは「oΛを日光に晒す」である。物はもちろん、人も取れる。この場合、日焼けするという意味にもなるし、単にひなたぼっこするとか日向に出るという意味にもなる。完

了相は晒した時点

㊦㊧㊨は「㊩を日陰にあてる」である。日向から隠すとか、日陰に移すといっても良い。日射病で倒れた人を日陰に運ぶときも使えるし、再帰形もある

㊨㊩㊪は「㊩を月光に晒す」。㊦㊧㊨と詳細は同じ。月の光の当たるところに出ることや、月の夜に外を出歩くときなどに使う

1Δ1：照：㊦--㊧㊨, ㊧->㊩㊪, ㊧㊨>㊩㊪, ㊦->㊩㊪

非㊩㊪-。㊩㊪具象。完了相は照らした時点

㊦--㊧㊨は「㊩を㊧㊩㊪で照らす」。光を当てるという意味である。㊩㊪は照らせれば何でも良い

㊧->㊩㊪は「㊩を眩しくする」。㊩㊪を見るとき光を感じすぎて眩しく感じるようにするという意味である。動詞としてはあまり使わない

㊧㊨>㊩㊪は「㊩を暗くする、薄暗くする」。眩しいの反対である

㊦->㊩㊪は「㊩の明かりをつける、㊩㊪に明かりをとす」。㊩㊪は場所か人である。人を取る場合、その人がいる部屋に証明をつけるという意味である

刑事が容疑者を取り調べるときに日本のドラマではスタンドの光を容疑者に当てることがあるが、あれは㊦->㊩㊪ではない。㊦->㊩㊪が人を取る場合、その人そのものを照らすのではなくその人がいる部屋全体を照らす。尚、刑事の例は訳すなら㊦--㊧㊨を使う

㊦->㊩㊪ ㊪-といったときに彼を照らすと誤訳しないように。彼のいる部屋に明かりをとしたという意味である。つまり㊦--㊧㊨が取る人は人であるが、㊦->㊩㊪が取る人は場所化した人であるといえる

1Δ7：消：<-㊨㊩㊪, >㊨㊩>㊩㊪

<-㊨㊩㊪は「㊩を消火する」。㊩㊪は場所や火の種類。たとえば家を消火する場合は場所で、キャンプファイヤーや焚き火を消火する場合は火の種類である。非㊩㊪-。完了相は消し終わった時点

>c7>eは「oΛを取り消す」である。キャンセルするという意味。oΛは抽具。内容を取る。会議、授業というようなイベントとしての名詞も取れる。更に人も取れる。その人との約束をキャンセルするという意味になる

>c7>eは一度すると決めていたものをやはり止めることである。oΛが何らかの行為を表わすものならoΛに何が来ても構わない。たとえ人が来てもその人との何らかの行為の約束をキャンセルすると解釈できる

#### 1Δ7 : 寒暖 : -<e, c<e, o<e, e<e, -<-e, 9-<-e

oΛ-。完了相は熱くした時点

-<eは「oΛを熱くする」。熱いでも暑いでも良い。oΛは具象。抽象は取らない。温度を持ちうるものなら何でも良い

c<eは暖める。o<eは涼しくする。e<eは冷やす。c<は性格が温かいことも表わす。e<は性格が冷たいことも表わす

-<-eは「oΛをレンジで温める」

9-<-eは「oΛを日焼けさせる」。再帰頻発。完了相は日焼け終了時で、日焼け成功かどうかは不明

#### 1Δ0 : 濡乾 : eV->e, eVc>e

oΛ-あり。完了相は乾いた時点

eV->eは「oΛに関してoΛをoΛで湿らせる」。-lは使えない。oΛは具象。主に固体に使う。気体も湿らせられる。液体には使えない。元々液体なので湿っているためである

eVc>eは「oΛに関してoΛをoΛで乾かす」。三態全て乾かせるが気体にはあまり使わない。oΛはoΛの持っている水分を取る。たとえば「水分に関してシャツをドライヤーで乾かす」という場合、(1)である

(1) -Λ eVc>c J-l- (o' el 7oΛ eVc-μ

尚、自然と乾く場合はoΛ-を使う(ノ)

(ノ) J-l- -c eVc >-Λ ㊟-μ㊟ 日光でシャツが乾いた

1Δf : 剛柔 : hoΛ>e, heΛ>e, >-Λ>e, >cΛ>e, <->>e, <c>>e

oΛ-あり。動詞は希少。ふつう形容詞。その形容詞の意味を持たせた時点で完了相

hoΛ>eは「oΛを固くする」。>-Λ>e, <->>eも同じ構文で意味も類似

heΛ>eは「oΛを柔らかくする」。>cΛ>e, <c>>eも同様

hoΛは純粋な固さに使う。感触の固さについて使う。鉄はhoΛだがボールはheΛである。床はhoΛだがカーペットや布団もheΛである

>-Λは曲げにくい変形しにくい固さについて使う。ワイヤー部分が金属でできたハンガーの感触は固い。ゆえにhoΛである。しかしハンガーのワイヤーは細いので簡単に曲がる。ゆえに>cΛである

<->は壊れにくい固さについて使う。ゴムボールはheΛで>cΛだが<->である

このように、hoΛ, >-Λ, <->は適応範囲も意味も異なる。heΛ, >cΛ, <c>についても同様である

1Δg : 澄濁 : <μoΛ>e, <μeΛ>e

oΛ-あり。完了相は純度を変えた時点

<μoΛ>eは「oΛを濁らせる」。混濁物が多い状態にすることである。液体について使う。また、味の元となる物質を混濁物として見たとき、その比率が水分に対して大きいときも<μoΛ>eといえる。つまりこれは味が濃い場合である。こってりした味に使う

また、<μoΛ>e自体は名詞として濁りの元や料理に関する灰汁などを表わす

＜ $\mu e\lambda\lambda e$ は逆に「 $\circ\Lambda$ を澄ませる」。料理に使うと $\circ\Lambda$ の灰汁を取るという意味になる。また、灰汁が見られない場合は味を薄くするという意味にもなる。両者は＜ $\mu e\lambda\lambda e$   $\cup e$   $\cup\circ\cup$  ＜ $\mu\circ\Lambda$ と＜ $\mu e\lambda\lambda e$   $\cup e$   $\cup\circ\cup$   $\cup\circ\cup$ とで区別される

#### 1ΔL : 若老 : $\cup\rightarrow\lambda e$ , $\cup c\lambda\lambda e$ , $l-S\lambda e$ , $lcS\lambda e$

$\circ\Lambda-$ 。  $\circ\Lambda$ は人。完了相は若くした時点

$\cup\rightarrow\lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ を若くする」。非 $\circ\Lambda-$ は魔法を使った場合、メイクなどで若く見せかけた場合などにしか使わない。若返るという意味では $\circ\Lambda-$ である

$\cup c\lambda\lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ を老いさせる」。老いるは $\circ\Lambda-$

$l-S\lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ を成熟させる、成長させる」。  $\circ\Lambda$ は人か物。物は特に動植物。  $\circ\Lambda-$ が多い

$lcS\lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ を未熟にする」

#### 1L0 : 大太 : $\cup-\cup\lambda e$ , $\cup c\cup\lambda e$ , $S-\cup\lambda e$ , $Sc\cup\lambda e$

$\circ\Lambda-$ あり。  $\circ\Lambda$ は具象。完了相は大きくした時点

$\cup-\cup\lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ を大きくする」。  $\circ\Lambda$ は三次元体しか取らない

$\cup c\cup\lambda e$ は小さくする

$S-\cup\lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ を太らせる」。三次元体か二次元体に使う。二次元体でも太いといえるのは、テレビの太った俳優を見て太いといえることから明らかである。テレビは画面なので二次元である。二次元の映像を見ながら実際にはこれは人間だから三次元のはずだと考えて太いといっている

つまり逆に言えば三次元から立体性を捨象した二次元に関して太いといえることになる。そしてそれ以外の二次元、つまり立体を前提とした二次元以外には $S-\cup\lambda e$ といえない

$\circ\Lambda$ は線、棒、人などに使える

$Sc\cup\lambda e$ は細くする

### 1L1 : 苗 : ㄱ>ㄹe, ㄱ>ㄷe

非ㄱㄴ-。-lは場所。完了相は植えた時点

ㄱ>ㄹeは「ㄱㄴを-lに植える」。ㄱㄴは苗だけを取る

ㄱ>ㄷeは「ㄱㄴを-lに植える」。ㄱㄴは種だけを取る

### 1L7 : 腐 : ㄱㄴe, ㄱeㄴe

ㄱㄴ-。ㄱㄴは食材。完了相は腐ってもう食べられなくなった時点

ㄱㄴeは「ㄱㄴを発酵させる」。勝手に発酵したらㄱㄴ-

ㄱeㄴeは「ㄱㄴを腐らせる」。ㄱㄴeは食品を作る作業なのでㄱeㄴeよりalが人間になりやすい。ㄱeㄴeはわざわざ腐らせることはしないのでㄱㄴ-率が高い

### 1L7 : 匂 : ㄱㄴ-ㄹe, ㄱㄴe, ㄴㄷe

非ㄱㄴ-。完了相は匂いをつけた時点

ㄱㄴ-ㄹeは「ㄱㄴを嗅ぐ」。鼻でくんと匂いを嗅ぐことである

ㄱㄴeはㄱㄴe構文で、ㄱㄴという匂いを-lに与えること。つまり-lはㄱㄴの匂いがするという  
こと

ㄴㄷeはㄱㄴeと同じで、匂いが味になっただけである

### 1L8 : 酔 : ㄱㄴㄹe, ㄱeㄴe, -ㄱㄴe

非ㄱㄴ-。完了相は酔った時点

ㄱㄴㄹeは「ㄱㄴを酔わせる」。ふつう再帰形

$\mu ce \lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ を-Iに陶醉させる」。ふつう再帰形。これは酒で酔わせるのではない。自分を絵画に陶醉させる場合、自分が $\circ\Lambda$ で絵画が-Iである

$-y a \lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ に麻酔を打つ」である。医療などの目的で麻酔を施すことである。手段は $\circ\Lambda$ で述べる。たとえば注射器が来ても良いし、麻酔名が来ても良い

1Lf : 親疎 :  $\gamma \text{-} \lambda e, \gamma c \lambda e$

$\circ\Lambda$ -あり。完了相は蜜にした時点

$\gamma \text{-} \lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ を密にする」。  $\gamma c \lambda e$ は疎。まばらでも良い

1Lf : 必要 :  $\lambda \text{-} \lambda e, \lambda c \lambda e, \lambda o \lambda e, \lambda e \lambda e, \lambda \text{-} \lambda e, \lambda c \lambda e$

非 $\circ\Lambda$ -。  $\circ\Lambda$ は抽具。完了相は必要とした時点。必要としている状態は影響相

$\lambda \text{-} \lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ を必要とする」。必要性が100%か極めてそれに近い状態である。  $\lambda c \lambda e$ は必要性が高い。  $\lambda o \lambda e$ は低い。  $\lambda e \lambda e$ は0%か極めてそれに近い状態である

$\lambda \text{-} \lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ を-Iに需要する」。  $\circ\Lambda$ は抽具。商品でも企業側の処遇でも良い。商品として $\circ\Lambda$ を必要とすることである。 -Iは需要を要求される人や企業である

$\lambda c \lambda e$ は逆に「 $\circ\Lambda$ を-Iへ供給する」である

1Lg : 同等 :  $\gamma \text{-} \lambda e, \gamma c \lambda e, \gamma o \lambda e, \gamma e \lambda e, \lambda c \lambda e, \lambda o \text{-} \lambda e, \lambda o c \lambda e$

$\circ\Lambda$ -あり。  $\circ\Lambda$ は抽具。完了相は似せた時点

$\gamma \text{-} \lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ を-Iと同じにする」。同一性を100%か極めてそれに近い状態にすること。  $\gamma c \lambda e$ は同一性が高いことで、似せる。  $\gamma o \lambda e$ は低いことで、異なる。  $\gamma e \lambda e$ は0%かそれに近い状態

$\lambda c \lambda e$ は「 $\circ\Lambda$ を真似る」。  $\circ\Lambda$ が人なら真似をする。物ならコピーする



∪θ-∩>eは「o∧を-lと差別する」。これは縦の区別で、o∧と-lは良悪や上下関係などの点で差を持って区別される。∪θc∩>eは「o∧を-lと区別する」。こちらは横の区別でo∧と-lの扱いの差はない

#### 1LΔ : 相応 : ∩-Z>e, ∩cZ>e

o∧-あり。o∧は抽具。完了相は相応と決めた時点

∩-Z>eは「o∧は-lにふさわしい」。o∧は人が多いが抽具も取れる。-lは内容が多いが人も取れる。-lが人とはたとえば「彼は彼女にふさわしい」というような場合である

∩-Z>eは当たるという意味はない。ふさわしいを当たると訳することができる場合もあるが、1年は∩∩日に当たるというような意味の当たるはない

∩cZ>eは「o∧は-lにふさわしくない」。単にふさわしくないどころか完全に mismatch であることを表わす

#### 1LL : 終始 : ∩->>e, ∩c>>e

非o∧-。o∧は抽具。完了相は最初にする何らかの事態が終わったとき

∩->>eは「o∧を最初にする」。∩->が副詞の場合、初めてするという意味だが、動詞だとニュアンスが異なる。o∧を1番目に行う行為とするという意味である

たとえば遊園地に行ってまずジェットコースターに乗り、空中ブランコとコーヒーカップを経て、最後にメリーゴーランドに乗るとする。このとき1番目はジェットコースターであるから∩->>eのo∧はジェットコースターになる

∩c>>eは逆に「o∧を最後にする」で、o∧を締めくくりとするという意味である。上の例でいうと最後に乗ったのはメリーゴーランドなので、o∧はメリーゴーランドが来る(1)

(1) -∧ ∩c>>- >e>θ-ε (最後はメリーゴーランドに乗った)

√00 : 源 : >o>J>e, >e>J>e, e>o>e

oΛ-あり。完了相は起源とした時点

>o>J>eは「oΛをoCの起源とする」。oΛもoCも抽具

>e>J>eは「oΛをoCの起源でなくする」。>o>J>eの場合、oΛはoCに関して起源であった。  
>e>J>eではoΛはoCについての起源ではない。oΛがoCに関する作品であった場合、alは何かを盗作したり真似たりして、つまりぱくってoΛを作ったということになる

e>o>eは「oΛをoCの源泉にする」である。>o>J>eと同じ構文で、意味も似ている。e>o>eの場合oΛは源泉で、抽象的な意味はない。泉の源泉や川の源泉をはじめに、石油やダイヤモンドの源泉などを表わすこともできる

語源としての源泉という抽象的な言い方はできない。語源はVeC>o>J

√01 : 要素 : -e>e, >ec>e, >e->e

非oΛ-。完了相は材料にした時点

-e>eは「oΛをoCの材料にする」。oΛ, oCは抽具。木を椅子の材料にすることは勿論、テープの内容を報道の材料にするという抽象的な場合にも使える

>ec>eは「oΛを-Iに属させる」。-Iは集団や体系が来る。oΛは成員である。どちらも抽具

>e->eは「oΛを体系化する」。oΛをシステムに作り上げることである

√07 : 合 : l->>e, lc>>e

oΛ-あり。完了相は適させた時点

l->>eは「oΛを-Iに適させる」。oΛ, -I抽具

lc>>eは「oΛを-Iに不適にさせる」

では、l-Zとl->の違いは何か。l-Zは当たるのが当然という意味である。なるべくしてなる正当性や必然性について述べている。l->は適しているである。正当性というよりは、都

合が良いとか合理的であるという意味になる

$(c\ e\ l \rightarrow (l-Z) -l < l\ c)$  という場合を考える。 $l \rightarrow$  の場合、君がこの仕事につくと合理的だということを表わす。君は時間や能力の点でこの仕事に向いているという意味である。 $l-Z$  だと向いているということは表わさない。「他の人は全員出払っているが誰かがやらねばならない。そうすると君がこの仕事を請け負うのは当然だ」と、このような際に使う

#### √07 : 遊戯 : $-l\ c\ e, -l\ c\ l\ e$

$c\ l$  は遊ぶ内容、或いは趣味の内容。演奏するなどと同じ型。 $-l\ c\ e$  は  $c\ l$  をして遊ぶ。 $-l\ c\ l\ e$  は  $c\ l$  の趣味を行う。趣味とするという定義ではなく、趣味を実行しているさま。 $-l\ c\ l\ c\ l\ c\ l$   $< c\ l$  は今現在趣味の研究をしていること。定義するなら  $-l\ c\ l\ e\ c\ l$  という

#### √08 : 繫辞 : $e\ c, -c, c\ c, c\ c, a\ c$

完全に非  $c\ l$ 。繫辞である。時相詞をつけることができる。相を持つこともできる。時制を伴う際は繫辞の時制と合わせる。たとえば  $c\ c$  の完了相は  $c\ c\ c\ c$  である

$e\ c, a\ c$  は通時、 $-c$  は過去、 $c\ c$  は現在、 $c\ c$  は未来である

無相の場合、純時相詞はつけない。 $c\ c\ c$  などは不適ということである

無相はアオリストであり、将前相から影響相まで全ての段階を含んで一つの点として動詞を見たものである。将前相からといったが、実際に一つの点としてまとめられる主なものは経過相から影響相までが多い

$e\ c\ e\ c$  と  $e\ c$  は異なる。 $e\ c\ c$  と  $e\ c$  も異なる。 $e\ c$  は単にアオリストとしての意味しか持たない。 $e\ c\ e\ c$  は完了相で、 $e\ c\ c$  はアオリストに変化したことを指す

たとえば明け方に徐々に明るくなっていくのを見ているとする。そしてついに空が明るくなったとする。このときは徐々に空が明るくなっていくのを段階的に認知しているので  $S-l\ c\ c\ c\ c\ c\ c\ c\ c$  という

もし空が明るくなった状態が段階を持つものでなく単に夜と朝の対比である場合は  $S-l\ c\ c\ c\ c\ c\ c$  という

尚、 $S-l\ c\ c\ c\ c\ c\ c\ c\ c\ c$  という言い方もできる。 $c\ c$  と完了相はそもそも相反するものではないからである。単に  $S-l\ c\ c\ c\ c\ c\ c$  といった場合、それは今空が明るいことしか表わさない。

その前は夜で暗かったのか、その前は昼で明るかったままなのかという区別はできない。

そこで>-,>cの出番である

S-Λ c( >- θ-Jの場合、それまでは夜で暗かったのが明るくなったという意味である。逆にS-Λ c( >c θ-Jの場合、それまでどおり明るいという意味である

>-,>cが表わすのはその状態に至る過程においてその状態であったかなかったかということである。完了とか未完了といった概念とはそもそも関係がない。にもかかわらずしばしば混同されるのは日本語でどちらもタ形で表わすことがあるからである

一方、完了相は完了したことを表わす。ある行為を段階に分け、その行為のどの段階にいるかを表わしたものが相である。そして完了相はその相の一つである。変化、不変化といった概念とは関係がない。ゆえに両者は共起できる

S-Λ c( >c) >- θ-Jは段階的に空が明るくなっていくのを見て、ついに明るくなったということを表わす。それに加えてそれまでは夜で暗かったということに対する変化も表わす。つまり一気に明るくなったのではなく、徐々に明るくなって、しかもそれ以前は暗かったということを述べている

尚、相はアオリストか法時相詞にしない限り必ず述べねばならない要素であるが、>-,>cは随意的な要素である。>-,>cはいわなければいけないでもない。単に変化か保持かの区別がつかなくなるだけである